平成23年度

保育士の実態に関する調査研究報告書

社会福祉法人　日本保育協会

平成23年度
保育士の実態に関する調査研究報告書

社会福祉法人　日本保育協会

刊行にあたって

本報告書は、厚生労働省の補助事業として、日本保育協会が実施した「保育士の実態に関する調査研究」の結果をまとめたものです。

昨年度の先行調査研究に「主任保育士の実態とあり方に関する調査研究」があります。この調査研究では、保育所職員の処遇の向上についてを取り上げ、特に、保育所運営の要（かなめ）といわれる「主任保育士」について焦点をあてました。

本年度はさらに保育士全体に調査対象をひろげ、「保育所職員の処遇の向上」と「保育内容の質の向上」を遠大な目標としながらも、現在の実態把握につとめたものであります。

保育所調査として全国の認可保育所の20分の１抽出による調査票調査を行いました。

「保育士の勤務実態」「保育士の専門性」「満足度・意識」について、質問紙法を用いて実施いたしました。

時代は今こそ保育所および保育士の活躍を求めております。しかしながら保育士の求人難とともに地域に求められる人材の供給が間に合わない状態が長く続いております。

子どもたちの幸せと保育所職員の質の向上を支える処遇の向上を切に願うものであります。

本書を、ぜひ今後の保育制度の運用や保育所の運営管理のあり方、職員処遇を考える上での参考としていただければ幸いです。

このたびの調査研究事業の実施にあたりまして、西村重稀氏（仁愛大学）、清水益治氏（帝塚山大学）、小野田晴世氏（さゆり保育園）、廣田智子氏（狭山台みつばさ保育園）、若山望氏（村山中藤保育園）、田中浩二氏（のあ保育園）、豊永せつ子氏（ヴィラのぞみ愛児園）、仲原りつ子氏（あおぞら保育園）の各研究委員の方々にご尽力いただいたこと、また、調査対象保育所の皆様から回答のご協力をいただいたことに対しまして、深甚の感謝の意を表するものであります。

平成24年３月

社会福祉法人　日本保育協会

目　　次

刊行にあたって

はじめに（西村重稀　研究委員）……1

A．調査研究の目的（西村重稀　研究委員）……3

B．調 査 の 方 法（清水益治　研究委員）……11

C．調査結果の分析（清水益治　研究委員）

Ⅰ．調査票の分析……13

Ⅱ．個票の分析……27

Ⅲ．追加的分析……45

D．研究委員の考察

Ⅰ．仲原りつ子　研究委員による考察……50

Ⅱ．廣田　智子　研究委員による考察……55

Ⅲ．若山　　望　研究委員による考察……60

Ⅳ．豊永せつ子　研究委員による考察……68

Ⅴ．小野田晴世　研究委員による考察……75

Ⅵ．田中　浩二　研究委員による考察……82

E．総 合 的 考 察（西村重稀・清水益治　研究委員）……107

資料

・調査票　A票〔施設票〕……116

B—①票〔個票〕……118

B—②票〔個票〕……122

B—③票〔個票〕……126

・自由記述……130

調査研究委員及び執筆者一覧

はじめに

乳幼児は子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期であり、一人ひとりの子どもがどのように愛され、育てられ、その時期にふさわしい経験を積むことができたかは、その後の成長・発達に大きく関わるといわれている。

近年のように、少子化や都市化の進行にともなう子育て環境の変化により、家庭や地域社会の子育て機能の低下が進む中で、子育て支援センター的機能をもつ保育所の役割が重要である。特に保育の専門性を有する保育士の役割はこれまで以上に重要になっている。

こうした状況を踏まえて児童福祉法が改正され、平成15年（2003）秋から保育士は名称独占の法定資格となり、保育士の定義が児童福祉法第18条の４で「保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」と規定された。このことによって保育士は今までの子どもの保育のほかに保護者の養育力の向上についての支援という役割が課せられ、社会的責任と役割が重要になってきた。

一方、2009（平成21）年４月から新しい保育所保育指針が施行されている。以前の保育所保育指針は厚生省児童家庭局長（現在の厚生労働省雇用均等・児童家庭局長）通知であったが今回の新しい保育所保育指針は保育所の保育の質を高める観点から児童福祉施設最低基準（昭和23年厚生省令第63号）第35条に基づき厚生労働大臣が定める告示となった。それに伴って、今回の新保育所保育指針に記載されている保育所における保育内容及びこれに関連する運営に関する事項は遵守すべき最低基準として位置づけられた。そのため、児童福祉法第46条第１項に基づき都道府県等が行う児童福祉施設最低基準に関する指導監査の一環として、同指針の遵守状態に関する指導監査を行うこととなった。

また、今回の保育所保育指針では保育の質の向上のため、保育課程の編成や保育士自身の自己評価や保育所の自己評価の実施、食育計画や保健計画の策定が努力義務と規定されるなど、保育士の専門的性の向上を図る必要性がでてきた。

更に、子どもの発達の連続性を保障するために保育所での発達を小学校の学校生活に継続するための保育所保育要録の作成や小学校との連携等の業務が増えるなど、書類などの作成事務が増えたと考えられる。

しかし、社会的責任と役割が重要な割には、就労形態も不規則で、労働時間と給与の面などの保育士の処遇面が改善されないために、子どもが好きで、保育士の資格を取得して、保育の仕事に就いても、長く勤務する人が少なくなってきていると言われている。保育現場においては保育士資格取得者の需要に対して供給が不十分であるため保育現場では保育士資格取得者の確保に四苦八苦しているのが現状である。

こうした現状をふまえ、今回の調査では保育士の業務の現状把握と保育士自身の保育につい

ての専門性の意識や資質向上などについての全国調査をおこなった。

調査に協力して下さった保育所の園長先生方、保育士の方々に記して感謝いたします。

（西村重稀）

A．調査研究の目的

はじめに

ここでは先ず「保育士」の「業務」について、歴史的な観点から振り返る。次に、現在の保育士の業務とその専門性や、働く保育士の思いに言及する。そして、それらをふまえ、本研究の目的について述べる。

1．保母（保育士）の名称

保母（保育士）という名称は、戦前には幼稚園や託児所で使用されていた。

1926（大正15）年に公布された幼稚園令の第９条には「保母ハ幼児ノ保育ヲ掌ル」と規定されている。このことから保母の名称は、当時の幼稚園でも使用されていたことがわかる。しかしこの幼稚園令は、1947（昭和22）年３月29日に学校教育法が公布されると同時に廃止された。そして、幼稚園の設置については、学校教育法の第27条に「幼稚園には園長、教頭、教諭を置かなければならない」、同条９項に「教諭は幼児の保育を掌る」と規定された。これにより、幼稚園の職員から保母という名称が消えた。

一方、託児所は1937（昭和12）年に社会事業法が制定され、この法律で保育施設として規定された。この保育施設は託児施設と呼ばれ、託児の保育を担当している職員が一般的に保母という名称で呼ばれていた。しかし、この保母という名称は社会事業法には規定されていなかった。

1947（昭和22）年12月に、初めて児童の福祉ための児童福祉法が設立され、法第７条において保育所を含めた児童福祉施設について規定された。そして、児童福祉法施行令第13条において「児童福祉施設において、児童の保育に従事するものを保母という」と規定され、この児童福祉施設の職員として保育士の前身である保母という名称と業務が明記された。

保育所では保護者が働いていたり、病気であるなどの理由で昼間乳幼児を養育できないため、保護者に代わって保育所において保母（保育士）が乳幼児を保育している。そのため、保育所等の児童福祉施設に従事する職員は、家庭にいる母親の心情と同じように子どもに接し、愛情をもって保育をするので、保母という名称がよいという意見が多く、保母という名称がそのまま使用されたと言われている。

2．保母（保育士）の業務

保母（保育士）は児童福祉施設において、保護者に代わって児童を養育することや、保育所保育においては家庭養育の補完をすることが大きな役割であるため、保育所の保母（保育士）の業務は、子育てを経験した女子であれば誰でも出来ると思っている人が多くいた。

しかし、1963（昭和38）年に文部省（現在の文部科学省）初等中等教育局長と厚生省（現在の厚生労働省）児童局長の両局長通知が発出され、「３歳以上の保育所入所児童における教育に関するものは幼稚園教育要領に準じることが望ましい」となり、保育所に入所している３歳以上児の保育について幼児教育が強化された。

これは、今までの保母（保育士）の業務（一般の家庭の母親と同じような養育）の他に、幼児教育が加えられ、母親とは異なる役割が保母（保育士）に課せられた。そして、保育所保母（保育士）の専門的役割が明確になった。

1963（昭和38）年中央児童福祉審議会保育制度特別部会から「保育問題をこう考える」という中間報告が出され、「保育の理想は無限でより良い保育をするよう、常に努力を怠ってはならないことは言うまでもない。良い環境を与え、専門職が指導することがより望ましい」とはじめて子どもの保育を行う者は専門職員が望ましいという見解を示した。

1964（昭和39）年の第２次中間報告では、保母（保育士）の身分についての報告がなされた。この報告では、「乳幼児時期の保育の適否がパーソナリティ形成において与える影響の大きいことが明らかにされている。今日においては、その集団での指導には、専門的知識、技術の取得が必須であり、専門職としての地位の確定が必要である」と見解を示した。

今後も慎重に検討するものとして「保母（保育士）の職務は、乳幼児の時と場所に応じて千変万化する活動に即して、創意と工夫をもって指導する創造的教務である。このため保母（保育士）はつねに創意と工夫をもって活動できるよう絶えざる研修が必要である。現行の保母（保育士）の資格は、児童福祉法施行令（昭和23年政令）に、児童福祉施設において児童の保育に従事する者と極めて簡略に規定されているだけであった。これは高度専門教育により初めて適正が承認される職務従事者にふさわしい資格制度に改善されるべきである。このためには、保母（保育士）の資格が、高い専門性をもち、かつ人格・識見ともにすぐれた人にのみ賦与されるよう法律的な規定を整備し、今日より一層社会的信頼においても強化されるよう検討されることが必要である。その基本的な方途として乳幼児保育に従事する職員の資格について免許制度を採用することが必要である。この制度を採択するに当たっては、それを保育士法などとし、男子も免許を受けさせることができるようにすること。また保育所長の任用も新しく制定される保育士免許を得て、その後一定年数を保育所に勤務することの要件とするなどの措置も検討を要する」と意見具申された。

1965（昭和40）年には、初めて保育所保育の内容について規定した保育所保育指針が策定され、「保育所保育の特性は養護と教育が一体となって豊かな人間性をもった子どもを育成することにある」と記述された。

このことは保育所保育が家庭養育とは異なるもので、保育所保育の専門性を明確に示した。すなわち、保育所へ入所させられることによって、乳幼児は生涯にわたる人間形成の基礎を培

う大切な時期に保護者から引き離され、環境のまったく異なる場所で生活するために、生命や身体の安全と健康が脅かされ、情緒的にも不安に陥りやすい状態になる。

このような乳幼児の保育にあたる保母（保育士）の役割は大きく分けると２つある。

一つ目は、乳幼児の生理的・身体的欲求を満たし生命の安全・維持を図り、精神的欲求を満たすことによって情緒の安定を図るという養護面である。

二つ目は、適切な環境を構成し、乳幼児一人ひとりの発達に応じた発達課題を達成し、健全な心身の発達を図るという教育面である。

そして、この養護と教育を一体的に行うことが重要なのである。

乳幼児の１日24時間の生活を見ると、睡眠時間は約９時間から10時間で、残りの約14時間から15時間は覚醒状態である。この覚醒時間のうち10時間から12時間を保育所で生活し、家庭では約３時間から５時間しか生活していない状況である。

このように考えると、家庭での生活時間よりも保育所での生活時間が長いことと、乳幼児時期は人間形成の基礎であるため、乳幼児の保育をする保母（保育士）の役割は大変重要である。

その後、1968（昭和43）年には乳児保育が開始された。

当時の乳児保育実施要綱では、乳児保育を実施する保育所は乳児保育に必要な施設・設備の整備を行うこと。また、乳児保育を行う保母（保育士）は一般の保育に比べ専門的で且つきめ細やかな保育を行う必要があると考え、乳児３人に対して１人の保母（保育士）を配置し、その配置する保母（保育士）は、過去に乳児保育を経験していることという条件を付けた。そして、更に乳児保育の研修を積極的に受講するように記載した。このことは、国としても乳児保育は通常保育に比べて更に専門性が高いと認めていたことの証明にもなるのではないだろうか。

1970年代から1980年度にわたり、臨教審において教育改革について議論がなされ、1978（昭和62）年に幼児教育を含めた最終答申が出され、教育のあり方について論議がなされた。

1976(昭和51）年には、全国社会福祉協議会全国保母会「保母制度研究会」の発案により「保育者免許に関する法案」が国会に提出されたがこの法律は成立するまでには至らなかった。

その後、ベビーホテル問題が発生し、1983（昭和58）年から延長保育が実施された。

また、1990（平成２）年からは一時的保育が開始されるなど、通常保育のほかに特別保育が実施されることになった。

この特別保育に携わる保母（保育士）は、通常保育に比べ、対象となる乳幼児の健やかな育ちを保障する保育を実施することが困難であるため、保母資格の取得のほか専門的な研修を受講し、かつベテラン保母（保育士）が特別保育を担当した。

この特別保育のうち、延長保育と一時保育等は、1995（平成７）年から実施されるエンゼルプラン（緊急保育対策等５カ年事業）に数値目標が示され、地方公共団体はこの数値を達成す

るように力を入れたため、多くの保育所では特別保育が実施された。

そのため、エンゼルプランの実施以前の保育所では、保育時間が児童福祉施設最低基準の第34条に「１日の保育時間は原則８時間」と規定されていたため、地方の延長保育を実施していない保育所においては、約９時間程度開所している保育所が多くあった。特に、公立保育所においてはこの傾向が強く見られた。

この約９時間開所している保育所では、担任の保母（保育士）が担当する乳幼児を登園から降園まで、保育をしていた。

しかし、延長保育が実施され開所時間が延びたことによって、保母（保育士）の勤務時間である９時間（休憩時間を含む）を超えることになったため、勤務体制をローテーション勤務（早出、日勤、遅出）にしなければならなくなった。

この保母（保育士）の勤務体制がローテーションになったため、乳幼児の多くは保育所に登園すると、一日最低３人以上の保母（保育士）と関わることになった。そのため、保育所では、保母（保育士）が担当の乳幼児だけでなく、早出、遅出の保母（保育士）は保育所に入所している全ての乳幼児との関わりがでてきたため、保母（保育士）が全ての乳幼児についての発育・発達を理解し、協働して保育を実施することが大変重要な課題になった。

1998（平成10）年に児童福祉法が改正され、保育所は措置制度から選択制度になる（児童福祉法第24条）とともに子どもの保育だけでなく、保育所の情報を提供するとともに地域の子育て家庭から保育に関する相談を受けて、助言をすることが努力義務になった（児童福祉法第48条の３）。また、保母という名称から保育士という名称に変更された（以後、保母のことを保育士と記載する）。

一方、近年の家庭における子育てにおいて、子育て不安を持っている母親や赤ちゃんに触れた経験のない母親が増え、満足に子育てができない保護者や自分の子どもを虐待する保護者が増加するなど、家庭にいる子どもの健やかな育ちに悪影響を及ぼす保護者が増加してきた。

そのため、これらの保護者に対する子育て支援や養育に関する指導の役割を保育所や保育の専門家である保育士が担う必要性が高くなった。

また、ベビーホテルや認可外保育施設等で乳幼児の死亡事故が発生した。この施設では保育士が配置されていると広告されていたが、資格を持っている職員はいなかった。

これらのことを背景に、2001（平成13）年に児童福祉法が改正された。そして、法第18条の４で「この法律で、保育士とは、第18条の18第一項の登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう」と規定された。

また、法第18条の24で「保育士でない者は、保育士又はこれに紛らわしい名称を使用してはならない」と規定され、法第61条で名称を使用した場合の罰則が規定された。

この改正された児童福祉法は2003（平成15）年秋から施行された。

これにより、保育士は名称独占の法定資格になるとともに乳幼児の保育だけでなく、保護者から保育に関する相談を受けて助言することが保育士の業務と義務づけられた。

この保護者の指導・支援等の役割が保育士に課せられたことにより、質の高い乳幼児の保育の実施だけでなく、保護者の指導のために、専門性を高めるため、今まで以上に研修を受講することや自己研鑽をすることが必要になってきた。

2008（平成20）年３月には、新しい保育所保育指針が発出され、2009（平成21）年４月から施行された。

従来の保育所保育指針は局長通知であったが、新しい保育所保育指針は児童福祉施設最低基準第35条に規定された厚生労働大臣の告示となり、保育をするときのガイドラインから遵守されなければならない法令になった。

そのため、保育所保育指針は法令として遵守すべきものであるため、これからの保育所保育は保育所保育指針に従い、保育をしなくてはならなくなった。

今回の保育所保育指針は誕生から就学までの長期的視野をもって乳幼児を理解することが大切であるため、子どもの発達過程の連続性を保障するための保育課程の編成や保育所における発達を小学校に継続するために保育所児童保育要録の作成をすることになった。

また、保育士等は自己評価を実施し、保育の専門性の向上や保育実践の改善を図ることなど保育所保育の質の向上を図ることや子どもの保育だけでなく保護者の支援が保育所の目標に加えられるなど、保育所の業務は質の高い乳幼児の保育と、保護者支援等の業務が増加した。

３．保育士の業務と専門性

ところで、国が保育士の専門性について述べたものはなかったが、先ほどもふれたように平成13年度の児童福祉法の改正の時、第18条の4において、保育士の業務を規定した。そして、保育所保育指針の第１章の総則において、「保育所における保育士は、児童福祉法第18条の４の規定を踏まえ、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものである」と規定した。

この「倫理観に裏付けられた」とは、保育士はきちんと子どもに分かるような生活に必要である主体的な倫理観をもって、自分自身の生活の姿勢を正して保育に臨むことが必要であるということである。そして、言葉だけでなく、生活全体を通して子どもに良き感化をすることである。

また、児童福祉事業がいかに重要な職務であるかということを自覚し、しっかりした使命感と深い熱意に燃えてと同時に、子ども全てに、偏らず健全な愛情を注げるようになることである。そのためには、保育士自身が精神的にも身体的にも何時も健康であるように努力すること

が必要であると考えられる。

次に、保育士の専門的技術について、国として明確に示したものはなかったが、保育所保育指針の解説本において、厚生労働省として初めて保育士の専門性について示している。これによると、保育士の専門性は次の６点に集約される。すなわち、①子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、その成長・発達する援助、②子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識・技術、③保育所内外の空間や物理的環境、様々な遊具や素材、自然環境を生かし、保育の環境を構成していく技術、④子どもの経験や興味・関心を踏まえ、様々な遊びを豊かに展開していくための知識・記述、⑤子ども同士の関わりや子どもと保護者の関わりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識・技術、⑥保護者等への相談・助言に関する知識・技術、の６点である。

これは、保育士として身に付けなければならない専門性を、国として示したものである。これらの専門性の観点に基づき、保育士は、保育所保育指針の第４章に示されているように自己評価を行う。そして、保育の質の向上のための課題を見つけ、研修や自己研鑽によって課題を解消する。このことを繰り返していくことによって、保育の質の向上が図れると記載されている。

４．業務に対する保育士の思い

2010（平成22）年５月に保育士養成協議会の報告書の「指定保育士養成施設卒業後の動向及び業務の実態に関する調査（報告書Ⅱ）」によると、保育職を選んだ理由の１位は「子どもが好きだったから」、２位は「保育士になるのは子どもの時からの夢であった」、３位は「保育士はやりがいのある仕事だと思った」と回答されていた。

しかし、保育士をやめた人にその理由を聞くと「職場内の人間関係がいやだと思った」、「仕事の量が多すぎて、疲れを感じた」、「仕事に見合う報酬が保証されていないと思った」などと回答されていた。また、現在在職している保育士においても、８割以上の人が辞めたいと思ったことがあると回答していると報告している。

このように保育士としての仕事量が多いことや、保護者に代わって乳幼児の健やかな育ちを保障するために専門職としての努力の割には報酬は少ないなどと回答している保育士が多いと報告されていた。

一方、保育所では、女性の社会進出などの理由により、保育所に入所する３未満児等の乳幼児が増加するため、保育士の需要が高くなっているが、それに伴う供給が少ないと言われている。また、保育士養成校では、保育士の資格を取得しても保育所等の児童福祉施設に就職しなくなり、一般会社等に就職する学生が年々増加してきていると言われている。

5．本研究の目的

以上のことをふまえて、本研究では、今後の保育の施策の方向性や保育士の処遇改善、研修のあり方などに寄与することを目的として、保育所の保育士の業務の量・質に関する調査を行う。具体的には、（１）保育士の勤務実態、（２）専門性、（３）満足度・意識に関する全国域の調査を行った。

勤務実態に関する調査は、これまでも多くのさまざまな調査が行われてきている。例えば、民秋（2009）は、「園内での業務のうち、次の事項にどのくらい時間をかけていますか」として、１日のうちで、①保育の準備（教材準備や環境構成など）、②記録、③指導計画の立案、④掃除などの環境整備にかけた時間を調査している。その結果、１～２歳児を担当する保育士では、４つのいずれの業務にも、平均して0.7～0.9時間程度の時間をかけていることが示された。

しかしながら、この調査では、保育をしながらこれらの業務に従事していた可能性もある。また、毎日その業務をしているかどうかは明らかではない。例えば、これら４つの業務に毎日0.8時間ずつかけているとすると、３時間以上は子どもとかかわっていないことになるが、日常、我々が保育を見る限り、それは困難と予想できる。そこで本研究では、平日の特定の１日について、出勤時刻と退所時刻を尋ね、在園した時間を計算してもらった後、その時間内に、どの業務にどれだけの時間をかけていたのかを調べることにした。

専門性に関する調査は、自己評価に関連づけてさまざまな調査が行われてきている。例えば、清水ら（2006）は、保育所保育指針に基づいて作成した「○○していますか」という形式のさまざまな項目に対して、「はい・いいえ」の２件法で保育士に回答を求め、「していない」あるいは「できていない」内容を調査し、保育現場におけるそのような結果の利用の仕方を提案している。

しかしながら、これは調査対象者が全ての業務を日々担当しているという前提の調査である。実際には時々しか担当していなかったり、二件法では答えにくいケースもある。そこで本研究では、各業務に対して担当しているかどうかと、担当している場合にはどの程度できていると思うかを評定してもらった。

業務とそれに対する保育士の思いを繋ぐものとして、本研究では、満足度・意識に焦点を当てた。何に満足しているのか、どの程度、やりがいやきつさを感じているのか、何に困っているのか、保育士になって良かったことは何か、今後も勤務を続けていくかどうか、継続勤務に影響する要因は何か。これらの実態を調べることが、離職の原因を探ったり、就職希望者に夢を与える情報を明らかにすることにつながると考えたからである。

なお、本研究では、これらの調査の際、合わせて、経験年数による違いも調べることにした。経験を積むことにより、①同じ業務であっても効率よく遂行できるようになる、②専門性が磨

かれていく、③またそれらに伴い、満足度や意識も高まってくると予想したからである。

（西村重稀）

文献

民秋言（2009）厚生労働科学研究費補助金行政政策研究分野政策科学総合研究（政策科学推進研究事業）「少子化社会における保育環境の在り方に関する総合的研究」平成20年度総括研究報告書.

清水益治・千葉武夫・西村重稀・民秋言・佐藤直之（2006）保育士の資質向上のためのシステム作り－保育士の自己点検・自己評価チェックリストをもとに．保育士養成研究，23，11-20.

B．調査の方法

1．調査対象

全国23,154の保育所の20分の１を選び、調査対象保育所とした。これらの保育所の選出に当たっては、日本保育協会が毎年調査している名簿を用いた。本年度の名簿は、日本保育協会名で全国の都道府県・指定都市・中核市保育所主管課長あてに「最新保育所名簿恵贈のお願い」を平成23年５月11日付けで郵送して、返信があったものに基づく名簿である。

選出方法は、層化抽出とした。各都道府県・指定都市・中核市ごとの公営・民営別に、名簿にある保育所を順番に並べ、20番目ごとを調査対象保育所とした。選ばれた保育所数は1,174であった。

2．材料

Ａ票、Ｂ－①票、Ｂ－②票、Ｂ－③票の４つの調査票を作成した（巻末の資料を参照）。このうちＡ票は施設票であり、施設全体のことについて尋ねるものであった。調査内容は次の４つとした。

（１）回答者について

（２）園の設置状況等について

（３）平成23年９月１日現在の在園児数、職員数等について

（４）保育の体制について

Ｂ－①票、Ｂ－②票、Ｂ－③票は個票であり、各園でフルタイムで勤務する３名の保育士（Ｂ－①票は経験年数３年以下（保育士（保母）として勤務した経験年数）、Ｂ－②票は経験年数４年以上10年未満、Ｂ－③票は経験年数10年以上）に、勤務実態・専門性・意識等について尋ねるものであった。調査内容は、次の通りであった。

（１）回答者について

担当クラス、クラスでの役割、就業形態、経験年数、性別、昨年度の研修回数

（２）保育士の勤務実態について

出勤時刻、退所時刻、園にいた時間、業務に携わった時間、持ち帰り、年次有給休暇

（３）専門性について

業務担当の有無と、それを実施できている程度

（４）満足度・意識について

満足度・意識の評定、保育士として働いて困っていること、保育士になって良かったこと、継続勤務の意識

Ａ票はＡ４サイズの紙の表裏に、Ｂ票もＡ４サイズの紙の表裏にそれぞれ印刷した。

3．手続き

平成23年９月５日に、４種類の調査票とそれぞれの回答者用封筒、保育所長宛の送付状並びに返信用封筒を調査対象保育所に郵送した。送付状には、依頼文とともに、調査対象保育所の選定方法、Ｂ票の回答者への渡し方などが書かれていた。回収は平成23年10月11日必着とした。

データの入力は、自由記述の内容を除き、第一生命情報システム株式会社に依頼した。自由記述は協会内で入力した。自由記述を除くデータは清水研究委員がSTATISTICA10を用いて分析した。自由記述は田中研究委員が、清水研究委員とは完全に独立に分析をした。

（清水益治）

C．調査結果の分析

Ⅰ．調査票の分析

1．回収率

配布対象1,174か所のうち、回収が得られたものは、653か所、55.6%の回収率であった。これら全てを分析の対象としたが、以下に述べる理由により、項目ごとに無効回答があり、それらは、当該項目の分析からは除いている。

2．施設票回答者

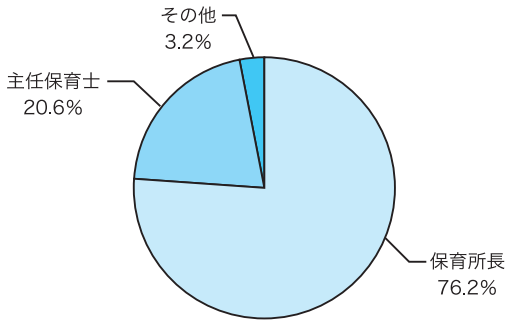
施設票の冒頭で、回答者の職名を、１保育所長、２主任保育士、３その他から選んでもらった。無回答の票が２票あり、これらは分析から除外した。図Ⅰ－1に示すように、施設票の回答者は保育所長が76.2%（496名）、主任保育士が20.6%（134名）、その他が3.2%（21名）であった。その他の括弧内には、園長代理（１）、事務担当職員（１）、副園長（５）、副所長（１）、フリー（１）、保育士（１）などの回答があった。

3．設置状況等

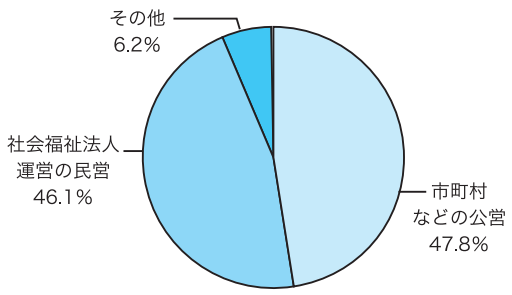
（1）経営主体

経営主体を、１ 市町村などの公営、２ 社会福祉法人運営の民営、３ その他から選んでもらった。無回答の票が４票あり、これらは分析から除外した。図Ⅰ－2に示すように、市町村などの公営が47.8%（310票）、社会福祉法人運営の民営が46.1%（299票）、その他が6.2%（40票）であった。その他の括弧内には、学校法人（５）、株式会社（５）、財団法人（６）、指定管理法人・医療法人・ＮＰＯ法人、公設民営等（６）などの回答があった。

図Ⅰ－1　施設票回答者の職名



図Ⅰ－2　施設票回答者の職名

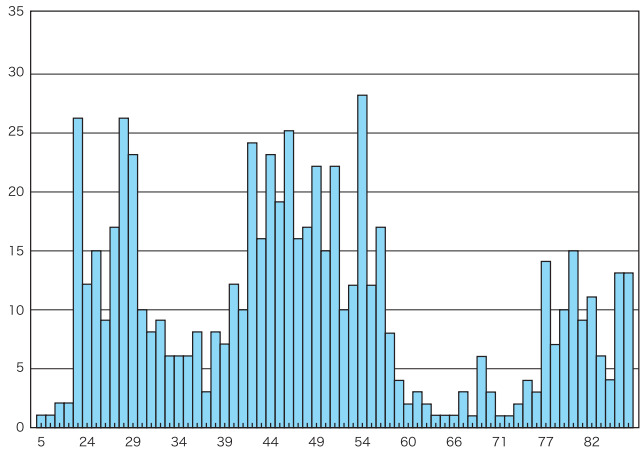


（2）施設認可（届出）年

認可（届出）年の分布を示した者が図Ⅰ－３である。平成の元号は、63を加えて昭和に続けた数値で示している。最も古いものは、昭和５年であった。本年と昨年の認可が、どちらも10か所以上あるなど、近年の変化がうかがえる。平均は昭和48年であった。

経営主体別に見ると、市町村などの公営の平均は昭和42.8年、社会福祉法人運営の民間は昭和52.6年、その他は昭和58.5年で、市町村などの公営が他の２つの経営主体よりも認可（届出）年が古かった。

図Ⅰ－３　認可（届出）年

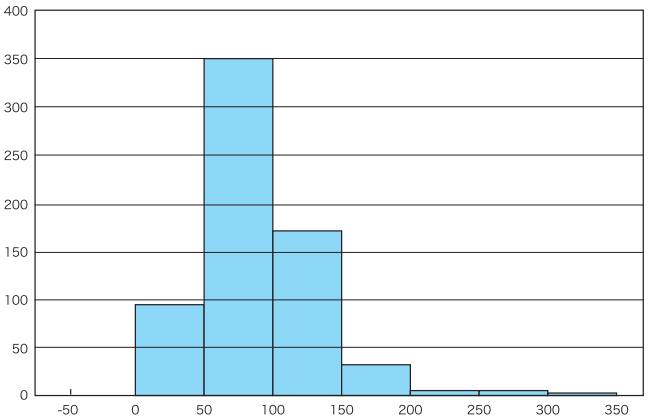


（3）児童定員数

児童定員数の平均は92.2名であり、最小値は20名、最大値は350名であった。その分布を示したものが図Ⅰ－４である。50名から100名規模の保育所が多いことがわかる。

経営主体別に見ると、市町村などの公営の平均は94.7名、社会福祉法人運営の民間は93.0名、その他は73.5名で、その他の定員数が、他の２つの経営主体より少なかった。

図Ⅰ－４　児童定員

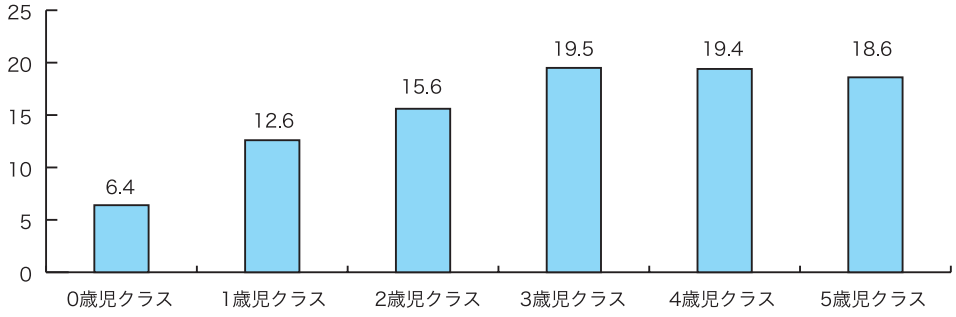


4．平成23年9月1日現在の在園児数、職員数

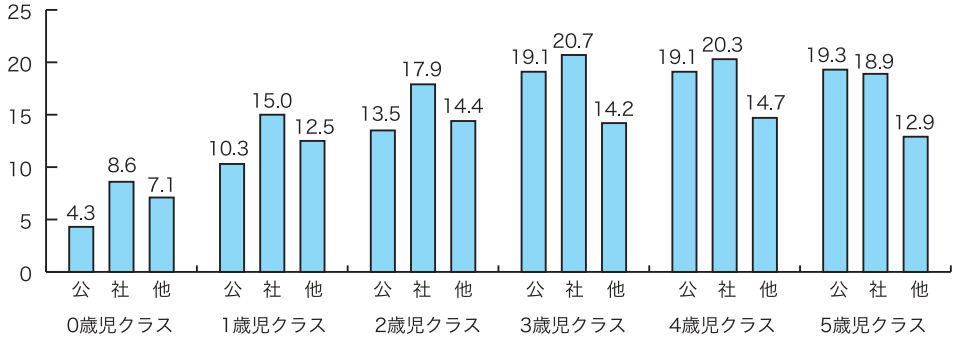
（1）在園児数

在園児数の合計値の平均は、92.1名と、児童定員数とほぼ同じであった。図Ⅰ－5は、各年齢の在園児数の平均を示したものである。0歳児クラス＜1歳児クラス＜2歳児クラス＜3歳児クラス≒4歳児クラス≒5歳児クラスと、年齢による差が見られた。

図Ⅰ－5　在園児数



図Ⅰ－6　経営主体別に見た在園児数



図Ⅰ－6は、経営主体別に見た在園児数の平均である。全体としてみると、社会福祉法人運営の民営（平均16.9名）が市町村などの公営（平均14.3名）とその他（平均12.6名）よりも在園児数が多かった。年齢別に見ると、0歳児では市町村などの公営（4.3名）よりも社会福祉法人運営の民営（8.6名）の方が平均在園児数が多かった。1歳児や2歳児でも同様に、市町村などの公営（順に10.3名と13.5名）よりも社会福祉法人運営の民営（順に15.0名と17.9名）の方が平均在園児数が多かった。3歳児と4歳児では、社会福祉法人運営の民営（順に20.7名と20.3名）の方がその他（順に14.2名と14.7名）よりも平均在園児数が多かった。5歳児では、市町村などの公営と社会福祉法人運営の民営（順に19.3名と18.9名）がその他（12.9名）よりも平均在園児数が多かった。

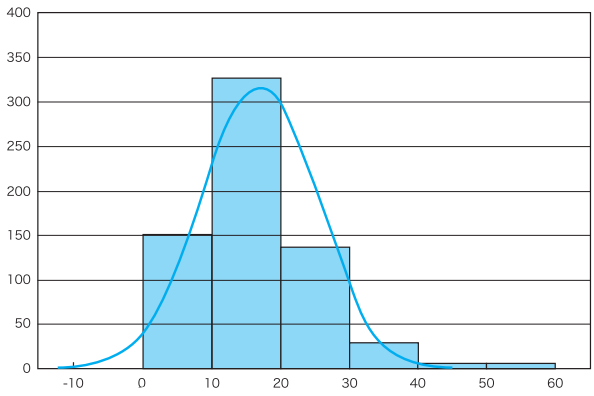
経営主体内の比較をしたところ、市町村などの公営では、０歳児＜１歳児＜２歳児＜３歳児≒４歳児≒５歳児の順に、平均在園児数が多くなった。社会福祉法人運営の民営では、０歳児＜１歳児＜他の全ての年齢児という関係が見られた。また、２歳児は３歳児と４歳児よりも、５歳児は３歳児よりも、平均在園児数が少なかった。その他の経営主体では、０歳児だけが他の全ての年齢児よりも平均在園児数が少なかった。

（2）職員数

職員数合計の平均は、23.1名であった。経営主体別に見ると、市町村などの公営が平均22.2名、社会福祉法人運営の民営が平均24.5名、その他の平均が20.6名であり、市町村などの公営の平均値が社会福祉法人運営の民営のそれよりも少なかった。

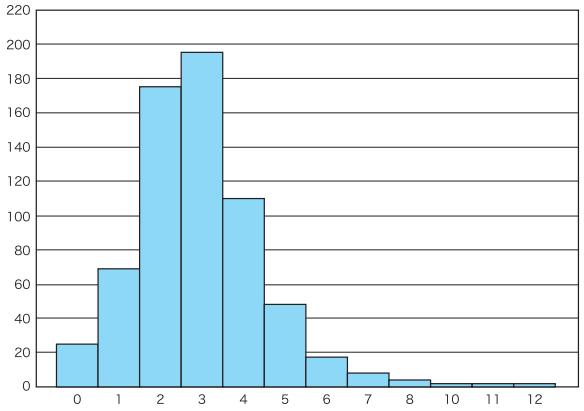
所長は１園を除き、全ての保育所で１名であった。除かれた園には所長がいなかった。保育士数の平均は16.7名、最大値は55名であった。その分布を示したものが図Ⅰ－７である。保育士数で10名から20名の保育所が多いことがわかる。経営主体別に見たところ、市町村などの公営が平均16.1名、社会福祉法人運営の民営が平均17.9名、その他の平均が14.46名であり、社会福祉法人運営の民営が他の２つの経営主体よりも保育士数が多かった。

図Ⅰ－７　保育士数の分布



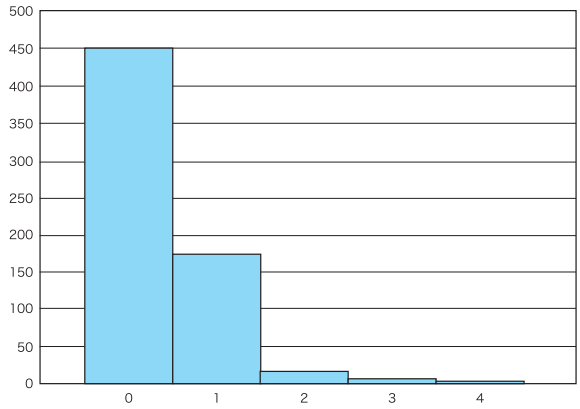
調理員数の平均は2.9名、最小値は０名、最大値は12名であった。その分布を示したものが図Ⅰ－８である。調理員数で２名と３名の保育所が多いことがわかる。経営主体別に見たところ、平均値に差はなかった。

図Ⅰ－8　調理員数の分布



看護師数の平均は0.4名、最小値は０名、最大値は４名であった。その分布を示したものが図Ⅰ－９である。看護師数は０名が多いことがわかる。

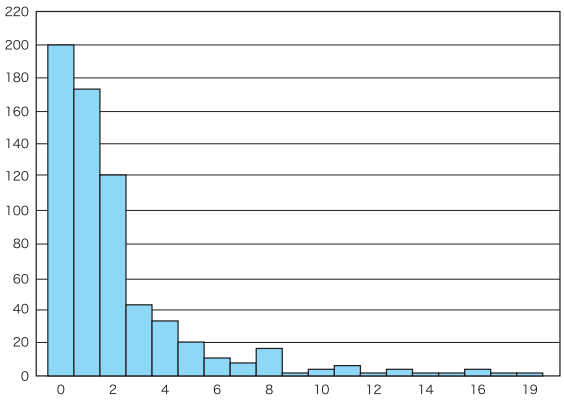
図Ⅰ－９　看護師数の分布



その他の職員数の平均は2.1名、最小値は０名、最大値は22名であった。その分布を示したものが図Ⅰ－10である。０名が多いことがわかる。

図Ⅰ－10　その他の職員数の分布

図Ⅰ－10　その他の職員数の分布



（3）保育士の勤務形態別の人数

常勤正規職員、非正規職員（フルタイム）、非正規職員（パートタイム）の人数について記入を求めた。平均値、最小値、最大値を示したものが表Ⅰ－1である。平均値を見ると、常勤正規職員＞非正規職員（フルタイム）＞非正規職員（パートタイム）の順に人数が多かった。最小値を見ると、常勤正規職員は1名であったが、非正規職員（フルタイム）と非正規職員（パートタイム）は0名であった。最大値を見ると、常勤正規職員が36名で最も多く、次いで非正規職員（パートタイム）が30名、非正規職員（フルタイム）が26名で最も少なかった。

次に経営主体による違いを調べた（表Ⅰ－2）。正規職員では、市町村などの公営の平均値が、社会福祉法人運営の民営とその他の経営主体の平均値よりも低かった。非正規職員（フルタイム）では、市町村などの公営＞社会福祉法人運営の民営＞その他の経営主体の順に平均値が高かった。非正規職員（パートタイム）では、経営主体の差はなかった。

表Ⅰ－1　保育士の勤務形態別の人数

	平均値	最小値	最大値
常勤正規職員	9.8	1	36
非正規職員（フルタイム）	5.2	0	26
非正規職員（パートタイム）	4.4	0	30

表Ⅰ－2　経営主体別に見た保育士の勤務形態別人数の平均値

	市町村などの公営	社会福祉法人運営の民営	その他
正規職員	8.1	11.6	10.3
非正規職員（フルタイム）	5.9	4.8	2.9
非正規職員（パートタイム）	4.6	4.2	4.0

5．保育の体制

（1）平日の開所時刻と閉所時刻、および開所時間

この設問では、無回答が数多く見られた。具体的には、開所時刻の時欄が空欄になっている票（9票；以下、括弧内の数字は票数）、閉所時刻の時欄が空欄になっている票（9）、開所時間の時欄が空欄になっている票（14）、開所時刻の分欄が空白になっている票（10）、閉所時刻の分欄が空白になっている票（11）、開所時間の分欄が空白になっている票（44）があった。これら全てを分析から除外することも可能であったが、内容を検討したところ、次のよう

に解釈をすることで、いくつかの票を利用できることがわかった。（ａ）時欄が記入されており、分欄が記入されていない票は、「０」分と解釈する。この解釈によって、開所時刻の分欄が空欄になっている票（１）、閉所時刻の分欄が空欄になっている票（２）および開所時間の分欄が空欄になっている票（30）を分析に利用できる。（ｂ）開所時間を開所時刻と閉所時刻から計算する。この計算で５票を分析に利用することが可能であった。しかしながら、以下の③に示す理由で、この５票を利用することはしなかった。（ｃ）閉所時刻から開所時刻を引いた値として定義していた開所時間を、実際に引き算をしてみたところ計算が合わない票があった（35）。その差を検討してみたところ、「24時間制でお書き下さい」と指定していたにもかかわらず12時間制で書かれていた票があった（６）。そこでこれらは24時間制に修正した。また閉所時間を１時としていた票があった。この票の開所時間を見たところ11時となっており、開所時間を見ると14時間となっていた。そこでこの票は25時と修正した。それでもまだ28票は計算間違いと思われた。しかしこれらはあえて修正はしなかった。これらを修正することは、データの改ざんに相当するからである。またこの理由で、（ｂ）の最後に述べた５票については、修正しなかった。

なおこのような24時間制の修正を加えても、解釈が困難な票が２票あった。その１つは、開所時刻が７時15分、閉所時刻が８時０分、開所時間が12時間０分というものである。この票は、開所時刻の記入ミス、閉所時刻の記入ミス、開所時間の計算ミスという、３つの解釈が可能である。この票は、開所時刻と閉所時刻、および開所時間の全ての分析から除外した。もう１つは、開所時刻が７時30分、閉所時刻が６時０分となっており、開所時間が時間欄と分欄のいずれも無記入の票である。この票は、閉所時刻を18時に修正することもできるが、それをすることは、開所時間を10時間30分と考えることになり、複数箇所の仮定に基づく修正をすることになる。そこでこの票も開所時刻と閉所時刻、および開所時間の全ての分析から除外することにした。

このような修正をふまえ、除外した票を数えた。最終的に分析に利用した票数は、開所時刻と閉所時刻の分析ではどちらも642票、開所時間の分析では638票であった。それぞれの平均値、最小値、最大値を示したものが表Ⅰ－３である。先ず開所時刻に注目する。平均値は７時17分と７時台前半であった。最頻値は７時０分であり、304票が７時０分であった。最小値は６時30分と最頻値よりも30分早かった。６時30分に開所の場合、もし子どもが６時30分に来るならば、その子どもは６時30分までに家を出ていることになる。とすると朝食は６時前後になっていると推測できる。最大値は12時０分であった。午後から開所する保育所であろう。

次に閉所時刻を見てみよう。平均値は18時52分と19時に近かった。最頻値は19時０分であり、318票が19時０分と、半数近い保育所が保育所がこの時間に閉所していた。最小値は16時０分であり、最頻値よりも３時間も早かった。最大値は25時であった。この保育所は11時０分に開

所していた。

開所時間を見ると、平均値は11時間35分であった。最頻値を調べると、12時間０分であり、291票が12時間０分と回答していた。最小値は６時間30分であった。児童福祉施設最低基準第34条に「保育所における保育時間は、一日につき八時間を原則とし、その地方における乳幼児の保護者の労働時間その他家庭の状況等を考慮して、保育所の長がこれを定める」とあるが、保育所長の判断で短くしたものと推測できる。最大値は15時間30分であり、上記の原則の２倍近い開所時間であった。当該票の詳細を調べると、開所時刻は６時30分、閉所時刻は21時０分であった。

表Ⅰ－３　開所時刻、閉所時刻、開所時間の平均値、最小値、最大値

	平均値		最小値		最大値	
	時	分	時	分	時	分
開所時刻（N＝642）	7	17.0	6	30	12	0
閉所時刻（N＝642）	18	52.4	16	0	25	0
開所時間（N＝638）	11	35.4	6	30	15	30

次に経営主体による違いを調べた（表Ⅰ－４）。分析された票数は、開所時刻と閉所時刻では、市町村などの公営、社会福祉法人運営の民営、その他の経営主体の順に、302票、297票、40票であった。開所時間では同じ順に300票、295票、40票であった。

開所時刻では、市町村などの公営の平均値が、社会福祉法人運営の民営とその他の経営主体の平均値よりも遅かった。閉所時刻では、市町村などの公営の平均値が、社会福祉法人運営の民営とその他の経営主体の平均値よりも早かった。開所時間では、市町村などの公営の平均値が、社会福祉法人運営の民営とその他の経営主体の平均値よりも短かった。

表Ⅰ－４　経営主体別に見た開所時刻、閉所時刻、開所時間の平均値

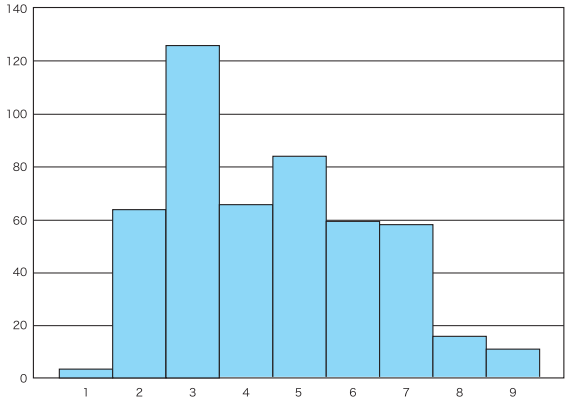
	市町村などの公営		社会福祉法人運営の民営		その他	
	時	分	時	分	時	分
開所時刻	7	24.2	7	10.2	7	13.6
閉所時刻	18	37.2	19	5.0	19	14.3
開所時間	11	11.6	11	55.9	12	4.4

（2）ローテーションの体制

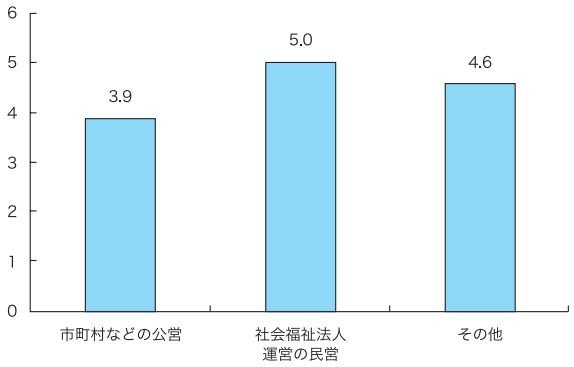
「ローテーションの体制を組んでいますか」という設問に対して、無回答が16票あった。これらは本項の分析から除いた。「はい」という回答は596票、95.6％であり、「いいえ」という回答は41票、6.4％であった。この割合に経営主体による差はなかった。

先の項目に「はい」と回答した者に対して、「組んでいる場合、何交代制ですか」と、数字を書く欄を設けて尋ねた。その結果109票が無回答であった。交代数が曜日や週、月などによって異なり回答が困難だったのかもしれない。回答された交代制の分布を示したものが図Ⅰ－11である。３交代制が最も多く、次いで５交代制であった。平均値を算出したところ、4.5となった（N=487）。

図Ⅰ–11　交代数の分布



図Ⅰ–12　経営主体別に見た交代制の平均値



次に経営主体による差を調べた。分析の対象となったのは、市町村などの公営が225票、社会福祉法人運営の民営が230票、その他の経営主体が30票であった。平均値を示したものが図Ⅰ－12である。市町村などの公営が社会福祉法人運営の民営よりも平均値が低かった。

（3）最も早出出勤と最も遅出出勤

この設問は、上記のローテーションの体制を組んでいると答えた園、かつ交代制の欄に数字記入していると答えた園に回答を求めた。しかしながら、もしこのまま分析対象を限定すると、ローテーションの体制を取っているかどうかを尋ねた最初の設問に無回答の16票、あるいは「いいえ」と答えていた41票と、「はい」を選んだ中で交代制の欄の無記入の109票を除外するなど、かなり多くのデータ（約１／４）を除外することになり、調査対象園の概要を示すという施設票の分析としては不適当と考えられた。また最も早出勤務、最も遅出勤務だけなら、固定した勤務であっても、また交代制の欄が無記入であっても、調査対象園の概要を示すという目的であれば可能であると判断できた。そこで上記の（２）とは独立に分析をすることにした。

しかしながら、このような配慮の下でも、本節の（１）の分析にあるように、時刻の計算に関しては、部分的に無回答の票や24時間制で記入されていない回答の票が多く見られた。そこで（１）にならい、次のようにした。先ず、最も早出勤務の職員の出勤時刻については、時欄が空欄の票は、分析から除外した（38)。分欄が空欄の票のうち、時欄に数字があるものは、０分とした（４)。次に、最も早出勤務の職員の退所時刻については、時欄が空欄の票は、分析から除外した（41)。時欄が３時の票は、出勤時刻が７時台であったので、15時とした（４)。時欄が４時の票は、出勤時刻が７時台あるいは8時台であったので、16時とした（21)。分欄が空欄の票のうち、時欄に数字があるものは、０分とした（４)。続いて、最も遅出勤務の職員の出勤時刻について、時欄が空欄の票は、分析から除外した（43)。分欄が空欄の票のうち、時欄に数字があるものは、０分とした（４)。さらに、最も遅出勤務の職員の退所時刻について、時欄が空欄の票は、分析から除外した（46)。退所時刻の時が１時になっていた票は、閉所時刻から判断し、25時とした（１)。退所時刻の時が6時になっていた票は、閉所時刻から判断し、18時とした（９)。退所時刻の時が７時になっていた票は、閉所時刻から判断し、19時とした（５)。退所時刻の分が空欄になっていた票は０分とした（１)。

表Ⅰ－５は、最も早出勤務と遅出勤務の職員の出勤時刻と退所時刻について、その平均値と最小値、最大値を示したものである。表中に分析対象となった票数も示した。最も早出勤務の出勤時刻の平均値は７時15分であり、最頻値は７時０分（N=257）であった。これらの値は、園の開所時刻の平均値や最頻値から想像できる値である。最小値は６時20分と、園の開所時刻の最小値である６時30分の10分前であった。最も早くから開所する保育所では、約10分で子どもを受け入れる準備をすると考えられる。最大値は11時０分であり、この園は開所時刻の最大値の園ではなかった。

表Ⅰ－５　最も早出勤務と遅出勤務の職員の出勤時刻と退所時刻

		平均値		最小値		最大値	
		時	分	時	分	時	分
最も早出勤務	出勤時刻（N＝619）	7	15.2	6	20	11	0
	退所時刻（N＝616）	15	56.8	8	50	20	0
最も遅出勤務	出勤時間（N＝614）	10	1.1	7	30	20	0
	退所時刻（N＝611）	18	50.9	16	0	25	0

最も早出勤務の退所時刻の平均値は15時57分で、16時に近かった。最頻値は16時０分であった（N=172)。最小値を見ると８時50分とかなり早い時間であった。この職員の出勤時刻を見ると、６時50分となっており、早朝に２時間だけ働く勤務であった。この保育所は、ローテーションの体制を組んでおり、９交代制であった。最大値は20時０分であり、この職員は11時に

出勤しており、当該保育所は、ローテーションの体制を組んでいないと回答していた。

最も遅出勤務の職員の出勤時刻の平均値は10時１分であり、10時を回っていた。最頻値は９時30分であったので（N=99)、右に裾野が長い分布であることがうかがえた。最小値は７時30分であった。当該保育所では３交代制のローテーションの体制を組んでおり、最も早出勤務の職員の出勤時刻は７時０分であり、７時から７時半の間に全ての職員が出勤していることが示された。なお最も遅出勤務の職員の退所時刻は18時30分と、11時間の勤務であった。最大値は20時０分であった。当該保育所は11時０分開所、25時０分閉所であり、ローテーションの体制は組んでいなかった。なお当該保育所の最も早出勤務の職員の勤務時間は11時０分出勤、20時０分退所であり、最も遅出勤務の職員と入れ替わりの勤務であった。

最も遅出勤務の職員の退所時刻の平均値は18時51分､最頻値は19時０分（N=240）であった。最小値は16時０分であったが、当該保育所の閉所時刻を見ると18時０分となっており、全ての子どもが閉所時刻よりもかなり早い時間に帰ることが示唆された｡最大値は25時０分であった。

次に経営主体による違いを調べた（表Ⅰ－６)。分析された票数は、最も早出勤務の職員の出勤時刻では、市町村などの公営、社会福祉法人運営の民営、その他の経営主体の順に、288票、291票、37票であった。同職員の退所時刻では同じ順に、286票、290票、37票であった。最も早出勤務の職員の出勤時刻では、同じ順に、283票、291票、37票であった。同職員の退所時刻では、同じ順に、281票、290票、37票であった。

最も早出勤務の出勤時刻と最も遅出勤務の退所時刻で差が見られた。最も早出勤務の出勤時刻では、市町村などの公営が、社会福祉法人運営の民営とその他の経営主体よりも平均値が遅かった。最も遅出勤務の退所時刻では、市町村などの公営が、社会福祉法人運営の民営とその他の経営主体よりも平均値が早かった。

表Ⅰ－６　経営主体別に見た最も早出勤務と遅出勤務の職員の出勤時刻と退所時刻の平均値

		市町村などの公営		社会福祉法人運営の民営		その他	
		時	分	時	分	時	分
最も早出勤務	出勤時刻	7	23.8	7	7.0	7	11.6
	退所時刻	15	57.6	15	53.3	16	15.9
最も遅出勤務	出勤時刻	10	1.5	9	58.9	10	4.5
	退所時刻	18	37.3	19	2.2	19	6.1

（４）園内研修

「園内研修について、次の形態（内容）の研修を年に何回行っていますか」として、①園外講師を招いての研修、②読書会、③事例検討会、④公開保育（園内公開保育を含む)、⑤その

他について尋ねた。⑤その他には、「内容を具体的に記入して下さい」として、箇条書きで２つの研修の内容を書いてもらえる欄を作った。

無回答の票数を調べたところ、①園外講師を招いての研修では151票、②読書会では302票、③事例検討会では143票、④公開保育（園内公開保育を含む）では205票、⑤その他では294項目が無回答であった。これらを全て除いて分析すると、実際にその研修をしているところだけを集計してしまうことになり､かなり高い値が算出される。また無回答を全て「０」にすると、この設問全体に無回答の票も０回として計算してしまうことになり、かなり低い値が算出される。そのためこれら２つのは方法は、どちらも不適当であると考えられる。

そこで、本報告書では次のようにすることにした。（ａ）５項目の全てが空欄の票（25）は問11の分析から除外する。（ｂ）①から④の項目のうち、いずれかの項目の欄に「１」以上の数字があり､「０」がない場合､①から④の空欄はすべて0とする。（ｃ）①から④の項目のうち、いずれかの項目の欄に「０」の数字がある場合、空欄は空欄のままとする。（ｄ）⑤その他の項目は、先ず「記入あり」と「記入無し」に区別し、「記入あり」の場合の平均値や分布を検討する。（ｅ）全研修回数として、５項目の研修回数を合計した値も分析する。ただしこの分析でも（ａ）で除外した25票は分析対象とはしない。

表Ⅰ－７は、①から⑤の研修とその合計値について、分析票数、平均値、最小値、最大値を示したものである。上記のようにしたことで、⑤その他を除き、600以上の分析票数が確保できた。

表Ⅰ－７　各研修形態（内容）の年間回数の平均値、最小値、最大値

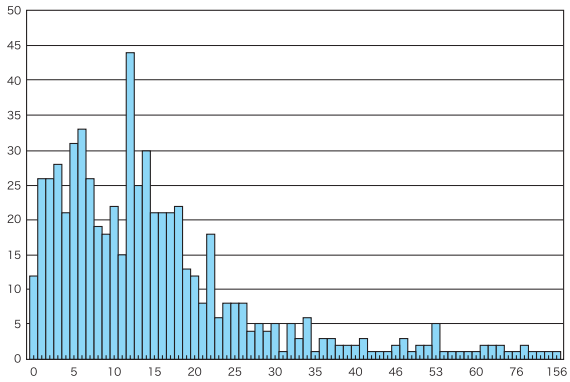
	分析票数	平均値	最小値	最大値
①園外講師を招いての研修	625	2.2	0	85
②読書会	617	1.2	0	48
③事例検討会	605	7.4	0	60
④公開保育（園内公開を含む）	617	2.2	0	42
⑤その他	198	9.7	0	60
①～⑤の合計値	628	15.7	0	156

先ず①～⑤の合計値を注目した。平均値は15.7回となっており、月に１回以上の研修が行われていることになる。分布を示したものが図Ⅰ－13である。最頻値は12回、すなわち毎月１回の研修で、44票がこの値であった。最小値は０であった。今回の調査では研修の定義が曖昧なので、全く研修を実施していない園があるとは言い切れないが、今後の研究課題とできる。最大値は156回と、週３回の研修を実施している保育所があった。

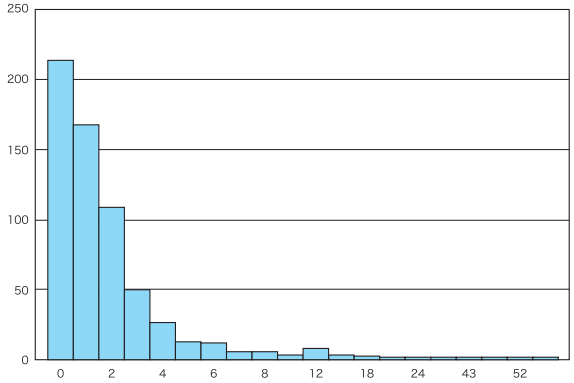
次に①から⑤のそれぞれについて順に検討する。①園外講師を招いての研修は、平均が2.2

回と半年に１回程度であった。分布を示したものが図Ⅰ－14である。最頻値を見ると０回（212票）と、約３分の１の保育所はこれを全くしていなかった。最大値は85回と週に１回以上、この研修を行っていた。園外講師を招くには、保育士養成施設を活用する手もあるが、時間や謝礼等、検討すべき点が多々ある。この研修を中心に考えるのであれば、頻繁に行っている保育所に、そのやり方を尋ねることが必要である。

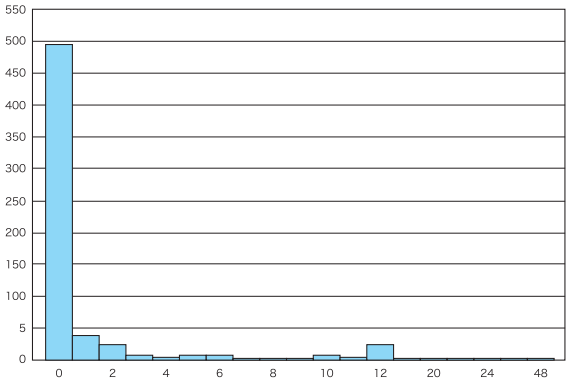
図Ⅰ－13　合計値の分布



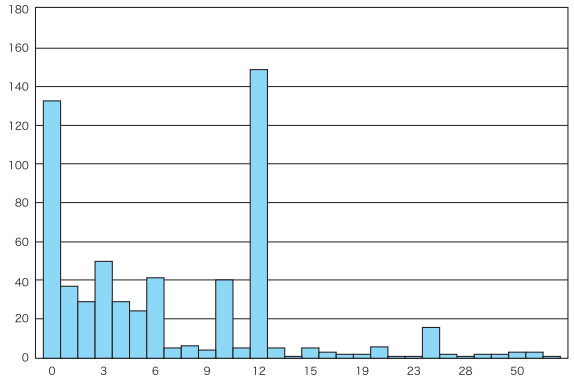
図Ⅰ－14　園外講師を招いての研修の回数の分布



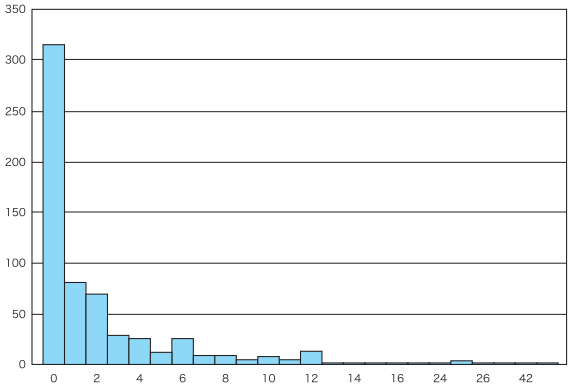
図Ⅰ－15　読書会の回数の分布



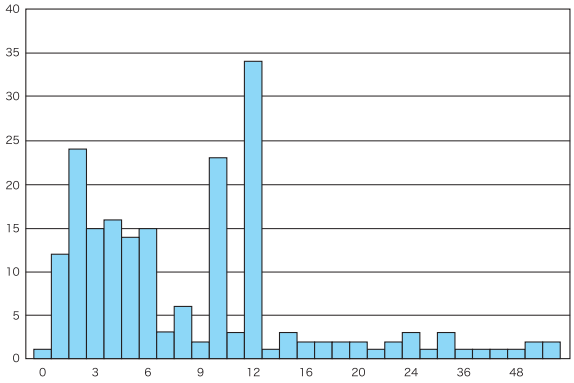
図Ⅰ－16　事例検討会の回数の分布



図Ⅰ－17　公開保育の回数の分布



図Ⅰ－18　その他の研修の回数の分布



いずれも横軸が回数、縦軸は票数（頻度）

②読書会について、平均値は1.2回であった。図Ⅰ－15に示した分布を見ると、ほとんどの保育所で行われていないことがわかる。ただし最大値にあるように、年48回と、毎月４回行っているところも見られた。

③事例検討会の平均値は7.4回と、２ヶ月に１回以上のペースである。しかし図Ⅰ－16に示した分布からは、毎月実施しているところと、全く実施していないところの2極化していることがわかる。最大値を見ると、60回と、毎週実施している保育所もあった。

④公開保育について、平均値は2.2回であったが、図Ⅰ－17に示した分布からは、０回の保育所も多いことがわかる。

⑤その他の研修については、平均値が9.7回と比較的多かった。図Ⅰ－18に示した分布を見ると、12回と毎月１回行っている保育所と、３回と学期に１回行っている保育所が多いことがわかる。最大値は60回と、毎週実施している保育所もあった。

次に、経営主体による違いを分析した。図Ⅰ－13からⅠ－18に見たように、分布は正規分布とは言いがたかったので、各研修の実施回数の中央値を算出し、その値より多い実施回数を報告した票の割合（%）を比較した（表Ⅰ－８）。①園外講師を招いての研修でのみ、若干の差が見られ、市町村などの公営よりも社会福祉法人運営の民営の方が中央値よりも実施回数が多い票の割合が大きかった。

表Ⅰ－８　経営主体別に見た中央値よりも研修回数が多かった割合（%）

	中央値	市町村などの公営	社会福祉法人運営の民営	その他
①園外講師を招いての研修	1	35.5	44.1	33.3
②読書会	0	20.2	20.2	11.4
③事例検討会	6	44.4	43.3	38.2
④公開保育（園内公開を含む）	0	48.3	49.8	45.7
⑤その他	7	41.9	57.8	50.0
①～⑤の合計値	12	45.6	53.5	37.8

（５）第三者評価受審の経験

第三者評価受審の経験を「あり」「なし」として尋ねたところ、27票は無回答であった。これらを除いて分析したところ、「あり」は全体で19.6%（123票）であった。

経営主体による差を調べたところ、「あり」の割合は、市町村などの公営で15.4%、社会福祉法人運営の民営で23.7%、その他の経営主体で20.0%と、社会福祉法人運営の民営が市町村などの公営よりも、割合が高かった。

Ⅱ．個票の分析

1．分析対象

先述のように、回収が得られた施設票は、653か所、55.6%の回収率であった。しかしながら、個票の分析については、これらの全ての回収された施設のすべての票を利用することは、以下の３つの理由でできなかった。第1の理由は、該当者がいない施設があったからである。個票では、各施設において、Ｂ－①票は保育所の通算経験年数３年以下、Ｂ－②票は保育所の通算経験年数４年以上10年未満、Ｂ－③票は保育所の通算経験年数10年以上の保育士に回答を依頼した。しかしながら、全ての保育所に経験年数３年未満、あるいは経験年数10年以上の保育士が在職しているとは限らない。そこで、各個票には、冒頭に「該当者なし」の欄を設けて、当該施設に該当者がいない場合には、この欄に○をしてもらうことにした。表Ⅱ－１の第２列に「該当者なし」に○があった票数を示した。これらの票は全ての分析から除外した。

第２の理由は、各個票で尋ねた経験年数と、それぞれの表で求めた経験年数との間に矛盾した票があったからである（表Ⅱ－１の第３列参照)。例えば、Ｂ－③票は経験年数10年以上の保育士に回答を求めたものである。しかしながら設問４で保育所保育士の経験年数の通算を尋ねたところ、10年未満の票が数多く見られた。これについてはいくつかの解釈が可能である。具体的には、a．保育所の経験年数は10年以上と長いが、保育所保育士としては短いケース、b．Ｂ－①票を保育所の経験年数10年以上に誤って渡してしまったケース、ｃ．職員が３名の保育所で、その３名の通算経験年数が３年以下で一人、４年以上10年未満で二人の場合で、一人の保育士にだけ回答させないことが公平性を欠くと考えられたケースなどである。回収された調査票からこれらを判別することは困難であった。そこで忸怩たるものはあったが、これらの票は分析から除いた。なお、Ｂ－①票に関して、「３年以下」は、４年未満と解釈した。

第３の理由は、設問や項目によって無回答の票や明らかに誤った数値の票があったことである。例えば、設問７では、登園（出勤した）時刻（①)、降園（退所した）時刻（②)、園にいた時間（②－①）の記入を求め、さらに園にいた時間を、保育の時間、保育記録を作成するのにかけた時間などに分けて記入してもらった。この設問では、園にいた時間が無回答であったり、計算が誤っていたり、園にいた時間と業務等の合計時間が合わない票があった。これらについては、少し煩雑になるが、項目ごとに分析から省いた票を示すことにした。

表Ⅱ－１　分析から除いた票数と分析に用いた票数

	「該当なし」の票数	保育所保育士の経験年数の通産と矛盾があった票数	分析に用いた票数
Ｂ–①（保育所の通算勤務年数３年以下）	116	71	466
Ｂ–②（保育所の通算勤務年数４年以上10年未満）	84	77	492
Ｂ–③（保育所の通算勤務年数10年以上）	23	40	590

2．個票回答者

（1）担当するクラス

０歳児クラスから５歳児までと混合クラスと、７つの選択肢を設けて担当するクラスを選んでもらった。Ｂ－①（保育所の通算勤務年数３年以下）［以下、「３年以下」と記載。以下同じ］では13票、Ｂ－②（保育所の通算勤務年数４年以上10年未満）［「４～10年」］では20票、Ｂ－③（保育所の通算勤務年数10年以上）［「10年以上」］では42票が無回答であった。各担当クラスの割合を示したものが表Ⅱ－２である。３年以下は他と比べて、０歳児クラスと５歳児クラスが少なく、１歳児クラスと２歳児クラスが多かった。４～10年は他と比べて、１歳児クラスが少なく５歳児クラスが多かった。10年以上は他と比べて、０歳児クラスが多く、２歳児クラスが少なかった。

表Ⅱ－２　経験年数別に見た担当するクラスの割合（%）

	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	混合クラス	回答人数
３年以下	8.6	18.3	25.8	14.1	9.9	5.3	17.9	453
４～10年	11.2	10.8	17.2	16.1	12.9	14.8	16.9	472
10年以上	16.1	14.2	12.8	13.7	10.8	11.5	21.0	548
平均(重みなし)	12.0	14.5	18.6	14.6	11.2	10.5	18.6	1473

（2）クラスでの役割分担

３年以下では17名、４～10年では25名、10年以上では34名が無回答であった。表Ⅱ－３に各選択肢が選ばれた割合を示す。３年以下は他と比べてリーダーが少なく、サブリーダーとその他が多かった。４～10年は他と比べてリーダーが多く、その他が少なかった。10年以上は他と比べてリーダーが多く、サブリーダーとその他が少なかった。

表Ⅱ－３　経験年数別に見たクラスでの役割分担（%）

	リーダー	サブリーダー	その他	回答人数
３年以下	41.9	29.4	28.7	449
４～10年	69.6	15.0	15.4	467
10年以上	79.9	6.7	13.5	556
平均（重みなし）	63.8	17.0	19.2	1472

（3）雇用形態

3年以下では2名、4～10年では2名、10年以上では1名が無回答であった。表Ⅱ－4に各選択肢が選ばれた割合を示す。3年以下は他と比べて正規職員が少なく、非正規職員（フルタイム）が多かった。逆に10年以上は他と比べて正規職員が多く、非正規職員（フルタイム）が少なかった。

表Ⅱ－4　経験年数別に見た雇用形態（%）

	正規職員	非正規職員（フルタイム）	回答人数
3年以下	68.5	31.5	464
4～10年	79.8	20.2	490
10年以上	94.4	5.6	589
平均（重みなし）	80.9	19.1	1543

（4）性別

3年以下で1名、4～10年で1名が無回答であった。表Ⅱ－5に男性と女性が選ばれた割合を示す。3年以下は他と比べて男性が多く、女性が少なかった。逆に10年以上は他と比べて女性が多く、男性が少なかった。

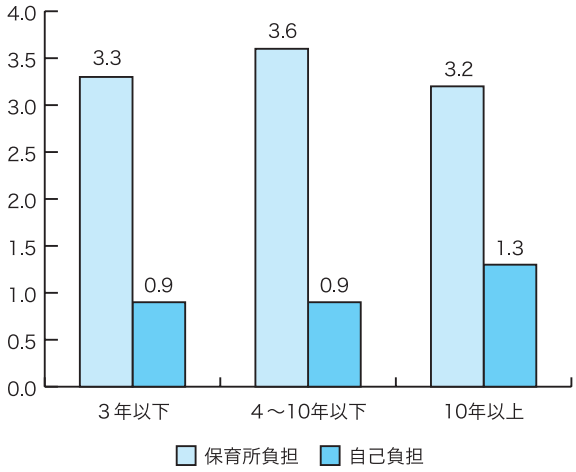
表Ⅱ－5　経験年数別に見た性別割合（%）

	男性	女性	回答人数
3年以下	5.2	94.8	465
4～10年	4.3	95.7	491
10年以上	1.7	98.3	590
平均（重みなし）	3.7	96.3	1546

（5）研修回数

保育所負担と自己負担の研修回数の平均値を示したものが図Ⅱ－1である。回答人数は、保育所負担が3年以下、4～10年、10年以上の順に、404名、438名、532名であり、自己負担が279名、319名、364名であった。図から明らかなように、保育所負担が自己負担よりも多かった。

図Ⅱ－１　経験年数別にみた平均研修回数



３．勤務実態

設問７では、調査票を記入日の前日（平日）の勤務実態を調べた。この設問では３セットの回答欄を設けた。その１つは、登園（出勤した）時間（①）、降園（退所した）時間（②）、および園にいた時間（②－①）というセットである。園にいた時間は、降園時間から登園時間を引く形で算出するようになっていた。２つめはさまざまな業務に携わった時間というセットである。８つの業務を取り上げ、それらに携わった時間とそれらの合計時間を尋ね、合計時間は最初のセットの園にいた時間と同じになるように記入を求めた。最後は、帰宅後、あるいは出勤前に行った仕事の有無とそれにかけた時間というセットである。仕事がある場合、その内容と所要時間、および合計時間を尋ねた。冒頭の分析対象で述べたように、特にこの設問７では無回答が多かった。そこで、これらのセットごとに分析対象の票数を変えることにし、できるだけ多くの正確に記入された票を分析した。

（１）登園時間、降園時間、園にいた時間

これらの調査項目では登園時間と降園時間は24時間制で記入を求めた。しかしながら、園にいた時間と登園時間の差から判断して、24時間制になっていない票（後述するように、全てを「分」に直して計算すると、ちょうど720分の差）が、３年未満で23票、４～10年で25票、10年以上で43票あった。そこでこれらは24時間制に修正して計算した。

次に、全ての時間を午前０時０分からの「分」に換算し、降園時間の値から登園時間の値を引いた差と、園のいた時間の値と比較した。差と園にいた時間の値が異なっていたのは、３年未満で62票、４～10年で65票、10年以上で76票であった。そこでこれらは分析から除いた。分析に用いた票数は、３年未満が404票、４～10年が427票、10年以上が514票であった。

表Ⅱ－６は、経験年数別に、登園時間、降園時間、園にいた時間の平均値を示したものであ

る。いずれも顕著な差はなかった。すなわちいずれの経験年数であっても、登園時間は８時15分頃、降園時間は17時55分頃、園にいた時間は９時間40分程度であった。

表Ⅱ－６　経験年数別に見た登園時間、降園時間、園にいた時間の平均値

	３年以下		４～10年		10年以上	
	時	分	時	分	時	分
（２）登園（出勤した）時間　①	8	15.0	8	14.1	8	13.8
（３）登園（退所した）時間　②	17	59.0	17	51.3	17	56.1
（４）園にいた時間（②－①）	9	44.0	9	37.2	9	42.2

（２）さまざまな業務に携わった時間

この項目では表Ⅱ－７－１に示す８つの業務に携わった時間とその合計時間の記入求めた。その際、合計時間は、先に求めた園にいた時間と同じになるように記載することを求めた。そこで合計時間と園にいた時間が合致しない票は、全て分析から削除した。これをしないと、各業務に携わった時間を過小評価、あるいは過大評価してしまうと考えたからである。分析に用いた票数は、３年未満が333票、４～10年が355票、10年以上が401票であった。

表Ⅱ－７－１　経験年数別に見た業務に携わった時間の平均値

	３年以下		４～10年		10年以上	
	時	分	時	分	時	分
④保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）	7	5.8	7	7.5	6	53.4
⑤保育記録を作成するためにかけた時間	0	26.4	0	22.6	0	21.9
⑥保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材研究を含む）	0	26.7	0	22.8	0	23.2
⑦事務的な仕事にかけた時間	0	20.2	0	21.7	0	33.4
⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間	0	22.7	0	22.8	0	23.0
⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間	0	19.9	0	20.1	0	25.0
⑩休憩時間	0	30.8	0	29.9	0	31.1
⑪その他の内容にかけた時間	0	12.7	0	11.9	0	11.1
合計（「園にいた時間」と同じ）	9	45.2	9	39.2	9	42.3

表Ⅱ－７－１を見ると、④保育の時間は約7時間、⑤保育記録を作成するのにかけた時間、⑥保育教材を作成するのにかけた時間、⑦事務的な仕事にかけた時間、⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間、⑨会議・打合せ・報告等にかけた時間、⑩休憩時間が、それぞれ約20～30分であった。子どもや保護者とかかわる時間が保育士の業務の中心であると、保育士が捉えてい

ることがわかる。また保育記録や保育教材など、保育実践に欠かせない内容に25分程度しかかけられていないことがうかがえる。

経験年数による違いを見ると、④保育の時間、⑤保育記録を作成するのにかけた時間、⑦事務的な仕事にかけた時間で差が顕著であった。④保育の時間では、４～10年の保育士が10年以上の保育士よりも、保育にかけた時間が長かった。⑤保育記録を作成するのにかけた時間では、３年以下の保育士が10年以上の保育士よりも、保育記録を作成するのにかけた時間が長かった。⑦事務的な仕事にかけた時間では、10年以上の保育士が３年以下と４～10年の保育士よりも、事務的な仕事にかけた時間が長かった。また、⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間でも10年以上の保育士が３年以下と４～10年の保育士よりも、事務的な仕事にかけた時間が長い傾向が見られた。

表Ⅱ－7－２は、８つの業務に携わった時間の最小値と最大値を経験年数別に示したものである。先ず最小値を見ていこう。④保育の時間の最小値は、３年以下で３時間49分とほぼ４時間であった。これに対して、４～10年では２時間ちょうど、10年以上では０分であった。経験年数が増えるにつれて、子どもや保護者にかかわらない保育者が現れるようになると言えよう。⑤保育記録を作成するのにかけた時間、⑥保育教材を作成するのにかけた時間、⑦事務的な仕事にかけた時間、⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間、⑨会議・打合せ・報告等にかけた時間、⑩休憩時間、⑪その他の内容にかけた時間の最小値は０分であった。すなわち、これらにまったく時間をかけなかった保育者が、いずれの経験年数にもいたことになる。

次に最大値に目を向ける。④保育の時間の最大値は、３年以下で10時間20分、４～10年で９時間50分、10年以上で10時間５分と、ほぼ10時間であった。標準勤務時間を１日８時間と考えると、それよりも２時間も多く、しかも子どもや保護者とかかわるだけに、その時間を使っている保育者がいた。

⑤保育記録を作成するのにかけた時間の最大値は、３年以下で３時間15分、４～10年で２時間15分、10年以上では３時間50分であった。保育を振り返った証拠となるのが、この記録である。経験を重ねると、書く力がつく。そのため短時間で記録が書けるようになる可能性はある。10年以上になるとさまざまな振り返りが必要になるのかもしれない。

⑥保育教材を作成するのにかけた時間は３時間から４時間であった。教材作成にはそのくらいの時間が必要なのかもしれない。

⑦事務的な仕事にかけた時間は経験年数が増えるにつれて、増加していた。特に10年以上では７時間もこれに従事していた保育者がいた。

⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間は２時間～３時間、⑨会議・打合せ・報告等にかけた時間は３～４時間程度、⑩休憩時間は１時間半程度、⑪その他の内容にかけた時間は２時間半

から約５時間が最大値であった。

最大値と最小値を並べてみると、保育士の業務には個人差が大きいことがわかる。完全なる分業化が進んでいる可能性もある。

表Ⅱ－７－２　経験年数別に見た業務に携わった時間の最小値と最大値

	最小値						最大値					
	3年以下		4～10年		10年以上		3年以下		4～10年		10年以上	
	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分
④保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）	3	49	2	0	0	0	10	20	9	50	10	5
⑤保育記録を作成するためにかけた時間	0	0	0	0	0	0	3	15	2	15	3	50
⑥保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材研究を含む）	0	0	0	0	0	0	3	25	3	0	4	0
⑦事務的な仕事にかけた時間	0	0	0	0	0	0	3	10	5	30	7	0
⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間	0	0	0	0	0	0	2	20	3	0	2	30
⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間	0	0	0	0	0	0	4	20	3	15	4	10
⑩休憩時間	0	0	0	0	0	0	1	30	1	35	1	30
⑪その他の内容にかけた時間	0	0	0	0	0	0	4	55	2	30	3	0

（3）帰宅後、あるいは出勤前に行った仕事

「いわゆる「持ち帰り」をするなど、帰宅後、あるいは出勤前に、保育に関する仕事をされましたか。された場合、その仕事の内容と所要時間を記入してください」とした。仕事をしたかどうかは「あり」か「なし」かの二選択とした。３年以下では14票、４～10年では19票、10年以上では36票が無回答であった。表Ⅱ－８は、「あり」と「なし」の割合（%）を示したものである。10年以上では「あり」が「なし」よりも多かった。

表Ⅱ－８　いわゆる「持ち帰り」の有無（%）

	あり	なし	回答人数
３年以下	48.7	51.3	452
４～10年	49.5	50.5	473
10年以上	56.1	43.9	554
平均（重みなし）	51.4	48.6	1479

次に実際にどの程度の時間、それらの仕事、すなわち「持ち帰り」にかけたのかを分析した。分析対象は、合計時間とした。回答したのは、３年以下では191票、４～10年では208票、10年以上では274票であった。表Ⅱ－９は、合計時間の平均を示したものである。経験年数にかか

わらず、約1時間25分であった。

表Ⅱ－9　「持ち帰り」仕事の平均時間

	時間	分	回答人数
3年以下	1	29.0	191
4～10年	1	21.4	208
10年以上	1	26.5	274
平均（重みなし）	1	25.6	673

（4）有給休暇の使用率

昨年度の年次有給休暇（持ち越し日数を含む）の取得日数を尋ねたところ、3年以下では466名中101名、4～10年では492名中63名、10年以上では590名中49名が無回答であった。記入された日数の平均値を調べたところ、表Ⅱ－10の第2列に示すように、3年以下の平均日数が最も少なく、次いで4～10年で、10年以上が最も多かった。

昨年度1年間の有給休暇の使用日数を尋ねたところ、3年以下では466名中98名、4～10年では492名中57名、10年以上では590名中45名が無回答であった。記入された日数の平均値を調べたところ、表Ⅱ－10の第3列に示すように、3年以下の平均日数が4 4～10年と10年以上よりも少なかった。

有給休暇の使用日数÷取得日数×100で使用率を計算したところ、3年以下では466名中141名、4～10年では492名中84名、10年以上では590名中61名が算出できなかった。算出できた使用率の平均値を調べたところ、表Ⅱ－10の第4列に示すように、3年以下の平均使用率が最も高く、次いで4～10年で、10年以上が最も低かった。

表Ⅱ－10　有給休暇の取得日数、使用日数、使用率の平均

	年次有給休暇の取得日数	使用日数	使用率
3年以下	14.2	5.2	46.5
4～10年	26.8	7.9	36.0
10年以上	33.8	8.4	28.7
平均（重みなし）	26.2	7.3	35.7

4．専門性

（1）業務の担当

「以下の保育士の業務について、どの程度実施できていると思いますか？該当するものに○をしてください」として12の業務をあげ、それぞれについて、「できている（1）」、「ほぼできている（2）」、「あまりできていない（3）」、「できていない（4）」、「担当していない（5）」の5段階で評定を求めた。このうち「担当していない（5）」は、他の4つの段階とは別の尺度に位置づけられる。そこで、先ず、この選択肢が選ばれた割合（%）を調べた（表Ⅱ－11）。

表Ⅱ－11 「担当していない」が選ばれた割合（%）

業務	3年以下	4～10年	10年以上
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	7.6	4.1	3.3
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	7.3	3.5	3.3
③子どもの一人ひとりの発達の把握	0.7	0.0	0.5
④保育室の整理整頓	0.0	0.4	0.9
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	0.4	0.6	1.7
⑥保育教材の準備	1.3	1.2	1.9
⑦家庭との連携	0.6	0.0	0.7
⑧他の保育士との連携	0.0	0.0	0.0
⑨園長など上司への適切な報告や相談	0.4	0.4	0.0
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	11.1	9.3	6.9
⑪他の専門機関との連携	31.5	28.2	20.6
⑫地域の子育て家庭への支援	36.3	33.9	25.4

全体的に見ると、⑫地域の子育て家庭への支援と⑪他の専門機関との連携では、他の業務と比べて担当していない者が多かった。

次に、経験年数による違いを見た。その結果、①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案、②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案、⑪他の専門機関との連携、⑫地域の子育て家庭への支援の4つの業務では、違いが顕著であり、いずれも担当していない者の割合は、3年以下で多く、10年以上では少なかった。また、⑤季節に合わせた保育室などの環境整備では、10年以上の担当していない者が多い傾向がみられた。さらに、⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携では、10年以上の担当していない者が少ない傾向がみられた。

（2）業務の実施の程度

「できている（1）」から「できていない（4）」までの回答に対して、それぞれ1点から4点を与えて、平均値を算出した。その値を示したものが表Ⅱ－12である。先ず平均値を見てみよう。値が小さいほど、「できている」に近いことになる。⑨園長など上司への適切な報告や相談、⑧他の保育士との連携、③子どもの一人ひとりの発達の把握の平均がいずれも1.8で並んでいるが、実際の値を見ると、この順に平均値が低かった。

次に平均値が高い業務を見ると、⑫地域の子育て家庭への支援、⑪他の専門機関との連携が2.6で並んでいるが、実際の値では、この順に平均値が高かった。2.6は、評定の段階を見ると、「ほぼできている（2）」、「あまりできていない（3）」の間であり、「できていない」側である。そこで、「できていない」と考えている保育士が多いことになる。

表Ⅱ－12　実施の程度の平均値

業務	3年以下	4～10年	10年以上	平均
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	2.2	2.0	1.9	2.0
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	2.0	1.8	1.8	1.9
③子どもの一人ひとりの発達の把握	2.0	1.8	1.8	1.8
④保育室の整理整頓	2.1	2.1	2.1	2.1
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	2.0	2.1	2.0	2.0
⑥保育教材の準備	2.1	2.0	2.0	2.0
⑦家庭との連携	2.0	1.8	1.8	1.9
⑧他の保育士との連携	1.8	1.7	1.8	1.8
⑨園長など上司への適切な報告や相談	1.9	1.8	1.7	1.8
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	2.1	2.0	2.1	2.1
⑪他の専門機関との連携	2.7	2.5	2.5	2.6
⑫地域の子育て家庭への支援	2.7	2.6	2.5	2.6

次に経験年数による違いに着目した。表に現れている値では0.2程度の差であるが、統計的な分析では次のような差を検出できた。

①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案：3年以下＞4～10年＞10年以上

②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案：3年以下＞4～10年≒10年以上

③子どもの一人ひとりの発達の把握：3年以下＞4～10年≒10年以上

⑥保育教材の準備：3年以下＞4～10年≒10年以上

⑦家庭との連携：3年以下＞4～10年≒10年以上

⑧他の保育士との連携：３年以下＞４～10年

⑨園長など上司への適切な報告や相談：３年以下＞４～10年≒10年以上

⑪他の専門機関との連携：３年以下＞４～10年≒10年以上

⑫地域の子育て家庭への支援：３年以下＞10年以上

いずれも３年以下が他よりも平均値が高かった。

これらの差について詳しく見るために、各評定段階が選択された割合を調べた。その結果を表Ⅱ－13に示す。①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案については、「できている」は、10年以上で多く３年以下で少なかった。「ほぼできている」は、４～10年が多く３年以下が少なかった。「あまりできていない」は３年以下が多く10年以上が少なかった。「できていない」は３年以下が多かった。「担当していない」は３年以下が多く10年以上が少なかった。

②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案では、「できている」には顕著な差はなかったが、「ほぼできている」では４～10年が多く３年以下が少なかった。「あまりできていない」は、３年以下が多く４～10年と10年以上が少なかった。「担当していない」は、３年以下が多かった。

③子どもの一人ひとりの発達の把握では、「できている」は、10年以上が多く３年以下が少なかった。また、「あまりできていない」は、３年以下が多く４～10年と10年以上が少なかった。

⑥保育教材の準備では、「できている」には顕著な差はなかったが、「ほぼできている」では３年以下が少なかった。また「あまりできていない」は、３年以下が多く10年以上が少なかった。

⑦家庭との連携では、「できている」は、３年以下が少なかった。また、「あまりできていない」は、３年以下が多く４～10年と10年以上が少なかった。

⑧他の保育士との連携では、「あまりできていない」は３年以下が多く４～10年が少なかった。

⑨園長など上司への適切な報告や相談では、「できている」は、10年以上が多く３年以下が少なかった。また、「あまりできていない」は、３年以下が多く４～10年と10年以上が少なかった。

⑪他の専門機関との連携では、「ほぼできている」は10年以上が多く３年以下が少なかった。「できていない」は３年以下が多く４～10年と10年以上が少なかった。「担当していない」でも３年以下が多く10年以上が少なかった。

⑫地域の子育て家庭への支援では、「できている」は10年以上が多かった。「ほぼできている」は10年以上が多く３年以下が少なかった。また「担当していない」では３年以下が多く10年以上が少なかった。

表Ⅱ－13　専門性に関して各段階が選択された割合（%）

		できている	ほぼできている	あまりできていない	できていない	担当していない
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	3年以下	8.70%	60.00%	23.26%	0.43%	7.61%
	4～10年	13.17%	70.16%	12.55%	0.00%	4.12%
	10年以上	19.00%	68.05%	9.67%	0.00%	3.28%
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	3年以下	17.49%	60.91%	14.25%	0.00%	7.34%
	4～10年	20.45%	70.76%	5.32%	0.00%	3.48%
	10年以上	22.85%	68.90%	4.98%	0.00%	3.26%
③子どもの一人ひとりの発達の把握	3年以下	15.90%	67.97%	15.47%	0.00%	0.65%
	4～10年	25.00%	70.90%	4.10%	0.00%	0.00%
	10年以上	26.98%	68.04%	4.47%	0.00%	0.52%
④保育室の整理整頓	3年以下	18.36%	56.59%	24.19%	0.86%	0.00%
	4～10年	13.76%	59.34%	26.28%	0.21%	0.41%
	10年以上	16.75%	60.51%	21.54%	0.34%	0.85%
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	3年以下	22.17%	55.00%	21.30%	1.09%	0.43%
	4～10年	20.49%	53.48%	24.59%	0.82%	0.61%
	10年以上	19.59%	58.59%	19.24%	0.86%	1.72%
⑥保育教材の準備	3年以下	14.32%	58.35%	25.60%	0.43%	1.30%
	4～10年	16.46%	64.81%	17.28%	0.21%	1.23%
	10年以上	18.02%	64.99%	14.90%	0.17%	1.91%
⑦家庭との連携	3年以下	16.23%	67.53%	15.58%	0.00%	0.65%
	4～10年	21.93%	72.95%	5.12%	0.00%	0.00%
	10年以上	22.81%	72.04%	4.29%	0.17%	0.69%
⑧他の保育士との連携	3年以下	28.63%	58.79%	11.71%	0.87%	0.00%
	4～10年	32.72%	61.35%	5.73%	0.20%	0.00%
	10年以上	30.14%	61.64%	7.36%	0.86%	0.00%
⑨園長など上司への適切な報告や相談	3年以下	26.19%	59.52%	13.64%	0.22%	0.43%
	4～10年	31.08%	61.76%	6.34%	0.41%	0.41%
	10年以上	34.93%	57.88%	6.85%	0.34%	0.00%
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	3年以下	19.96%	41.21%	23.86%	3.90%	11.06%
	4～10年	21.19%	49.79%	16.87%	2.88%	9.26%
	10年以上	19.79%	51.22%	18.58%	3.47%	6.94%
⑪他の専門機関との連携	3年以下	4.60%	22.32%	31.51%	10.07%	31.51%
	4～10年	4.41%	29.83%	33.82%	3.78%	28.15%
	10年以上	6.27%	31.88%	37.63%	3.66%	20.56%
⑫地域の子育て家庭への支援	3年以下	3.74%	19.56%	31.87%	8.57%	36.26%
	4～10年	3.74%	22.45%	33.47%	6.44%	33.89%
	10年以上	6.06%	28.89%	33.74%	5.88%	25.43%

5．満足度・意識

（1）満足度

表Ⅱ－14の第1列に示す8つの項目について、「満足している（1）」「まあまあ満足している（2）」「あまり満足していない（3）」「満足していない（4）」の4段階で評定を求めた。平均値を示したものが表Ⅱ－14である。全ての項目に対して、無回答が見られたので、平均値を算出した人数（N）についても表中に示した。

表Ⅱ－14　満足度の評定値の平均

	３年以下	４～10年	10年以上	平均（重みなし）
①現在の勤務体制	1.8	2.0	2.0	2.0
N	463	488	586	1537
②現在の仕事内容	1.7	1.9	1.9	1.8
N	461	488	584	1533
③現在の仕事に対する報酬（給与）	2.2	2.4	2.2	2.3
N	463	487	585	1535
④保護者との人間関係	1.9	1.9	1.9	1.9
N	462	488	585	1535
⑤同僚との人間関係	1.6	1.7	1.8	1.7
N	457	489	584	1530
⑥上司との人間関係	1.7	1.8	1.8	1.8
N	461	463	582	1530
⑦保育士としての自分の成長	2.7	2.5	2.4	2.5
N	463	488	585	1536
⑧自分がかかわった子どもに対する保育	2.4	2.2	2.1	2.2
N	462	489	582	1533

先ず平均値を見てみよう。値が小さいほど、「満足している」に近いことになる。⑤同僚との人間関係は1.7で最も値が小さかった。次いで、⑥上司との人間関係と②現在の仕事内容の平均はいずれも1.8で並んでいるが、実際の値を見ると、この順に平均値が低かった。次に平均値が大きい項目を見ると、⑦保育士としての自分の成長が2.5で最も大きく、③現在の仕事に対する報酬（給与）が続いていた。

次に経験年数による違いに着目した。表に現れている値では0.2程度の差であるが、統計的な分析では次のような差を検出できた。

①現在の勤務体制：10年以上≒４～10年＞３年以下

②現在の仕事内容：10年以上≒４～10年＞３年以下

③現在の仕事に対する報酬（給与）：３年以下≒10年以上＞４～10年

④保護者との人間関係：10年以上＞３年以下≒４～10年

⑤同僚との人間関係：10年以上＞４～10年≒３年以下

⑦保育士としての自分の成長：３年以下＞４～10年≒10年以上

⑧自分がかかわった子どもに対する保育：３年以下＞４～10年≒10年以上

これらの差について詳しく見るために、各評定段階が選択された割合を調べた。その結果を表Ⅱ－15に示す。①現在の勤務態勢については、「満足している」は３年以下が多く10年以上が少なかった。「まあまあ満足している」は３年以下が少なく10年以上が多かった。「あまり満足していない」と「満足していない」では３年以下が少なかった。

②現在の仕事内容では、「満足している」は３年以下が多く10年以上が少なかった。また「あ

まり満足していない」では３年以下が少なかった。

③現在の仕事に対する報酬（給与）では、「満足している」は３年以下で多かった。「まあまあ満足している」は10年以上が多く４～10年が少なかった。「満足していない」は４～10年が多く10年以上が少なかった。

④保護者との人間関係では、「満足している」は３年以下が多く10年以上が少なかった。「まあまあ満足している」は10年以上が多く３年以下が少なかった。

表Ⅱ－15　満足度に関して各段階が選択された割合（%）

		満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない
①現在の勤務体制	３年以下	34.99%	50.76%	12.74%	1.51%
	４～10年	25.61%	53.28%	17.83%	3.28%
	10年以上	20.82%	58.87%	16.38%	3.92%
②現在の仕事内容	３年以下	37.09%	52.93%	9.11%	0.87%
	４～10年	29.92%	56.15%	12.70%	1.23%
	10年以上	27.23%	57.02%	13.70%	2.05%
③現在の仕事に対する報酬（給与）	３年以下	22.46%	40.39%	27.00%	10.15%
	４～10年	16.02%	38.60%	29.77%	15.61%
	10年以上	17.78%	43.38%	25.13%	8.72%
④保護者との人間関係	３年以下	24.46%	63.15%	9.96%	0.43%
	４～10年	23.57%	67.62%	7.79%	1.02%
	10年以上	16.07%	74.36%	8.89%	0.68%
⑤同僚との人間関係	３年以下	49.67%	43.98%	5.03%	1.31%
	４～10年	39.88%	55.01%	3.48%	1.64%
	10年以上	31.51%	58.39%	9.42%	0.68%
⑥上司との人間関係	３年以下	40.35%	46.85%	10.41%	2.39%
	４～10年	35.32%	50.10%	11.50%	3.08%
	10年以上	33.68%	52.41%	11.17%	2.75%
⑦保育士としての自分の成長	３年以下	3.67%	33.91%	53.78%	8.64%
	４～10年	4.71%	44.67%	44.67%	5.94%
	10年以上	3.76%	52.14%	41.37%	2.74%
⑧自分がかかわった子どもに対する保育	３年以下	5.84%	52.60%	38.31%	3.25%
	４～10年	7.77%	66.05%	24.54%	1.64%
	10年以上	6.53%	73.71%	19.07%	0.69%

⑤同僚との人間関係では、「満足している」は３年以下が多く10年以上が少なかった。「まあまあ満足している」は10年以上が多く３年以下が少なかった。「あまり満足していない」は10年以上が多く４～10年が少なかった。

⑦保育士としての自分の成長では、「まあまあ満足している」は10年以上が多く３年以下が少なかった。「あまり満足していない」と「満足していない」は３年以下が多く10年以上が少なかった。

⑧自分がかかわった子どもに対する保育では、「まあまあ満足している」は10年以上が多く３年以下が少なかった。「あまり満足していない」と「満足していない」は３年以下が多く10年以上が少なかった。

（2）意識

表Ⅱ－16の第1列に示す６つの項目について、「とても感じる（１）」「やや感じる（２）」「あまり感じない（３）」「まったく感じない（４）」の4段階で評定を求めた。平均値を示したものが表Ⅱ－16である。全ての項目に対して、無回答が見られたので、平均値を算出した人数（N）についても表中に示した。

先ず平均値を見てみよう。値が小さいほど、「とても感じる」に近いことになる。②子どもと過ごす時間の楽しさは1.3で最も値が小さかった。次いで、①現在の仕事に対するやりがいの値が小さかった。次に平均値が大きい項目を見ると、④仕事における自分の持ち味の発揮が2.2で最も大きく、③保護者からの信頼、⑤仕事における肉体的なきつさ、⑥仕事における精神的なきつさが続いていた。

次に経験年数による違いに着目した。表に現れている値では0.2程度の差であるが、統計的な分析では次のような差を検出できた。

表Ⅱ－16　意識の評定値の平均

	３年以下	４～10年	10年以上	平均（重みなし）
①現在の仕事に対するやりがい	1.5	1.5	1.5	1.5
N	460	488	584	1532
②子どもと過ごす時間の楽しさ	1.2	1.3	1.3	1.3
N	460	488	586	1534
③保護者からの信頼	2.2	2.1	2.0	2.1
N	457	486	584	1527
④仕事における自分の持ち味の発揮	2.5	2.2	2.1	2.2
N	458	482	579	1519
⑤仕事における肉体的なきつさ	2.2	2.1	1.8	2.0
N	462	489	585	1536
⑥仕事における精神的なきつさ	2.1	2.0	1.8	1.9
N	462	489	585	1536

②子どもと過ごす時間の楽しさ：10年以上＞３年以下

③保護者からの信頼：３年以下＞４～10年≒10年以上

④仕事における自分の持ち味の発揮：３年以下＞４～10年＞10年以上

⑤仕事における肉体的なきつさ：３年以下＞４～10年＞10年以上

⑥仕事における精神的なきつさ：３年以下≒４～10年＞10年以上

これらの差について詳しく見るために、各評定段階が選択された割合を調べた。その結果を表Ⅱ－17に示す。②子どもと過ごす時間の楽しさでは、「とても感じる」は３年以下で多く10年以上で少なかった。「やや感じる」は反対に10年以上で多く３年以下で少なかった。

③保護者からの信頼では、「とても感じる」は10年以上で多かった。「やや感じる」は10年以上と４～10年で多く３年以下では少なかった。「あまり感じない」は３年以下で多く10年以上と４～10年では少なかった。

④仕事における自分の持ち味の発揮では、「とても感じる」は10年以上で多く３年以下で少なかった。「やや感じる」は10年以上と４～10年で多く３年以下では少なかった。「あまり感じない」は３年以下で多く10年以上と４～10年では少なかった。

⑤仕事における肉体的なきつさでは、「とても感じる」は10年以上で多く３年以下で少なかった。「あまり感じない」は３年以下と４～10年で多く10年以上では少なかった。「まったく感じない」はは３年以下で多く10年以上で少なかった。

⑥仕事における精神的なきつさでは、「とても感じる」は10年以上で多く３年以下で少なかった。「あまり感じない」は３年以下と４～10年で多く10年以上では少なかった。

表Ⅱ－17　意識に関して各段階が選択された割合（%）

		とても感じる	やや感じる	あまり感じない	まったく感じない
①現在の仕事に対するやりがい	３年以下 ４～10年 10年以上	52.39% 52.66% 51.88%	42.83% 43.24% 42.64%	4.78% 3.89% 5.14%	0.00% 0.20% 0.34%
②子どもと過ごす時間の楽しさ	３年以下 ４～10年 10年以上	77.17% 72.95% 69.28%	21.96% 26.64% 29.18%	0.87% 0.41% 1.37%	0.00% 0.00% 0.17%
③保護者からの信頼	３年以下 ４～10年 10年以上	5.25% 5.56% 8.22%	65.86% 83.13% 83.05%	28.23% 10.91% 8.56%	0.66% 0.41% 0.17%
④仕事における自分の持ち味の発揮	３年以下 ４～10年 10年以上	3.71% 7.88% 11.57%	45.85% 64.73% 68.22%	48.69% 26.14% 19.52%	1.75% 1.24% 0.69%
⑤仕事における肉体的なきつさ	３年以下 ４～10年 10年以上	13.20% 19.84% 32.48%	53.25% 49.69% 52.14%	29.65% 28.83% 14.70%	3.90% 1.64% 0.68%
⑥仕事における精神的なきつさ	３年以下 ４～10年 10年以上	19.70% 27.81% 34.19%	54.55% 48.26% 51.79%	23.38% 22.09% 12.82%	2.38% 1.84% 1.20%

6．今後の勤務

「あなたは、今後も保育士として勤務することを考えておられますか。「はい」または「いいえ」のどちらかに○をつけた後、その理由について該当するものすべてに○をつけて下さい(複数回答可)」として、理由欄に12の選択肢を設けた。「はい」か「いいえ」かの選択の割合を示したものが表Ⅱ－18である。なお、３年以下では32名、４～10年では50名、10年以上では59名が無回答であった。

表Ⅱ－18　継続勤務の希望（%）

	はい	いいえ	回答人数
３年以下	91.5	8.5	434
４～10年	86.2	13.8	442
10年以上	92.1	7.9	531
平均（重みなし）	89.9	10.1	1407

平均値を見ると9割程度が「はい」であり、多くの保育士が継続して勤務することを考えているといえる。

経験年数による違いを見ると、「はい」は10年以上で多く４～10年で少なかった。

次に理由を分析した。「はい」の理由は、「満足だから」という観点で選んでもらった。表Ⅱ－19は、各理由が選ばれた割合を示したものである。数値の算出の分母となったのは、３年以下が397名（表Ⅱ－18で、434×0.915。以下同じ)、４～10年が381名、10年以上が489名である。

表Ⅱ－19　継続勤務を希望する理由として選ばれた割合（%）

	３年以下	４～10年	10年以上	平均(重みなし)
①給与	28.0	24.7	40.3	31.0
②休暇	41.1	38.3	40.7	40.0
③労働時間	42.6	32.5	35.8	37.0
④仕事の内容	66.5	64.6	68.3	66.5
⑤雇用形態	32.0	29.9	36.8	32.9
⑥職場の人間関係	57.2	55.1	56.6	56.3
⑦福利厚生	33.0	29.9	35.8	32.9
⑧職場の将来性	28.7	23.6	28.4	26.9
⑨通勤の便利さ	57.7	52.0	52.6	54.1
⑩研修の充実	24.7	24.4	24.7	24.6
⑪保育の理念・方針	41.3	36.5	42.7	40.2
⑫人材育成の雰囲気	33.5	23.6	26.4	27.8

先ず平均値を見てみよう。最も値が高かったのは④仕事の内容であり、次いで⑥職場の人間関係、⑨通勤の便利さと続いていた。これら３つは50％を超えており、過半数の保育者がこれらに満足だから、今後も勤務を続けたいと考えていた。

次に経験年数による違いを調べたところ、①給与、③労働時間、⑫人材育成の雰囲気でその差が顕著であった。①給与に関しては、10年以上が多く４～10年が少なかった。③労働時間については、３年以下が多く４～10年が少なかった。⑫人材育成の雰囲気でも３年以下が多く４～10年が少なかった。

最後に「いいえ」を選んだ者について、その理由を分析した。「いいえ」の理由は、「不満だから」という観点で選んでもらった。表Ⅱ－20は、各理由が選ばれた割合を示したものである。数値の算出の分母となったのは、３年以下が37名（表Ⅱ－18で、434×0.085。以下同じ）、４～10年が61名、10年以上が42名であった。

表Ⅱ－20　継続勤務を希望しない理由として選ばれた割合（％）

	３年以下	４～10年	10年以上	平均（重みなし）
①給与	54.1	59.0	35.7	49.6
②休暇	37.8	41.0	42.9	40.6
③労働時間	35.1	44.3	40.5	40.0
④仕事の内容	45.9	39.3	54.8	46.7
⑤雇用形態	18.9	29.5	16.7	21.7
⑥職場の人間関係	45.9	41.0	33.3	40.1
⑦福利厚生	2.7	9.8	9.5	7.4
⑧職場の将来性	29.7	36.1	35.7	33.8
⑨通勤の便利さ	16.2	9.8	7.1	11.1
⑩研修の充実	8.1	3.3	7.1	6.2
⑪保育の理念・方針	13.5	4.9	9.5	9.3
⑫人材育成の雰囲気	35.1	42.6	35.7	37.8

先ず平均値を見てみよう。最も値が高かったのは①給与であり、半数近い者がこれを選んだ。数値が40％を超えた理由は、④仕事の内容、②休暇、⑥職場の人間関係、③労働時間であった。

次に経験年数による違いを調べたところ、①給与でのみ、10年以上で少ない傾向が見られた。

Ⅲ．追加的分析

以下に述べることは、「D．研究委員の考察　小野田研究委員による考察」と「E．総合的考察」をまとめるにあたり、追加的に分析を行ったものである。

1．「持ち帰り」仕事

表Ⅱ－８で示したように、いわゆる「持ち帰り」をしたという回答は、３年以下で48.7％、４～10年で49.5％、10年以上では56.1％であった。これらの割合の実人数は、同じ順に220名、234名、311名であった。これらの回答者について、仕事の内容とその所要時間を調べた。

まず仕事の内容と所要時間のいずれかが書かれていない回答票を調べた。その結果、３年以下では46票、４～10年では54票、10年以上では75票でいずれかが書かれておらず、これらは分析から除くことにした。記述内容を見ると、３年以下で１票は「職場の人間関係、ピアノがうまく弾けない、子どもをうまくまとめられない」と、仕事ではなく、悩みの内容が書かれており、時間も２時間30分と30分の２つの値が書かれているだけで、分析が困難であった。また10年以上で１票は、「その他の内容にかけた時間」として７時間30分を計上しており、分析が困難であった。そこでこれらの票も分析から除くことにした。分析に用いた票数は、３年以下が173票、４～10年が180票、10年以上が235票であった。

次に、書かれていた仕事の内容を分析・分類した。その結果、主な内容は、以下の５つに分けることができた。

ａ．保育の計画や準備に関する内容（以下、計画準備）

例）指導計画、指導案、週案、教材作成、保育の準備、ピアノ、体操、制作、壁面

ｂ．保育の振り返りに関する内容（以下、振り返り）

例）保育記録、保育日誌、児童票、保育のまとめ、個別記録、経過記録　など

ｃ．事務的な仕事

例）事務、書類、会議資料、クラスだより、実習生の記録、報告書、台帳、議事録

ｄ．行事に関する内容

例）運動会、遠足、行事、避難訓練、お誕生会、展示会、祖父母競技

ｅ．その他

例）会議、買い物、借り物、保護者対応、掃除、整理、鍵開け、見回り、縫い物

そこでこれら５つの内容について、平均値、最小値、最大値を算出することにした。なお、その際、例えば、「日案、日誌」として１時間30分を計上している票など、複数の内容を１つの時間に含めて記入されていた場合については、時間を均等に割り振ることとした。すなわち先の例では、「日案」を「計画準備」、「日誌」を「振り返り」として分け、それぞれを45分ず

つ行ったと見なした。

表Ⅲ－１は５つの分類された仕事の内容を計上した者の割合を示したものである。全体としてみると、計画準備が40％以上で最も多く、振り返りと事務、行事の３つは、25～30％でほぼ同程度、その他が５％以下で少ないことがわかる。

次に経験年数による違いを見たところ、計画準備では３年以下で計上した者の割合が高かった。事務では計上した者の割合は、３年以下で少なく、10年以上で多かった。

表Ⅲ－１　「持ち帰り」として各仕事の内容を計上した者の割合（％）

	計画準備	振り返り	事務	行事	その他
３年以下（N=173）	47.4	26.6	23.7	24.9	2.9
４～10年（N=180）	42.8	27.8	25.6	30.0	1.7
10年以上（N=235）	41.3	26.0	37.0	26.8	4.7

表Ⅲ－２は、各持ち帰り仕事に費やした時間の平均値を示したものである。全体としてみると、その他では30分弱と短時間であるが、他の仕事は１時間強と、比較的長くなっている。経験年数による違いを見たところ、振り返りでは４～10年がやや短時間であること、行事では４～10年がやや長時間であることがうかがえる。

表Ⅲ－２　持ち帰り仕事に費やした時間の平均（分）

	計画準備	振り返り	事務	行事	その他
３年以下	65.0	61.7	64.9	65.8	27.0
４～10年	64.1	43.8	65.6	79.3	26.7
10年以上	58.9	56.8	66.3	63.9	25.9

表Ⅲ－３は、各持ち帰り仕事に費やした時間の最小値と最大値を示したものである。４～10年では行事に関する持ち帰り仕事が８時間という者もいた。

表Ⅲ－３　持ち帰り仕事に費やした時間の最小値と最大値（分）

	計画準備		振り返り		事務		行事		その他	
	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値	最大値
３年以下	10	300	10	240	5	180	5	150	5	80
４～10年	10	300	10	180	1	300	15	480	5	60
10年以上	10	240	10	240	15	240	10	180	10	60

2．業務に携わった時間の分析

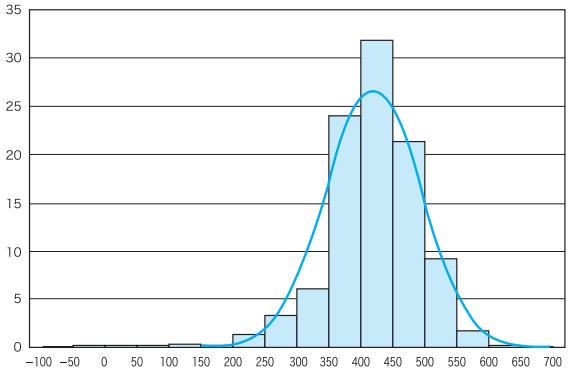
表Ⅱ－７－１には経験年数別に見た業務に携わった時間の平均値、表Ⅱ－７－２にはその最小値と最大値を示した。ここで平均値と最小値及び最大値の関係を見ると、分布の偏りがあることが示唆された。例えば、保育記録を作成するのにかけた時間の平均値は、おおむね20～25分であったが、最小値はいずれの経験年数でも０分、最大値は２時間15分（４～10年）から３時間50分（10年以上）とかなり大きな値であった。このような分布の偏りは、勤務実態を考える上で、誤った推測を導く可能性がある。そこで、表Ⅱ－７－１に示された業務について、ヒストグラムを描いてみた。

図Ⅲ－１は保育の時間、図Ⅲ－２は保育記録を作成するのにかけた時間、図Ⅲ－３は保育教材を作成するのにかけた時間、図Ⅲ－４は事務的な仕事にかけた時間、図Ⅲ－５は保育所内の掃除や整理にかけた時間、図Ⅲ－６は会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間、図Ⅲ－７は休憩時間、図Ⅲ－８はその他の内容にかけた時間のヒストグラムを示したものである。いずれも縦軸は相対度数（％）、横軸は時間（分）である。なお横軸で数値がマイナスになっているところがあるが、これは「０」分の分布である。例えば、記録の時間では、―20～０の間に28％程度の値が示されている。これは０分が28％程度いたことを示している。なお、釣り鐘型のラインは、正規分布を示すものである。

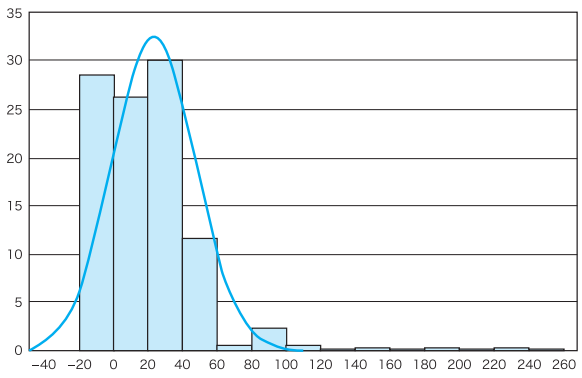
図Ⅲ－１の保育の時間の分布を見てみよう。400分～500分をピークとするほぼ正規分布である。すなわち６時間40分から７時間30の間に、全体の30％以上が入り、平均値である７時間程度と、ほぼ合致する。

次に、図Ⅲ－２の保育記録を作成するのにかけた時間を見てみよう。先の例で述べたように、０分が28％程度、０～20分が26％程度、20～40分が30％程度となっており、平均値が20～25分になっているのも頷ける分布である。ただしここでは分布の形よりも０分の保育士が３割近くいることに注目しておきたい。保育記録を作成する時間がまったくとれていない保育士がこれだけいると言うことである。

図Ⅲ－１　保育の時間の分布

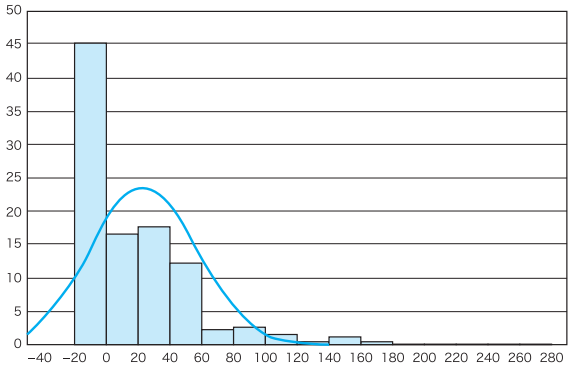


図Ⅲ－２　保育記録を作成するのにかけた時間の分布

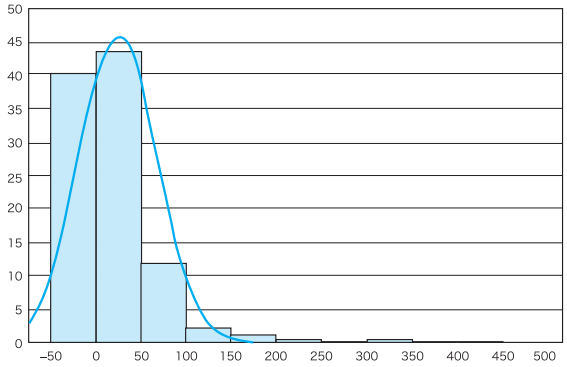


続いて、図Ⅲ－３の保育教材を作成するのにかけた時間の分布を見てみよう。０分が45％で、明らかに左に偏っている。事務的な仕事の時間の分布（図Ⅲ－４）でも、０分は40％とかなり多い。ただしこの図の横軸を見ると50分単位である。これは最大値として７時間の者がいたため、420分の横軸を入れたからである。

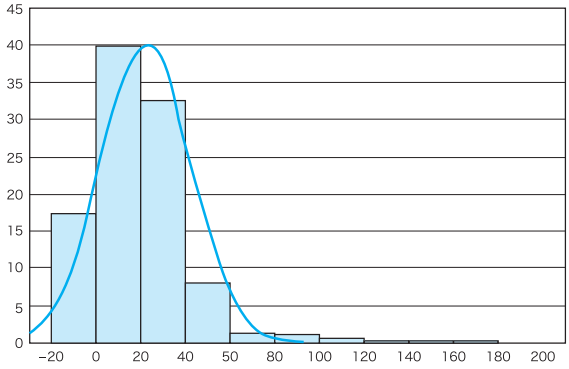
図Ⅲ－３　保育教材を作成するのにかけた時間の分布



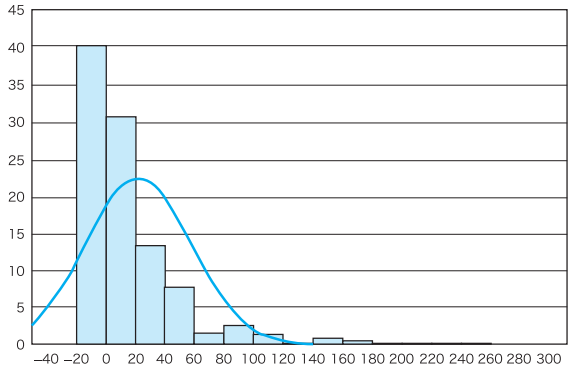
図Ⅲ－４　事務的な仕事の時間の分布



図Ⅲ－５　保育所内の掃除や整理にかけた時間の分布



図Ⅲ－６　会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間の分布



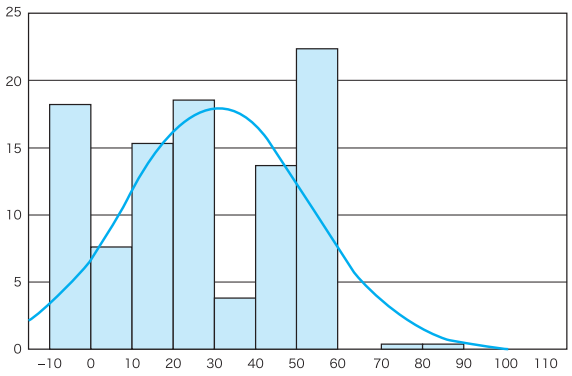
次に保育所内の掃除や整理にかけた時間の分布（図Ⅲ－５）を見ると、正規分布に近かった。会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間の分布では、明らかな左の偏りが見られ、０分が40％

であった。会議や打ち合わせ、報告など保育士同士の連絡や調整はほとんど行われていない、あるいはあまりに短時間で意識されにくいことがうかがえる。情報共有という点では、あまり時間が取れていないと言える。

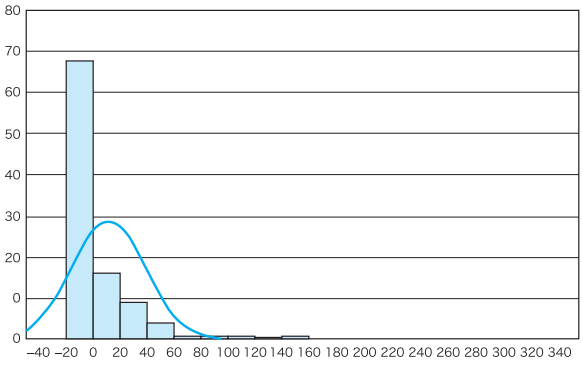
休憩時間（図Ⅲ－７）とその他の内容にかけた時間（図Ⅲ－８）の分布を見ると、休憩時間は、０分の者もいるが、50～60分の者もおり、散らばりが大きいことがうかがえる。

その他の内容は、０分が多かった。

図Ⅲ－７　休憩時間の分布



図Ⅲ－８　その他の内容にかけた時間の分布



D．研究委員の考察

Ⅰ．仲原りつ子研究委員による考察

使命感とワークライフバランス

はじめに

ここ数年、保育現場は常に新しい取り組みに追いまくられてきた感がある。

保育指針の改定にともなうたび重なる学習会、保育課程や個別指導計画の作成、自己評価チェックリスト、第三者評価受審に向けた取り組み、苦情解決、危機管理対策マニュアルの作成等。一年がまたたく間に過ぎていく。以前に比べて事務量が増えた。業務も多岐にわたるようになった。延長保育、障がい児保育、一時保育、休日保育、病後児保育、保護者支援、地域の子育て家庭への支援…。「土曜日が半ドンだったころがなつかしい」「昔はもっとのんびりしていた」「いつまで続けられるかな、最近、肩や腰にガタがきている」…。子どもと接するこの仕事が大好きだから、できるだけ長く続けたい。が、時間的にも体力的にもきついものがある。そんな保育士たちの切実な思いが伝わってくる。

園長会では「年度途中で保育士の補充が必要になったが、ハローワークや新聞の求人欄に広告を出しても、保育士が一人も応募してこない」。集まるたびにそんな嘆きの声がきこえる。養成校では保育士の資格を取得しても、卒業後の半数が他の職種に就くともきいた。時差出勤や長時間労働、責任の重さに見合わない給与等がその理由だという。

今回の調査では、保育士の１日（平日）の出勤から退勤までの平均値と勤務時間、そして業務内容を８項目に分け、それにかけた時間を尋ねた。すべての子どもの最善の利益のために、そして、働きながら子育てをしている保護者を支えるために、保育士がどのように時間をやりくりして縁の下の力持ち的業務をこなしているか、さらに、質の高い保育をめざして、いかに努力しているかを浮かびあがらせることができたら、と思っている。

１．登園（出勤した）時間、降園（退所した）時間、園にいた時間について（表Ⅱ―６）

登園（出勤した）時間は、どの経験年数の保育士も８時14分前後の時間帯で、経験年数による差はほとんどなかった。**降園（退所した）時間**では、経験年数３年以下が17時59分と最も遅く、最も早い４～10年が17時51分と約８分の差があり、顕著な差ではないが、この差が**園にいた時間**の差にもなっている。

ここで特筆すべきは、本来８時15分に出勤した場合、退所時間は17時15分になるはずだが、３年以下で44分、４～10年では37分、10年以上で42分と、どの経験年数でも勤務時間を超過し

ての勤務実態となっていることである。「保育士は勤務時間が長い」ことが数値的にも明確になった。保育所によって行事の回数は違うものの、行事前の週はさらに超過勤務は増えると思われる。今回、この超過勤務した時間に対して、残業手当が支給されているかどうかの調査はしていないが、もしサービス残業で園に残っているのだとしたら、長時間労働の常態化がストレスとなって、保育士職を続けることが困難な状況をつくり出しているとみることができる。

表Ⅱ－６　経験年数別に見た登園時間、降園時間、園にいた時間の平均値（P.31再掲）

	３年以下		４～10年		10年以上	
	時	分	時	分	時	分
（２）登園（出勤した）時間　①	8	15.0	8	14.1	8	13.8
（３）登園（退所した）時間　②	17	59.0	17	51.3	17	56.1
（４）園にいた時間（②－①）	9	44.0	9	37.2	9	42.2

２．業務に携わった時間について（表Ⅱ―７―１）

④保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）は、４～10年が最も長く７時間８分、次に３年以下７時間６分で、10年以上が６時間53分と最も短い。勤務時間のほとんどを直接子どもとかかわる業務にあてているので、保育士にとっては仕事の満足度が高まり、子どもにとっても愛着関係が深まり、情緒が安定すると考える。受け持つクラスの年齢や人数によっては、10年以上の保育士にとっては体力的にきついものがあるかもしれない。

⑤保育記録を作成するのにかけた時間と、**⑥保育教材を作成するのにかけた時間**（指導計画の作成、教材研究を含む）の時間を合計すると、３年以下は53分かけているが、４～10年、10年以上、ともに45分と短くなっている。経験年数が増すにつれて、子どもの発達を適切に把握する力や、季節、行事にあわせて指導計画をたてたり、教材を作成する力がついてきた結果と見ることができる。が、子ども一人ひとりの発達状況や発達過程をふまえ、養護と教育を一体的に行なうためには、この45分～53分という時間はあまりにも短かすぎる。その結果、勤務中に取り組むことができなかった記録や評価、保育教材の作成等を家に持ち帰って仕上げざるをえない状況になり、保育士の精神的、身体的負担感は大きいと考えられる。また、保育所の開設時間が12時間以上と長くなった現状では、１人がずっとクラスの子どもたちにつくわけにはいかない。少なくとも２人～３人の保育士が時差出勤して対応することになる。経験年数も雇用形態も違うこの複数の保育士が連携し、きめ細やかなかかわりをもつためには、⑤と⑥の時間をもっと十分に確保し、保育内容の質の向上をはかる必要がある。

⑦事務的な仕事にかけた時間は、経験年数によって差が出た。３年以下、４～10年は20分程

度だが、10年以上になると33分と多くなっている。事務的な仕事の内容を詳しく知ることはできないが、非正規職員が増えてきている現状で、経験の少ない職員では対応できない事務が10年以上の職員への事務量の増加となっていると考えられる。事務員の配置によって軽減できるものがあれば、その時間を保育に関する業務にあてることができ、保育内容の質の向上につながると考える。

⑧保育所の掃除や整理にかけた時間は、経験年数による差はなく、22分程度であった。

⑨会議、打ち合わせ、報告にかけた時間では差がみられた。３年以下と４～10年は20分程度だが、10年以上は25分となっていて、これは保育記録を作成するのにかけた時間（22分）や保育教材を作成するのにかけた時間（23分）よりも多くとられている。経験10年以上は、保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）が短くなった分、事務的な仕事や会議、打ち合わせ、報告にかけた時間が多くなっていることがわかる。経験年数が増すごとに保育業務以外の業務（職場のリーダー的存在、取りまとめ役としての力量）が求められていると考える。

⑩休憩時間は経験年数による差はなく、いずれも30分前後であった。本来ならば昼食時間も含め１時間あるはずの休憩時間だが、実態としてはその半分の時間しかとれていないことがわかる。保育室とは離れたところに休憩をとる部屋が確保されているか等、質的な点についても気になるところである。休憩時間には食事の時間は含まれていないと思われる。園児と一緒に楽しく食事をとることは、保育の一環（食育）として位置づけられているからだ。そして、保育士にはゆっくり味わっている時間はない。子どもの世話や次の活動の準備で手早くすまさなくてはならない。保育現場ではこれが普通のこととして通っているが、休憩や食事時間については一考を要するところではないだろうか。

⑪その他の内容にかけた時間は、経験年数による差はない。時間も12分前後と短い。業務内容は多種多様だった。保育に入る前の準備、環境整備、日誌、回覧等に目を通す、朝のミーティング、保育士間の連携に必要な担当児の情報交換、共通理解の確認、行事の準備、欠席児童への様子の確認（電話連絡）と園長への報告、室内環境の整備、楽器の練習、道具や遊具の修理、安全マニュアルの検討、保育室の片づけ、電源チェック、戸締り、給食サンプルの片づけ、翌日の保育の準備、読書、駐車場の除草、自己評価チェック、勤務時間に終わらなかった保育記録等々があり、放射能測定という記述には意表をつかれた。昨年３月に東日本を襲った未曾有の地震と津波の時、「決してこの子たちを死なせない」と強い使命感を持ち、子どもたちを守り抜いた保育士たちの活躍が蘇った。保育所が単に「子どもを預かる施設」としての存在ではなく、子どもの命を守り育むために様々な役割と社会的使命をおびていること、そして保育士の仕事がいかに尊く、重要な責務を負っているかをあらためて実感した。

表Ⅱ－７―１　経験年数別に見た業務に携わった時間の平均値（P.31再掲）

	３年以下		４～10年		10年以上	
	時	分	時	分	時	分
④保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）	7	5.8	7	7.5	6	53.4
⑤保育記録を作成するためにかけた時間	0	26.4	0	22.6	0	21.9
⑥保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材研究を含む）	0	26.7	0	22.8	0	23.2
⑦事務的な仕事にかけた時間	0	20.2	0	21.7	0	33.4
⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間	0	22.7	0	22.8	0	23.0
⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間	0	19.9	0	20.1	0	25.0
⑩休憩時間	0	30.8	0	29.9	0	31.1
⑪その他の内容にかけた時間	0	12.7	0	11.9	0	11.1
合計（「園にいた時間」と同じ）	9	45.2	9	39.2	9	42.3

業務にかかわっている時間を視覚的に表すと図１のようになった。これに仕事の持ち帰りの時間（１時間25分）もあわせると合計11時間となり、調査対象には入っていないが、通勤に要する時間も含めると、保育士は１日のほとんどの時間を仕事に費やしていることがわかる。

図１―①　３年以下　（園にいた時間 ９時間45分 ＋ 持ち帰った仕事の時間 １時間29分）　合計　11時間14分

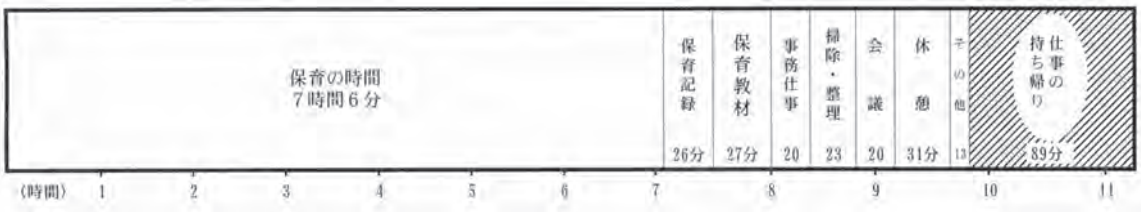


図１―②　４～10年　（園にいた時間 ９時間39分 ＋ 持ち帰った仕事の時間 １時間21分）　合計　11時間00分

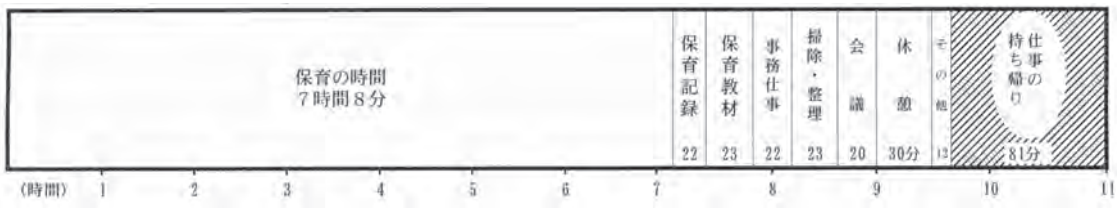
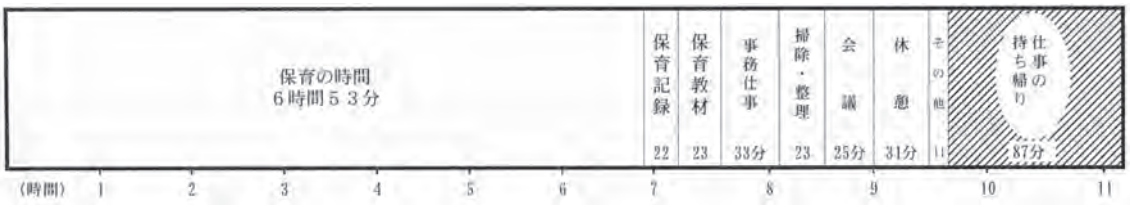


図１―③　10年以上　（園にいた時間 ９時間42分 ＋ 持ち帰った仕事の時間 １時間27分）　合計　11時間09分



まとめ

今回の調査で、過酷であるといわれている保育士の勤務実態がかなり具体的に明らかになった。自由記述からは、保育業務と事務仕事とのかねあいを模索し、疲弊している状況を訴える声が多くきこえた。

以前、救急病院の小児科医が激務のため過労で倒れ辞職したが、後任の小児科医がみつからなくて社会問題になった。その後、産婦人科医、看護師と、次々と医療現場の人材確保の困難さが明るみに出た。福祉の現場でも介護士不足は周知の事実だが、いよいよ次は保育士もそうなるのか、と危機感を覚える。「子どもが好きだから」「保育士になるのは子どものときからの夢だった」「保育士はやりがいのある仕事だと思った」と、希望にみちあふれて保育士をめざす若者たちの夢をつぶしたくないと心から思う。そして、いま現在、増え続ける一方の業務量と社会的責任の重さに押しつぶされそうになりながらも「子どもといると楽しい」「子どもの成長を日々感じることができ嬉しい」「他の仕事ではえられない充実感がある」と深い愛情と福祉の心で、子どもたちの保育に努力を惜しまない現場の保育士たちに、もっとゆったりと子どもとかかわる勤務体制を作ってあげたい。もっと専門性を高めるための時間的余裕を作ってあげたい。そして、もっと楽しく仕事と家庭の両立ができるように処遇を改善してあげたい。そんな思いを強くした。

日本の保育士の優秀さは諸外国と比べても決してひけをとらない。そして、一人あたりの受け持ち人数のなんと多すぎることか。保育士たちが疲れはてて体を壊したり、他の職種に転職することがないように、早急に最低基準を見直し、たとえば３歳児20：１を10：１にする等、保育士１人あたりの受持ち人数を少なくする取り組みをしてもらいたいと切に願う。保育内容の質の向上をめざすなら、まず初めに手がけるのが保育士の処遇の向上をはかることだ。保育士をとりまく職場環境（給与、仕事量、働く時間）の改善がすすめば、やる気のある人材がもっと保育所に集まってくる。結果、保育の質が向上し、未来を担う子どもたちの最善の利益へとつながっていくのである。

Ⅱ．廣田智子研究委員による考察

保育の現場をささえる保育士の努力と未来への渇望

はじめに

保育士とは、子どもの健やかな育成を助ける専門職である。その育成とは「子どもたち一人ひとりの年齢や発達の状況に応じ、遊びや行事活動・生活体験を通じて、子どもたちの心と身体を助ける」という様々な配慮が必要なものであり、ただ子どもを預かり遊んでいれば良い訳ではない。

2001年に保育士が国家資格となり、今まで以上に保護者対応、子育て相談、地域子育て支援等、専門職として求められる事柄が多くなった。社会の期待もますます高まってきている。しかし保育士の職務内容は広く世間に認知されていないのが実状である。

保育士は社会に貢献できる立派な仕事であるが､世間の評価に報われないことに不満を感じ、離職してしまう保育士もいるので深刻な問題となっている。

保育士の勤務実態を調査し、保育士はどのような職務をこなしているのかを知ることによって、世間との認識のズレがなくなり、より保育士の職務を周知・理解してもらえると幸いである。

勤務実態

1　持ち帰り仕事について

本稿では主に「持ち帰り仕事について」の考察を行う。そこでまず、勤務の実態を把握したいと思う。保育士の勤務実態を把握するために挙げた項目は、一日の勤務時間・業務内容・業務時間(勤務時間内訳)である。

表Ⅱ－6　経験年数別に見た登園時間、降園時間、園にいた時間の平均値（P.31再掲）

	3年以下		4～10年		10年以上	
	時	分	時	分	時	分
(2)登園(出勤した)時間　①	8	15.0	8	14.1	8	13.8
(3)降園(退所した)時間　②	17	59.0	17	51.3	17	56.1
(4)園にいた時間（②－①）	9	44.0	9	37.2	9	42.2

表Ⅱ－6では園にいた時間が一日の労働時間になるわけだが、いずれの経験年数も大差なく9時間40分程であった。基本の勤務時間は8時間で1時間の休憩時間を入れて、9時間拘束と

考えるのが妥当と思われる。その結果、単純に計算しても１日平均40分の超過勤務になっている。

表Ⅱ－７－１　経験年数別に見た業務に携わった時間の平均値（P.31再掲）

	３年以下		４～10年		10年以上	
	時	分	時	分	時	分
④保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）	7	5.8	7	7.5	6	53.4
⑤保育記録を作成するためにかけた時間	0	26.4	0	22.6	0	21.9
⑥保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材研究を含む）	0	26.7	0	22.8	0	23.2
⑦事務的な仕事にかけた時間	0	20.2	0	21.7	0	33.4
⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間	0	22.7	0	22.8	0	23.0
⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間	0	19.9	0	20.1	0	25.0
⑩休憩時間	0	30.8	0	29.9	0	31.1
⑪その他の内容にかけた時間	0	12.7	0	11.9	0	11.1
合計（「園にいた時間」と同じ）	9	45.2	9	39.2	9	42.3

次に経験年数別に見た業務に携わった時間を見てみることにする。業務内容は、保育士として必ず行うであろう項目を挙げた（表Ⅱ－７－1）。

④保育の時間がいずれの経験年数でも、平均７時間と勤務時間の大半を占めた。これは保育士として当然の結果であると言えるが、業務は他に７項目ある。この設問は、携わった時間を専任で行ったものとして記入することになっているはずであるので、一日の勤務時間を８時間とし、７時間が④保育となると、残りは１時間である。１時間で７項目こなすというのは、物理的に無理であると考える。

その結果、休憩時間平均30分、超過勤務平均40分となり、さらに補い切れない部分が「持ち帰り仕事」となる。

「持ち帰り仕事」の有無は以下の通りである。

表Ⅱ－８　いわゆる「持ち帰り」の有無（%）（P.33再掲）

	あり	なし	回答人数
３年以下	48.7	51.3	452
４～10年	49.5	50.5	473
10年以上	56.1	43.9	554
平均（重みなし）	51.4	48.6	1479

ほぼ半数が、「持ち帰り仕事」をしている。持ち帰り仕事「あり」の場合、内容と所要時間を記入してもらったが、自由記述だったため、それを以下の５項目に分類した。

１．保育の計画や準備に関する内容（以下、計画準備）
　例）指導計画、指導案、週案、教材作成、保育の準備、ピアノ、体操、制作、壁面
２．保育の振り返りに関する内容（以下、振り返り）
　例）保育記録、保育日誌、児童票、保育のまとめ、個別記録、経過記録　など
３．事務的な仕事
　例）事務、書類、会議資料、クラスだより、実習生の記録、報告書、台帳、議事録
４．行事に関する内容
　例）運動会、遠足、行事、避難訓練、お誕生会、展示会、祖父母競技
５．その他
　例）会議、買い物、借り物、保護者対応、掃除、整理、鍵開け、見回り、縫い物

※P.45再掲

分類された内容例は大まかではあるが、十分に細かく整理されている。これらから、子どもに関わる保育士が行うべき業務の多種多様さが伺える。

表Ⅲ－１　「持ち帰り」として各仕事の内容を計上した者の割合（%）（P.46再掲）

	計画準備	振り返り	事務	行事	その他
３年以下（N=173）	47.4	26.6	23.7	24.9	2.9
４～10年（N=180）	42.8	27.8	25.6	30.0	1.7
10年以上（N=235）	41.3	26.0	37.0	26.8	4.7

「持ち帰り仕事」として最も多く行われているのは、経験年数に関係なく、計画準備であった（表Ⅲ－１）。

計画準備は、日常の保育に欠かすことのできない、後回しにできないものが多い。したがって、持ち帰ってでも終わらせておかなければならない仕事ととらえることができる。

10年以上の事務仕事の割合が他の２つに比べて多いが、これは経験年数に応じた責任ある仕事を任されているためととらえることができる。

行事にかける時間が思ったより少なかったように思うが、これは調査の時期も関係しているのだろうと推測する。他に考えられる理由としては、民営の保育園は行事が多いが、公営の保育所は行事が少ない等の関連もあるのではないだろうか。

表Ⅲ－２　持ち帰り仕事に費やした時間の平均（分）（P.46再掲）

	計画準備	振り返り	事務	行事	その他
３年以下	65.0	61.7	64.9	65.8	27.0
４～10年	64.1	43.8	65.6	79.3	26.7
10年以上	58.9	56.8	66.3	63.9	25.9

持ち帰り仕事に費やした、５項目の時間について見てみる（表Ⅲ－２）。「その他」と４～10年の「振り返り」以外は、だいたい１時間程度であり、内容ひとつずつにかけた時間は長めである。その日にやっておかなければならない仕事を家に持ち帰って終了させるか、ある程度目処をつけたところまでを行っているためだろう。

表Ⅱ－９　「持ち帰り」仕事の平均時間（P.34再掲）

	時間	分	回答人数
３年以下	1	29.0	191
４～10年	1	21.4	208
10年以上	1	26.5	274
平均（重みなし）	1	25.6	673

経験年数別に見た持ち帰り仕事の平均時間（表Ⅱ－９）は、経験年数に関係なく約１時間25分であった。保育園での平均９時間40分勤務と合わせると、半数は約11時間もの業務をこなしていることになる。保育士の業務の多忙さが伺える。

２　有給休暇について

表Ⅱ－10　有給休暇の取得日数、使用日数、使用率の平均（P.34再掲）

	年次有給休暇の取得日数	使用日数	使用率
３年以下	14.2	5.2	46.5
４～10年	26.8	7.9	36.0
10年以上	33.8	8.4	28.7
平均（重みなし）	26.2	7.3	35.7

有給休暇の取得日数、使用日数、使用率の平均を見てみる（表Ⅱ－10）。思った以上に有休の使用率が低い結果であった。保育士の頭数は、国が定める最低基準であるところがほとんど

ではないだろうか。休みが入ることで、保育の手が減ることになる。しかしこれでは保育の質の低下につながるため、状況が許さないと考えられる。

おわりに

保育所・保育園が抱えている問題は様々あるが、保育士の求人問題はもっとも切実なもののひとつだろう。

なぜ求人が集まらないのか。処遇等思い当たる節はあるが、それ以前に…保育士という仕事が、そんなに魅力がないということなのだろうか？様々なことが頭の中を駆け巡る。

保育業務を思い出してみると、保育士は子どもたちと接していることが一番多い。乳児は当然のこと、年齢が低い子どもたちは、片時も目が離せずほぼつきっきり状態だ。だからといって他に何もしなくて良いというわけではない。例えば、子どもたちが毎日心身ともに健やかに成長するために、指導案を作成する、成長記録をつける、保護者との信頼関係を構築する、楽しい遊びを考える、行事の準備をする、保育室を整える等々、雑用と呼ばれるものでも子どもたちのため行っている。それら全ては「保育」へと繋がっている。

これらの業務は、保育に支障をきたさないように行っていかなければならないものである。矛盾もあるが、そういう理由で保育以外のほとんどのことを勤務外で行うしかないのである。

調査の自由記述には「持ち帰り仕事」に対しての事が多く記載されていた。保育士という仕事は本当に忙しく大変である中で、懸命に保育士たちが子どもたちのために保育の質を高め、社会の期待に応えようと努力している姿勢を強く感じることが出来た。「保育士」はやはりやりがいと魅力のある仕事なのだと再認識するとともに、今回の調査結果から、保育士の実態・職務内容が社会に広く認知され、正当に評価されるべきだという思いが強まった。広く社会に認知され、正当に評価されれば、様々な人材に門戸を開くことが出来るだろう。

未来を担う子どもたちに良質な保育を提供するためには、保育士の社会的地位の向上と処遇の改善がされなければならないと考える。もちろん私たち保育士も自己研鑽し、努力を続けていくことが必要だが、正当に評価されることにより、さらにより良い保育が行われていくものと確信している。

Ⅲ．若山望研究委員による考察

“常に子どもの側に立って最善の利益を守ること”

はじめに

“保育士の専門性とは？”と考えると、とても幅が広く、また保育士個人の保育に対する取り組み方や、社会状況による各保育所のサービスの取り入れ方により、かなりの違った価値観があるのではないかと思う。

今回は、保育所保育指針に沿い、保育士に課せられた最低限の専門性について12の業務を挙げ、５段階の評定により各保育士の意識を調査した（資料Ａ）。ここではその結果を考察する。

（資料Ａ）Ⅲ　保育士の専門性について

９．以下の保育士の業務について、どの程度実施できていると思いますか？該当するものに○をしてください。

	できている	ほぼできている	あまりできていない	できていない	担当していない
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	1	2	3	4	5
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	1	2	3	4	5
③子どもの一人ひとりの発達の把握	1	2	3	4	5
④保育室の整理整頓	1	2	3	4	5
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	1	2	3	4	5
⑥保育教材の整備	1	2	3	4	5
⑦家庭との連携	1	2	3	4	5
⑧他の保育士との連携	1	2	3	4	5
⑨園長など上司への適切な報告や相談	1	2	3	4	5
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	1	2	3	4	5
⑪他の専門機関との連携	1	2	3	4	5
⑫地域の子育て家庭への支援	1	2	3	4	5

※調査票より抜粋

①から⑫までの項目は、保育所保育指針に沿い、保育士に課せられた最低限の専門性として考えられる業務である。①と②は、保育士一人ひとりが各保育所の保育方針の基、目の前にいる子どもたちの発育状況に応じ、季節などの周囲の環境なども踏まえ、発達に即した指導計画をたてることを意味している。③は子ども一人ひとりの発達を把握する上での専門知識、④と⑤と⑥は、保育所は人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、環境を計画的に構成し、工夫し保育することや、子どもの命を預かるという重い使命を担っているので、安全面・衛生面などの環境の整備をすることを意味している。

⑦から⑪の項目は、子どもたちを心豊かに健やかな成長発達を促していくためには必要不可欠な項目である。⑫は、保育士の専門性をのばし、さらに子育て支援の技能を活かすことが社会から求められている責務である。

①～⑫のいずれにも共通していることは、“人との関わり”ということである。自己中心的な現代の社会の中で 、“子どもたちの最善の利益を守る”という保育士本来の責務を果たそうとするには、大変苦慮の多い内容であることが自由記述（P.130）などから読み取れた。

業務の担当について

「担当していない」が選ばれた割合について（表Ⅱ－11）

表Ⅱ－11を見てみると、全体的に「⑫地域の子育て家庭への支援」と「⑪他の専門機関との連携」が、他の業務に比べて担当していない保育士が多かった。この項目は保育所保育指針の改定後で取り入れられた業務であることから、まだ保育所自体が取り入れていないことがうかがえる。また、たとえ保育所が取り入れたとしても、クラス担任をしている保育士が行うのではなく、園長や主任が担当していることが多いことが推測される。

経験年数による違いでは、⑪⑫の他に、「①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案」と「②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案」を担当していない者の割合が３年以下で多く、10年以上で少なかった。保育課程や年間計画・月案・実践計画などは、日々の保育のねらいや内容の大本になるものであるために、経験を重ねるにつれ求められてくる業務なのであろう。したがって、経験の少ない保育士の担当する割合が少ないのであろう。「⑤季節に合わせた保育室などの環境整備」と「④保育室の整理整頓」は３年以下が担当している割合が多く、経験を重ねるにつれて少なくなっている。日々の生活の場である保育室の管理（転倒防止などの安全・清掃・装飾・室内温度湿度の調整や換気・空気殺菌など）は、経験年数の少ない保育士でもできるし、行いながら気付いて学んでいくことなのであろう。経験の少ない保育士に任せ切るのではなく、経験の多い保育士も一緒に行いながら、保育士としての気付きを育てていけるような取り組みであることを願いたい。

最後に担当していない者が「0.0」という割合に注目してみたい。0.0だったのは、３年以下で「④保育室の整理整頓」「⑧他の保育士との連携」、４～10年で「③子どもの一人ひとりの発達の把握」「⑦家庭との連携」「⑧他の保育士との連携」、10年以上では「⑧他の保育士との連携」と「⑨園長など上司への適切な報告や相談」であった。これらは、保育現場での業務実態を非常によく表している。経験年数が少ない保育士は清掃などの日々の業務が多く、４～10年という経験年数は、現場の中での保育実践で一番中心的な存在になり、10年以上になると園長などの管理職との信頼関係の構築や保育現場との調整という役割が必然的に業務に加わるということである。また、各経験年数により専門性が推移していく過程がよく表れているともいえる。「⑧

他の保育士との連携」は経験年数に関係なく保育現場では必要不可欠であり、チームワークが求められるので、どの経験年数においても連携が行われなければならない。

表Ⅱ－11 「担当していない」が選ばれた割合（%）（P.35再掲）

業務	3年以下	4～10年	10年以上
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	7.6	4.1	3.3
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	7.3	3.5	3.3
③子どもの一人ひとりの発達の把握	0.7	0.0	0.5
④保育室の整理整頓	0.0	0.4	0.9
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	0.4	0.6	1.7
⑥保育教材の準備	1.3	1.2	1.9
⑦家庭との連携	0.6	0.0	0.7
⑧他の保育士との連携	0.0	0.0	0.0
⑨園長など上司への適切な報告や相談	0.4	0.4	0.0
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	11.1	9.3	6.9
⑪他の専門機関との連携	31.5	28.2	20.6
⑫地域の子育て家庭への支援	36.3	33.9	25.4

業務実態の程度

業務の実施の程度の平均値について（表Ⅱ－12）

表Ⅱ－12を見てみると、「⑨園長など上司への適切な報告や相談」「⑧他の保育士との連携」「③子ども一人ひとりの発達の把握」がいずれも平均値が低く、業務の実施が「できている」と認識している保育士が多いことがわかる（表Ⅱ－12では値が小さいほど「できている」に近いことを意味する）。この結果は、保育現場において最低限重要な業務項目であるために、大変嬉しく感じた。一方では「⑫地域の子育て家庭への支援」「⑪他の専門機関との連携」の平均値が高く、業務の実施が「できていない」と認識する保育士が多いことがわかった。これらは先に述べた『業務を「担当していない」』の数値が高かったことと関連があるのではないだろうか。それとも、まだその必要性についての認知度が低いことや始めたばかりで試行錯誤している状況にあり、各保育士が「できている」という認識を持つまでには達していなかったのであろうか。したいことが思うように出来ず、どのように取り組んだらよいのか分からないでいるとも考えられる。

表Ⅱ－12　実施の程度の平均値（P.36再掲）

業務	３年以下	４～10年	10年以上	平均
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	2.2	2.0	1.9	2.0
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	2.0	1.8	1.8	1.9
③子どもの一人ひとりの発達の把握	2.0	1.8	1.8	1.8
④保育室の整理整頓	2.1	2.1	2.1	2.1
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	2.0	2.1	2.0	2.0
⑥保育教材の準備	2.1	2.0	2.0	2.0
⑦家庭との連携	2.0	1.8	1.8	1.9
⑧他の保育士との連携	1.8	1.7	1.8	1.8
⑨園長など上司への適切な報告や相談	1.9	1.8	1.7	1.8
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	2.1	2.0	2.1	2.1
⑪他の専門機関との連携	2.7	2.5	2.5	2.6
⑫地域の子育て家庭への支援	2.7	2.6	2.5	2.6

経験年数による違いでは、「④保育室の整理整頓」「⑤季節に合わせた保育室などの環境整備」「⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携」の３つ以外の全ての項目で、３年以下の数値が他の経験年数より高い。業務の実施が「できている」という認識が、他よりも低いことが分かる。経験年数の低さから自信が持てないために、「できている」という認識を持つことができないのであろう。次の表Ⅱ－13により、これらの内容をさらに詳しく項目ごとに見てみよう。

専門性に関して各段階が選択された割合（表Ⅱ－13）

①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案

「できている」と「ほぼできている」を合わせると、４～10年では83.33％、10年以上では87.05％に対して、３年以下では68.7％と低かった。また、３年以下の「できていない」と「あまりできていない」を合わせると23.69%であった。他の経験年数よりも低い。これは、経験の未熟さから、保育所の保育方針に対する理解度や理解に対する自覚の認識不足があるためであろう。経験が上がるにつれてその認識が高まることが数値に表れている。

②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案

「できている」と「ほぼできている」を合わせると、４～10年、10年以上がともに９割を超えている。３年以下では78.4％と８割近くであった。自己評価が高いことがわかる。そしてこの項目では、「できていない」と答える者が誰もいないところにも注目したい。このことを経験年数順に追って見ると、経験を重ねるにつれ保育に対する自信が出ていることがわかる。しかし先に述べたように、この「できていない」が経験年数を問わずに「0.00％」という数値は、経験を問わずに、子どもの姿や季節に合わせしっかりと計画を立てているという自覚を持っているということでもある。とても誇り高いことであり嬉しく思う。

③子ども一人ひとりの発達の把握

「できている」と「ほぼできている」の合わせた割合がさらに高かった。４～10年、10年以上がともに95％を超えている。そして３年以下でも83.87％という高い割合になっている。②と同様にこの項目でも「できていない」と答える者が誰もいなかった。また、経験年数を重ねることにより自信へとつながり、自己評価も高くなっていることがわかる。しかし、この「できていない」が経験年数を問わずに0.00％という数値、また３年以下の「できている」と「ほぼできている」を合わせた数値が他の項目より一番高かったのは、保育士の専門性の中で最も身近に自己評価につながりやすく、仕事のやりがいに繋がっているのだろう。日々の子どもたちの成長を肌で感じられ、その成長から専門性を学び高められていくことが、実感として自己に返ってくるのであろう。

⑥保育教材の準備

３年以下の「できている」の自己評価が低くなっている。この要因としては､経験の未熟さ、引き出しの狭さや応用の足りなさ、周囲の先輩保育士との比較意識等が入ってしまうことがあるのではないだろうか。しかし、全体的に見れば必ずしも割合が低いわけではなく、一生懸命に取り組んでいることはわかる。

⑦家庭との連携

②③と同様に、「できている」と「ほぼできている」を合わせた割合が高かった。４～10年で94.88%、10年以上で94.85％、３年以下で83.76％であった。この結果から、保育の業務そのものが家庭との連携が不可欠であることや、保育現場において直に必要な専門性であることがわかる。そして、比較的自己評価につながりやすいことを示している。この項目で注目したいのは､10年以上になると「できていない」が0.00％ではないところである。この理由としては、連携の難しさから自己評価が低くなってしまうことが考えられる。

⑧他の保育士との連携

３年以下の「あまりできていない」の割合が高く、自由記述の内容などを考慮すると、まだあまり自己発揮しきれず、うまく連携できていないと感じているのであろう。

⑨園長など上司への適切な報告や相談

やはり３年以下の「あまりできていない」の割合が高かった。これもやはり自己発揮できていないことや、項目の「適切な報告や相談」という言葉につられ、自己評価が下がった可能性があると思われる。

⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携

４～10年と10年以上が「できている」と「ほぼできている」の合わせた割合が高かった。これは日頃の保育の中で、食育や保健衛生に関して中堅保育士が担うことが多いことがうかがえる。保育経験を重ねることによる専門性というよりは、経験年数における保育現場での必要性

からくる業務内容なのだろうと考えられる。

⑪他の専門機関との連携と⑫地域の子育て家庭への支援

他の項目に比べて、この２つの項目は極端に「できている」の割合が低い。「できている」と「ほぼできている」と合わせても、一番高い割合だったのは「⑪他の専門機関との連携」10年以上の38.15％であった。これからはこれらの専門性の課題が問われるだろう。

その他、**④保育室の整理整頓**と**⑤季節に合わせた保育室などの環境整備**は、３年以下が「できている」「ほぼできている」の合わせた割合が高く、日常の業務が経験の少ない保育士に課せられていることが推測される。

表Ⅱ－13　専門性に関して各段階が選択された割合（％）（P.38再掲）

		できている	ほぼできている	あまりできていない	できていない	担当していない
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	３年以下	8.70％	60.00％	23.26％	0.43％	7.61％
	４～10年	13.17％	70.16％	12.55％	0.00％	4.12％
	10年以上	19.00％	68.05％	9.67％	0.00％	3.28％
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	３年以下	17.49％	60.91％	14.25％	0.00％	7.34％
	４～10年	20.45％	70.76％	5.32％	0.00％	3.48％
	10年以上	22.85％	68.90％	4.98％	0.00％	3.26％
③子どもの一人ひとりの発達の把握	３年以下	15.90％	67.97％	15.47％	0.00％	0.65％
	４～10年	25.00％	70.90％	4.10％	0.00％	0.00％
	10年以上	26.98％	68.04％	4.47％	0.00％	0.52％
④保育室の整理整頓	３年以下	18.36％	56.59％	24.19％	0.86％	0.00％
	４～10年	13.76％	59.34％	26.28％	0.21％	0.41％
	10年以上	16.75％	60.51％	21.54％	0.34％	0.85％
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	３年以下	22.17％	55.00％	21.30％	1.09％	0.43％
	４～10年	20.49％	53.48％	24.59％	0.82％	0.61％
	10年以上	19.59％	58.59％	19.24％	0.86％	1.72％
⑥保育教材の準備	３年以下	14.32％	58.35％	25.60％	0.43％	1.30％
	４～10年	16.46％	64.81％	17.28％	0.21％	1.23％
	10年以上	18.02％	64.99％	14.90％	0.17％	1.91％
⑦家庭との連携	３年以下	16.23％	67.53％	15.58％	0.00％	0.65％
	４～10年	21.93％	72.95％	5.12％	0.00％	0.00％
	10年以上	22.81％	72.04％	4.29％	0.17％	0.69％
⑧他の保育士との連携	３年以下	28.63％	58.79％	11.71％	0.87％	0.00％
	４～10年	32.72％	61.35％	5.73％	0.20％	0.00％
	10年以上	30.14％	61.64％	7.36％	0.86％	0.00％
⑨園長など上司への適切な報告や相談	３年以下	26.19％	59.52％	13.64％	0.22％	0.43％
	４～10年	31.08％	61.76％	6.34％	0.41％	0.41％
	10年以上	34.93％	57.88％	6.85％	0.34％	0.00％
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	３年以下	19.96％	41.21％	23.86％	3.90％	11.06％
	４～10年	21.19％	49.79％	16.87％	2.88％	9.26％
	10年以上	19.79％	51.22％	18.58％	3.47％	6.94％
⑪他の専門機関との連携	３年以下	4.60％	22.32％	31.51％	10.07％	31.51％
	４～10年	4.41％	29.83％	33.82％	3.78％	28.15％
	10年以上	6.27％	31.88％	37.63％	3.66％	20.56％
⑫地域の子育て家庭への支援	３年以下	3.74％	19.56％	31.87％	8.57％	36.26％
	４～10年	3.74％	22.45％	33.47％	6.44％	33.89％
	10年以上	6.06％	28.89％	33.74％	5.88％	25.43％

おわりに

本稿「はじめに」で述べた通り、この調査における「保育士の専門性」とは、保育士に課せられた業務において最低限必要な項目を挙げたものである。分析結果から、日々の保育の中で、子ども達の事を考え、安全に且つ一人ひとりの発達を促し確認していくという業務に関しての自己評価が高く、力が発揮されていることがわかった。保育士は“子ども達の為に一生懸命尽くしている”といえる。とても誇りに思えることである。しかし一方では、「⑪他の専門機関との連携」「⑫地域の子育て家庭への支援」の自己評価の低さや、業務として担当をしていない者が多いということに対しては、かなり深刻に受け止める必要があるだろう。今後の課題であるといえる。

社会と国が求める保育士の専門性とは、この最低限のレベルではなく、子どもたちを安全に生活支援するための医学的な知識（身体面・精神面）や人間性を問うソーシャルワーカー的な素質など、より質の高い専門性である。全国にいる保育士の中には、この専門性を発揮している者も多くいるだろうと思う。例えば、様々な子育て家庭における問題に誠心誠意に向かい合って心を寄せ、時に苦慮することがあってもあきらめずに時間を費やし、安定していく家庭の様相に逆に励まされ、さらに一層努力し続けている保育士である。

子どもたちを取りまく社会状況は、現在とても複雑である。児童虐待や育児困難家庭・精神疾患を患う保護者の増加、それに伴う愛着形成不全の子どもたちや発達障害が疑われてしまう子どもたちの増加など、現場の保育士達の直面している現実はかなり複雑で対応が難しくなってきている。医師や保健師、地域の子ども家庭センターや児童相談所、子どもたちが就学する地域の小学校・教育委員会など、他機関との連携が今や必要不可欠である。

一人ひとりの保育士が自己評価を高め、目の前の保育を通して自信を積み重ねてほしいと思っている。また、子どもたちのみならず、保護者や地域の子育て家庭、他機関との連携にもその力を発揮して欲しいと思う。

育児困難家庭の地域カンファレンスに参加していると、親子にとって保育園が大変重要な役割を果たしていることがよく分かる。例えば、この地域カンファレンスでは各機関が専門的な立場から、親子への対応と役割を分担していくことになるが、保育園が一番身近な存在として親子に関わり、保育士の温かな人間性により親子の心に安定を与えていくことをとてもよく感じる。保育士たちの心豊かな人間としての成長が、多くの子どもたちやその家族たち、さらに地域の親子の心の支えとなり、一層社会に重要な役割を果たす存在になっていくことを願いた

い。また、保育士たちの日々の努力が社会に浸透し、心温かい人間性溢れる社会の実現に貢献できることを願いたい。

どのような社会状況においても、保育士たちが子どもの側に立って最善の利益を守っていくこと、それが一番の専門性であり、責務であると思う。

Ⅳ. 豊永せつ子研究委員による考察

保育士の醍醐味と誇り

はじめに

「保育士」の仕事には、高い専門性が求められる。その「保育士」になろうと志した動機はさまざまであろう。例えば、「子どもが好き」「出逢った保育士にあこがれを持った」という理由の他に、自分が親から受けた暴力、体罰、育児放棄という辛い体験から、子どもを守りたいという気持ちが芽ばえ、保育士を選んだ人もいるであろう。このようにさまざまな動機があったとしても、保育士とは「心」をなりわいにする職業であることは言うまでもないだろう。

保育士は子どもの命を守り育てる気高い仕事であるが、就労形態も不規則で過酷な割りには、社会的地位も低く、労働時間と報酬が相応しないという現実がある。しかし今回、満足度・意識の調査にあたって設定した項目「勤務体制」「仕事の内容」「報酬」「人間関係」（資料A）では、「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせると、70%～90%と高い割合であった。

世界経済の低迷や日本の不況からくる失業者の増加、また東日本大震災で多くの命を失った悲しみと衝撃の中にあっても、保育の仕事に就いているという誇りを見失わず、日々保育の専門性を高め合い、子どもの成長を直接見、共に喜びをわかち合い、仲間と支え合っているということに感謝しなければならない。また、子どもとの関わりの中で培われる保護者との信頼関係づくりは、保育士にとっては醍醐味といえるが、最近では、親の価値観の変化、育児機能の低下などからくるトラブルが年々増加し、保育士の精神的苦痛が大きくなっているということを、自由記述（P.130）から是非読み取ってほしい。

（資料A）Ⅳ　満足度・意識について

10. 以下の項目について、どの程度あなたは満足していますか。該当するものに○をしてください。

	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない
①現在の勤務体制	1	2	3	4
②現在の仕事内容	1	2	3	4
③現在の仕事に対する報酬（給与）	1	2	3	4
④保護者との人間関係	1	2	3	4
⑤同僚との人間関係	1	2	3	4
⑥上司との人間関係	1	2	3	4
⑦保育士としての自分の成長	1	2	3	4
⑧自分がかかわった子どもに対する保育	1	2	3	4

※調査票より抜粋

満足度、意識について

満足度の評定値の平均（表Ⅱ－14）

資料Aに示した８つの項目を設定し、保育士の満足度、意識について調査をした。その結果は表Ⅱ－14である。この表では、値が小さいほど「満足している」に近いことになる。

●経験年数３年以下の保育士について

経験年数３年以下（以下、３年以下）の保育士の①～⑥の項目が、経験年数４～10年未満（以下、４～10年）・経験年数10年以上（以下、10年以上）に比べ満足度が高かった。おそらく最初に出合った職場での仕事内容から、保育士としての仕事に不平、不満を感じるのではなく、どちらかといえば保育士としての未熟さを感じてのことだろう。したがって保育士としての未熟さから、⑧自分にかかわった子どもに対する保育の満足度が４～10年と10年以上と比べると低いのだろう。④保護者との人間関係は、平均値の1.9であった。まあまあ満足しているのであろう。⑤同僚との人間関係や⑥上司との人間関係は良好のようだ。３年以下の保育士は新人とあって可愛がられ、保育士自身がそれに対して満足しているのだろう。また、生活の自立へ向けて第一歩を踏み出したばかりであるので、報酬に対してはまだ満足度が高いと思われる。

●経験年数４～10年の保育士について

４～10年の保育士は、園の中核をなし、リーダー的存在にある。また、若い世代の保育士の手本とならなければならず、先輩保育士として受ける期待も大きくなり、その間にこれでいいのかと自分への厳しさを持つ。仕事に対する責任も重くなるので、それに見合う報酬となるとあまり満足しているとはいえないようだ。さらに、年齢的にも女性は結婚適齢期を迎えたりする時期にもある。子育てと就労の両立を支援したりする仕事に就きながらも、実は自分自身がサポートされたい側でもある。それに精神的負担も加わることによって、報酬への満足度は不満に変わるのかもしれない。

●経験年数10年以上の保育士について

10年以上の保育士は、主任保育士やクラスのリーダー的存在である。今まで直接子どもに関わりをもっていた保育士は、子育て支援で外部との交渉に携わったり、実習の担当となったり、あるいは小学校との連携、また中学校の体験学習受け入れの担当となるなど、今までの保育経験と異なる体験をする。広い視野でもって、自分の成長を見ることができる立場にあるともいえる。前述したように、10年以上の保育士は主任保育士やクラスのリーダー的存在である。したがって職場での役割は、人間関係を円滑にすることであり、それが今の自分の使命ではないかと考え、同僚や上司の人間関係において、心くばりを意識的に行わなければならない。これらに関連する②現在の仕事の内容や⑤同僚との人間関係を見てみると、少し自身に厳しい評価をしているように思われた。

今回の満足度の評定値から読みとれることは、職場の人間関係を築くことにより、仕事の内容が充実し、満足度が高くなるということである。上司や同僚との人間関係を深めることによって、自分の意見を自由に述べたり、聞いたりして、保育に対する共通認識や理解を深め、さらには保護者の人間関係にもつなげて保育をしていることがうかがえた。仕事に対する報酬には満足していないことや不満を持つということに対しては、自分の未熟さなのではないかと自分自身を責め、自分の成長の満足度を低下させているからではないかとも推測する。移りゆく保育界の変化にとまどいながらも、子どもの成長が直接よく見えるだけに、自分の成長には厳しい目を向けているのだろうか。

表Ⅱ－14　満足度の評定値の平均（P.39再掲）

	３年以下	４～10年	10年以上	平均（重みなし）
①現在の勤務体制	1.8	2.0	2.0	2.0
N	463	488	586	1537
②現在の仕事内容	1.7	1.9	1.9	1.8
N	461	488	584	1533
③現在の仕事に対する報酬（給与）	2.2	2.4	2.2	2.3
N	463	487	585	1535
④保護者との人間関係	1.9	1.9	1.9	1.9
N	462	488	585	1535
⑤同僚との人間関係	1.6	1.7	1.8	1.7
N	457	489	584	1530
⑥上司との人間関係	1.7	1.8	1.8	1.8
N	461	463	582	1530
⑦保育士としての自分の成長	2.7	2.5	2.4	2.5
N	463	488	585	1536
⑧自分がかかわった子どもに対する保育	2.4	2.2	2.1	2.2
N	462	489	582	1533

満足度に関して各段階が選択された割合（表Ⅱ－15）

表Ⅱ－14をさらに詳しく、各評定段階が選択された割合で見てみよう（表Ⅱ－15）。

①現在の勤務体制

「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせると、経験年数を問わず約80%の保育士が満足をしていた。これは大変喜ばしいことである。特に、３年未満の保育士が85％を超えている。10年以上の保育士の「満足している」を見ると20.82％と低いが、「まあまあ満足している」を見ると58.87％とどの経験年数よりも高かった。４～10年を見てみると、「満足している」25.61%と「まあまあ満足している」53.28%を合わせると78.89％の保育士が満足してい

た。子育て中の保育士にとっては、早朝勤務や遅番勤務は家庭との調整が困難になる。もし満足度を低下させる要因があるとするならば、まずはこのことも関連しているのではないかと思う。

②現在の仕事内容

３年以下の保育士の「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせると90％以上が満足をしていた。まだまだ未熟なのに満足度が高いということは、同僚や上司の支援があってのものと思われる。また、複数の保育担当者の中の一人でもあるだろうし、責任ある役割についていないことも理由の一つとして挙げられるだろう。

４～10年さらに10年以上になると「満足している」が低くなるが、仕事の内容が責任ある仕事になり、勤務時間内に仕事が終わらず、家に持ち帰る人も多いのだろう。自由記述の中にもあったが、困っていることの一つに、仕事を持ち帰らないと仕事が追いつかないつらさを述べていた。

③現在の仕事に対する報酬（給与）

10年以上の保育士の「満足している」は、17.78％とどの経験年数よりも低いが、「まあまあ満足している」を合わせると61.16％であった。同様に３年以下の保育士を見てみると62.85％、４～10年の保育士は54.62％であった。保育士は経験年数で報酬が格付けされ、徐々にではあるが昇給が保障されている。４～10年の保育士の割合が低いのは前に述べたとおりであるので、ここでは割愛したい（P.69参照）。

全体的に見てみると、経験年数が増えるとともに、役職の幅も広がり、報酬の安定（余程の過失がない限り失業はしない）と仕事のやり甲斐、誇りなどが数値に表れていると思われる。この事が「まあまあ満足している」の数値を高いものにしていると思われる。また「満足していない」が経験年数を重ねることで、低くなっていくことはうれしいことである。

④保護者との人間関係

保護者との人間関係については、「まあまあ満足している」の満足度の割合が経験年数を追うごとに高くなっていた。これは、保護者の気持ちを共有したり、保護者と年齢が近いだけに、喜びも悲しみも分かち合えているということなのではないだろうか。また、保護者も信頼できる保育士と一緒に成長していることが推測される。一方「満足している」を見てみると、経験年数を重ねるごとに満足度の割合が低くなっていた（３年以下24.46％、４～10年3.57％、10年以上16.07％）。

10年以上の保育士は、今までの保育体験とは異なり、人間関係において数多くの保護者や子ども、また訪問者や行政との関わりが多くなる。より幅広い視野でもって自分の成長を見るこ

とができる立場にもあるので、その分自身に厳しい評価をしているのだろうか。「満足している」が低かった理由として、このことが考えられる（これに関連する項目として、⑦保育士としての自分の成長を見てみると、「満足している」が3.76％と低く、とても気にかかった)。３年以下の保育士では「満足している」が24.46％で、「まあまあ満足している」63.15％を合わせると87.61％であった。経験年数の割りには満足度が高い。これは、保育所保育指針にもあるように、保護者の支援が園の役割となり、研修（園内外）等で、保護者の保育の指導の重要性をテーマに取り挙げたり（例えば、保護者とのコミュニケーションのとり方など)、保護者の子育て指導については常日頃一人ひとりの保護者と向き合い、トラブル防止に力を注いでいる結果が表われたのではないだろうか。また、他の理由として考えられるのは、経験がある保育士が、保護者の対応を任せないこともあるのではないだろうか。４～10年の保育士では、「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせると91.19％で、どの経験年数よりも満足度が高かった。

全体的に保護者との人間関係は満足の傾向であった。しかし自由記述からは、保育士として困っていることとして、保護者対応の難しさなどが述べられており、満足の裏側では心身共に疲れていることがうかがえた。

⑤同僚との人間関係

全体的に高い満足度を示している。経験年数に関係なく、「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせると３年以下の保育士93.65％、４～10年の保育士94.89％、10年以上89.9％であった。仲むつまじく仕事をしていることがわかる。「満足している」は、経験年数が上がるとともに割合が低くなっているものの、「まあまあ満足している」は経験年数とともに高くなっている。

⑥上司との人間関係

３年以下の保育士は「満足している」が40.35％であった。「まあまあ満足している」の46.85％を合わせると87.2％であった。経験が浅いだけに、上司が保育士との人間関係を大切にしているという結果であろう。また、４～10年の保育士も「満足している」は35.32％であり、３年以下の保育士に比べると低かったが、「まあまあ満足している」は50.1％と３年以下より高かった。10年以上の保育士は、３年以下と４～10年の保育士に比べて「満足している」割合は低いものの、「まあまあ満足している」割合は３年以下と４～10年の保育士より高かった。

⑦保育士としての自分の成長

他の項目に比べて、満足度が極端に低い。「これで満足してはいけない、もっと専門性を磨き、プロの保育士を目指し、知識や技術を身につけなければいけない」と思う気持ちの現れではないだろうか。上司からみるば、就労した時からの保育士の成長の進歩が見えるため、確かに成長していることがわかるだろうが、当の本人は「まだまだ自分は…」と思ったり、「これで満足してはいけない」と思うのだろう。４～10年の保育士は、中堅の保育士の立場である。他の保育士の手本として指導的立場になることから、自分の成長を自身で感じることができるのだろうか、他の経験年数より高い割合である。また、10年以上の保育士は、保護者の保育の指導や地域の子育て家庭の支援など、今まで経験のない事業が役割となり、社会の多様なニーズに応えるためにもさらなる専門性や人間性が問われてくる立場となる。したがって、「まだまだ自分は成長していない、もっと自己を磨かなければ」と考え、十分な成長を遂げていることを過大に評価せず謙虚に評価する姿勢がうかがえた。

⑧自分がかかわった子どもに対する保育

一人ひとりの人格や人権を考えるとき、保育所保育指針では、「子どもの最善の利益」を保障することがうたわれているが、長時間保育の中で、保育士の不規則な勤務体制や多大な仕事量、保護者の価値観の相違と多様な要求への対応や地域の連携などにより、仕事の役割分担はするものの、子どもの数に対して定められた保育士の定数しかいないので、充分子どもに対する保育ができる状況にはない。したがって、このことが自分がかかわった子どもに対する保育の満足度を低くさせていると思われる。各経験年数別に「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせた割合を見ると、３年以下の保育士58.44％、４～10年の保育士73.82％、10年以上80.24％と満足度の割合が経験年数を重ねるごとに高くなっている。喜ばしいことである。一方、「満足していない」の割合は３年以下の保育士が3.25％、４～10年が1.64％、10年以上の保育士は0.69％と、経験年数を重ねるごとに低くなっている。保育士は「子どもが好きな人」や「子どもに関心がある人」が、専門的な知識や技術を身につけてきた「専門職」であるのでその誇りが、数値に反映されたと思われる。

表Ⅱ－15　満足度に関して各段階が選択された割合（%）（P.40再掲）

		満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない
①現在の勤務体制	3年以下	34.99%	50.76%	12.74%	1.51%
	4～10年	25.61%	53.28%	17.83%	3.28%
	10年以上	20.82%	58.87%	16.38%	3.92%
②現在の仕事内容	3年以下	37.09%	52.93%	9.11%	0.87%
	4～10年	29.92%	56.15%	12.70%	1.23%
	10年以上	27.23%	57.02%	13.70%	2.05%
③現在の仕事に対する報酬（給与）	3年以下	22.46%	40.39%	27.00%	10.15%
	4～10年	16.02%	38.60%	29.77%	15.61%
	10年以上	17.78%	43.38%	25.13%	8.72%
④保護者との人間関係	3年以下	24.46%	63.15%	9.96%	0.43%
	4～10年	23.57%	67.62%	7.79%	1.02%
	10年以上	16.07%	74.36%	8.89%	0.68%
⑤同僚との人間関係	3年以下	49.67%	43.98%	5.03%	1.31%
	4～10年	39.88%	55.01%	3.48%	1.64%
	10年以上	31.51%	58.39%	9.42%	0.68%
⑥上司との人間関係	3年以下	40.35%	46.85%	10.41%	2.39%
	4～10年	35.32%	50.10%	11.50%	3.08%
	10年以上	33.68%	52.41%	11.17%	2.75%
⑦保育士としての自分の成長	3年以下	3.67%	33.91%	53.78%	8.64%
	4～10年	4.71%	44.67%	44.67%	5.94%
	10年以上	3.76%	52.14%	41.37%	2.74%
⑧自分がかかわった子どもに対する保育	3年以下	5.84%	52.60%	38.31%	3.25%
	4～10年	7.77%	66.05%	24.54%	1.64%
	10年以上	6.53%	73.71%	19.07%	0.69%

おわりに

保育士不足に悩む昨今であるが、保育士の資格は持っているものの、就労3年未満の離職者が増加していることや、保護者と保育士のトラブルがもとで、保育士の仕事を断念する人が多い。そのような保育士の離職の理由として、勤務時間が長いことや、保育の諸記録や提出書類の多さも、保育士離れのひとつと考えられる。また、就職する前は人間関係が心配のようであるが、今回のアンケートの結果から、3年以下の保育士が同僚と仲良く仕事をしている様子や、保護者とのコミュニケーションがとれるかどうかについて心配しつつも、先輩に助けられながら育てられている様子がうかがわれた。

そして、経験を重ねるごとに保育所の新たな使命に立ち向かい、努力している姿もうかがわれ、同じ保育の道を歩んでいる者として、うれしく誇りに思った。

Ⅴ．小野田晴世研究委員による考察

継続勤務の要件とは

はじめに

昨今の保育士不足のあおりを受けて、我々保育士仲間の集まりでは、決まって「どう？来年度の保育士確保できた？」が挨拶代わりになるほど、保育士の人材不足は深刻になりつつある。つい数年前までは、保育士専門の人材派遣会社から毎日のようにダイレクトメールや営業の電話がかかってきていたのに、ここ２～３年は、それさえもパッタリと来なくなった。それどころか、一昨年、我が園で産休及び育休代替保育士の派遣を、当該職員が産休に入る数か月前から、３社の派遣会社に依頼したが、適当な人材がなかなか見つからず、やっと人材を確保できたのは、当該職員が産休に入ってから１か月が過ぎた頃であった。保育士の離職率の高さは、今に始まったことではないが、ここ２～３年の人材不足は、もはや危機的状況と言っても過言ではないだろう。

保育現場では日々、直接子どもと接する業務のみならず、膨大な量の書類の整理や環境整備、翌日の保育や行事の準備に追われているのが現実である。ここ数年の我が園における離職者の傾向を見てみても、その仕事量の多さに根を上げて、就職してわずか１～２年で退職してしまうケースも少なくない。さらに、養成校の先生の話では、「とりあえず保育士資格を取得した上で、一般企業への就職希望者が増加している」とのことだった。

女性の意識の変化や育児休業法の整備、そして長引く景気の低迷から、働く母親が増加し、保育所利用者のニーズも多様化している。それに伴い、保育サービスも多様化し、その需要は益々高まっている。

保育サービスのメニューをソフトとするなら、そのソフトを動かす肝心なハードはどうなっているのか。保育におけるハードとは、つまり、望ましい保育を展開する上で基本となる人的、物的環境である。果たして、その整備はきちんとできているのであろうか。

保育制度そのものの改革がいよいよ現実味を帯びてきている今、本調査をもって、保育の基本である保育現場の実態を明らかにし、早急に保育の人的環境を整えるべく提言ができれば幸いである。

―継続勤務の希望有無における予測と実際―

表Ⅱ－18　継続勤務の希望（%）（P.43再掲）

	はい	いいえ	回答人数
３年以下	91.5	8.5	434
４～10年	86.2	13.8	442
10年以上	92.1	7.9	531
平均（重みなし）	89.9	10.1	1407

この調査結果全体を通して見て、当初の私の予測に反する数値を示したのが、設問14に対する回答であった。

まず、意外な結果だったのは、問14の「あなたは、今後も保育士として勤務することを考えておられますか？」との設問に、表Ⅱ－18で示したように、実に全体の約９割もの人が「はい」と回答していることだ。私の予測では、「はい」と回答するのは、先述した離職率の高さや深刻化する人材不足から鑑みて、良くて全体の６割～７割ぐらいではないかと考えていたからだ。現役保育士の９割もの人が「この仕事を続けたい」と思っていることに、驚き以上に感動を覚えた。

そして、もう一つ興味深かったのは、「継続勤務を希望する理由」と「継続勤務を希望しない理由」は表裏一体であるだろうと予測していたが、両方の調査結果を見比べてみると、必ずしもそれが一致しなかった。むしろ、その理由の分類そのものに違いが見られたのである。

それでは、これらの内容を詳しく見てみよう。

―継続勤務を希望する理由、希望しない理由についての考察―

表Ⅱ－19－ａ　継続勤務を希望する理由の平均値が高かった上位５項目

順位	継続勤務を希望する理由	平均割合（%）
1	仕事の内容	66.5
2	職場の人間関係	56.3
3	通勤の便利さ	54.1
4	保育理念・方針	40.2
5	休暇	40.0

※表は筆者作成

①　まず、表Ⅱ－19（P.43）を元に、継続勤務を希望する理由の平均値が高かった上位５項目をまとめてみると、１位は「仕事の内容」、２位は「職場の人間関係」、３位は「通勤の便利

さ」、４位は「保育理念・方針」、５位は「休暇」であった（表Ⅱ－19－ａ）。

さらにここで、継続勤務を希望する理由の内容を「仕事内容に関する項目」と「処遇に関する項目」とに分類すると、給与や休暇、労働時間、福利厚生といった、いわゆる「処遇に関する項目」よりも、仕事の内容、職場の人間関係、保育理念・方針等の「仕事に関する項目」の方が圧倒的に高い数値を示していた。したがって、保育士は自己の利益よりも、仕事内容や円滑な人間関係を求め、常により良い保育を目指しているところに、保育士の仕事に対する「誇りと責任感」さらには「職業意識の高さ」を見い出しているといえる。

―継続勤務を希望しない理由についての考察―

表Ⅱ－20－ａ　継続勤務を希望しない理由の平均値が高かった上位５項目

順位	継続勤務を希望しない理由	平均割合（%）
1	給与	49.6
2	仕事の内容	46.7
3	休暇	40.6
4	職場の人間関係	40.1
5	労働時間	40.0

※表は筆者作成

②　続いて、継続勤務を希望しない理由について、同じく平均値が高かった上位５項目をまとめてみると、１位は「給与」、２位は「仕事の内容」、３位は「休暇」、４位は「職場の人間関係」、５位は「労働時間」であった。

この結果から、継続勤務を希望する理由とは逆に、５項目中で３項目が「処遇に関する項目」であった。このことついて、表Ⅱ－19－ａと表Ⅱ－20－ａをさらに経験年数別に分けて次の章で詳しく見てみよう。

③　継続勤務を希望する理由と希望しない理由を詳しく見てみると、「仕事内容」「職場の人間関係」「休暇」の３項目はどちらにも該当していた。また、継続勤務を希望する、しない両方で平均割合が高い数値を示していることから、保育士が勤務の継続を希望する必要最低条件は、①『仕事の内容が自分に合っていること』、②『職場の人間関係が円滑であること』、③『有給休暇が取得しやすい環境が整っていること』であると言って良いだろう。言い換えるならば、人材の確保と保育士の離職率を下げるためには、この３項目の整備が必須なのである。

―経験年数別に見る各項目についての考察―

表Ⅱ－22－ａ　経験年数３年以下における継続勤務を希望する理由と希望しない理由として選ばれた上位５項目の割合（％）

	継続勤務を希望する理由とその割合		継続勤務を希望しない理由とその割合	
1	仕事の内容	66.5	給与	54.1
2	通勤の便利さ	57.7	仕事の内容	45.9
3	職場の人間関係	57.2	職場の人間関係	45.9
4	労働時間	42.6	休暇	37.8
5	保育の理念・方針	41.3	労働時間、人材育成の雰囲気	35.1

※表は筆者作成

表Ⅱ－22－ｂ　経験年数４～10年における継続勤務を希望する理由と希望しない理由として選ばれた上位５項目の割合（％）

	継続勤務を希望する理由とその割合		継続勤務を希望しない理由とその割合	
1	仕事の内容	64.6	給与	59.0
2	職場の人間関係	55.1	労働時間	44.3
3	通勤の便利さ	52.0	人材育成の雰囲気	42.6
4	休暇	38.3	休暇	41.0
5	保育の理念・方針	36.5	職場の人間関係	41.0

※表は筆者作成

表Ⅱ－22－ｃ　経験年数10年以上における継続勤務を希望する理由と希望しない理由として選ばれた上位５項目の割合（％）

	継続勤務を希望する理由とその割合		継続勤務を希望しない理由とその割合	
1	仕事の内容	68.3	仕事の内容	54.8
2	職場の人間関係	56.6	休暇	42.9
3	通勤の便利さ	52.6	労働時間	40.5
4	保育の理念・方針	42.7	給与、人材育成の雰囲気	35.7
5	休暇	40.7	職場の人間関係	33.3

※表は筆者作成

①上記に示した表においても、継続勤務を希望する理由として一番高い数値を示しているのが「仕事内容」であった。その数値は、経験年数10年以上で68.3％と非常に高く、他の経験年数の数値と比較しても、著しい差異は見られなかった。したがって、保育士が勤務を継続する上で、「仕事内容」が最も重要な事項であることがわかる。しかし、「仕事内容」と一言で

言っても、保育士の仕事内容は非常に複雑で多岐にわたることは先述したとおりである。ここで言う「仕事内容」とは、子どもと関わる事そのものなのか、それによって得られる子どもの笑顔や成長を見られる喜びなのか、それとも製作や室内装飾が楽しいのか、回答者の価値観によってとらえていることが大きく異なっていると思われる。表Ⅱ－17（P.42）を見てみると、どの経験年数においても、子どもと過ごす時間に楽しさをとても感じている割合が非常に高いことから、ここで言う「仕事内容」とは子どもと過ごす時間であると推測することができる。

したがって、『子どもと過ごす時間の楽しさが、保育士が勤務を継続したいと思える原動力』となっていると言えよう。

②次に、継続勤務を希望しない理由を見てみると、継続勤務を希望する理由の中では上位５項目に入らなかった「給与」が最も高い数値を示していたのが、特に経験年数４～10年であった。経験年数４～10年と経験年数10年以上の割合の差を見ると、23.3ポイントもの差があることがわかる（表Ⅱ－22－ｂ、表Ⅱ－22－ｃ）。そして興味深いことに、継続勤務を希望する理由で最も割合が高かった「仕事の内容」が、継続勤務を希望しない理由では経験年数４～10年で39.3％であり、12項目中６番目であった。一方、経験年数10年以上では「仕事内容」は54.8％であり、経験年数４～10年と比較すると15.5ポイントもの差が見られたのである（P.42 表Ⅱ－20）。したがってこれらのことを、もう少し詳しく考察してみようと思う。

③経験年数４～10年の勤務の継続を希望しない理由で、給与や労働時間といった「処遇に関する事項」が高い割合を占めた理由を考えてみると、あくまでも推測の域を出ないが、以下のような事が考えられるのではないだろうか。まず、この経験年数からすると年齢的には概ね25歳～30歳ぐらいであろう。であるならば、ある程度、仕事内容を把握し、職場の人間関係も築き上げ、プライベートに目を向ける余裕が出て来る時期なのではないだろうか。友達と遊んだり、趣味や習い事等にかける時間的余裕が欲しいし、また、友達との交際費、趣味や自分磨きにかける金銭的な余裕も欲しい、結婚や将来を見据えて貯蓄を考え出すのもこの時期であろう。いずれにしても、プライベートの充実期である故、仕事内容に関する項目よりも給与や労働時間の保障といった処遇面に関わる項目がより多く選ばれたのではないだろうか。

④今度は逆に、継続勤務を希望しない理由で「仕事内容」に関する項目の割合が高かった経験年数10年以上について考えてみる。先述のように、一言で仕事の内容と言っても、その解釈は、それぞれの価値観によって様々であるが、この場合の仕事の内容は肯定的な内容として

解釈されたものではないことは確かであろう。経験年数が多い保育士が仕事の内容を理由に辞めたいとする場合、体力的な不安に加え、仕事への行き詰まりやバーンアウト症候群（燃え尽き症候群）のような精神的不安やストレスがより強くなっていると考えられるのではないだろうか。

実際に、表Ⅱ－17（P.42）を見ても、仕事における肉体的、精神的なきつさをとても感じていると回答している割合が高いことがわかる。

一般的に、教師や福祉職、看護師等の対人支援に関わる人にバーンアウト症候群の罹患率が高いと言われている。保育士も例外ではない。実際に、保育士におけるストレス、バーンアウトの調査研究や保育士のバーンアウト防止を呼び掛けるガイドブックも（福村出版「保育者のストレス軽減とバーンアウト防止のためのガイドブック」ジェフ・A・ジョンソン／著　尾木まり／監訳）出版されている。

2011年に愛知淑徳大学大学院が愛知県内の3,056名の保育士を対象に行った調査結果（「保育所に勤務する保育士のバーンアウトに影響を及ぼす要因の検討」2011）によると、その主な要因は「仕事の量的負荷」と仕事の評価、処遇、組織方針などの「職務条件の悩み」であることがわかった。特に経験年数が多い保育士は「仕事の量的負荷」を感じている数値が高かった。C．調査結果の分析の表Ⅱ－11～13（P.35～38）の結果を見ても、経験年数が少ない保育士より経験年数が多い保育士の方が、仕事内容が多岐にわたり、またその量も多いことが明らかである。経験年数の多い保育士が、継続勤務を希望しない理由として、仕事の内容と休暇の2項目の割合が高かったことから、継続勤務を希望しない理由とバーンアウトの起因に少なからず何らかの関係性があるのではないだろうか。

まとめと今後の課題

今回の調査研究により、保育士が継続して勤務を希望する条件は①『仕事の内容が自分に合っていること』、②『職場の人間関係が円滑であること』、③『有給休暇が取得しやすい環境が整っていること』であることがわかった。中でも、仕事の内容は最も重要で、継続勤務を希望する、希望しない、どちらの判断基準にもなり得るのである。

そして、保育士は、日々仕事上で精神的、肉体的なきつさを感じながらも、子どもと過ごす時間の楽しさに支えられて、その職務を遂行しているという実態が、この調査から見えてきた。全体の約７割の保育士が感じている子どもと過ごす時間の楽しさは、いわば普遍的であり、保育士という職業を選択した時から必然的に享受することができるものだ。

であるならば、保育士が日頃、仕事上で感じている精神的、肉体的きつさの内容をさらに具体的にし、それらを一つ一つ精査し、整備すれば現在のような慢性的な人材不足や離職率の高さを少なからず解消できるのではないだろうか。

今、保育制度は過渡期を迎えようとしている。しかし、現場における保育士の職場環境の整備なくしての保育制度改革の推進は憂慮するべきであろう。今こそ、まずは現場における保育士の業務実態と職場環境に目を向け、新しい制度を取り入れるべく土壌の構築を図る事こそが保育制度改革を推進する上での最重要課題と言えよう。

今回の保育士の実態に関する調査で、保育士の業務は煩雑で膨大であるという実態が明らになった。この調査が、保育士の職場環境の整備に一石を投じるきっかけとなることを願ってやまない。

Ⅵ．田中浩二研究委員による考察

保育士として働く上での困ったことや保育士として良かったこと ―自由記述より―

ここでは、本調査個票Ｂで自由記述として尋ねた設問12「保育士として働いていて困っていることは何ですか」および設問13「あなたは保育士になって良かったことは何ですか」の２項目について記述の傾向を整理し考察を行う。

１　設問12について

１―１　自由記述の傾向

「保育士として働いていて困っていることは何ですか」の問いに対して、経験年数３年以下の保育士からは318件、経験年数４年以上10年未満の保育士からは350件、経験年数10年以上の保育士からは399件の自由記述があった。さらに、自由記述の内容を整理するために、記述されている内容およびキーワードを基に、困っている事柄を①「体力・精神力の負担、体調の管理・不安」、②「責任の重さ」、③「仕事量が多い」、④「職場の人間関係・連携」、⑤「給与の低さ」、⑥「保護者との関係」、⑦「子どもの対応・関わり方」、⑧「家庭やプライベートの両立」、⑨「休みが取れない、自由時間がない」、⑩「自分自身の保育や仕事に対する知識・技術等の不安・課題」、⑪「職員の不足」、⑫「その他」に分類した。

各経験年数での記述の頻度は表１のようになった。

表１　設問12の記述内容

項　　目	３年以下	４～10年	10年以上
体力・精神力の負担、体調の管理・不安	34	54	79
責任の重さ	4	6	7
仕事量が多い	90	120	137
職場の人間関係・連携	50	59	88
給与の低さ	25	28	12
保護者との関係	82	105	128
子どもの対応・関わり方	56	22	13
家庭やプライベートの両立	12	47	63
休みが取れない、自由時間がない	35	38	50
自分自身の保育や仕事に対する知識・技術等の不安・課題	84	35	26
職員の不足	10	15	20
その他	52	85	82
計	534	614	705

※表は筆者作成

経験年数３年以下では計534件、４年から10年では614件、10年以上では705件の記述内容が得られた。経験年数３年以下で困っている事柄として最も多かったのは「仕事量が多い」で、次いで「自分自身の保育や仕事に対する知識・技術等の不安・課題」、「保護者との関係」となった。４年から10年では、「仕事量が多い」が最も高く、次いで「保護者との関係」、「その他」であった。経験年数10年以上では、「仕事量が多い」で最も困っている事柄となり、次いで「保護者との関係」、「職場の人間関係」、「その他」が多かった。

経験年数での比較では、「体力・精神力の負担、体調の管理・不安」や「職場の人間関係」、「保護者との関係」、「家庭やプライベートの両立」、「職員の不足」などの項目で、経験年数が上がるにつれて増加する傾向が見られた。一方、「子どもの対応・関わり方」や「自分自身の保育や仕事に対する知識・技術等の不安・課題」で経験年数が上がるにつれて減少する傾向が見られた。

１―２　自由記述の内容

上記の記述内容の分類に従って、経験年数ごとの具体的な記述内容を見てみる。

①「体力・精神力の負担、体調管理・不安」に関する記述

《経験年数３年以下》

・十分な睡眠がとれないこと
・体力面や精神面で辛さを感じる
・からだ（腰痛）に不安を感じるようになってきた
・子どもを抱くことが多く、腰痛がひどいことがある
・体調管理が難しい（子どもの流行症状がうつる）
・声の出し過ぎで週末に声がかれてしまうことが多くなった
・膝などが悪くなってしまうこと
・行事が忙しい時は体力的にきつい
・風邪や病気にかかりやすくなった
・肉体的・精神的に負担がかかる
・体力的にハードで疲れた状態が抜けないまま働くことが多い

《経験年数４年以上10年未満》

・長時間、子どもを抱いて動く事が多く、腰などが痛くなる
・体調の悪い時もあまり簡単に休めず、肉体的にきついと感じることがある
・年々、体力的にきつくなってきている（腰痛などを含め）
・体調を崩しやすくなってしまった

・喉が元々あまり強くないので、痛めて声が全くでなくなる。
・職業病の特に小さな子どもをあつかうクラスだと抱っこやおんぶの頻度が多く、首や肩に負担がかかり時々具合が悪くなる面
・腰痛が慢性的になり辛い
・精神的プレッシャーを感じる
・自分の体力がおいつかない事
・腰痛や体の不調があり、疲れてしまう

《経験年数10年以上》

・身体をこわした
・年齢を感じ、身体がきついことがある（腰痛等）
・心身共に疲れている
・風邪や感染症等が流行すると自分までうつってしまう
・手首や足腰に痛みが出て来ている
・最年長のクラスを受け持った時に精神的に追い込まれた
・年齢とともに体力の低下（疲れがとれない）
・自身の年齢と仕事のきつさのギャップ（思うように身体がついていかなくなってきているのを感じる）
・仕事量に対して体力がついていけない

経験年数に関わらず、身体的精神的な負担を感じている。身体的には、疲れが取れない、膝・腰・首の慢性的な痛み、声の枯れに関する記述が多い。また経験年数が上がるほど、年齢的な疲労の訴えも目立つようになっており、保育業務に対する身体的な負担の大きさが伺える。

②「責任の重さ」に関する記述

《経験年数３年以下》

・責任の重大さ、事務書類の多さ等で、精神的に時間的に余裕のもてなくなる時がある
・２年目の負担が大きい
・子どもにとっては保育園ですごす時間が長いので、様々な面で責任が重いなと感じる

《経験年数４年以上10年未満》

・臨時職員に求められている責任が重すぎる
・主任など会議で留守にすることが多く、何かあった時の責任など不安がある
・命を預かる責任の重さにつぶされそうになることがあります
・長年いると頼られてしまうことが多く、荷が重い時がある

《経験年数10年以上》

・年齢を重ねるにつれて、責任のある仕事が多くなり、精神的にしんどい

・責任の重圧を乗り越えてやり抜く、精神的強さを持ち合わせる事

「責任の重さ」に関する記述から、具体的には、子どもの命や将来を担っていることへの責任を感じている。なおかつ、経験年数が増えるにつれて、職場内での責任が増加し負担を感じている姿が見てとれる。

③「仕事量が多い」に関する記述

《経験年数３年以下》

・行事の前など仕事が多くて、残業しないと終わらないこと（ほぼ毎日サービス残業なこと）

・製作の準備や装飾など帰宅後やらなければならない仕事も多いということ

・決められた時間に仕事が終わらない

・残業や持ち帰りの仕事が多く、趣味にとれる時間がない

・帰宅しても次の日の準備などでゆっくりと休めない

《経験年数４年以上10年未満》

・書類（月案、週案、日誌案等）が細く時間がかかる、持ち帰りが多い

・家庭に持って帰ってくる仕事が多く、休日も何かしらやることが多い

・書き物が大変、負担すぎ

・事務仕事をする時間のやりくりが困難（持ち帰ってしまう）

・書類が多く、勤務時間内にはなかなかできない

《経験年数10年以上》

・事務量がとても多い

・事務仕事の量が多いにも関わらず職場では出来ないので家に持ち込むこと

・休みの日も持ち帰りの仕事をしなければならないこと

・勤務時間内に仕事が終わることができない

・家に持ち帰ってする仕事が多く、家事との両立が難しく（忙しすぎる）なる

すべての経験年数において最も記述の多い「仕事量が多い」についてでは、経験年数の区別なく、多くの回答が書類や事務仕事に関連する内容であった。日中は子どもに向き合って保育をしているため、指導計画等の書類の作成、翌日の保育準備などは勤務時間内には行うことができず、結果的に自宅へ持って帰っている。そのことが仕事とプライベートの区別がつかないといったことにつながっている様子が見て取れる。また、経験年数が高いほど、事務量が増え

ている様子も伺えた。

④「職場の人間関係・連携」に関する記述

《経験年数３年以下》

・複数担任の連携の難しさ
・職員間や保護者との人間関係を築くことで悩みがつきない
・女性の職場であるということ
・上司や同僚に相談できない自分
・上司との人間関係

《経験年数４年以上10年未満》

・自分の保育感と違う思いを持っている保育士への接し方
・保育理念が他の保育士の方たちと考えがあわない
・上司との関係
・同僚との人間関係
・連絡・報告などの全体把握についてうまくいかないこと
・自分の思いが伝えられない事がある（他の保育士に対して）

《経験年数10年以上》

・若い保育士を育てるのが難しい
・他の職員との意識の違いなどがある
・上司からの信頼を感じない時がある
・職員同士の意識の違い、方向性の違いなど
・若い人を扱う難しさ
・後輩保育士への接し方
・先輩に教えてもらった経験が少ない中での後輩指導
・後輩保育士に対する指導などが十分できない

「職場の人間関係・連携」に関する記述では、経験年数の浅い保育士では「同僚・先輩、上司との関わりの難しさ」や「自分自身の職場への適応」などに困ったと感じている。一方、経験年数が上がると、「後輩、上司との関わりの難しさ」といった中間の立場での人間関係や連携の難しさを感じるとともに、「後輩の育成」に対しての困難を感じている姿が見られた。

⑤「給与の低い」に関する記述

《経験年数３年以下》

・短大時代奨学金を借りていたので今の給与では生活がきつい
・責任が伴う半面給料が低い
・仕事内容に対する給与の低さ
・労働時間が長い割に給料が安い
・仕事量が多く、ハードな仕事の割りに給料が安い

《経験年数４年以上10年未満》

・仕事量と給与が合わない
・経済的な面、仕事内容に対しての給料に不満を感じている
・仕事量と給与が割りに合っていない、サービス残業が多すぎる
・給与と労働が見合わずにいるので、時折精神的にかなり疲れる

《経験年数10年以上》

・給料や手当てが安いこと
・仕事には満足しているが経済的な面で続けるか迷っている
・給与が上がっていかない

「給与の低さ」については、経験年数が上がると記述は減っている傾向にあるが、仕事量や仕事内容、労働時間とのバランスが取れていないといった意見が多く見られる。また、前述のとおり、仕事を持ち帰ることが多い状況にある中での給与の低さを感じている保育士が多いことも伺えた。

⑥「保護者との関係」に関する記述

《経験年数３年以下》

・保護者への対応、クレームなど困る
・保護者との信頼関係
・子育て支援センターに相談にきて頂いた保護者にうまく対応できているか
・保護者との子どもに対する認識の差
・保護者に対する対応の難しさ
・保護者とのコミュニケーションが難しい

《経験年数４年以上10年未満》

・母親の悩みや不安に適切に答えられているかどうか
・保護者からクレームなどはないが信頼や深いつながりは築けていない気がする

・保護者のニーズにこたえられない時
・保護者の要求ばかりが目立ち、保育士の話を受け入れない保護者もいる
・最近の保護者の意識の差
・保護者との関わり、対応の仕方

《経験年数10年以上》

・意志の疎通が難しい保護者が増えてきている
・最近の保護者の意識の違い、アドバイスのしかたが難しくなってきている
・保護者への対応の難しさ
・保護者に伝えたいことをうまく伝えられない時がある
・保護者の方と子どものことについて話す時間がない
・保護者とのコミュニケーション
・病気や怪我をした時の保護者への対応
・クレームを言ってくる保護者への対応

「保護者との関わり」については、全体的に困難と感じている大きな事柄の１つであり、各経験年数で記述が多い。記述の傾向としては、第１に保育者自身のコミュニケーション能力・技術に疑問や不安を抱えている内容、第２に意識の共有に関する内容、第３にいわゆるクレームやモンスターペアレントと感じる保護者への対応での苦慮、などである。経験年数が浅い保育士はコミュニケーション能力の疑問や不安に関する記述が多く、経験年数が上がると、保護者との意識の共有に困難さを感じている記述が多い。また、経験年数10年以上では、クレーム対応やケガ等の連絡に際しての保護者との関わり方に苦慮している様子が伺える。

⑦「子どもの対応、関わり方」に関する記述

《経験年数３年以下》

・子どもとの関わり方がこの時は本当にこれでいいのかと、不安になる時がある
・子どもをまとめることができない
・個々の子どもへの発達に応じた援助の難しさ
・子どもの気持ちをうまく汲みとってあげられないこと

《経験年数４年以上10年未満》

・集団をまとめきれない時
・予想と違った行動を子どもがした時に、うまく対応できないことがある
・1人ひとりとの関わり、援助が十分にできないこと
・子ども間のトラブルに対しての声かけ

《経験年数10年以上》

・ケガが心配で思いきり保育できなかったり心配しすぎてしまう
・個別で対応しなければいけない子が多すぎる
・１人１人の子どもとじっくりかかわれない
・基本的生活習慣の乱れに対しての対応

「子どもの対応、関わり方」では、経験年数が低い保育士では、自分自身の子どもへの関わり方を模索している様子、自信を持てきれていない様子が伺える。経験年数が上がると、個別の対応の難しさや安全を配慮した上での関わりの難しさといったことに苦慮している記述が多く見られる。

⑧「家庭やプライベートとの両立」に関する記述

《経験年数３年以下》

・いつどこで保護者と子どもに会うかわからないから気が抜けないこと
・将来結婚して家庭を持った時、仕事と家庭の両立ができるのか不安に思う
・仕事の時以外でも「保育所の先生だから」と子守りを任せられそうになる

《経験年数４年以上10年未満》

・家庭もあるので両立が難しい
・休日も仕事のことを考えたり、持ち込んだりしてしまう
・プライベートでも、周囲からは「先生」という目で見られるので、行動を控えたり、ストレスに感じることがある
・家庭のことより園の仕事が中心にならざるをえないこと
・持ち帰りの仕事が多く、プライベートの時間が減ってしまう

《経験年数10年以上》

・家庭との両立が難しい
・プライベートでも外で会ったら“先生”でいなければならないこと
・休みの日も日ごとの事を考えたり仕事をしてしまう
・私生活と仕事の差があまりない
・仕事を優先にしなくてはいけない
・自分の子どもの行事に参加できない

「家庭とプライベートの両立」に関しては、経験年数によらず常に「保育士」でいなければならないことを感じている。また、持ち帰りの仕事が多いことが原因で、仕事とプライベート

を両立することが困難であるとの記述が多く見られた。さらに、経験年数10年以上では家庭や家事との両立に困難を抱えている様子が伺える。

⑨「休みが取れない・自分の自由な時間がない」に関する記述

《経験年数３年以下》

・自分の時間がない
・長期休暇がとれない
・有給休暇を消化できない

《経験年数４年以上10年未満》

・有給がなかなか取れない
・思うように休暇が取れない
・休みの日も素材集めや教材研究にあてるしかない
・必要な時には休みの時にも出てきて、仕事をしなければならない時がある

《経験年数10年以上》

・思うようにリフレッシュ出来る有給休暇がとれない（子どもの病気以外で）
・休暇を取るのに保育園の行事中心となり取りずらい
・土曜日の休みが月に一度しかとれないこと
・自分の子どもが病気の時や行事参加での休みがとれない
・自分の子どもの保育園が台風で休園になるのに、出勤しないといけない
・子どもから離れた休憩がとれない
・責任のある仕事である為、自分の子ども達の学校行事などの参加が難しい

「休みが取れない・自分の自由な時間がない」については、保育士という職種の労働条件における重要な課題と言える。各経験年数ともに有給休暇や病気等で必要な時に休暇を取ることができない現状が伺える。既婚の保育士にとっては家庭との両立が困難になる原因の一つとも考えられ、職員体制の確保も含めて休暇を取りやすい環境を整備する必要性が示唆された。

⑩「自分自身の保育や仕事の知識・技術等の不安・課題」に関する記述

《経験年数３年以下》

・手遊びや遊びのバリエーションが少ない事
・歌、ピアノなど苦手なこと
・パソコンの業務があまり得意ではないこと
・大学で学んできたことと、現実に出来ていることのギャップに悩んでいる

・自分の保育に自信が持てず、常に後悔してばかりいること
・自分の知識・経験不足
・母親（育児）の経験がないこと
・叱り方、伝え方が難しいなと思うことがある
・指導計画の立案、指導方法

《経験年数４年以上10年未満》

・自分の経験不足
・ピアノ演奏のレベルアップの為、練習は続けているが限界を感じることもある
・病気やけがの対応に力不足を感じる
・自分が保育士として適正があるかどうか
・自分の保育の引き出しの少なさ
・ノートを書く時キレイな字でかけない

《経験年数10年以上》

・自分の子育て経験がないため、保護者への説得力がない
・たくさんの知識や専門的な目標が日々新しくなったり、増えたりするので、学んでいかなければならないことが多い
・パソコンが主流になってきている中、使いこなせない
・保育を理論で裏付けして立証していくことが苦手であること
・自分自身の力量のなさに自信をなくす
・もっといろんな事ができるようになりたい

「自分自身の保育や仕事の知識・技術等の不安・課題」では、経験年数の浅い保育士ほど多くの困難を抱えている。内容としては、手遊びや歌遊び、活動のレパートリーの少なさや、ピアノ等の技術の低さ、また子どもや保護者への関わり方の未熟さなどを感じている。しかし、経験年数が多い保育士においても手遊び等のレパートリーを増やしたい、ピアノを上手に弾くことができるようになりたい、といった意見も見られ、自分自身の知識や技術の不安や課題はいつまでも持ちつづける様子が伺え、このことが保育士自身の質の向上につながっているとも捉えられる。また、近年ではお便りや指導計画の作成等でパソコンでの作業が求められることが多く、パソコンを始めとした機器の操作を習得することの大切さも示唆された。

⑪「職員の不足」に関する記述

《経験年数３年以下》

・職員数も少なく、職員一人ひとりの負担が大きい

・職員の人数がギリギリな為、降園ラッシュと重なると、退勤時間になっても帰れない
・正職が少なく、休み（特休）利用をするとき、少し躊躇すること

《経験年数４年以上10年未満》

・子どもに対しての保育士の人数
・人数（職員）がギリギリのため、事前に態勢をとっても当日職員が休むと大変
・クラスに正規職員が一人しかいないので、月案、チェック表などを全てやらなくてはならず追われている
・職員の数が子どもの人数に対して少なく、ゆったりした保育ができない
・人員不足のため、個別に支援が必要な子へ行きとどかない、他の子をしっかり見てあげられない時もある

《経験年数10年以上》

・人員不足による保育と事務の負担
・人員配置が厳しく職員が大変な思いで働いている
・行事や土曜出勤がある中で、子どもの登園人数も多いので、振替代休や有給のやりくりが毎日誰かが1名休む事になるなど、難しいが何かとやりくりしている
・保育士が少ない為、有給休暇が思うようにとれない
・保育士の人数が少なく、必要な保育ができていない
・代替保育士がなかなか見つからないこと
・職員30人に対して、正規職員が3人と極端に少ない

「職員の不足」については、児童福祉施設最低基準を満たしている現状においても、仕事量に対して適正でない、休暇等を取るためには不十分であるという現状が伺える内容であった。経験年数が高い保育士では、保育所全体の運営上の観点から職員不足の困難を感じている傾向が見られた。

⑫「その他」に関する記述

《経験年数３年以下》

・障害児に対する保育のあり方
・将来性
・一般の人の保育に対する、理解・知識・関心の低さ

《経験年数４年以上10年未満》

・正職と非正規職員の差
・男性が少ないところ

・手のかかる子どもが増えていて対応に困るときがある
・気になる子への対応
・子ども達がのびのびと過ごせる環境を中々つくれない
・保育所の設備の悪さ（ひび割れ、トイレが少ない、水道が少ない、保育室が狭いなど）
・社会から見た保育士の地位
・子どもの園制度の複雑さがいつまでたっても解決していかない
・新システム計画など将来への不安
・外国人家族への対応

《経験年数10年以上》

・職員の雇用形態が違う為、職場内で格差を感じ非常に働きにくい
・専門職としての資格の意味が国の方でなくしてきている。
・世間の保育士に対しての評価の低さ
・障害児が増えてきているのに対し、環境（人的も含む）が整っていない
・保育環境の悪さ、外で子どもが元気に遊んだり、声を出せない環境（周りからの苦情）
・理想と現実とのギャップを感じる
・現代社会のニーズと本来子どもに必要なこととのギャップ
・保育内容について、行政などから規制が大きくなっているように感じられること
・幼保一体施設の国の基準が未完成、未定

「その他」については、各経験年数でさまざまな記述が見られた。比較的多かったものとしては、「障害児、気になる子どもへの対応」や「保育士の社会的地位や認知の低さ」、「保育制度の将来」などが挙げられた。

保育士として働いている中で困っている事柄は、経験年数の違いや地域、職場環境などによって様々である。困難の要因は、個別的な要素に起因するものもあれば、制度上の要因であるものなど様々である。そしてこれらの困難は自由記述の内容にも反映されているように複合的に絡み合っていることが分かる。例えば、書類等の業務が煩雑になることが仕事量の増加につながり、仕事量の増加が休暇や自由な時間の減少につながる。さらに、休暇や自由な時間の減少が体力の負担や不安を招いているという悪循環が発生している。どこか一つを解決すればすべてが解決するということは考え難いが、保育士の自己解決能力の向上も含めて、現在、保育士が抱えている様々な困難を解消する手立てを構築する必要がある。子どもに対する直接処遇者である保育者が安心・安定して働けることが、子どもの安心・安定、さらには保護者の安心・安定につながると考えられる。

2　設問13について

2―1　自由記述の傾向

「保育士になって良かったことはなんですか」の問いに対して、経験年数３年以下の保育士からは371件、経験年数４年以上10年未満の保育士からは410件、経験年数10年以上の保育士からは444件の自由記述があった。さらに、自由記述の内容を整理するために、記述されている内容およびキーワードを基に、「良かった」事柄を①「やりがいを感じる」、②「子どもの成長を見ること・感じることができる」、③「子どもの笑顔や楽しい姿をみることができる」、④「子どもとの関係」、⑤「子どもと関わることが楽しい」、⑥「自分自身が笑顔、元気になる、癒される」、⑦「自分の育児の参考になる」、⑧「保護者の感謝・信頼・関係構築・共有」、⑨「自分が成長する・した」、⑩「自分自身の保育の結果・達成感を感じる」、⑪「充実した日々を過ごすことができる」、⑫「いろいろな人との関わり」、⑬「その他」に分類した。

各経験年数での記述の頻度は表２のようになった。

表２　設問13の記述内容

項　　目	３年以下	４～10年	10年以上
やりがいを感じる	39	52	58
子どもの成長を見ること・感じることができる	242	245	213
子どもの笑顔や楽しい姿を見ることができる	67	42	40
子どもとの関係	57	36	41
子どもと関わることが楽しい・嬉しい	97	112	117
自分自身が笑顔・元気になる・癒される	33	59	57
自分の育児の参考になる	22	27	22
保護者の感謝・信頼・関係構築・共有	45	60	71
自分が成長する・した	92	89	78
自分自身の保育の結果・達成感を感じる	25	42	49
充実した日々を過ごすことができる	10	21	21
いろいろな人との関わり	18	30	46
その他	46	62	97
計	793	877	910

※表は筆者作成

経験年数３年以下では計793件、４年から10年では877件、10年以上では910件の記述内容が得られた。全体を通して「良かった」と感じる事柄は「子どもの成長を見ること・感じることができる」が最も多く、すべての経験年数において最多であった。「やりがいを感じる」や「保護者の感謝・信頼・関係構築・共有」、「自分自身の保育の結果・達成感を感じる」、「いろいろな人との関わり」で経験年数が上がるほど増加し、一方で「子どもの笑顔や楽しい姿を見ることができる」や「自分が成長する・した」では経験年数が浅い方が高くなり、経験年数による

喜びの内容の違いが見られた。

2―2　自由記述の内容

上記の記述内容の分類に従って、経験年数ごとの具体的な記述内容を見てみる。

①「やりがいを感じる」に関する記述

《経験年数３年以下》

・やりがいがある
・子どもの人格形成にかかわる大事な仕事に携わっているということでやり甲斐がある
・大変な仕事であり、やりがいのある仕事
・行事などで子どもと一緒にやりがいを感じられること
・毎日の仕事の中で、やりがいを感じる

《経験年数４年以上10年未満》

・子ども達の成長していく姿を見られ、やりがいを感じて仕事ができること
・子どもに関わった分、子どもの成長が見られたり、自分のことを頼りにしてくれるのでやりがいがある
・とてもやりがいのある仕事
・どの仕事よりもやりがいがあり、毎年、感動する、嬉しい出来事を感じられる。

《経験年数10年以上》

・毎日が変化あり他の仕事では味わえない、やりがいのある仕事と思う
・専門職として奥が深く、“おもしろい”“やりがい”があること
・仕事は大変だが、子どもの成長を感じることで、やりがいはある
・子ども、保護者他との関わりで保育のやりがいを毎日感じていられること
・生涯やりがいを持ち、仕事を続けられる事
・子どもが好きでやりがいがある

「やりがい」を感じる要因は種々あるが、総じて様々な場面で保育士の仕事の「やりがい」を感じている様子が伺える。特に、子どもが好きであることや、自分自身が関わった子どもの成長を目の当たりにすることでのやりがい、子どもとともに歩んでいくことでのやりがいを感じており、保育士の仕事をしている、あるいは続けている大きな動機の一つとなっている。

②「子どもの成長を見ること・感じることができる」に関する記述

《経験年数３年以下》

・子どもの成長を見るのが楽しい

・子どもの成長を一番近くで感じられること

・子ども達の成長を保護者の方と感じられること

・たくさんの子どもの笑顔・成長を感じられること

・子ども一人ひとりの小さな成長をも感じられること

《経験年数４年以上10年未満》

・継続した成長を感じる事ができる

・子ども一人ひとりの成長を感じられる

・「昨日できなかったことが今日できた」など成長を日に日に感じられること

・子どもの成長ぶりが１年間を通してみられること

・子どもの成長を身近で見ることで感動が味わえる

《経験年数10年以上》

・子どもの成長を共に喜び合える

・未来の子どもたちが日々成長する姿を目の前で見られること

・成長した姿を見られ幸せを感じる

・子どもの成長が楽しみです

・子どもの成長にふれた時にやりがいを感じる

・昨日出来なかった事が、今日できるようになったりなど成長を近くでみることができる

・子どもの成長が感じられ、感動することが多々ある

・子どもが立ち上がったり、歩けるようになったりする成長が見えた時

経験年数を問わず、間近に子どもの成長を感じることができ、なおかつ、自分自身が子どもの成長に携わっていることに喜びを感じている様子が伺える。記述の内容が最も多かったことからも分かるように、このことが保育士として働くことの喜びであると同時にやりがいや達成感にもつながっていると言える。また、子どもの成長の捉え方は短期的なものから数年に渡る長期的なものまで含んでおり、保育士が多様な視点を有していることが見てとれる。

③「子どもの笑顔や楽しい姿を見ることができる」に関する記述

《経験年数３年以下》

・かわいい笑顔が毎日見れる事

・子どもたちが園生活を楽しんでくれていること

・子どもの笑顔や喜ぶ姿を見て共感することができる
・子どもたちの笑顔に囲まれている

《経験年数４年以上10年未満》

・子どもの笑顔に出会えること
・子ども達の無邪気な笑顔を見えること
・子どもの笑顔がいつも見れる

《経験年数10年以上》

・子ども達と共にいろいろな体験をする事ができ笑顔が見られた時
・こどもの笑顔、笑い声で嬉しくなる
・子どもの笑顔がいつも自分のすぐそばにあること
・子ども達の笑顔や目の輝きに接する時
・毎日の子どもの笑顔と保護者の笑顔を身近で感じることができる

「子どもの笑顔や楽しい姿を見ることができる」では、経験年数が浅い保育士に多く記述が見られた項目である。子どもが好きで保育の仕事を選んだ保育士にとって比較的喜びを実感しやすい事柄であるとも言える。もちろん、経験年数が増えても、このことを喜びと感じる保育士も多くいることが見てとれる。

④「子どもとの関係」に関する記述

《経験年数３年以下》

・子ども達から“せんせい”と呼んでもらい、頼りにしてくれている
・子ども達が親しんでくれたこと
・大好きな子ども達に先生と名前を呼ばれながらかけ寄ってきてくれた
・子ども達が「せんせ～い」と寄ってきてくれること
・子どもたちが寄ってきて一緒に遊ぼうとしてくれること

《経験年数４年以上10年未満》

・「先生大好き」と言ってくれ信頼関係が築けた時
・子ども達が嬉しい時、悲しい時などそばに来てくれること
・今まで自分のことをなかなか受け入れてくれなかった子が、笑顔を見せてくれたり、話をしてくれたり、受け入れてくれるようになった時
・子どもが自分をたよってきてくれること
・慕って近づいてきてくれること
・子ども達から先生と親しまれて甘えてきてくれること

《経験年数10年以上》

・子ども達や保護者に「先生」と慕われる事
・慣れない（保育園に）子が少しずつ園生活に慣れ、手を出すと自ら保育士の所へ来てくれた時
・子どもたちとの一体感
・子どもが保育園が好きと言ってくれた時
・子どもが自分に心から甘えていること
・子どもたちに「先生大好き」と言われる事

子どもと信頼関係を築くことができたり、子どもに頼られる存在になるなど、子どもと良好な関係を築くことは保育士の業務上遂行すべき事柄であると同時に喜びを感じることができる場面である。前述の子どもの笑顔を見ることができると同様に、経験の浅い保育士にとって、比較的早い時期に経験する喜びの一つであることが推測される。また記述内容から、経験が豊かな保育士にとっても大切な喜びになっていることも伺える。

⑤「子どもと関わることが楽しい」に関する記述

《経験年数３年以下》

・子どもと楽しい時間が過ごせる
・子ども達と関わる時間はとても充実し楽しい
・仕事が（子どもと関わっていること）楽しい
・子どもと関わる事が、保育士になってからの方がより楽しいと感じるようになった
・毎日子どもたちと様々な遊びをするなどの関わりの中で、私自身も楽しい時間を過ごせている

《経験年数４年以上10年未満》

・大好きな子どもと、ずっと真剣に向き合える
・何よりも毎日かわいい子どもたちと楽しく過ごせることが幸せ
・なりたくてなった職業なので、毎日子どもと触れ合えることが幸せに感じる
・子どもにとっての貴重な時間を過ごせることが嬉しい

《経験年数10年以上》

・子ども達と過ごす時間は楽しい！！
・子どもとの関わりの中で、子育てのすばらしさや楽しさを毎日感じていられたこと
・毎日、元気な子どもたちと楽しく過ごせることは幸せです
・子どもが好きなので毎日一緒に過ごし、経験、体験を共にできることがうれしい

・経験を重ねるごとに子どもといる時間が楽しく感じます

経験年数を問わず記述が多かったことからも、子どもと関わることを楽しみとする保育士が多いことが分かる。子どもと関わることを楽しみ、喜びと感じることは保育士の道を選択する動機にもなっており、働き始めても、また働き続けても持続した感情を持ちつづけている様子が伺えるとともに、仕事をする上でも大きな喜びになっている。

⑥「自分自身が笑顔・元気になる・癒される」に関する記述

《経験年数３年以下》

・毎日子ども達の笑顔に触れ、自分も笑顔で働く事が出来る
・子ども達と触れ合う中で、自分自身も元気になれる
・子どもと共に生活出来る事（子どもから夢、元気をもらえる）
・どんな時でも、子どもの元気、笑顔を見る事で励まされる
・子どもの素直な言葉・表情を沢山見ることで「頑張ろう！」と思える

《経験年数４年以上10年未満》

・子どもたちの笑顔に触れ元気をもらえる
・子どもから笑いをたくさんもらっている
・毎日、一日一回以上笑えること
・子どもたちに癒される

《経験年数10年以上》

・悩んでいる事があっても、元気になれます
・日々子ども達と過ごしてエネルギーをもらっている
・子どもたちの笑顔や元気にいやされたり、日々楽しくすごすことができる
・子どもたちの素直な気持ちや笑顔を見ると癒され頑張ろうと思える
・仕事をすることで逆にストレスを発散できること

この項目は、保育者が子どもによって支えられている一面をみることができる。日常の業務のなかで困ったことやつらい事があったとしても、子どもに元気をもらい勇気づけられている様子が伺える。同時に、子どもとともに時間を過ごすことで保育士のモチベーションが上がっている情景が見てとれる。

⑦「自分の育児の参考になる」に関する記述

《経験年数３年以下》

・将来、自分が子育てをする時に勉強になる

・母親になった時のための勉強になる

・発達について勉強でき、自分の子育てにも役立つこと

《経験年数４年以上10年未満》

・自分の育児の見本となった

・０歳児担任になるとこれから産まれてくる子ども（自分の）を育てるヒントがもらえるから

・成長、発達面など母親になっても活かすことのできる知識がつく

・自分に子どもはいないが、今後母になる身として離乳食や育児を含め力になる

《経験年数10年以上》

・赤ちゃんの排泄、ミルク等など（今後に役立つ）子育て

・自分の子どもへの成長過程において、ヒントとなるものを得ることができた

・我が子や孫の子育てに余裕があること

・自分の子どもに対しても様々な学びがある

自分自身に子どもがいても、いなくても、自分の子育てに役立っている、あるいは将来役立つだろうと感じている保育士が多い。

⑧「保護者の感謝・信頼・関係構築・共有」に関する記述

《経験年数３年以下》

・保護者に「ありがとう」と言われた時

・子ども達の成長を身近で感じられること、それを同僚や保護者と喜び合えること

・毎日「ありがとうございました」と保護者から声をかけてもらえる

・保護者にありがとうと言われた時が一番うれしい

・保護者に「保育所に来てよかった」と言われたこと

・保護者から「先生がいて良かった」「任せられる」と言ってもらえた時

・保護者の方に一年を通して「先生らしくなったね！」と言われた時

《経験年数４年以上10年未満》

・保護者が頼りにしてくれる

・保護者からのお礼の言葉、お手紙

・「先生が担任でよかった」と保護者に言ってもらえたこと

・職場を退職する時、保護者の方々にねぎらいの言葉をたくさんいただいたこと

・子どもを通して、保護者、子どもたちとの信頼関係ができること
・保護者が「ありがとうございました」と笑顔が見られる

《経験年数10年以上》

・親から「先生が担任でよかった」と言われた時（自分の頑張りが伝わったと感じた）
・同じ母親として保護者と共感できる部分がある
・子どもや保護者が喜んでくれることがうれしい
・保護者から感謝される機会に恵まれること
・子どもの成長を保護者と一緒に喜びあえること
・子どもの成長を通して保護者に喜んでもらえた時、良かったと思う

自分自身の保育の評価者の一人は保護者である。子どもの保護者から感謝の言葉を受けることは保護者の満足感の表れであり、保育者自身の保育を良く評価していることでもある。子どもとの信頼関係もさることながら保護者との信頼関係を築くことは保育者にとっても重要な役割であり、そのことを達成できた保育士の喜びが伺える。また、先述の「子どもの成長を見ることができる・感じることができる」を保護者とも共有できることが保育者としての喜びを増していることが伺える。

⑨「自分が成長する・した」に関する記述

《経験年数３年以下》

・子どもと共に自分も成長出来る
・普段知ることのできない病気、感染、障害について実際に見て経験できたり学んだりできる。
・人前で何かをすることが苦手でなくなった
・積極的に色々な事に挑戦するようになった
・社会人として、人として成長できること
・色々な人との関わりの中で、自分自身の考えや行動等成長できた
・反省から学ぶことが多く、自分も成長できること
・礼儀をきちんと覚えた
・人の気持ちを考えようとするようになった

《経験年数４年以上10年未満》

・子ども達の成長を通して、自分自身の成長にもなっている
・人間的に大きく成長させてもらっている
・日々、新しい気づきや学びがありどんどん自分が成長できる
・子どもと共に、自分も成長できる、日々学習

・精神的にも肉体的にも強くなれたこと
・職場、保護者、子ども達など、色んな人と出会い交流する中で、自分自身人間として成長していける
・子どものそばにいると小さな季節の変化にも気付くようになり、四季や節句を大切にするようになった
・いろいろな障害の子と接することで、自分でも知ろうと勉強し、知識として自分のものにできたこと

《経験年数10年以上》

・人が人を育てる現場の中で、自分自身も保護者、子ども、同僚から学んでいく事が何年経ってもあり、人として成長していける事
・子どもと触れ合い保護者と関わることで自分の成長にもつながり視野が広がった
・子どもがさらに好きになり、知識も広がることで、いろいろな分野が学べる事
・保護者や地域の人と関わることで、自分の世界が広がり、成長を感じる
・10年以上たち、やっと保育士らしく行動したり、対応したりできるようになったと感じられること
・いろいろな人に出会えることで十人十色なのが人としてあたり前と思え、子育てや人生観にプラスになった
・自分自身を向上・意欲・好奇心をもって生活出来る事、自分を成長させる

多くのことを経験し、その中でたくさんの困難な場面にも遭遇する反面、自分自身が成長していることを実感する保育者が多い。子どもの事や保育に関する知識や技術の向上を始め、人間的にも成長していると感じている。経験年数が多くても自分自身の成長を実感している保育士も多く、常に学ぼう、向上しようとする姿が伺える。

⑩「自分自身の保育の結果・達成感を感じる」に関する記述

《経験年数３年以下》

・保育が上手くいき、子ども達が楽しんでくれたこと
・絵本を読んだり、出し物をした時に、子どもや保護者等が笑顔になってくれた時
・調べていったゲームなどをやってみて「楽しかった！」「もう一回やりたい！」と楽しんでくれた
・行事や目標に向かってやりとげた時の達成感は気持ちがいい
・準備すればその分楽しんでいる姿が見られ手応えを感じられる

《経験年数４年以上10年未満》

・子ども達と行事にむけて取り組みやり遂げた時

・自分の環境の作り方、関わりの工夫で子どもが変化した時の嬉しさを感じられること

・沢山の子どもや保護者と接する事が出来、頑張った分だけ結果が返ってくるところ

・仕事内容は決して楽ではないが、自分がしてきた保育で子ども達の成長が見えたとき

・毎日、子どもの様子が違うので、楽しいし教えた事を覚えてくれると嬉しい

《経験年数10年以上》

・子ども達と一緒に取り組んだことがまとまり、1つの形となった時の達成感を持てた時

・好むパネルシアターや体操を子ども達が喜んでくれること

・行事が終わったとき、作り上げたという喜びを感じる

・自分の計画した活動を子どもが楽しんでいる姿が見れる

・自分によって子ども達をどの様にも育てていく事が出来るということ

保育士が自分自身で保育の結果や達成感を感じることができる場面についての記述である。行事や様々な活動を子どもとともにやり遂げた時の喜びが伺える。また、保育者が試行錯誤して計画立案した活動や関わりによって、子どもが楽しみ、変化することも保育士にとっての大きな喜びになっている。

⑪「充実した日々を過ごすことができる」に関する記述

《経験年数３年以下》

・行事や給食があることで、季節感を感じ、充実した一年を過ごせること

・１日１日充実した生活を送れること

・子どもたち一人ひとりの成長を日々感じ、毎日充実していること

・大変なこともあるけど、日々充実していると感じられる

《経験年数４年以上10年未満》

・小さい頃からずっと育てて卒園させる充実感

・笑ったり、泣いたりと毎日同じ日はなく、とても楽しいこと

・大変と思うことも多いが充実した日々を送っている

《経験年数10年以上》

・毎日がとても充実している

・子どもの人生に関われる充実感が味わえる

・人とつながりあいながら自分は生きているということが実感できるところ

日々の子どもの成長を実感することによる充実感や、長期間に渡って関わった子どもが保育所を巣立つことに喜びや充実感を味わうなど、充実を感じる要因は様々である。日常的に困難を感じる場面も多いが、充実感を実感する場面も多いと感じている様子が伺える。

⑫「いろいろな人との関わり」に関する記述

《経験年数３年以下》

・人に関わる仕事ができる
・子ども達に出合えたこと
・人と関わる事が多いのでいろんな考え方が知れる
・優しい先輩、尊敬できる先輩と一緒に仕事ができていること

《経験年数４年以上10年未満》

・年齢に関係なく、同じ保育士としての仲間ができたこと
・大好きな子ども達に囲まれ、創立者の理念を基に信頼できる施設長、同僚と保育できること
・大好きな子ども、信頼できる上司に恵まれたこと

《経験年数10年以上》

・頼れる先輩や同僚の保育士に出会えたことが幸せです
・素敵な仲間（保育士）にめぐりあうことができた
・たくさんの出会いがあること（子どもたち、保護者、同僚）
・地域の方々や保護者の方々と仕事を通して知り合い、保育を通して地域への貢献ができたこと

経験の浅い保育士は、子どもたちや保護者、同僚・先輩の保育士との関わりに喜びを感じ、経験年数が上がるにつれて地域社会や他の地域の保育者等、関わる人間関係に広がりが見られる。人間が相手の保育士にとって、人との関わりや繋がりは喜びであると同時に、大きな魅力の一つになっている。

⑬「その他」に関する記述

《経験年数３年以下》

・昔からの夢が叶った
・好きな仕事ができている
・得意な分野を発揮できる
・安定している
・給食が食べられる

・子どもの人生の一部に関われる
・規則正しい生活をおくれること
・職場の環境が良い

《経験年数４年以上10年未満》

・自分の夢が叶った
・子どもが「大きくなったら保育園の先生になりたい」と言ってくれたこと
・卒園した子が親しみをもって挨拶をしてくれたとき
・資格を生かし、自分の好きな「子ども」のそばで働けるから
・幼小の頃の夢であり、思いが伝わる時がやりがいを感じています
・自分の得意な面を活かせたこと
・自分自身を活かした仕事ができる
・目標を持って、仕事が出来る所
・デスクワークとは違い、日々違う出来事がありそれを肌で感じられる仕事であること
・毎日手作りの美味しい給食が食べられる
・天職だと思います

《経験年数１０年以上》

・仕事が安定している
・育休などの制度がしっかりしていたので仕事を続けられた事
・自分の持ち味を発揮できる
・自分の得意なことが仕事にいかせる
・季節を感じながら仕事ができる
・園を卒園した後も園外で声をかけてもらい、大きくなった姿を見れる
・長年やってきて子供が親になって、また再会できたこと
・自分の仕事に対して熱くなれるところ
・いつまでも若くいられる
・身体を常に動かしている為、比較的健康に過ごせている事
・自分にあうと思われる“職業”を持って生活できたこと
・自分は足りない所もたくさんあるが、周りの人に支えられていることを実感できること
・子どもたちとのかけがいのない存在になれたりつながりがもてること
・幼い頃からの夢であった保育士になれて、小さい子どもといつまでもかかわり続けることができること

「その他」の記述は上記にある通り、非常に多岐に渡る。仕事として安定していることや、

好きな仕事であること、幼いころからの夢、四季を感じることができる、得意なことを活かせるなど、経験年数に関わらず様々な魅力を感じていることが記述内容から伺える。「天職だと思います」の記述は印象深く、保育士であることの喜びが強く表れている。

「保育になって良かったこと」の記述内容について見てきたが、やりがいや子どもの成長に触れることの喜び、様々な経験や体験を通して自己成長できることなど、保育士の仕事の魅力は多岐に渡り、保育士自身もその喜びの中で仕事をしている様子を伺い知ることができた。前項で「保育士として困っていること」の記述にも見られるように、保育士の業務には様々な困難な場面がある一方、それを補って余るほどの喜びがあることが見て取れた。しかし、反面では一抹の不安を感じる部分もある。それは、「保育士になって良かった」と感じる場面の多くが、子どもの関わりを通した感情や自己達成感といった部分に偏っていることである。違う表現を用いれば、子どもとの関わりを通した喜びや自己達成感、仕事への充実感を見出せなくなった時には、保育士を続ける動機が大きく失われることが推察される。仕事の内容に大きな喜びを見出すことができることはもちろん好ましいことであるが、一時的にでも喜びが失われたとしても働き続けることの動機となる職場環境や処遇の向上といった要件を整備していくことも重要であると感じる。

E．総合的考察

1．本研究で得られた結果

本研究で得られた主な結果は次の通りである。

（1）保育者による業務実態

①保育者が保育に携わっている時間は約７時間である。

ここで言う「保育に携わっている」は、調査票では、「子どもや保護者と接している時間」であるが、主として子どもと接している時間といえる。一日のうち、７時間程度がこの時間であり、一般的な仕事の一日の労働時間が８時間とすると、そのほとんどを子どもと接して過ごしていると言える。

②記録や準備（計画を含む）にかける時間は、それぞれ約30分である。

記録は保育の振り返りであり、子どもの理解を更新する作業である。計画は指導計画の立案や教材研究を含んでおり、翌日への準備である。これらがそれぞれ約30分であった。しかしながら、図Ⅲ－１から図Ⅲ－８に示したように分布を調べると、個人差が大きいこと、特に、保育記録を作成するのにかけた時間に関しては０分、０～20分、20～40分がそれぞれ30％弱、保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材準備を含む）に関しては０分が45％もいることが明らかになった。

③約半数の保育者が持ち帰り業務を遂行している。

持ち帰り「あり」を選んだ保育者は平均51.4％と、過半数であった。内容を書いてもらうと、そのうちの半数の保育者は、計画準備や振り返りを持ち帰り仕事として記述した。

（2）専門性

①担当していない業務もある。

「地域の子育て家庭への支援」と「他の専門機関との連携」の業務は、他の業務と比べて担当していない者が多かった。「保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案」や「子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案」などでは、３年以下の方が10年以上よりも担当していない者が多いなど、業務によっては経験年数による違いがあった。

②実施の程度には、経験年数による違いがある。

４段階評定で、全体としては「ほぼできている（２）」という回答が多かったが、多くの業務では経験年数による差があり、３年以下は他の経験年数よりも、「あまりできていない（３）」が多かった。

（3）満足度

①４段階評定で、全体としては「まあまあ満足している（2）」が多かったが、「保育士としての自分の成長」という項目には「あまり満足していない（3）」が多かった。

②満足度には、経験年数による違いがあり、「現在の勤務体制」「現在の仕事内容」「仕事に対する報酬」「保護者との人間関係」「同僚との人間関係」では、３年以下が他の勤務年数よりも「満足している（1）」が多かった。

（4）意識

①「子どもと過ごす時間の楽しさ」「現在の仕事に対するやりがい」は「とても感じている」が多く、他は「やや感じている」が多い。

②経験による違いがあり、「仕事における自分の持ち味の発揮」「保護者からの信頼」「仕事における肉体的なきつさ」「仕事における精神的なきつさ」は10年以上が最も感じており、「子どもと過ごす時間の楽しさ」は３年以下が最も感じていた。

③今後も保育士として勤務することを考えている者は９割程度であり、その理由として、「仕事の内容」「職場の人間関係」「通勤の便利さ」が満足だからを選んだ者は過半数である。

2．結果の意義

本研究の目的は、今後の保育の施策の方向性や保育士の処遇改善、研修のあり方などに寄与する資料を提供することであった。本研究で得られた結果には、次の６つの意義がある。

（1）保育所保育指針の告示化で業務は変わったかどうかを考えるきっかけ

保育指針の告示化により、保育士の業務に法的な縛りができた。例えば、保育指針の第４章保育の計画及び評価の２．保育内容等の自己評価には次のような記述がある。すなわち、「保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。」という記述がある。この記述は、保育士等が、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返らなければならないこと、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならないことを示すものである。

もちろん法令の文章のため、さまざまな解釈を許すように作られている。例えば、すべてを努力義務（努めなければならない）であると読むこともできる。しかし、その場合でも、少なくとも計画を立てることや振り返ることは「努める」ためのスタートであり、最低限必要である。

本研究の結果、記録の時間は０分の者が25%以上、教材作成（指導案）の時間は０分の者が

45％を超えていることが明らかになった。記録は４人に一人が書く時間を取れていない。計画は45％の者がその時間を確保できていない。

ここで計画や記録を分業して良いかどうかの問題が提起される。もちろん他の保育士が立てた計画や他の保育士が書いた記録を通して、自分の保育実践を振りかえることも、不可能とは言えない。しかしそれが専門性の向上や保育実践の改善につながるかどうか。もしこの手段を執り、専門性の向上や保育実践の改善をめざすならば、打合せや報告の時間を十分に取ることが必要であろう。にもかかわらず、本研究では４割以上の者がその時間が０分であることを示している。保育士個人として、保育所の経営者として、あるいは保育行政に携わる者として、記録や計画にかけるために、必要かつ十分な時間が取れるのかどうかを検討する必要がある。そうすることで初めて、指針の告示化に対応できたことになるのであろう。業務全体を見直す必要がある。

（２）養成教育あるいは現任教育の方向性を示唆

上記のように、記録や計画に十分な時間を取れないという現実があるならば、それらを効率的に行う資質を養うべきである。これは養成教育や現任教育の方向性を示唆するものである。記録を書く訓練や計画を立てる訓練を、養成段階、あるいは現職段階に入れて、それらを積み重ねる必要がある。

勤務実態の調査結果に関係づけるならば、保育者には、高度な時間管理（タイムマネージメント）の資質を十分に養う必要性も示唆される。保育士の業務は複雑で多岐にわたっている。１日８時間という限られた労働時間で、さまざまな業務をこなすためには、時間管理が欠かせない。保育は、対人援助の仕事なので、例えば食事の援助をしながら記録を書くなど、時間を重ねることは困難である。継時的に時間を組み入れるしかない。

なお専門性を調査した本研究の結果からは、指導計画の立案や保育教材の準備、および子どもの発達の把握については、「ほぼできている」という回答が多かった。これらは計画や準備、および記録について、自己評価が高いことを示唆している。時間をかけずにこれらを適切に遂行できるようになってきているのかもしれない。現職段階ではこのような力の確認とさらなる向上（「ほぼできている」から「できている」へ）を、養成段階では必要となる力をつけるための訓練が必要であろう。

ところで半数の保育者は持ち帰り、仕事をしている。計画や教材の準備であればまだしも、記録に関して持ち帰ることは、守秘義務違反につながる。守秘義務を徹底させることも、現職段階、あるいは養成段階で、意識させる必要がある。

（3）「意欲と喜びを持って保育に当たる」程度を測るものさし

保育指針の「第７章　職員の資質向上」「１　職員の資質向上の基本的事項」には、「（３）職員同士の信頼関係とともに、職員と子ども及び職員と保護者との信頼関係を形成していく中で、常に自己研鑽に努め、喜びや意欲を持って保育に当たること」という記述がある。これは、「職員の資質向上に関しては、次の事項に留意して取り組むよう努めなければならない」と書かれた中の（３）なので、留意することに努めさえすれば良いのではあるが、「喜びや意欲を持って保育に当たること」が推奨されているのである。

各保育所の保育士はどの程度意欲や喜びをもっているのであろうか。本研究の結果は、この程度を測るものさしとして使える。本研究では、「子どもと過ごす時間の楽しさ」を「とても感じる」は約７割、「現在の仕事に対するやりがい」を「とても感じる」は約５割であることを示した。各保育所で全ての保育者にまったく同じ尋ね方をした場合、意欲や喜びの程度を比較できる。

（4）保育者が自分を振り返り、将来の目標を考えるきっかけ

保育指針の「第７章　職員の資質向上」「３　職員の研修等」には、「職員は、子どもの保育及び保護者に対する保育に関する指導が適切に行われるように、自己評価に基づく課題等を踏まえ、保育所内外の研修等を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めなければならない」とある。この記述は、一人ひとりの保育士が、自分を振り返り（自己評価)、将来の目標をたて（課題)、研鑽に励む（必要な知識及び技術の修得、維持及び向上）ことに努めることを求めている。

本研究では、保育士の業務実態を出勤時刻と退所時刻を尋ね、園にいた時間を特定し、その時間内でどのような業務にどの程度時間をかけたかを尋ねた。また本研究では、保育士の専門性を、担当しているかどうか、担当している場合、どの程度できているかを尋ねた。同じ尋ね方で各保育士に調査票をつけてもらうと、その保育士は調査結果を基に、自分の業務や専門性を振り返ることができる。

例えば、保育に時間をかけすぎている保育士であれば、記録や教材研究、計画作成などにもっと時間をかける必要があると考えられる。また担当してない業務がある場合は、それが担当できるように資質を高めることも必要であろう。

（5）求人時の応募者の減少や、現職者の離職に対する対策を立てるもと

小野田研究委員が「はじめに」の中で書いたように、求人時の応募者の減少は、多くの保育所が頭を抱える問題である。また本報告書の「Ａ．調査研究の目的」で述べたように、保育士養成協議会の調査によると（2010)、養成校を卒業して保育所に就職した８割以上は辞めたい

と思ったことがあるという回答があったことを報告している。これらの問題は、求人時の応募者の減少や、現職者の離職に対する対策の必要性を指摘するものである。

本研究では、９割程度の者が今後も保育士として勤務することを考えていた。さらにその理由として、過半数の回答者が「仕事の内容」「職場の人間関係」「通勤の便利さ」が満足だからと答えた。

この結果は、上記の対策に役立つ３つの方法を示唆している。①「仕事の内容」「職場の人間関係」「通勤の便利さ」を強調して求人をする、②就職後は、経営者側や管理職側が、職場の人間関係に気を配る、③３つの満足度について、定期的に面談して尋ねる。

（６）保育士の処遇改善を考える材料

ところで以上５つの意義をふまえて、取り組んだ先に来るものが、保育士の処遇改善である。これまでも保育士の処遇改善の必要性を、多くの論者が繰り返し唱えてきた。しかしながらそれには根拠が乏しかった。本研究では保育士の業務実態を明らかにし、満足度や意識を測定するものさしを提案した。処遇改善への確かな一歩を踏み出したと言える。

３．研究としての発展＝応用

これまでは本研究の目的に添って、本研究の結果の社会的意義について考えてきた。これからは、保育に関する研究という視点から、本研究の意義を検討してみたい。研究という視点で見ると、本研究は、次のような応用や発展が可能である。

（１）幼稚園教員や諸外国の保育者との比較研究

本研究では保育士の一日の業務を分析した。その結果、一日約９時間40分程度の間、保育士は保育所におり、その間に30分程度、休憩時間を取り、７時間程度、子どもや保護者に関わり、20〜30分程度、記録、教材作成（計画を含む）、事務的な仕事、掃除や清掃等の整理、および報告や連絡・打合せにそれぞれ使っていることが明らかになった。しかしながら、これらの値が適当な値なのかどうかを判断するためには、同じ保育を行っている者との比較が必要である。

日本には同様に保育を実施する者に、幼稚園教員がいる。現在検討中の新システムの下では、両者はともに総合こども園で保育を実施することになる。現在の幼稚園教員の実態と今回の結果を比較することで、もし違いがあるならば、その違いを是正するようなしくみが求められることになる。

日本だけでなく、世界各地で保育は実施されている。日本の保育者の実態と諸外国の保育者の実態を比較することで、日本の保育者の特徴が明らかになる。弱いところ、優れているところが分かれば、次に現職者はどこに力を入れていくべきか、養成段階の場合はどのような力を

つける必要があるかが明確になる。このような研究の成果は養成や研修に役立つ。

（2）書いている記録や計画の内容の分析

本研究の結果、保育士が記録や計画に費やしている時間は、平均で約30分であることが明らかになった。30分でどの程度のものが書けるのかを検証することが、次の研究につながる。幼稚園や諸外国の記録や計画と比べて、どの程度適切なものが書けているのかについて調べることで、記録や計画の発展や、養成段階の教育方法の改善に資する資料が得られる。

文部科学省（2010）の「幼児理解と評価」では、「幼児理解と評価の考え方」や「よりよい評価を作り出すため」の基本、適切な幼児理解と評価のための「教師の姿勢」、「幼児理解と評価の具体的な方法」、「日常の保育と幼稚園幼児指導要録」、「幼児理解と評価の実践事例」が示されている。例えば、実践事例では、振り返りの重要性が強調され、どのような記録が取られ、それをどのように活かして保育を行っているのかや、指導要録に活かせる記録の取り方の実践例が示されている。このような例と、30分程度で書いている記録の内容を比較すると、よりよい記録を取るために必要な考え方や技術が見えて来るであろう。このような知見は、現職者の研修や養成段階の授業に役立てることが可能である。

（3）経験年数以外の要因の分析

経験年数は変えられない。単に積み重なるだけである。そのため経験年数でこのように変わるからと行って、急にそれを増やすこともできなければ、減らすこともできない。そこで養成や研修、訓練や努力によって、変えられる要因による違いを調べることが望ましい。

変えられる要因であれば、そのような養成や研修、訓練や努力によって、違いを埋めたり、弱いところや強いところを伸ばすことが可能になる。例えば、学歴による違いを調べて、高学歴ほど短時間で適切な内容の記録や計画を書いているという結果が出た場合、リカレント教育のシステムを導入することが適当と考えられる。また例えば、ピアノ技術が高い者ほど、短時間で、適切な教材研究が可能であるという結果が出た場合、ピアノ技術が高い者を採用することも検討できる。経験年数は、分析の始まりに過ぎない。

（4）新たな業務の調査方法の開発

本研究では、業務の実態を調べるために、出勤時刻と退所時刻を尋ね、園にいた時間を特定し、その時間内でどのような業務にどの程度時間をかけたかを尋ねた。業務の遂行状況を調べるには、タイムサンプリング（時間見本法）など、別の方法もある。観察に基づくタイムサンプリングであれば、観察者が必要であろうし、自己申告のタイムサンプリングは、常に子どもが側にいる保育者にとっては正確につけることはかなり困難である。このような状況を鑑みる

と、本研究で実施した方法は、ある程度妥当であろう。

しかしながら、この方法には問題点も考えられる。自己申告に基づくものなので、時間の重なりや散らばりについての情報が正確とは言えない。例えば記録に30分の時間をかけたことになっているが、１時間のお昼寝の合間に同じ部屋で子どもに気を配りながらの30分かもしれないし、その時間は部屋を離れて30分、記録に専念できたのかもしれない。またこの30分は、15分× ２回や10分× ３回に分けられているかもしれない。さらに、指導案を書くのに使った時間でも、思い巡らせていただけで草案が残っていない可能性もある。このような方法上の問題を開発し、正確な時間を算出できれば、その時間内に業務をこなす力を養うことを、研修や養成の目標にできる。

また本研究では、仕事に対する担当の有無、実施の程度、満足度、意識などについても４段階の評定法を用いて調査した。しかしながら４段階では、平均値で見ると差は0.2程度となり、顕著な差とは言いがたい。平均値の比較を重視するならば、６段階などもう少し詳細な段階づくりが必要かもしれない。

４．方法論上の限界

最後に、本研究の２つの限界について述べる。

（１）回答者の選出を、各園に依頼した点

本研究では、全国に散らばる調査対象保育所に、A票（施設)、B－１票（３年以下用)、B－２票（４～10年用)、B－３票（10年以上用）を各１部送付し、回答者の選出は、各園に依頼した。各経験年数で、適切な回答が可能なしっかりした者だけが選ばれた可能性がある。この場合、実際の保育士の業務からすれば、過大評価しているかもしれない。また行事等の業務が忙しい時期だったので、むしろ当該行事の担当者以外に記入を依頼した可能性もある。この場合、当該行事による忙しさは回答に反映されず、全体として過小評価になっているかもしれない。もちろんこのような極端な例が相殺された可能性がないわけではない。しかしながら、このようなさまざまな可能性がある限り、本研究で採用した調査対象者の選出方法には、何らかの限界があるといわざるを得ない。

ではどうすれば望ましいか。それは全国域ではなく、地域や保育所を限定した全数調査が適当であろう。常勤だけでなく、非常勤(フルタイム)や非常勤(パートタイム)も調査することが望ましい。記録や計画などは非常勤であれば、まったく書かないかもしれないからである。このように全員を調べることにより、一人ひとりの保育者に、どの程度の業務があり、その業務にどれだけの時間をかけているのかを精査できる。

（2）1日のデータでしかない点

本研究では、「記入日の前日」として、その1日に、各業務にどの程度時間をかけたかを調査した。しかしながら、まさに1日のデータでしかない。たまたま行事などの前で忙しい日が選ばれた可能性もある。10月という時期も、行事が多かったかもしれない。子どもはある程度落ち着いてきている時期であると推測できるが、逆にそのことが、業務に偏りを生じさせたかもしれない。例えば、一人ひとりの子どもの記録を丁寧に作る時期は、今回得られた結果よりも多くの時間を記録に費やしているのかもしれない。

このように考えるならば、特定期間を区切った調査が必要と考えられる。例えば、通常期、繁忙期などと時期を決め、ある程度の期間、調査を実施することが望ましいであろう。

（西村重稀・清水益治）

資　　料

調査票　A票

B―①票

B―②票

B―③票

自由記述

平成23年度　保育士の実態に関する調査票　　社会福祉法人日本保育協会（東京都渋谷区神宮前5-53-1）

A票〔施設票〕

この調査票では施設全体のことについておたずねします。黒または青のボールペンでご記入ください。

Ⅰ　回答者について

1．該当する職名の番号を○で囲んでください（回答者は、原則、保育所長あるいは主任とします）

1 保育所長　　2 主任保育士　　3 その他（　　）

Ⅱ　貴園の設置状況等について

2．経営主体について、該当する番号を○で囲んでください。

1 市町村などの公営　　2 社会福祉法人運営の民営　　3 その他（　　）

3．貴園の所在地を記入してください。

1 都道府県・指定都市名（　　）　　2 市区名（　　）

3 町村名（　　）

4．施設認可（届出）年を記入してください。

昭和・平成（　　）年

5．児童定員数を記入してください。

児童定員数（　　）人

Ⅲ　平成２３年９月１日現在の在園児数、職員数等について

6．在園児数を記入してください。

年齢	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	合計
人数							

7．職員数（常勤、非常勤、パートなどすべてを含む）を記入してください。

職責	所長	保育士	調理員（栄養士を含む）	看護師	その他	合計
人数						

8．保育士の勤務形態別の人数を記入してください。

勤務形態	正規職員	非正規職員（フルタイム）	非正規職員（パートタイム）	合計
人数				

Ⅳ　貴園における保育の体制について

9．平日の①開所時刻と②閉所時刻、および③開所時間を記入してください。

①開所時刻（24 時間制でお書き下さい）	時	分
②閉所時刻	時	分
③開所時間（②－①）	時間	分

10．ローテーションの体制について

(1)ローテーションの体制を組んでいますか。　　1.はい　　2.いいえ

↓

(2)組んでいる場合は何交代制ですか（上の設問で「1.はい」を選んだ場合のみ）　＿＿＿交代制

↓

(3)最も早出勤務の職員と最も遅出勤務の職員の出勤時刻と退所時刻を記入してください。

	出勤時刻		退所時刻	
①最も**早出**勤務の職員の場合	時	分	時	分
②最も**遅出**勤務の職員の場合	時	分	時	分

11．園内研修について、次の形態（内容）の研修を年に何回行っていますか。

研修の形態（内容）	1 年あたりの回数
①園外講師を招いての研修	
②読書会	
③事例検討会	
④公開保育（園内公開保育を含む）	
⑤その他（内容を具体的に記入してください） ・ ・	

12．貴園で行っている自己評価の方法（自由記述）と第三者評価受審経験の有無を記入してください。

(1)自己評価の方法

(2)第三者評価受審の経験　　1.あり　　2.なし

13．保育の体制や勤務体制等で工夫されている点を記入してください。

・
・
・

ご協力いただき、ありがとうございました。

B－①票〔個票〕

保育所の通算経験年数3年以下の保育士用　（該当者なし）

この調査票は、経験年数３年以下の保育士の方に、勤務実態・専門性・意識等についてお尋ねするものです。黒または青のボールペンで記入してください。回答はすべて統計的に処理した上で、その結果のみを公表します。回答者が特定できるようなデータを公表することはありません。回答後は、同封の無地の茶封筒に入れて、担当者にお渡しください。なお、経験年数による違いを調べるために、すべての経験年数の調査票で共通の表現を用いています。あらかじめご了承ください。

Ⅰ　あなた自身のことについて

1. あなたが担当するクラスを一つ選んで数字を○で囲んでください。
   1. 0歳児クラス　2. 1歳児クラス　3. 2歳児クラス　4. 3歳児クラス
   5. 4歳児クラス　6. 5歳児クラス　7. 混合クラス（＿＿＿＿～＿＿＿＿歳）

2. あなたのクラスでの役割分担　1.リーダー　2.サブリーダー　3.その他

3. あなたの就業（雇用）形態　1.正規職員　2.非正規職員（フルタイム）

4. 保育所保育士の経験年数の通算　＿＿＿＿年＿＿か月

5. あなたの性別　1.男　2.女

6. あなたは過去1年間に外部での研修を何回受けましたか。費用負担別に記入してください。
   なお、ここでの研修1回は、1つのまとまった内容の研修とお考えください。
   保育所負担＿＿＿回　自己負担＿＿＿回

Ⅱ　保育士の勤務実態について

7. 本調査票を記入している日の前日（平日）のあなたの勤務についてお尋ねします。(2)以降の回答は次の頁の回答欄に記入してください。
   (1)前日（平日）の日付と曜日を記入してください。　＿＿＿月＿＿日（＿＿）
   (2)あなたは、何時何分に登園（出勤）されましたか、24時間制で記入してください（①欄）。
   (3)あなたは、何時何分に降園（退所）されましたか。24時間制で記入してください（②欄）。
   (4)園にいた時間は、何時間何分でしたか。②欄から①欄を引いた値を記入してください（③欄）。
   (5)次の業務に携わった時間は、何時間何分でしたか。④から⑪の合計が③欄と同じになるように記入してください。
   ④保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）
   ⑤保育記録を作成するのにかけた時間
   ⑥保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材研究を含む）
   ⑦事務的な仕事にかけた時間
   ⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間
   ⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間
   ⑩休憩時間
   ⑪その他の内容にかけた時間（具体的な内容を以下に記入してください）。
   （　　）

(6)いわゆる「持ち帰り」をするなど、帰宅後、あるいは出勤前に、保育に関する仕事をされましたか。された場合、その仕事の内容と所要時間を記入してください。

＜回答欄＞

（2）登園（出勤した）時刻	①	時	分
（3）降園（退所した）時刻	②	時	分
（4）園にいた時間（②－①）	③	時間	分

（5）各業務に携わった時間

④保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）	時間	分
⑤保育記録を作成するのにかけた時間	時間	分
⑥保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材研究を含む）	時間	分
⑦事務的な仕事にかけた時間	時間	分
⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間	時間	分
⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間	時間	分
⑩休憩時間	時間	分
⑪その他の内容にかけた時間	時間	分
合計（③と同じにしてください）	時間	分

同じになるようにしてください

（6）帰宅後、あるいは出勤前に行った仕事

1．あり（その内容と所要時間を以下に記入してください。）　2．なし

仕事の内容	所要時間	
	時間	分
	時間	分
	時間	分
	時間	分
	時間	分
合計	時間	分

8．昨年度のあなたの年次有給休暇（持ち越し日数を含む）は何日でしたか（①）。またそれを昨年度1年間で何日使いましたか（②）

①年次有給休暇の取得日数＿＿＿日　　②使用日数＿＿＿日

Ⅲ　保育士の専門性について

9. 以下の保育士の業務について、どの程度実施できていると思いますか？該当するものに○をしてください。

	できている	ほぼできている	あまりできていない	できていない	担当していない
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	1	2	3	4	5
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	1	2	3	4	5
③子どもの一人ひとりの発達の把握	1	2	3	4	5
④保育室の整理整頓	1	2	3	4	5
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	1	2	3	4	5
⑥保育教材の準備	1	2	3	4	5
⑦家庭との連携	1	2	3	4	5
⑧他の保育士との連携	1	2	3	4	5
⑨園長など上司への適切な報告や相談	1	2	3	4	5
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	1	2	3	4	5
⑪他の専門機関との連携	1	2	3	4	5
⑫地域の子育て家庭への支援	1	2	3	4	5

Ⅳ　満足度・意識について

10. 以下の項目について、どの程度あなたは満足していますか。該当するものに○をしてください。

	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない
①現在の勤務体制	1	2	3	4
②現在の仕事内容	1	2	3	4
③現在の仕事に対する報酬(給与)	1	2	3	4
④保護者との人間関係	1	2	3	4
⑤同僚との人間関係	1	2	3	4
⑥上司との人間関係	1	2	3	4
⑦保育士としての自分の成長	1	2	3	4
⑧自分がかかわった子どもに対する保育	1	2	3	4

11. 以下の内容を、どの程度あなたは感じていますか。該当するものに○をしてください。

	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	まったく感じない
①現在の仕事に対するやりがい	1	2	3	4
②子どもと過ごす時間の楽しさ	1	2	3	4
③保護者からの信頼	1	2	3	4
④仕事における自分の持ち味の発揮	1	2	3	4
⑤仕事における肉体的なきつさ	1	2	3	4
⑥仕事における精神的なきつさ	1	2	3	4

12. 保育士として働いていて困っていることは何ですか。箇条書きで記入してください。

・
・
・

13. あなたは保育士になって良かったことは何ですか。箇条書きで記入してください。

・
・
・

14. あなたは、今後も保育士として勤務することを考えておられますか。「はい」または「いいえ」のどちらかに○をつけた後、その理由について該当するものすべてに○をつけて下さい(複数回答可)。

1.はい ↓		2.いいえ ↓
満足だから	理由	不満だから
	①給与	
	②休暇	
	③労働時間	
	④仕事の内容	
	⑤雇用形態	
	⑥職場の人間関係	
	⑦福利厚生	
	⑧職場の将来性	
	⑨通勤の便利さ	
	⑩研修の充実	
	⑪保育の理念・方針	
	⑫人材育成の雰囲気	

ご協力いただき、ありがとうございました。

B－②票〔個票〕 保育所の通算経験年数4年以上10年未満の保育士用　（該当者なし）

この調査票は、**経験年数4年以上10年未満**の保育士の方に、勤務実態・専門性・意識等についてお尋ねするものです。**黒または青のボールペン**で記入してください。回答はすべて統計的に処理した上で、その結果のみを公表します。回答者が特定できるようなデータを公表することはありません。回答後は、同封の無地の茶封筒に入れて、担当者にお渡しください。なお、経験年数による違いを調べるために、すべての経験年数の調査票で共通の表現を用いています。あらかじめご了承ください。

Ⅰ　あなた自身のことについて

1. あなたが担当するクラスを一つ選んで数字を○で囲んでください。
   1. 0歳児クラス　2. 1歳児クラス　3. 2歳児クラス　4. 3歳児クラス
   5. 4歳児クラス　6. 5歳児クラス　7. 混合クラス(＿＿＿＿～＿＿＿＿歳)

2. あなたのクラスでの役割分担　1.リーダー　2.サブリーダー　3.その他

3. あなたの就業(雇用)形態　1.正規職員　2.非正規職員(フルタイム)

4. 保育所保育士の経験年数の通算　＿＿＿＿年＿＿＿＿か月

5. あなたの性別　1.男　2.女

6. あなたは過去1年間に外部での研修を何回受けましたか。費用負担別に記入してください。
   なお、ここでの研修1回は、1つのまとまった内容の研修とお考えください。
   保育所負担＿＿＿＿回　自己負担＿＿＿＿回

Ⅱ　保育士の勤務実態について

7. 本調査票を記入している日の前日(平日)のあなたの勤務についてお尋ねします。(2)以降の回答は次の頁の回答欄に記入してください。
   (1)前日(平日)の日付と曜日を記入してください。　＿＿＿＿月＿＿＿＿日(＿＿＿＿)
   (2)あなたは、何時何分に登園(出勤)されましたか、24時間制で記入してください(①欄)。
   (3)あなたは、何時何分に降園(退所)されましたか。24時間制で記入してください(②欄)。
   (4)園にいた時間は、何時間何分でしたか。②欄から①欄を引いた値を記入してください(③欄)。
   (5)次の業務に携わった時間は、何時間何分でしたか。④から⑪の合計が③欄と同じになるように記入してください。
   ④保育の時間(子どもや保護者とかかわっていた時間)
   ⑤保育記録を作成するのにかけた時間
   ⑥保育教材を作成するのにかけた時間(指導計画の作成、教材研究を含む)
   ⑦事務的な仕事にかけた時間
   ⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間
   ⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間
   ⑩休憩時間
   ⑪その他の内容にかけた時間(具体的な内容を以下に記入してください)。
   (　　)

(6)いわゆる「持ち帰り」をするなど、帰宅後、あるいは出勤前に、保育に関する仕事をされましたか。された場合、その仕事の内容と所要時間を記入してください。

＜回答欄＞

（2）登園（出勤した）時刻	①	時	分
（3）降園（退所した）時刻	②	時	分
（4）園にいた時間（②－①）	③	時間	分

（5）各業務に携わった時間

④保育の時間（子どもや保護者とかかわっていた時間）	時間	分
⑤保育記録を作成するのにかけた時間	時間	分
⑥保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材研究を含む）	時間	分
⑦事務的な仕事にかけた時間	時間	分
⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間	時間	分
⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間	時間	分
⑩休憩時間	時間	分
⑪その他の内容にかけた時間	時間	分
合計（③と同じにしてください）	時間	分

同じになるようにしてください

（6）帰宅後、あるいは出勤前に行った仕事

1．あり（その内容と所要時間を以下に記入してください。）　　2．なし

仕事の内容	所要時間	
	時間	分
	時間	分
	時間	分
	時間	分
	時間	分
合計	時間	分

8．昨年度のあなたの年次有給休暇（持ち越し日数を含む）は何日でしたか（①）。またそれを昨年度1年間で何日使いましたか（②）

①年次有給休暇の取得日数＿＿＿日　　②使用日数＿＿＿日

Ⅲ　保育士の専門性について

9. 以下の保育士の業務について、どの程度実施できていると思いますか？該当するものに○をしてください。

	できている	ほぼできている	あまりできていない	できていない	担当していない
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	1	2	3	4	5
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	1	2	3	4	5
③子どもの一人ひとりの発達の把握	1	2	3	4	5
④保育室の整理整頓	1	2	3	4	5
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	1	2	3	4	5
⑥保育教材の準備	1	2	3	4	5
⑦家庭との連携	1	2	3	4	5
⑧他の保育士との連携	1	2	3	4	5
⑨園長など上司への適切な報告や相談	1	2	3	4	5
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	1	2	3	4	5
⑪他の専門機関との連携	1	2	3	4	5
⑫地域の子育て家庭への支援	1	2	3	4	5

Ⅳ　満足度・意識について

10. 以下の項目について、どの程度あなたは満足していますか。該当するものに○をしてください。

	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない
①現在の勤務体制	1	2	3	4
②現在の仕事内容	1	2	3	4
③現在の仕事に対する報酬(給与)	1	2	3	4
④保護者との人間関係	1	2	3	4
⑤同僚との人間関係	1	2	3	4
⑥上司との人間関係	1	2	3	4
⑦保育士としての自分の成長	1	2	3	4
⑧自分がかかわった子どもに対する保育	1	2	3	4

11. 以下の内容を、どの程度あなたは感じていますか。該当するものに○をしてください。

	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	まったく感じない
①現在の仕事に対するやりがい	1	2	3	4
②子どもと過ごす時間の楽しさ	1	2	3	4
③保護者からの信頼	1	2	3	4
④仕事における自分の持ち味の発揮	1	2	3	4
⑤仕事における肉体的なきつさ	1	2	3	4
⑥仕事における精神的なきつさ	1	2	3	4

12. 保育士として働いていて困っていることは何ですか。箇条書きで記入してください。

・
・
・

13. あなたは保育士になって良かったことは何ですか。箇条書きで記入してください。

・
・
・

14. あなたは、今後も保育士として勤務することを考えておられますか。「はい」または「いいえ」のどちらかに○をつけた後、その理由について該当するものすべてに○をつけて下さい(複数回答可)。

1.はい ↓　　2.いいえ ↓

満足だから	理由	不満だから
	①給与	
	②休暇	
	③労働時間	
	④仕事の内容	
	⑤雇用形態	
	⑥職場の人間関係	
	⑦福利厚生	
	⑧職場の将来性	
	⑨通勤の便利さ	
	⑩研修の充実	
	⑪保育の理念・方針	
	⑫人材育成の雰囲気	

ご協力いただき、ありがとうございました。

B－③票〔個票〕

保育所の通算経験年数 10 年以上の保育士用　（該当者なし）

この調査票は、**経験年数 10 年以上**の保育士の方に、勤務実態・専門性・意識等についてお尋ねするものです。**黒または青のボールペン**で記入してください。回答はすべて統計的に処理した上で、その結果のみを公表します。回答者が特定できるようなデータを公表することはありません。回答後は、同封の無地の茶封筒に入れて、担当者にお渡しください。なお、経験年数による違いを調べるために、すべての経験年数の調査票で共通の表現を用いています。あらかじめご了承ください。

Ⅰ　あなた自身のことについて

1. あなたが担当するクラスを一つ選んで数字を○で囲んでください。
   1. 0歳児クラス　2. 1歳児クラス　3. 2歳児クラス　4. 3歳児クラス
   5. 4歳児クラス　6. 5歳児クラス　7. 混合クラス(＿＿＿＿～＿＿＿＿歳)

2. あなたのクラスでの役割分担　1.リーダー　2.サブリーダー　3.その他

3. あなたの就業(雇用)形態　1.正規職員　2.非正規職員(フルタイム)

4. 保育所保育士の経験年数の通算　＿＿＿＿年＿＿か月

5. あなたの性別　1.男　2.女

6. あなたは過去1年間に外部での研修を何回受けましたか。費用負担別に記入してください。
   なお、ここでの研修1回は、1つのまとまった内容の研修とお考えください。
   保育所負担＿＿＿回　自己負担＿＿＿回

Ⅱ　保育士の勤務実態について

7. 本調査票を記入している日の前日(平日)のあなたの勤務についてお尋ねします。(2)以降の回答は次の頁の回答欄に記入してください。
   (1)前日(平日)の日付と曜日を記入してください。　＿＿＿＿月＿＿＿日(＿＿)
   (2)あなたは、何時何分に登園(出勤)されましたか、24 時間制で記入してください(①欄)。
   (3)あなたは、何時何分に降園(退所)されましたか。24 時間制で記入してください(②欄)。
   (4)園にいた時間は、何時間何分でしたか。②欄から①欄を引いた値を記入してください(③欄)。
   (5)次の業務に携わった時間は、何時間何分でしたか。④から⑪の合計が③欄と同じになるように記入してください。
   ④保育の時間(子どもや保護者とかかわっていた時間)
   ⑤保育記録を作成するのにかけた時間
   ⑥保育教材を作成するのにかけた時間(指導計画の作成、教材研究を含む)
   ⑦事務的な仕事にかけた時間
   ⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間
   ⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間
   ⑩休憩時間
   ⑪その他の内容にかけた時間(具体的な内容を以下に記入してください)。
   (　　)

(6)いわゆる「持ち帰り」をするなど、帰宅後、あるいは出勤前に、保育に関する仕事をされましたか。された場合、その仕事の内容と所要時間を記入してください。

＜回答欄＞

（2）登園（出勤した）時刻	①	時	分
（3）降園（退所した）時刻	②	時	分
（4）園にいた時間（②－①）	③	時間	分

（5）各業務に携わった時間

④保育の時間(子どもや保護者とかかわっていた時間)	時間	分
⑤保育記録を作成するのにかけた時間	時間	分
⑥保育教材を作成するのにかけた時間（指導計画の作成、教材研究を含む）	時間	分
⑦事務的な仕事にかけた時間	時間	分
⑧保育所内の掃除や整理にかけた時間	時間	分
⑨会議・打ち合わせ・報告等にかけた時間	時間	分
⑩休憩時間	時間	分
⑪その他の内容にかけた時間	時間	分
合計（③と同じにしてください）	時間	分

同じになるようにしてください

（6）帰宅後、あるいは出勤前に行った仕事

1．あり（その内容と所要時間を以下に記入してください。）　2．なし

仕事の内容	所要時間	
	時間	分
	時間	分
	時間	分
	時間	分
	時間	分
合計	時間	分

8．昨年度のあなたの年次有給休暇（持ち越し日数を含む）は何日でしたか（①）。またそれを昨年度1年間で何日使いましたか（②）

①年次有給休暇の取得日数＿＿＿日　　②使用日数＿＿＿日

Ⅲ　保育士の専門性について

9. 以下の保育士の業務について、どの程度実施できていると思いますか？該当するものに○をしてください。

	できている	ほぼできている	あまりできていない	できていない	担当していない
①保育所の保育方針に合わせた指導計画の立案	1	2	3	4	5
②子どもの姿や季節に合わせた指導計画の立案	1	2	3	4	5
③子どもの一人ひとりの発達の把握	1	2	3	4	5
④保育室の整理整頓	1	2	3	4	5
⑤季節に合わせた保育室などの環境整備	1	2	3	4	5
⑥保育教材の準備	1	2	3	4	5
⑦家庭との連携	1	2	3	4	5
⑧他の保育士との連携	1	2	3	4	5
⑨園長など上司への適切な報告や相談	1	2	3	4	5
⑩栄養士や看護師など他の専門職との連携	1	2	3	4	5
⑪他の専門機関との連携	1	2	3	4	5
⑫地域の子育て家庭への支援	1	2	3	4	5

Ⅳ　満足度・意識について

10. 以下の項目について、どの程度あなたは満足していますか。該当するものに○をしてください。

	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない
①現在の勤務体制	1	2	3	4
②現在の仕事内容	1	2	3	4
③現在の仕事に対する報酬(給与)	1	2	3	4
④保護者との人間関係	1	2	3	4
⑤同僚との人間関係	1	2	3	4
⑥上司との人間関係	1	2	3	4
⑦保育士としての自分の成長	1	2	3	4
⑧自分がかかわった子どもに対する保育	1	2	3	4

11. 以下の内容を、どの程度あなたは感じていますか。該当するものに○をしてください。

	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	まったく感じない
①現在の仕事に対するやりがい	1	2	3	4
②子どもと過ごす時間の楽しさ	1	2	3	4
③保護者からの信頼	1	2	3	4
④仕事における自分の持ち味の発揮	1	2	3	4
⑤仕事における肉体的なきつさ	1	2	3	4
⑥仕事における精神的なきつさ	1	2	3	4

12. 保育士として働いていて困っていることは何ですか。箇条書きで記入してください。

・
・
・

13. あなたは保育士になって良かったことは何ですか。箇条書きで記入してください。

・
・
・

14. あなたは、今後も保育士として勤務することを考えておられますか。「はい」または「いいえ」のどちらかに○をつけた後、その理由について該当するものすべてに○をつけて下さい(複数回答可)。

1.はい ↓　　2.いいえ ↓

満足だから	理由	不満だから
	①給与	
	②休暇	
	③労働時間	
	④仕事の内容	
	⑤雇用形態	
	⑥職場の人間関係	
	⑦福利厚生	
	⑧職場の将来性	
	⑨通勤の便利さ	
	⑩研修の充実	
	⑪保育の理念・方針	
	⑫人材育成の雰囲気	

ご協力いただき、ありがとうございました。

自由記述

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・新・保育所保育指針より養護と教育の体化 ・自己評価検討他	・職員一人ひとりが自己評価書にチェック ・保護者にアンケート実施 ・保育園の自己評価を評価書にそって実施			・カリキュラムの立案、記入	・職場での人間関係 ・いかに配慮、気遣いができるか	・子どもと楽しい時間が過ごせる ・子どもの成長を感じることができる
	公営		・自己評価シートを作成後、配布、各自自己評価				・人手不足 ・資材が少ない ・給料が少ない ・働く時間が長い	・やりがいがある ・子どもの成長を見るのが楽しい ・毎日笑って過ごせる
	公営	・職員会議にて報告、話し合い						
	公営			・ローテーションは未満児・幼児が重ならないようにしている			・親への対応、クレームなど困る	・子どもと楽しい思い出ができる
	公営				・子どものおたより帳書き	・指導計画の作成	・年齢の近い同僚がいないため、気軽に相談できる人が職場にいない ・保護者との関わり方 ・給与の低さ	・子どもの成長を間近で感じることができる ・毎日子ども達の笑顔に触れ、自分も笑顔で働く事が出来る ・将来、自分が子育てする時に勉強になる

※ここで「４～10年」とは調査票Ｂ－②「４年以上10年未満」の意です。

４～10年※				10年以上			
Ⅱ－7－⑪	Ⅱ－(6)-1	Ⅳ－12	Ⅳ－13	Ⅱ－7－⑪	Ⅱ－(6)-1	Ⅳ－12	Ⅳ－13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・保育に入る前の準備、日誌・回覧などに目を通す、予定の確認		・長時間、子どもを抱いて動く事が多く、腰などが痛くなる ・体調の悪い時もあまり簡単に休めず、肉体的にきついと感じることがある	・日々大変なことがあっても子どもと触れ合う事で癒され頑張ることができる ・子どもが成長していく姿を見る事が面白いし、やりがいを感じる	・着替え、おしぼり準備等	・カリキュラム作成 ・オムツマットの作成	・意志の疎通が難しい父母が増えてきている ・若い保育士を育てるのが難しい ・家に持ち帰る仕事が増えている ・事務量がとても多い！	・色々な人と触れ合える
						・自分以外の保育士が正規職員ではないので…働きにくい	・仕事が安定している
						・事務時間がない	・やりがいが感じられる
		・正職と非正規職員の差。仕事内容はほぼ一緒なのに区別する部分、賃金の差もひどすぎる	・子どもの成長を感動したりやりがいを感じること			・保育所の民間委託が進み、安心して働き続けられる職場がなくなってきている ・職員の雇用形態が違う為、職場内で格差を感じ非常に働きにくい	・子どもの成長を間近で見守ることができる事
	・発表会の製作物	・給与が安いところ ・男性が少ないところ	・子ども達の笑顔が見れること			・発達障害を持つ子への対応 ・自己中心的な保護者への対応 ・自分の体力面	・子どもの成長が感じられ、やりがいがある ・保護者からの感謝 ・子どもと過ごす時間が楽しい

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・カリキュラム検討・食育 ・保育課程見直し ・事例研究	・毎月評価を書いてもらい、会議の時自分で発表し対の保育士と話し合う機会を毎月					
	民営		・四半期ごとに自己評価、年度末に全体を通して評価表に記入	・事務時間（30分間）を確保している ・パート職員を配置する事で事務時間と休憩時間が確保されている			・スキル ・言葉がけ	・子どもの笑顔や成長がみられる ・専門学校で勉強していないことも学べる
	財団法人		・自己評価表を園で作成。年間目標を各自で決め､前期、後期、年間の自己評価をする｡その都度、園長、主任が評価をする	・各クラス担任、勤務体制では、新人や経験年数が浅い保育士だけにならないようにしています ・行事や月ごとのリーダーなど、新人保育士にも責任ある仕事を経験させる		・個人記録の作成	・病気やケガをした際に瞬時に対応できていない ・子どもとの関わり方がこの時は本当にこれでいいのかと、不安になる時がある	・将来の子育てにある程度は困らないと思う ・子どもが昔から好きなので、毎日関わり、成長を見られるのが楽しい ・昔からの夢が叶った
	民営		・日案に反省も含めて評価記入している ・職員会議で発表	・出来るだけギリギリまで未満児・以上児別々の保育を行い、延長保育へつなげている				・担当した子や保育園の子の成長を見られること
	民営		・自己チェックリスト（世界文化社）を利用 ・当法人業務マニュアル	・4h パートを1カ 月12日を加配し、職員の事務時間等に活用している		・日誌下書き ・連絡カード下書き	・十分な睡眠がとれないこと ・時間がないこと	・子どもと過ごす時間が楽しいこと ・子どもとのやり取りで新しい発見があること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・給料が少なく生活が苦しい	・子どもたちの成長を見てやりがいを感じられることが多いから ・年齢によって発達のちがいを見れて充実しているため			・保護者への対応の難しさ	・子どもの成長過程を学べ関わることができる ・子どもの成長の保護者共に喜び合える事ができた
	・発表会の練習の小道具作	・人間関係（職場） ・親との関係 ・自分の経験不足	・子どもの成長を感じる時 ・保護者から信頼の言葉をもらった時 ・自分の進めていた事が成功した時		・カリキュラム反省	・常に元気で笑顔でいること（たまに疲れると親から指摘があるの ・行動や日々に追われ、一年があっという間に終わる ・プライベートでも外で会ったら	・子どもたちのかわいい姿、成長の姿、たくさん見られて嬉しい ・親から信頼され、何年たっても（卒園しても）そのきずなが強いこと ・大変だけれど毎日楽しいと思えること
	・月案、週案の作成	・年々、体力的にきつくなってきている（腰痛などを含め）	・１年を通して四季をとても感じられる ・大きな行事等、達成感をとても感じられる ・子ども達の成長に喜びを感じる ・子ども達の笑顔に日々癒される			・今は保育士というより事務の方が多くなってきている ・身体をこわした	・子どもといると落ち着く ・今のところは職が無くなることがない
	・事務的な仕事	・仕事量と給与が合わない ・事務時間が足りない	・子どもの笑顔、成長していく姿がみれること ・やりがいのある仕事		・週案	・事務仕事の量が多いにも関わらず職場では出来ないので家に持ち込むこと	・やりがいがあり常に元気でいられること
・子どもの姿の確認や今後の関わり等の話し合い	・連絡帳記入 ・おたより作成 ・クラス状況報告作成	・母親の悩みや不安に適切に答えられているかどうか ・子どもの目線に立つ事の難しさ（～になって欲しいという気持ちが強くなってしまうこと） ・時間に追われてしまっている事	・子どもの成長を目の当たりに見られる事 ・子どもと笑顔で関われる事		・おたより書き他	・様々な主張をする親への対応	・子どもの成長を感じられた時

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・年２回～３回園長と個別で話合い					・運動会や発表会など行事を通して、感動を得られること ・かわいい笑顔が毎日みられる事
	民営	・「これからの保育を考える」「新保育指針」についてなどを研修	・保育課程に基づき各自反省をし、それをもとに保育課程を検討するなどの方法で行っている	・０歳児保育については、その成長状態に応じて細やかな対応を行っている				・子どもの成長を間近で見られる ・子どもと共に自分も成長出来る
	公設民営		・自己評価票にて年４回、自己評価を行っている		・新入園児の準備、文化際のお遊戯の内容		・行事の前など仕事が多くて、残業しないと終わらないこと（ほぼ毎日サービス残業なこと） ・プライベートのときでも、いつどこで保護者と子どもに会うかわからないから気が抜けないこと	・自分のクラスの子どもがなついてくれて笑顔をたくさん見られること ・大変だけど、子どもの成長が感じられるし、親から感謝されること ・やりがいがあるから、頑張ろうと思えること
	民営	・社協研修参加、他 ・法人内の自主研修参加	・補助職員には年１回 ・常勤職員は年２回の自己評価表に基づき評価をしてもらっている ・統計をとり、評価の低い所に対しての対応について検討し会議等で職員にフィードバックしている	・施設長を配置することにより法人としての保育の体制整備に努めている点 ・フリー保育士を配置することにより、時差勤務における保育のカバーを行っている点 ・全保育士を対象にした自己評価を行うようにした点 ・感染防止に対する予防策に力を入れている			・給料が少ない ・落ち着かない子どもへの対応の仕方	・子どもの成長を見られること ・人と関わる事が多いのでいろんな考え方が知れる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・月案作成、週案作成		・成長していく姿、ともに一緒に過ごせること ・子どもたちの笑顔 ・「先生大好き」と言ってくれ信頼関係が築けた時		・おたより作成 ・週案作成 ・発表会衣装作り		・子どもの成長を間近で見られ、自分が母親になった時に役立つのかなとおもうこと
			・子どもの成長を他の保育士や保護者と喜び合える			・待遇改善等全く無く、仕事内容がどんどん増える事(最低基準を見直して欲しい)	・子ども達と楽しい時間を見つけられる事、多くの方々と知りあえた事
	・文化祭の内容を考えた	・腰が痛い時がある	・子どもの成長を感じられる		・ピアノの練習	・民間委託になり、お掃除の方が一日ではなく３時間しか来ない為、その部分を保育士が補うのだが、保育の仕事以外にも時間や労力がとられ負担である	・子どもとのふれあいが楽しく日々成長を見守ることができること
	・研修報告の作成	・現在の保育所に異動して半年、子どもと保護者との信頼関係の難しさ ・職場の人間関係	・子ども達の成長が感じられた時		・保育所内研修会の資料作成	・様々な家庭があり、保育所や保育士に求められるニーズが多様、複雑になっている事 ・正規職員での採用が少なく、非正規職員が辞めたり、転職したり、人材が育ちにくい事 ・子ども達が安全に過ごせる事が第一であるが、けがや苦情を恐れ活動を制限してしまう事がある	・子どもの成長を身近に感じ、保護者と一緒に共感出来た時の喜び

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・２者１択	・過疎により保育士を探す為苦労している		・お遊戯会の縫物	・持ち帰りの仕事が多い ・書類が多い	・親と子どものコミュニケーションの取り方と知れる ・子どもの発達段階について知れる ・普段知れない病気の事や、感染、障害について実際に見て経験できたり学んだりできる
	民営	・研修報告会（３回） ・リズム・歌などの学習会 ・年齢発達の学習会	・６カ月ごとに記入し提出、三段階で自己の評価 ・月案の反省時に簡単な自己評価を記入する				・保育が社会的、福祉的立場でどうあるべきなのか…、位置づけがわからないです	・子どもの成長を感じられたとき
	民営	・生花、習字、鼓隊、食育、わらべうた、カリキュラムなど		・行事のリーダーになった際は遅い時間の勤務からはずしたりなどの配慮をしています ・複数担当のクラスは勤務が固まらずどの時間にも一人は担当がいるよう勤務づくりをしています	・お遊戯会の衣装準備 ・個人記録の作成	・職場の人間関係 ・ピアノが上手く弾けない ・子どもをうまくまとめられない	・いろいろな人との関わりがもてた ・社会人として保育士としての知識の幅が広がり始めた ・子どもが自分を頼りにしてくれた	
	公営		・自己評価のチェックリストによる					
	民営	・リスクマネジメント委員会（６委員会）				・出勤前、保育室の清掃、換気		・子どもの成長を毎日見られる事 ・子どもが自分の事を慕ってくれているのを感じた時 ・保護者に感謝された時

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・専門職としての資格の意味が国の方でなくしてきている（資格がなくても良いという様になってきている事） ・人を育てていく仕事だかたこそ、今度の技術を学び知識を学んで来た資格をもった人が適切だと思う	・人が人を育てる現場の中で、自分自身も保護者、子ども、同僚から学んでいく事が何年だってもあり、人として成長していける事 ・この仕事が好きだから楽しい！！
						・給料や手当てが安いこと ・休みの日も持ち帰りの仕事をしなければならないこと	・子どもたちから学ぶ、自分自身の姿を知れるところ ・子どもたちがたくさん感動をくれる
	・お遊戯会、衣装作り		・子ども達の成長を感じられる		・衣装作り	・保護者に伝えたいことをうまく伝えられない時がある	・子ども達の成長に関わることができる
	・書類の作成 ・保育の準備	・ピアノ演奏のレベルアップの為、練習は続けているが限界を感じることもある ・人を相手にする仕事から、ミスや失敗等からひどく落ち込んでしまう	・子どもが「大きくなったら保育園の先生になりたい」と言ってくれたこと ・児童福祉の分野でたくさん学べることがある				

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・週１回（金曜日)、夕方30分～１時間「リズムとうた」の研修をしている	・１年に一回年度末に実施	・早番の補助にパート保育士を朝２時間雇用している ・クラスの主担任を４週８休～１日８時間勤務（週40時間労働として） ・クラスの副担任を４週４休～１日６時間40分勤務（週40時間労働として） ・延長保育担当２人のうち１人 を11：30～19：10（週40時 間） の固定勤務としている		・保育記録を作成 ・ピアノの練習	・子どもの成長を保障出来る保育をすることが出来ているか不安になる ・体力面や精神面で辛さを感じる ・自分がやることに対して反感を持たれる時	・子どもの成長を身近に感じることができる ・子どもに頼ってもらえること
	民営		・第三者評価を受けた中で自己評価に取り組み、報告書を受け取る	・保護者のニーズ、特別保育事業に配慮して対応しています				・子ども達の成果を間近で感じることができ、自分も一緒に成長していける ・子ども達から学ぶこともたくさんあり、様々な発見がある ・子ども達と関わる時間はとても充実し楽しい
	民営	・研修報告	・福祉サービス内容評価基準ガイドラインによる自己評価実施				・子どもをまとめることができな ・子どもの気持ちをわかってあげられないときがある	・子どもの笑顔を見た時、嬉しそうな時 ・子どもと何かを一緒になしとげた時 ・保護者に「ありがとう」と言われた時
	民営	・描画・粘土・製作など保育に関わる事	・第三者評価基準に基づくチェックリスト					

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育記録の作成 ・雑巾縫い	・書類（月案、週案、日誌案等）が細く時間がかかる、持ち帰りが多い ・若手を育てていこうとしない、悪いところばかり見ている雰囲気	・かわいい子どもたちと生活できること ・小さい頃からずっと育てて卒園させる充実 ・自分が母になった時に成長の把握などで役立つこと	・書類作成、本を読む		・園の方針をなかなか実行できず（勉強不足）	・小さい頃の育ちがどれくらい重要かが分かった
	・作成準備 ・月類書類	・有給が使いにくい状況にあり、受診などで時短がなくなっている ・父兄と保育者との様々な面についての共通理解が難しい ・自分の保育感と違う思いを持っている保育士への接し方	・「先生が担任でよかった」と保護者に言ってもらえたこと ・乳児からの成長を誰よりもそばで見守ることが出来る ・自分が持っている感性を子ども達にも伝えていけること		・作成物の準備	・自分が子育てをしながら仕事をし、思うようにリフレッシュ出来る有給休暇がとれない（子どもの病気以外で）	・自分がやってあげることに対しての子ども達の反応や笑顔を見た時 ・子育ての中の親子育てについて共感出来た事 ・親から「先生が担任でよかった」と言われた時（自分の頑張りが伝わったと感じた）
・次の日が運動会の為準備、担当競技の手直し等		・持ち帰りの仕事（ONとOFFがあいまい） ・有給がなかなか取れない	・子どもの成長を間近で見られる ・保護者や子どもからの言葉 ・保健的なものがしっかりとあるのでよい（福利厚生）		・運動会の準備	・自分の子育て経験がないため、保護者への説得力がない	・笑って過ごせることが多い ・子どもたちの成長していく姿が見れる ・自分で子育てするときに生かせるような気がする
		・仕事量の多さ ・時間がない	・子どもと接するのが楽しい ・将来役に立ちそう				

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・保育士各自の指導計画の自己評価と子どもの評価及び自分の年間の反省、評価を出し合い皆で読み解き評価、反省、改善につなげている					
	民営		・各自のチェックシートによる採点式(0、1、3、5)	・小さな定員規模には小さな定員規模なりの長所を活かすこと。例えば全職員が全園児・全家庭の環境を把握し、保育に臨むこと（クラス担任は自分のクラスのことに終わらない）		・行事制作の下準備	・自分の子どもの行事に参加出来ない行事もある（お互いの行事が重なるため）	・子どもから元気のパワーをもらえる ・研修があるため勉強になることが多々ある
	民営	・発達障害児支援研修	・チェックリストを作成し、年に一度自由記述にて実施している			・指導計画の作成	・言葉がけの難しさ	・子どもの成長をそばで感じることができる ・様々な感情を子どもと共有できること
	民営		・年に2回、保育総合研究会出版の新保育所保育指針に基づく自己チェックリスト100を使って行い、評価を園内研修で見つめ直し、次年の事業計画に反映させている	・なるべく平等になるよう個への負担を平均的にしている ・無理のない保育が出来るようパート職員を配置している				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育日誌の記入 ・保育教材の準備	・労働時間内で仕事（事務的なことを含む）が終わらない	・日々の子どもの成長を密に感じることができる ・子育て中の友達にアドバイスができる			・たくさんの知識や専門的な目標が日々新しくなったり、増えたりするので、学んでいかなければならないことが多い ・人間関係	・子ども達の成長をおうちの方と共に見守り、喜びあえること
・トイレ、手洗い、うがい、仕事をはじめる前の準備（エプロンをつけるとか）	・月案の作成	・保護者にうまく子どもの様子を伝えきれてない気がする ・上司と保育に対する考え方が違う ・保護者からクレームなどはないが信頼や深いつながりは築けていない気がする	・１年目の時に副担だった子たちを３才児、年長でと主担としてクラスを持つことができ、無事に卒園させることができたこと ・年長をもったことによって、この仕事のやりがいに気付いた ・子どもたちと楽しく過ごるせる、子どもがかわいいと感じる			・延長時間があること	・これからの時代の子どもたちと関わり、たくさんの笑顔と接することができたこと ・自分の子どもへの成長過程において、ヒントとなるものが得ることができた
	・作成物 ・記録等	・次々行事があり、アイディアを考えたり、持ち帰りも多くなりON、0FFがつきにくい	・子ども達の成長を間近で見れること		・不審者対策訓練の準備	・パソコンが主流になってきている中、使いこなせない ・腰痛がある	・子どもの笑顔に癒される ・悩んでいる事があっても、元気になれます
	・台帳 ・おたより ・カリキュラム ・会議記録	・子どもたちがまだ小さく急に体調を崩してしまうことがある ・書類等、勤務時間内に終えられないものを自宅でやる際、育児が終わった夜遅くが休みの日に家族に協力してもらはないとできないこと	・子どもと関われる仕事であること ・季節をきちんと感じられる職業だと思う				・乳幼児の成長の一瞬一瞬にたちあうことができる

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ−2	Ⅳ−11−⑤	Ⅳ−12(1)	Ⅳ−13	Ⅱ−7−⑪	Ⅱ−(6)-1	Ⅳ−12	Ⅳ−13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・伝達研修（所外研修の伝達） ・OGARE（保育研修会）	・新保育所保育指針に基づくチェックリスト100 ・健康安全を維持するためのチェックリスト等を利用し自己の評価を年２回以上行っている	・勤務体制を組む際、以上児、２歳未満児の担任入れ替えをし、保育士としての技術のかたよりを防ぎながら、オールマイティに動ける保育士の育成を図っている		・次回行う製作の下準備		・毎日が充実している ・子ども達と共に成長できている ・人前で何かをすることが苦手でなくなった
	民営		・年２回自己評価表を利用し個々に記入してもらいます。その後施設長よりアドバイス又は面談の資料として使っています			・保育に必要な物の準備	・保護者との信頼関係	・子供達の成長を見たり感じた時 ・保護者との信頼関係を持てた時
	民営	・DVD視　聴、乳幼児安全法実技訓練 ・ヒヤリ、ハット、自己防止策の検討　等	・自己チェックリスト表を活用し、年３回振り返りを行う	・病後児保育の急な申込への柔軟な対応を行う ・休日保育勤務の振り替え、公休との重複を避ける ・園児の人数に合わせた職員配置を行う		・未満児用午前おやつの準備 ・実習生実習記録の添削	・製作の準備や装飾など帰宅後やらなければならない仕事も多いということ	・子どもの成長を間近でみらえること ・子育てに関する知識等得られること
	公営		・独自の様式を使用し、保育の振り返り（自己評価）を記録し、毎月１回発表し合ってします			・製作の準備（教材発表）	・子どもへの関わり方で上手くいかない時 ・保護者との信頼関係づくり	・子ども達が親しんでくれたこと ・子どもの成長を間近で感じられたこと ・保育が上手くいき、子ども達が楽しんでくれたこと

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
					・子どもの作品の整理整頓 ・保育計画作成 ・保育記録	・実質、家庭で仕事をしないと成り立たない仕事量があること	・子どもたちと触れ合ってたのしい ・人としての基本を改めて学ぶことが多いこと
	・製作		・育児も役立つ(勉強になることが多い) ・子ども達の成長を近くで見て、手助けができること		・製作などの仕上げ等		・子ども達の成長を共に共感し保育できる事 ・卒園してからもＯＢなどで交流があり、成長が見れてうれしい
	・子ども製作の準備	・家庭に持って帰ってくる仕事が多く、休日も何かしらやることが多い	・子どもの成長を間近で見ることができる ・子どもから学ぶことがたくさんある			・自分より年上の先生があまりおらず、保育を学びたくても学べない(自分に技術がたりない) ・保護者に対して、伝えたいことをうまく伝えられない ・ケガが心配で思いきり保育できなかったり心配しすぎてしまう	・子どもたちとすごすこと、笑顔でいられる ・子ども達と季節の移り変わりを共に感じられる、また気付かせてもらえる ・素敵な仲間(保育士)にめぐりあうことができた
	・遊戯の振り付けを考える ・参観日の日案作成 ・遊戯披露会場(ステージ)の下見	・困った際には、その都度教えて下さったり、支えて下さる上司、先輩、同僚がいるので、現時点で困っていることはありません	・子どもの成長を間近で見守り、喜びを共有することができる ・こちらの言葉がけや関わりで、子どもが成長する姿をみることができる		・祖父母参加についてのデイリープログラムを書く		・子ども達と一緒に取り組んだことがまとまり、１つの形となった時の達成感を持てた時 ・成長する姿を日々関わっていく中で、目にし感動できること ・毎日が変化あり他の仕事では味わえないやりがいのある仕事と思う

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・子どもの活動や状態に対する評価と保育士自身の保育や援助環境設定等に対する評価を総合的に判断し、年間の評価する			・事務	・保護者とのかかわり方 ・事務整理の時間が少ない	・子どもの成長を見る事ができる ・いろいろな人とのかかわりがある
	公営	・保育課程の見直し ・運営方針の検討	・保育内容自己評価チェックによる	・臨時保育士を活用しながら、常時２名以上の保育士数を確保している				
	民営		・年度末に各自反省しまとめたものを園長に提出をしている	・乳児は担任間でのみでローテーションし、子ども、保護者の対応に配慮している ・各クラス担任、グループリーダーなどが経験年数の浅い保育士に指導しながらできるよう配置 ・一日の動きを全員で把握できるよう、主任、リーダーを中心に計画をたて確認できるようにしている		・日誌記入、書類記入	・退勤後や休日も持ち帰り仕事が多く、大変な時がある ・家庭との連携	・得意な分野を発揮できる ・自分自身も成長できる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・現在３歳児20人を１人で受け持っている。最低基準20：１の基準内であるが正直手がまわらず大変である（支援を必要とする子も２人いる） ・自分の保育室に朝７時～夜７時までずっと子どもがいる（いのこり部屋の為）夕方１時間のみ空くが、夕方の保育当番になるとその時間もない、事務や掃除がままならず、忙しくて休憩時間もとれない、日誌、指導案は持ち帰りにならざるお得ない	・子どもの成長が目に見えてわかること ・成長の喜びを子どもや保護者とわかちあえること
	・個性観察記録	・個別の保育と集団保育のバランス ・気になる子への対応	・子どもと過ごすことが楽しい ・１年間の成長をふりかえった時 ・保護者から「先生で良かった」と言われたこと		・園だより作成	・体力の低下 ・保護者との意思の疎通の難しさ	・一人ひとりの成長を感じることができる ・人間関係が広がった ・物事を前向きに考える事ができる
	・保育記録、計画 ・教材研究	・持ち帰りの仕事や時期によって更に事務的な仕事が増え、時間に余裕が持たなくなる ・職員の入れかわりが激しいこと	・子どもの成長が感じられたとき ・保護者の方と子どもの成長を共有できたとき ・卒園した子が親しみをもって挨拶をしてくれたとき		・書類整理	・職場の人間関係 ・書類の多さ ・帰ってからも仕事に追われる	・子どもと一緒にいれることが楽しい ・子どもの成長を親と共に喜び合えるところ

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ−2	Ⅳ−11−⑤	Ⅳ−12(1)	Ⅳ−13	Ⅱ−7−⑪	Ⅱ−(6)-1	Ⅳ−12	Ⅳ−13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・食育計画（祖父母、小学生も一緒に野菜作り、収穫野菜でクッキング）	・市販のチェックリストを利用し行っている	・一年間の勤務表を作 ・休暇の所にはフリー保育士が対 ・保護者の対応、ニーズによりできるだけ対応できるよう心がけている			・保護者との関わり方	・大好きな子ども達に先生と名前を呼ばれながらかけ寄ってきてくれた
	民営		・全国社会福祉協議会発行の「第三者評価基準の解釈と運用について」を参考にしながら園独自で行ってみている試行中・検討中というレベルである	・保育士は基準定数より２名程度多く配置 ・掃除、保育の片付け､洗濯、庭の手入れ、畑の仕事等を担当する職員を５名保育補助員として雇用し、保育士の労働軽減をはかる ・パート職員、臨時職員の何人かでフレックス勤務制があり、時間により職員人数の調整を行う		・ポスター作り	・人間関係（上司との） ・帰りたくとも帰りづらい雰囲気 ・他の保育士との意思疎通ができないこと	・保護者に感謝されたこと（保育や行事を通して） ・子ども達が「せんせ〜い」と寄ってきてくれること ・子どもの成長をみれたこと
	民営							
	民営	・月１回研究テーマに沿って園内研修をしている	・年２回決まった様式に記入している	・各クラスなるべく複数担任制をとっている ・時間差出勤なので、人数に合わせて他のクラス担任が、保育士が少ないところに入りサポートしている ・勤務時間が重ならないよう当番は平等になるよう工夫して振り分けている		・保育記録の作成	・地元なのでよく知り合い（保護者も含）に会う	・積極的に色々な事に挑戦するようになった ・自分の興味や趣味の幅を広げることができた

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・週案	・保護者との連携	・子どもとのふれ合い、成長を感じること		・保育記録（児童表）	・勤務体制がきつい、持ち帰りの仕事が多 ・保護者が保育園まかせが多い	
	・日誌			・クラス編成変更のため、保育室の配置変え	・保育日誌・指導計画記入	・上司との人間関係 ・園の行事が多く、行事の規模も大きいため、休日出勤保育をぬけて準備をしなければいけないこと ・子どもの人数に対しての保育士の人数が不足しているままで保育をしなければいけない日があること	・子どもの成長を感じれらる事 ・卒園児の活躍を知りうれしくなる
	・会議のメモ書きの清書	・保護者との信頼関係作りについて			・会議のメモ書きの清書		
	・保育記録	・子どもの増加に伴う、居残り保育児の増加 ・子どもの増加に伴い、保育室が狭く感じる ・人間関係の問題	・様々な人との出会いがある ・保護者と子どもの成長を喜びあえる ・職場探しの心配をしなくてもよいこと		・保育教材作成		

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・外部で受けた研修の内容により、園内で復命をしてもらいながら研修	・各クラスの保育日誌に自己評価の欄を設け、そこに記入					
	公営	・体力づくりについて ・救命救急講習	・所長と主任で評価項目を決め、それについて各自で記入したり、職員のパート毎に相談して記入してもらう、それについて職員会議で話し合い共通認識を持つ			・指導計画立案（下書き）	・責任の重大さ、事務書類の多さ等で、精神的に時間的に余裕のもてなくなる時がある	・子ども達と触れ合う中で、自分自身も元気になれる ・子ども達の成長を見ることができ、やりがいを感じる
	公営		・年度途中チェックリストの活用と話し合い ・年間反省の中での項目に分かれた自己評価を行っている		・遠足下見	・ＯＪＴ研修の感想記入 ・次の日の活動のおさらい	・それぞれの子どもの特性に合わせて保育する難しさを感じる ・細やかな配慮すべき点についてまだまだ気付いていけていない	・子どもの笑顔がみれること ・子どもの成長がみれること
	公営		・自己評価チェックリストを作成し、実際に使用してみて内容を検討	・それぞれの時間帯に児童数に対する保育士数を必要数配置する		・運動会、演技図作 ・保育所だより作成	・保護者とのコミュニケーション（日々のの世間話などあまりできない）について ・臨時職員等との連携を図ることの難しさ ・忙しさに追われ満足いく保育ができていないということ	・子どもの成長の瞬間に日々立ち会えること様子を実感できること ・自分のクラスの子どもたちと深く関わり信頼関係を築いていけること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・運動会の準備		・腰痛等、体の不調 ・病院、銀行等がなあなか行けな ・金銭的に余裕がなく一人暮らし、自立が難しい	・子どもの成長を見る事ができうれしく思う		・復命書の作成 ・行事の資料作成		
		・事務量の多さ ・体のきつさ（肩こり）	・子どもに接する楽しさをとても感じ、自分も笑顔ですごせること ・変化の大きい時期に成長を肌で感じられること ・自分の環境の作り方、関わりの工夫で子どもが変化した時の嬉しさを感じられること（保護者もとても喜んでくれた時）		・保育教材準備 ・保育事務 ・保育教材準備	・忙しすぎる、休むひまがない ・家事、子育てが思うようにできない、おろそかになっている ・休みの日も日ごとの事を考えたり仕事をしてしまう	・やりがいがある ・子どもの成長にかかわれる事が楽しい ・学ぶ事が楽しい
					・保育教材準備 ・事務整理		・人格形成、成長発達の援助ができること ・保育を通じて社会情勢を知り、社会に貢献できること
	・保育教材の作成		・資格を生かし、自分の好きな「子ども」のそばで働けるから ・子ども達のたくさんの笑顔に会える		・勤務表（シフト）作成	・年齢を感じ、身体がきついことがある（腰痛等） ・子どもから目を離せないため事務の時間がない	・子どもたち成長にかかわることができる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・幼小連絡会 ・幼児施設(町)ケース会（次年度に向けて・保健師参加による）	・町の三保育所で様式を統一し、各自記入し、所長へ提出する（反省点を見出し次へつなげていく）	・正職より臨職の人数が多くなり細目な打ち合わせを行っている ・所長、主任２名が事務的な量が多くそれぞれの役割をしっかり受け止め対応している ・子どもの健康面には特に気をつけ登所、降所時、伝達をしっかりするようにノート等を用いてもれがないようにしてい ・朝の会を毎日10分間行い、本日の連絡を全員に行き届くように行っている※その他色々ありますが、4点程度にします				
	㈱	・ヒヤリハット、ケガ報告／研修報告 ・合同研修会（系列園）等	・毎月１回、保育、保護者対応、職員間連携等について記述式の書類提出 ・年２回、自己評価チェックリスト記入			・児童票要点まとめ ・壁面選び	・４月から加配で保育を行い、代替があまり入ってくれない ・２年目の負担が大きい	・子どもの成長が見れた瞬間 ・絵本を読んだり、出し物をした時に、子どもや保護者等が笑顔になってくれた時
	民営	園長が講師になって、保育課程や安全管理マニュアルについても行っています	・年２回保育士、給食担当者で保育、給食のまとめを方針、目標にそって行い、管理部がそれらをまとめて、保育園としての自己評価を行っている。保護者へのアンケート調査も行い、自己評価に反映させています	・保育時間が長いお子さんが多いため、細かい交代制だけでは対応できないので、朝と夕方のパート保育士を入れています	・運動会準備	・運動会準備	・生活が苦しい ・子どもとの関係に行き詰ってしまうとき	・子どもの成長を直に感じることができる ・自分自身を見つめ直すことができる ・子どもに必要とされ幸せを感じる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・大好きな子ども達と関われる ・子ども達の成長の援助ができる		・教材準備	・障害児が増えてきているのに対し、環境（人的も含む）が整っていない ・十人十色でその対応に苦慮するところがある（特に保護者） ・仕事長が勤務時間内に終えられないことがある	・日々、子どもの可能性や成長が感じられる ・同じ母親として保護者と共感できる部分がある ・色々なる子どもや保護者地域の方と出会い、私自身が成長できる
	・週案作成	・保護者対応 ・行事への取り組み	・子どもの成長を感じた時 ・子ども達と笑っている時間 ・保護者も含めて沢山の人達との関わり		・運動会用書類作成 ・クラスだより作成	・保護者対応の難しさ ・後輩の指導の難しさ ・持ち帰りの仕事	・幼い頃からの夢を叶えられた ・子どもの成長を見守りつつ自分も成長していける
		・私生活と仕事の区切りがつかない（つけにくい、家でも明日の事を考えたり仕事したりなので） ・経済的な面、仕事内容に対しての給料に不満を感じている			・保育教材を作成する ・保育記録	・勤務体制 ・上司にうまく伝えることが難しい（言いたい事があっても言えない）	・子どもの（大人も）色んな気持ちがわかるようになった（言葉を出さない子どもたちも含め）それがすごく大切なことだと学べた

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	財団法人	・フロアー会議（クラス別担当者会議） ・所内研修（全職員参加テーマ別会議）	・月、週日案に自己評価を記述している	・研修・会議は午後6時過ぎから実施し時間外手当で対応している ・職員の休暇や出張時はフリー保育士、パート保育士をあてています ・どうしても保育に穴があきそうな時は60歳で退職した保育士に保育を依頼しています		・保育教材の作成	・行事などの保育教材の作成や出し物など若い先生が担当することがほとんどで負担が大きい ・有給をとりづらい	・子どもの成長をそばで日々感じることができる ・子どもとの関わりが楽しい
	民営	・放射能について ・シルクマネジメントについて	・園独自の評価方法で自己(本人)、上司、同僚からの評価を総合して行う	・補充の保育士をなかなか集められず、工夫できない		・事務的な仕事	・家での仕事が多い時もあるので、将来結婚して家庭を持った時仕事と家庭の両立ができるのか不安に思う ・短大時代奨学金を借りていたので今の給与では生活がきついです	・毎日大好きな子どもたちと一緒に過ごせること ・日々子どもたちの成長を感じることができ、とてもやりがいを感じること
	公営		・チェックリストを使って、年度途中、年度末、年2回自己評価を行っている	・子どもの登、降所、人数に合わせて職員の勤務体制を柔軟に行っている			・それぞれに保育観があるためチームで保育することに難しさを感じる	・様々な面で自分も成長できる
	公営		・一年のうちで、保育の区切りとなる9月を自己評価の時期として選んで行っている前期、後期（2回） ・臨時職員5Hの有資格者はもちろん、無資格の職員にも行っている ・自己評価としての今後の自分の課題（結果反省）を会議にて話し合っている	・早朝や夕方の保育室を子どもの人数や子どもの年齢によって、変えたりしている（保育の体制） ・臨時職員は7H勤務のため、5Hの職員（臨時）を早番、遅番としている				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育教材の作成	・年齢とともに体力的にきつくなってきて保育の内容がマンネリ化していきている ・保護者からの過剰な期待	・子どもの成長を感じられること ・輝くひとみ、大いなる希望がみられること		・保育記録	・気になる子どもがいるが集団をまとめながらの保育の難しさを感じ ・所内での掲示板やおたよりの作成、行事の製作物など若い保育士に全て任せられ、仕事量が多い	・子どもの成長が見られる ・子どもならではのはそうや予想外の考えなどに驚いたり喜んだりできる
	・日誌書く ・月案考える	・家庭もあるので両立が難しい ・職場だけでは時間が足りず、家に持ち込んで仕事する場合が多い	・保育が楽しいと感じながら働けること		・日誌 ・次の日の準備	・モンスターペアレンツ的な保護者が時々すごい	・子どもたちと一緒に成長できること
	・保育記録を作成	・保護者のニーズにこたえられない時	・子ども達の反応や成長を実感する時		・指導計画(月)見直し、作成 ・指導計画案作成（行事） ・個人記録整理	・心身共に疲れている	・子どもと過ごす時間が楽しい
		・時間が足りない ・書き物が大変、負担すぎ ・休憩時間もない	・仕事が楽しい（子どもと接している時間） ・良くも悪くも一期一会 ・子どもとの出会い ・人との出会い			・仕事内容（書き物が多すぎる）	・子ども達の成長している側で一緒に感じられること

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・食育について ・指導計画指導案について	・園独自の自己評価を年２回しています	・平等になるよう、回数を検討している（早番、遅番）				
	民営	・そのテーマに添った継続研修	・チェックリストで自己評価	・子どもの登降園の実情に合わせて職員配置を行っている			・書類の書き方が難しい ・保育などに対してアイデアが出てこない	・毎日子どもたちと一緒にいることができる ・母親になった時のための勉強になる ・子どもたちの笑った顔を見ると元気になれる
	民営	・園外研修報告	・評価表にチェック ・反省、話し合い	・未満児、以上児の組み合わせ、正職、非正規職員の組み合わせ、バランス			・病気などの知識の少なさ ・持ち帰ってやる仕事が多い	・子どもの成長を身近で見守れること ・子どもとの触れ合い ・保護者と子どもの成長を一緒に喜べること
	民営		・毎年、毎月の計画、週の計画に保育についての自己評価 ・個人の毎月の自己評価 ・年（個人）の自己評価	・保育士を基準以上としている（採用） ・パート保育士に説明し、納得を得て、時間の調整を図ることがある			・その日その日の保育をすることが精一杯で、翌日の下準備や書き物、諸々の仕事が勤務時間内ではできず、家庭に持ち帰ることが多くなること ・時代の変化からか子ども以上に保護者への対応が難しくなってきていると感じる事（本当の子育て支援とは何なのか…） ・病気を沢山する時期なのでその対応	・子どもの貴重な成長を毎日見れ、喜んだり、笑顔になれること ・沢山体を動かしたり、声を出して笑えることが多いこと ・行事や給食があることで、季節感を感じ、充実した一年を過ごせること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・保育士間の連携に必要な担当児の情報交換、共通理解の確認など		・保護者との価値観の差による、保育のあり方の違いを感じる ・子どもにとって良い方向性を保護者に伝えられないこと	・子どものひとつひとつの成長に関わっていけること ・子どもと触れ合いながら心から楽しんだり、悩んだり、共に成長できること			・親とのコミュニケーションがうまくとれないとき ・専門の相談を受けてほしい子の親にうまく進めていけないこと	・楽しく仕事ができ笑顔でいられること ・子どもたち一人ひとりの成長を感じられること
	・児童表の確認	・気になる子どもの保護者への対応	・子どもたちの成長を側で見届けられること			・他の職員との意識の違いなどがある	・沢山の子ども達、保護者との出会い
	・バースデーカード作り ・月案	・不安感の強い保護者とのコミュニケーションの取り方 ・腰の調子がよくないこと	・好きな子どもと毎日一緒にいられること ・子どもや保護者と接する中で、人として大切なことを学んだこと ・毎日大笑いできること	・連絡ノート等	・バースデーカード作り	・保護者との意見の相違 ・世間の保育士に対しての評価の低さ ・保育の通常業務に加え、書きものの多さと忙しさ	・子どもの成長（様々な）を共に喜びあえる ・慕ってくれるうれしさ
	・指導案作成 ・書類整理 ・議事録の記入		・毎日違った子どもの姿に出会えること		・個人記録（出勤前） ・個人記録（出勤後）	・就業時間内は子どもと関わりが目が離せない為、持ち帰り仕事になってしまう ・勉強することや書き物がたくさんあり、家でも気が休まらない	・子ども達の成長に触れることができ、喜びややりがいがある ・子どもからの信頼

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・年度末に行っている	・以上児クラスや未満児クラスの職員がかたよって不在時間を作らないようにしている			・音楽全般	・子ども達と触れ合える
	民営	・日誌、児童票を基にした記録のとり方、子どもの見方、捉え方について	・各々チェックリストに基づいたり、日々の保育の振り返りを行い、保育の質の向上の為、職員相互の共通理解を図る	・年令別保育にこだわらず異年齢混合保育等を行い、子ども相互の関わりを深めるようにしている ・合築施設D.S.の利用者との交流を持ち、人間関係の視野を広げるようにしている				・子どもと共に生活が出来る事（子どもから夢、元気をもらえる）
	公設民営	・子どもが主体的に遊べる環境づくりと適切な援助の仕方	・チェックリスト保育士篇、園長篇	・保育士の時間外勤務を減らす為、3名のパートを16時～19時まで頼んでいる			・平日休みがあまりないため、通院などが困難だということ ・休日外出する際、保護者や子ども、同僚に失礼な姿を見せないよう常に気遣わなければいけないこと ・流行りの病気や感染症にいつも気を付けなければいけないこと	・子どもとの信頼関係が日に日に築かれていき、自分を頼りにしてくれていると感じることができること ・優しい先輩、尊敬できる先輩と一緒に仕事ができていること ・毎日充実していること
	公営	・公立保育園合同研修 ・公立民間立保育園合同研修	・能力評価を行っている	・交代制なので伝達をしっかりする		・保育教材作り	・保護者との関わり方 ・正職と臨時の人間関係	・やりがいがある ・毎日が楽しい ・社会人として保育士として多くのことを学べる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・上司との関係 ・複数担任（３人）で内１人は持ち上がりだが、未だに子どもたちが落ち着かずケガも多い ・ピアノ	・子ども達の成長を近くで見れること ・子ども達が嬉しい時、悲しい時などそばに来てくれること		・月案の作成	・仕事内容や研修が多い ・勤務時間内に仕事が終わることができない ・行事が年々増えている	・子ども達の日々の成長を間近にみられるころ ・自分の子育ての勉強になる
							・日々子どもの成長に接することができる
・保育前の準備や身支度	・書類に目をとおす ・事務的な仕事	・勤務先の行事と子どもの園の行事が重なることが多い ・残業や持ち帰りが多い	・子育ての悩みを相談できる人がたくさんいる		・保育計画の作成	・書きもの等は、勤務時間内ではできない事が多く、家に持ち帰って仕事をしていること	・子ども達と過ごす時間は楽しい！！
		・自分の保育技術をもっともっと向上させたい	・この仕事にとてもやりがいを感じているため ・周りの人間関係にも恵まれていてとても楽しく仕事できているため		・運動会について ・遠外保育（シルエットについて）	・保護者ニーズに対応すること ・子ども側にたって、保護者に対応する困難さ ・人員不足による保育と事務の負担	・子どもの成長を見ることができる ・子どもと共に保育を計画し、つくり上げていくこと ・保護者と子どもとの成長を喜び合えること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・臨床心理士巡回訪問（春・秋2回ずつ）	・市立（法人も含）保育園、保護者会連合会で毎年アンケートをとっている。施設設備や安全面、保育等々について、率直な意見が出されるので参考にしている	・発達支援の必要な子ども（アスペルガー）が夜眠れないため、ロザレム錠を服用。園では午睡をさせない為、その間職員が交替で保育。職員の休み、休憩、会議、外部研修等々と様々重なる様工夫が必要。日々時間調整をし確認している		・週案作成	・腰痛	・やりがい ・なりたい職業
	民営		・毎年、自己目標を設定し年度末に自己評価をする	・低年齢が多いので朝の時間（7：30）夕方の時間（18：30）には必ず担任がいるように子ども達が不安にならないように、朝夕の合同保育を避け、夕方 の6：00以降しているから一カ所の保育室で合同にしている				
	民営	・幼児への水泳指導法を学ぶ		・年齢別保育を主体としながらも、異年齢保育に取り組んでいる ・5パターンの勤務体制になっている、正職と臨採、経験年数等を配慮してペアを組んでいる				・子どもの成長を一番近くで感じられること ・子どもたちとの信頼関係ができて笑顔を見せてもらえること
	公営		・新保育所保育指針に基づく自己チェックリスト100を用いて三段階に評価している			・保育所だより、原稿作り	・困っていることはないが、自分に合っているのかどうか不安になることがある	・子どもたちの成長を見たり新しい気付きがあったり楽しいと感じられること ・人前に出たり話したりすることに少しずつ抵抗がなくなったこと

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育教材の作成	・手のかかる子どもが増えていて対応に困るときがある ・時間におわれて仕事をしていて気持ちの余裕があまり持てない ・勤務時間内で終わらず、家庭に持ち帰る仕事が多い	・子どもの成長を間近で見ることができやりがいがある ・行事や保育内容から季節を感じることができる ・日々、新しい気づきや学びがありどんどん自分が成長できる			・早朝・延長保育のための、早番遅番勤務と家庭の都合のやりくりが大変	・専門職として奥が深く、おもしろいやりがいがあること ・子どもが自分を頼りにしてくれること、笑顔 ・自分が心をつくして関わったことで、子どもや保護者が良い方向へ向いてくれたこと
					・総括パソコン打ち ・壁面装飾作り	・持ち帰り仕事が多いこと ・腰痛	・好きなことを仕事に持てること ・保育している子の成長を目の当たりにした時のやりがい
		・仕事を家に持ちこまないと消化できない	・子育てにかかわらず様々な分野の情報を得られること ・年齢に関係なく、同じ保育士としての仲間ができたこと		・クラスだより ・部会ノート作成	・職員間の連携、共通理解 ・リーダーとしての役割	・子どもと過ごす時間が楽しい ・やりがいがある ・子どもの成長が見られることがうれしい
			・子どもの成長 ・仕事としてのやりがいときびしさを知った ・専門職としておもい				・子どもと共に過ごせること ・思いを共有できたこと

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営					・行事の準備	・自分の時間がない	・とてもやりがいがあるし楽しい
	公営	・幼保小、合同研修、県南で研修会、自主研修 ・郡山地区研修会 ・幼児教育検討会 ・障がい児保育研修（カウンセリング事業） ・所内研修（6回）		・勤務体制については児童の登所、降所時間のデータによりローテーションの見直しを行うようにしている ・朝、夕、保護者とのコミュニケーション連絡事項を伝えやすくするよう、早めにクラス別、保育が可能になるよう工夫している（保育所と保護者の連携を図る工夫）			・保護者との信頼関係 ・日々の保育	・子ども達の笑顔が毎日みれる ・保護者に「ありがとう」と言われたこと ・行事後の達成感
	公営	・研修報告 ・研修に参加した職員が職員会議などで報告し伝達していく	・自己評価を各年齢により設け、それにそって各担当が記述し、全体で話し合っている	・片寄らないよう平等にすることに心がけている				
	公営							

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・個別計画作成	・職員同士の人間関係 ・子どもと一緒に過ごす時間が長いので、事務仕事が保育所内であまりできない	・子どもの成長を身近に感じる事ができるやりがいのある仕事		・日誌	・保育を理論で裏付けして立証していくことが苦手であること	・子どもの成長を喜びとして感じること
	・保育教材作成	・保護者への伝え方	・子どもの成長を感じられる ・子ども達の笑顔が見られる		・保育教材作成	・保護者との共通理解が難しい事	・子どもの成長、発達が見られた時
						・年齢による肉体疲労	・毎日が新しい発見で楽しい
		・保護者とのコミュニケーション	・子ども達と同じ事を感じられる喜び				

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・ビデオ等での接遇研修	・混合保育：所長もクラス担任の数に入っているので時間を効率良く使うようにしている ・早番遅番を職員だけではできないので保育パートを使用している					
	民営		・年２回自己評価実施及び面談１回実施	・合同保育も未満児のみ又は以上児のみ行ったり、18：00以降は全クラス合同となっている			・給料的に安い（民間の保育所は似通っている）	・子ども達の成長が目に見えるのでとても嬉しいと思う
	民営	・保護者からのアンケート結果を分析する研修 ・怪我などの原因・改善について話し合う	・保育評価表、人事考課を定期的に実施し、管理者との面談で評価している	・２人の主任保育士で未満児クラス統括、以上児クラス統括で質の向上を図る取り組みをしている		・児童表作成	・からだ（腰痛）に不安を感じるようになってきた	・子どもの成長が感じられた時
	民営	・保育所保育指針の勉強会 ・各種マニュアルの勉強会	・福島県福祉サービス第三者評価用自己評価	・保育の役割分担制				・子どもの成長過程に関われて日々の成長を身近に感じられる喜び ・自分自身、今後の子育ての勉強になる。又、先輩方から社会性、人間性を学ぶことができた。 ・子どもから学ばせられる事も多く、子どもの身近にいる者として、どうあるべきか考えさせられる。

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・震災があっても市の対応が不十分で保育がかなり不便である ・日々の保育が精いっぱいで月案、児童票、製作物を作る時間がない ・人員配置が厳しく職員が大変な思いで働いている	・日々、子どもの成長に関われること ・楽しい毎日が送れること ・我が子や孫の子育てに余裕があること
			・幼小の頃の夢であり、思いが伝わる時がやりがいを感じています			・風邪や感染症等が流行すると自分までうつってしまう	・子どもたちの成長が見れること
	・日誌記入	・問題行動をする子へのかかわり方（コミュニケーションの仕方） ・保護者と共通理解を持ち子どもの成長を見守っていくこと ・苦手なピアノを弾くこと	・子どもたちの成長がみられること ・子どもたちが「先生」と言って様々な場面で共有できること ・子どもに教えられることも多く反省しながら自分も成長できること			・手首や足腰に痛みが出て来ている ・職場の人間関係	・子ども達と過ごせる事 ・子ども達や保護者に「先生」と慕われる事
		・書類の多さをもう少し考えて欲しい ・書類を行う時間もない	・子どもの成長が見られる事 ・人と人のつながりを感じられる		・片付け ・おむつ捨て、保育室整理他	・保育のみへ集中できない ・上司からの信頼を感じない時がある	・子どもの成長を感じ、感動できること ・子どもの悩んだり、困ったりしていることを、わかってあげられた時の喜び ・働く方のお役に立てている事

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・特に意識していないが、保育環境の整備に力を注ぎ、外部研修なども積極的に行っている。園児募集の時も順調に集まり、一日一日の保育の積み重ねの結果と思っており、さらに努力してより良い保育園を目指している	・バス２台を運行しており、保育士が勤務体制を組んでいる ・園長の下で主任保育士中心となって保育活動を行っている ・保育園が経営して30年になるが、途中退職者が少なく若返りの問題があるが、保護者は安心しており、卒園した園児の子どもが次々と入園している				・子どもとたくさんふれ合える ・子どもの笑顔がたくさんみられる
	公営		・毎晩実施の保育会議にて口頭発表やや、保育の評価を記述している			・研修報告書まとめ	・子どもを抱くことが多く、腰痛がひどいことがある	・子どもの成長を保護者とともに感じ支えられるから
	公営	・自己評価を行い、そのことについての話し合いを持つ	・年２回行い、自己評価を基にグループごとに話し合いを持つ	・早番から各クラスへの連絡、遅番から次の日、各クラスへの連絡、伝達等様式を用いもれなのないようにしている		・事務的な仕事	・日焼け ・体調管理が難しい（子どもの流行症状がうつる）	・子どもの成長を近くで感じられる
	公営	・避難訓練計画の検討 ・ケガの処理の仕方、おきない工夫	・チャレンジシート方式、上司等の面談や自己啓発	・早番7：00～16：00、中番7：45～16：30、遅番9：45～18：30他に臨時の早、遅番の保育士を御願いし振替休時の職員の代替保育士を御願いしています				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子どもの成長を見る事ができる ・行事の時になど卒園児が顔を見せてくれること			・保護者とのコミュニケーション	・子どもの成長を感じられること ・特技をいかせられること
		・嘱託保育士なので給与がまあまあであること	・子どもと笑顔でいられること			・事務仕事の多さ	・子どもの成長を間近で見られること
・食事する時間		・子どもとの遊び方 ・保育士としての未熟さ	・子どもの成長がみられる ・子どもの笑顔に癒される ・保護者に喜ばれた時			・担任制なので思った所に休みがとれず、通院などが難しい（休暇） ・保護者各々の育児に対する考え方に合わせるのが難しい（保護者との人間関係） ・保育士間での人間関係	・子どもと気持ちを通わせられた時の喜びが大きい（子どもと過ごす時間の楽しさ） ・担任制なので自分の持ち味を発揮できる
	・保育記録、指導計画の作成		・日々の生活の中で、子どもの成長が少しでも見られた時（保育者が指導していることなどの思いが通じた時） ・毎日子供達が所に来ることが楽しいと言ってくれた時 ・喜怒哀楽を共に共有出来ること			・子どもの（保育所）行事に職場の行事が重なり行ってあげられない	・子ども達の成長を見られること ・子ども達に手をかけた分、成果が見られること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・幼保小の活動	・評価用紙にて評価したものを会議にて話し合う					
	公営	・救急法（外部より）、病気、怪我の対処について ・紙皿シアター作成 ・年齢の発達のポイント	・会議での評価の検討、問題点の話し合い等 ・未満児会、以上児嘉一、クラスでの週のミーティング	・早遅番の人数の把握 ・感染症発生時の体制づくり ・安全面の確保を一番に考えています ・早遅番時の保育の充実				
	公営		・保育日誌、自己評価チェック	・保育士の半数近くが臨職なので、早番、遅番、土曜保育も必ず正職が入るようにしている				
	民営						・困っていることではありませんが、保育園は複数担当が多いので、一緒にクラスを何名かの保育士でみていくのはチームワークが重要であると感じました	・子ども達とともに成長していること ・子ども達の成長を近くで見守ることができること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・翌日の遠足の持ち物、スケジュール確認 ・保育日誌記入		・毎日が発見・驚き・笑いととても充実している、新鮮 ・子ども達から元気ややる気をもらうことが出来る		・指導計画	・保護者からの悩みの相談に適切に応えられているかどうか ・教材を作成しもっている数が少ない ・肩こりなどひどくなっている	・子どもの成長の手伝いができること ・子ども達が出来るようになった時、とても嬉しそうな笑顔を見られた時 ・保護者が信頼して相談してくれ少しでも悩みが解消された時
		・病気やけがの対応に力不足を感じる ・体調を崩しやすくなってしまった	・子どもが成長する姿を間近で見て共に喜べること ・体力的につらい時でも子ども達の笑顔で励まされ頑張れる ・親以外に信頼できる存在でいれること			・臨時職員の割合増 ・新人職員の指導	・自分の特性を生かせた ・子どもの成長を時間できやりがいがある
・卒園児の小学校運動会の日程を調べていた、小学校の問い合わせなど	・保育日誌	・腰痛持ちになってしまったこと ・時にはやりがいを感じることもあるが、持ち帰って(特に制作物)仕事をするものが多く、土・日も結局家で仕事をしている ・保護者対応(子ども同士の関わり方についてもクレームを言ってくる)	・人見知りなので苦手でしたが、保護者の方と接していくうちに少しずつ人との関わり方を学ぐことができた ・福祉的なことや子どもの病気について学ぶことができた（対応や処置方法など） ・子どもの成長の仕方を知ることができた。笑顔や挨拶の大切さ	・壁面制作の準備		・体力がなくなってきてしまったこと ・若い保育士の方たちとの世代ギャップ	・自分が受け持った子どもたちが大きくなり、立派に成長した姿を見た時 ・保護者とともに子ども達の成長を見守っていけること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・日赤小児救急法（AEDの使い方等） ・子どもの年齢別研修	・決められた様式があり、月末に各自が記入し主任に提出、主任がコメントを書き園長に提出、園長がコメントを書き各個人に戻す			・週案の作成	・声の出し過ぎで週末に声がかれてしまうことが多くなった	・子どもの笑顔がみられる
	民営		・３カ月に一度、自己評価を記入することにより、自己評価を行う	・保育士の休みは出来る限り重ならない様に工夫している ・保育士が平均して休みがとれるようにローテーションを工夫している		・月の製作の名前の記入、名前を書く、カードの作成	・家での仕事が多い	・子どもたちの成長を目で見れる事が嬉しい ・子どもと接することが楽しい
	民営		・自己評価チェックリスト作成し、各自に記入してもらい、意識向上に繋げていく	・当番出勤職員のクラスには、フリー職員が入る ・８時間勤務以上の場合は、時間外手当を請求する ・園児の登園数に応じて、混合保育で職員のローテーションを組む			・保護者との対応について ・勤務時間内に仕事が終わらず持ち帰りの仕事が多い	・子ども達の素直な気持ちに触れられること ・子ども達の成長を保護者の方と感じられること
	公営	・職員会議 ・職場研修					・自分の保育に対する自信	・やりがいがある ・子どもの成長を見ることができる ・安定している

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・移動時間、雑談			・子どもといるだけで笑顔になれる			・保育士だから子どもの事を何でも知っていると思われる事	・子ども達の成長が見られる事 ・自分の子育てに役立つ
		・収入が少なすぎ、生活に困っている ・経営者が保護者の言いなりになってしまい、言ったことに対して責任を持たず、保育士任せにする ・普段の保育を見ているわけでもないのに、評価されてしまう（保育園に経営者がいない）	・子どもに「先生」と呼ばれる事が嬉しい ・行事を通し子どもと一つの事に取り組んで、やり遂げた時に、達成感を一緒に味わえる事 ・卒園児が会いに来てくれる事		・運動会用品の作成	・保護者の要求 ・仕事量の多さ、勤務時間外や持ち帰っても仕事をしないといけない	・子どもたちと関われてとても楽しい ・やりがいがある
	・9月のクラスの様子、敬老会参加のまとめ ・ふれあい祭りの準備	・休日も仕事のことを考えたり、持ち込んだりしてしまう	・子ども達との関わり			・実際、持ち帰らなしと終わらない事（製作等） ・私生活と仕事の差があまりない ・近隣等、帰宅時等、保護者と出会う事	・日々子ども達の成長を保護者と共感できる事 ・季節に合った、活動を体験出来る事
		・ピアノが苦手 ・気難しい保護者への対応	・子どもの笑顔が見れること ・子どもが自分の名前を覚えて読んでくれるようになること ・自分の子育てに役立つ		・書類の文章を考える	・時期によっては持ち帰らなくては終わらないことがある ・園の子と自分の子を比べてしまうことがある	・毎日子どもに接し大変なことも多いが笑顔で楽しく過ごすことができる ・いろんな人と話せるようになった（声をかけられるようになった）

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・チェックリスト（保育士のための自己評価チェックリスト）を使用し自分の保育の見直しを行う。	・休みの職員が複数いる時は、園長先生が補助に入ったり、合同保育を行う			・自分の精神状態によって、子どもの気持ちを受け止めきれない場合がある	・毎日子どもたちの笑顔や生き生きした姿がみれること
	公営		・自己評価表を全職員に年２回出してもらい面接していま ・正職員は市の人事評価表（自己）もやはり年２回提出し面接しています					
	民営	・年１回保育士チェックリストを行う				・書類作成	・先輩の先生との人間関係 ・子ども同士のケンカの仲介に入った時	・子どもが抱きついてきた時 ・保護者に「今日もありがとうございました」と笑顔で言われた時
	民営	・年齢別クラス研修	・評価リストが配布され、自己評価後、主任、園長からの評価をつけていく	・保育経験の高い方と新人との組み合わせ ・３歳以上児クラス担当者と未満児クラス担当者とのバランス			・担当の子どもの数が多いと書類は大変だと感じる	・成長を感じる
	民営		・年２回、自由記述（項目ごと）	・超過時間は超過勤務手当でカバーしている			・子ども達と上手に関われているか ・子育て支援センターに相談にきて頂いた保護者にうまく対応できているか	・大好きな子ども達の成長・信頼関係がもてた事

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・自分の子どもと比較してしまう ・自分の子どもと接する時間が短い ・休暇を取るのに保育園の行事中心となり取りずらい	・子どもの成長する様子が間近で見られる ・いつも「ちゃんとしなくては！」と気が引き締まる
	・保育記録	・子どもに対しての保育士の人数	・子どもの成長が見られた時 ・病気などについての知識がついたこと			・パソコンが使えない ・個別で対応しなければいけない子が多すぎる ・学校など保護者の立場で参加していても保育園の先生としてみられる	
	・製作	・臨機応変に対応できない時やその時々の連携について ・連絡・報告などの全体把握についてうまくいかないこと ・今の立場の役割について	・子ども達と一緒にいられること ・喜びや感動、子どもの成長を感じること ・笑顔の子ども達が毎日見られること	・運動会が近いので準備	・書類	・年々肉体的につらくなる ・苦手な父兄への自分の気持ちの切り替え ・パソコン等の導入についていけない、苦手	・子ども達と関わり毎日楽しく過ごせる ・小さい頃からの夢がかなった
	・リレーの順番決め	・気になる子への対応	・子どもたちや保護者の方から信頼してもらったこと ・子ども達の成長、子ども達の笑顔が見られること ・自分の設定したものや好きな絵本など子どもたちも気に入ってくれたこと			・仕事を優先にしなくてはいけない	・子ども達の成長を共に喜べる ・職場内の雰囲気 ・自分自身の子育ての学びとなる
		・子ども達がのびのびと過ごせる環境を中々つくれない	・子ども達が保育士に抱きついたり、言葉を覚えること				・子どもが成長していく様子を感じられる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・ワンポイント研修（朝礼時に事例、記事等を交替で読む）		・早番遅番で８時間以上の勤務になるときは、出勤、退社時間を調節して一週間で40時間になるようにしています			・手遊びのレパートリー	・子どもの成長の楽しさ、喜び ・毎日、楽しく過ごさせている ・人と接している楽しさを感じている
	公営	・園内研修ではなく研修報告となってしまう	・年２回自己評価を表を用い記入	・時差出勤なので連絡もれのないよう皆で合意している				
園長代理	公営		・園評価羅針盤、年２回実施	・幼稚園教諭免許と保育士免許の職員をうまく組み合わせて早番遅番を組む ・正規職員と臨時職員の時間や勤務体制を考えて予定表を作成している		・土曜日保育申込書の確認・整理 ・土曜保育の職員配備（後期）作成	・研修の機会が少ない（幼稚園に居た時は研修の機会が与えられており勉強になった）保育園の先生は自己研修を積極的にしない限り、研修の機会が殆どなく、大学で勉強したきり研修をしない、その為職員の資質の低下につながっている	・子どもの人格形成にかかわる大事な仕事に携わっているということでやり甲斐がある ・日々成長していく姿を目の当たりにできて楽しい ・子どもと一緒に居ると楽しい
	民営					・児童の書類	・上司との関係がうまくいかない	・子どもの成長を身近で実感できること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・行事が近づくにつれ、勤務内に終わらず、仕事を持ち帰る時がある	・日々の活動の中で子ども達から、教わることがたくさんあり辛いこともあるが頑張って働くことができている ・お遊戯会、運動会などで行事を無事終えた時の達成感を子どもの笑顔から感じた時			・腰痛、肩こり等身体的不調	・子ども達の成長の喜びが感じられる ・子ども達の笑顔からパワーをもらえる ・季節感があり変化に富んだ仕事である
		・保護者の要求ばかりが目立ち、保育士の話を受け入れない保護者もいる	・子どもたちの成長する様子を感じられる			・複雑な家庭環境の子ども達が増えてきて大変である	・子ども達の成長を身近に感じられる ・子どもの笑顔をみられ、子どもたちや保護者に信頼されている事を感じられた
	・出勤前、消防訓練結果記録の作成 ・出勤後、友人宅へ届け物	・持ち帰りの仕事が多い ・好きな時に休暇がとれない	・保育士は何でもやらなくてはいけないので苦手なことも出来るようになった ・自分の子育てにプラスになった				
	・運動会に使う教材作成		・とてもやりがいを感じられる仕事 ・子どもの笑顔にとても助けられている	・運動会準備等、水まき、ライン引き、機材のセッティング等		・自宅の連絡先などを聞かれる時の言い方など ・クラスを持った時の持ち帰り仕事が多く、切り替えが出来ない時 ・行事に追われ1年がとても早く過ぎていく	・年齢に関係なく、人とのつながりがとても感じられる ・生きていく基本となってくる0歳～5歳までの大切な成長期に関わることが出来ていること ・保育士の声掛けや、行動などで子ども達が一生懸命にやろうとする。又、やれる姿に感動できる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営					・保育記録作成 ・指導計画作成	・体力面の辛さ ・人間関係	・様々な子どもたちの成長を身近で感じる事が出来る ・コミュニケーション能力の向上
	民営				・運動会準備、旗ふり	・壁面作業	・平日通院ができない ・決められた時間に仕事が終わらない ・持ち帰りが多い	・日々担当している子どもたちの成長が見れること ・沢山の人と関われること ・地域との触れ合いいができる事
	民営	・職員会議の中で、研修報告をする形で皆で話し合う		・遅番などで担当がいない時は、他のクラスから入ったり（複数人数担当の所）主任が入っています			・保護者との関わり、コミュニケーションが難しい、緊張してしまう ・子どもへの言葉かけが一人ひとり合っているか不安になる ・わからないことが多く、臨機応変に対応できない	・やりがいを感じる ・子どもの成長をみれること、感じられること ・子ども達の喜ぶ姿や笑顔を見ると癒され、自分自身も嬉しい気持ちになる
副園長	公営	・保育参加（登園時より11時までの間お子さんと一緒に触れ合って遊んでいただき楽しむ） ・地域の祖父母と遊ぶ会(H2)		・朝のミーティング時に当日の動きを確認する（ホワイトボードに名札のマグネット使用　一覧表） ・休暇や研修時に職員が欠けた時には、クラスへの補充もすばやく対応する。		・書類作成	・遊びのレパートリーを増やすこと ・家から勤務地が遠いこと。埼京線の本数が少ない、武蔵野線、埼京線がよく止まること ・自分の仕事を進めるスピードが遅いこと	・子どもの成長に関わることが出来ること ・やりがいのある仕事が出来る事 ・社会人として、人として成長できること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・子どもがもっているくせなどに対する接し方に戸惑うことがある	・子ども一人一人の成長を保護者の方と一緒に感じられる ・子どもの成長を見守ることが出来る			・病気や怪我をした時の父兄への対応	・子ども一人ひとりの成長を間近で見られ、毎日違った表情・姿が見られること ・慣れない（保育園に）子が少しずつ園生活に慣れ、手を出すと自ら保育士の所へ来てくれた時 ・自分の幼いころからの夢が叶った
・運度会準備（競技に使う道具等を作っていた）	・クラスだより作成 ・壁面づくり	・定時で仕事が終わらず、サービス残業が多い ・平日医者に通えない ・持ち帰えりの仕事も多い ・有休消化できない	・子どもの成長を間近で感じた時 ・人との関わりが少しずつできるようになったこと ・自分の得意な面を活かせたこと				
		・肉体的にきつくなってきた	・仕事がとても楽しくやりがいを感じる事ができる			・親への要望がなかなか伝わらない事	・子どもの成長を目に見えて感じる事
	・運動会、クラスだより作成	・１人担任なので行事準備、事務仕事などやる時間がない、また時間がかかる。	・未来のある子どもと触れ合えること			・腰痛、肩こり ・やりたいことがいっぱいあるが時間が足りない(事務、手作りおもちゃ等) ・同僚と話し合う時間の不足	・子どもと過ごすことの楽しさ

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ−2	Ⅳ−11−⑤	Ⅳ−12(1)	Ⅳ−13	Ⅱ−7−⑪	Ⅱ−(6)-1	Ⅳ−12	Ⅳ−13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・「異年齢児交流」というテーマに沿って	・保育士のための自己評価チェックリストを基に園独自のチェックリストを作成し自分の保育を振り返る機会を持つ ・正規職員は業績評価、能力評価を実施	・育成支援対象児の関係で５歳児クラスは３人担任、４歳児クラスは一人担任という状況ですが、オープンスペースの保育室なので、協力しあって保育を進めています		・運動会で使用する教材の作成	・限られた時間の中でやるべきことが多すぎること ・事務仕事が多すぎて日々の保育に集中できない	・子ども達の成長を身近で感じられること、それを同僚や保護者と喜び合えること ・毎日変化があって面白い、やりがいがある
	公営	・研修報告を兼ねた勉強会 ・障害児・気になる子への対応（巡回指導での心理士のアドバイス）	・カリキュラムを通しての反省 ・自己申告書 ・会議での話し合い、評価	・フリー、時間外パート保育士で、時差、休暇等で保育士の足りないクラスを補っている		・教材作成 ・このアンケート		・子どもの成長を間近で感じられる ・たくさん笑っていられる
	公営		人事考課制度					
	公営	・人権保育についての取組をまとめ報告している ・職員の意識を持つためのケース会議等をしている	・保育所の行事等で反省、次の課題を話し合っている	・主担任、副担任制にしている、会議の時は副担任が時間外保育を担当する ・時間外保育について２人組にし順番に当番を回している。４日に1回となる			・子ども達にオルガンを弾いて聴かせてあげたいのですが自宅での練習時間が取れなかったり、自分の技量が低く、かなえることが難しい点 ・子ども達がつまずいている点を上手く家庭に伝えられない点	・色んな“育ち方”があるという事がわかった点

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・保護者支援をどのように行っていくか、その伝え方 ・フルタイムとしてどこまで正規をサポートしていけるか	・子どもの成長を身近に感じられる ・子どもが親しんで様々な話をしてくれたり信頼してくれる			・早、夕の時間外保育の勤務体制があり家庭との両立が厳しい時がある	・子どもの成長を近くで見る事が出来、嬉しさを感じる ・毎日が新鮮で子どもの笑顔や会話から元気をもらえる ・様々な保護者との関わりの中から色々な価値観を知る事ができる
		・保育所の設備の悪さ（ひび割れ、トイレが少ない、水道が少ない、保育室が狭いetc） ・子どもの声での近所からの苦情			・実習ノートのまとめ ・このアンケート ・運動会事務	・休暇が思うようにとれない ・専門機関との連携がない、発達支援センターなど市内で関係機関の中心となるところがない ・保育環境の悪さ、外で子どもが元気に遊んだり、声を出せない環境(周りからの苦情)	・やりがいを感じる ・子どもや保護者との信頼関係 ・人との出会い
		・保護者との連携の取り方	・子どもの成長を近くで感じられる ・やりがいが大きい ・自分自身が情緒豊かになれる			・保護者との関わり方が難しくなってきている	・毎日かわいい子どもたちを一緒に生活できること ・子どもたちの日々の成長を見守ることができること
		・実技(ピアノ)の弾く事	・子ども達からの笑顔です		・保育教材	・体力的に疲れやすくなっていること	・子ども達一人ひとりを関わり合い成長が見られる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・研修報告会	・毎月、クラス別の自己評価と保育所全体の自己評価				・人間関係をどのように作っていくか	・子ども達と関わっていくことで、自分も一緒に成長できる所
	公営	・テーマを決めて一年間学習する（今年は絵について）	・個々の保育実践の提出と検討会、年間反省会	・正職員が時差勤務ローテーションにはいり、閉所時間までいて、保護者とのコミュニケーションがとれるようになっている ・延長保育時の児童の人数の把握のため、職員が全員把握できるよう「送迎表」の記入を保護者にしてもらっている			・保護者との子どもに対する認識の差	・子ども達の笑顔や成長を感じる事
	公営		・週、月の指導計画案に記載					
	公営			・朝7：30〜8：30、夕16：30〜19：00を利用する園児が多いので ・年齢別のクラス分けを行うなど、状況に応じて工夫している				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子どもの笑顔や成長が肌で感じられるところ ・保護者の方に感謝されるとやってよかったなと思う	・着替え等		・頭でっかちになって子どもの為の保育が実践できていない ・コミュニケーション不足 ・休暇が取りづらい	・子どもの成長していく姿をみられること ・子どもの持っている力のすごさを実感できること ・同僚、保護者から学ぶこと
	・そうじ ・来週勤務の確認	・専門性をみがきたいけれど正職員でないので研修に行くチャンスがない ・資格をとったけれど正規職員としての採用枠には入れない年齢になっていたことでいつも臨時採用 ・給料が安い	・子どもの成長をいつも感じ一緒に喜びあえること ・子育ての経験がないので、あきらめていたけれど、子どもの成長＝保育士の成長だから子どものおかげで少しはできたかな？ ・いつも笑っていられるので気持ちが明るくなり、よく動くので身体にもいい仕事だ				
	・クラスだよりの修正		・子ども一人ひとりの成長を親と共に喜ぶ事ができる ・たくさんの子ども達に出逢えること ・色々な成長が見られ、一緒に感動したり共感出来ること	・放射能測定、運動会準備他		・現代社会のニーズと本来子どもに必要なこととのギャップ ・施設の老築化 ・気になる子の増加	・子どもからもらえる力

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・各クラス日誌に毎日記録者が記載					
	民営							
	民営	・７月、10月、12月、２月参観日と行事をあわせて行っている	・年２回、園内研修、反省などを基に、自己評価をレポートして書いています	・職員会他、相談、個別対応（子どものある家庭において）				・子どもの成長を感じ、それを一緒に喜ぶことが出来ること
	民営	・職員会月１回３時間30分 ・年３回まとめの会議	・自由記述	・パート職員配置（時差勤務の補い）も同じ保育士が入り子どもの理解、情緒安定をはかる			・賃金が安い ・休みが少ない	・給食が食べられる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・着替えなど身支度			・見通しを持って行動することの大切さを学べたこと ・子どもと接して人が好きになったこと ・笑って仕事ができること		・運動会資料	・非正規職員が増え負担が多くなった ・親ともかかわり方、考え方	・子どもの笑顔をみること ・成長が見え喜びあえた時 ・修了児がたずねて来てくれたこと
	・運動会の取りきめ（組み立て）	・給料面でのこと、保育士は全体的に低所得なので ・人数（職員）がギリギリのため、事前に態勢をとっても当日職員が休むと大変	・やりがいのある仕事 ・子どもたちから教えてもらえることの多さ ・何年やっても何十年やっても日々会う子どもが違うので､日々勉強、スキルアップにもある			・毎年、一人担任ではないことも多く、複数担任の中でうまく話し合いができればいいが、うまく話し合われず、２つに分かれてしまうことも時々あり、気まづくなった時 ・給料面で、法人保育園によって差もあり、保育園全体的に給料が安いこと ・認定こども園制度の実施	・毎年、子ども達がかわったりする、年齢別によっても違い、性格も違う子どもたち一人ひとりと関わり、成長していく姿が見れるところ ・人間形成の大切な時期だが、そんな子供たちと関わる中で、自分自身も笑顔でいられる現場 ・卒園児に会えたり、保護者の方々より、感謝の言葉を頂いた時
			・大好きな子ども達に囲まれ、創立者の理念を基に信頼できる施設長、同僚と保育できること ・自分だけで保育しているのではなく、たくさんの人に支えられていること。団結力 ・保育に一生懸命力を注いだ分、達成感、充実感がある。今の職場ではたらけること幸せです				・子どもと一緒に過ごせること。信頼できる先輩、仲間に出会えたこと ・人との交わりが多く、色々なことを学ぶことができたこと（感謝する心など） ・とてもやりがいがあり、毎日楽しいと思えること
		・お金、休日が少ない ・持ち帰り仕事が多い	・子どもとじっくり関わり成長を喜びに合える	・自分の子どもをあずけている為の送り迎え		・土曜日の休みが月に一度しかとれないこと ・いろんな家庭の事情を持つ親が多く対応の難しさ	・子ども達の成長の喜び ・自分自身の子育てに活かせること ・人間関係の広がり（保護者も含め）

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営			・一時保育担当が場合によっては有効に活用できる		・教材作成 ・ピアノ練習 ・成長の記録作成	・どのように保育を展開して良いかわからない場面がある	・自己では学べない事までが教えて頂け、自分自身の向上ができる
	宗教法人	・新人研修 ・中堅研修 ・園長主任研修	・園独自で作成した人事考課基準書に基づいて、学期ごとに各自振り返りをして、提出しています。園長や主任が目を通して総括しています。又、総合勤務自己評価表に４段階で書き入れます。特に園で「チャレンジポイント」「積極性」「ホーレンソー」「接渉力、表現力」の評価を倍にして100点満点で換算しています	・２歳～４歳の縦割りクラスの時間を設けている ・３歳以上児は幼稚園と合同の保育を実施 ・遅番と早番は同一の職員で行い、生活の連携を図っている	・翌日などの確認	・事務的な仕事	・子どもへの対応 ・保護者への対応 ・充実した保育にするためにはどうしたらよいか	・子どもの成長を感じられる ・子どもに頼ってもらえる ・一緒に経験ができる
	民営	・市、県の研修 ・法人用研修	・ISO14001、9001（環境、品質）				・手遊びや遊びのバリエーションが少ない事 ・植物などの知識がないこと	・子どもと関われる仕事ができること
	民営						・体調を崩した時、子どもにうつしてしまうかと心配	・かわいい子ども達と日々一緒にいて、成長を見て感じられる ・季節を感じられる ・子ども達からたくさんのパワーをもらい、自分も学ぶことが多い

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・行事のお面制作 ・保育のまとめ	・時間が足りない ・体と心のモチベーションを常に保てない ・休けいがとりづらい	・子どもの成長が見られる ・子どもの笑顔が見られる ・毎日やりがいがある				
		・後輩の育成 ・親への子育て支援ケースが増、面談等の時間と保育士の力量が問われる ・計画、記録等は時間内で終わらない	・保護者との連携がきちんと出来ることにより、子どものいい発達成長につながることを感じる ・自分自身を活かした仕事ができる ・子どもの成長を喜びあうことが仕事への満足につながる			・体調不良時に職場に迷惑を掛けること	・子どもが可愛い ・子ども達の成長が嬉しい ・子どもに慕われ一緒に過ごすことが楽しい
	・保育教材、保育室の飾り作り	・給料が少ない ・時間外労働をやらざるを得ない ・休暇がとれない	・子どもの成長を間近に見られるころ ・子どもの笑顔・保護者と子どもの成長を共に共感できること			・行事や土曜出勤がある中で、子どもの登園人数も多いので、振替代休や有給のやりくりが毎日誰かが1名休む事になるなど、難しいが何かとやりくりしている	・やりがいがあること
		・最近の保護者の意識の差	・子どもの成長を見られると同時に自分も成長できていると思う		・保育教材の作成	・最近の保護者の意識の違い、アドバイスのしかたが難しくなってきている	・大人だけの職場では見ることのできない驚きや発見を子どもたちと楽しむことができる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・所内研修	・所内研修を通して行っている	・各クラス担任同士の横の連携及クラス同士の縦の連携を十分に図りながら（3歳未満児、3歳以上児、主任、所長との連携も含む）全体の連携へと繋げていけるようにする		・保育教材を作成	・ピアノが苦手なこと ・保護者対応	・調べていったゲームなどをやってみて「楽しかった！」「もう一回やりたい！」と楽しんでくれた ・楽しいこと、悲しいこと、嬉しかったことなど共感できる ・子ども達の笑顔をたくさん見れ一緒に笑うことができた
	公営	・摂食について ・年長の育ちについて ・4歳児の発達について	・評価点検表を用いて記入して提出する	・持ち帰り残業をなくすため、時間を工夫し30分でも職員がだぶっている時は事務や教材作りをする（例：担任4人クラスなのに時間外入れて5人いる） ・職員の無駄な勤務をなくすよう園長は気を配る	着替え		・保護者への対応に困る時がある ・子どもとの関係作りに困る（悩む）時がある ・初めてすることに対して、どのようにしていけばいいのか困る（悩む）	・子どもと関わる時間ができたこと ・仕事に対してやりがいを感じることができる ・社会人として、子どもを預かるものとして、責任感を持てるようになった
	公営		・保育の自己評価表を各自記入してもらい、園長、副園長とヒアリングを行う			・運動会準備	・責任が伴う半面給料が低い	・子どもの良いところが伸びたとき ・いろんな人の保育を知ることができたこと

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・室内環境を変える（配置がえ）	・製作準備	・自分の学びたい分野の研修があまりない（実技、具体的な援助、環境など）	・仕事を通して自分も成長できたと思う ・子どもや保護者が信頼してくれたと感じられた時			・保護者との関係がスムーズにいかない事がある	・日々子ども達と過ごしてエネルギーをもらっている
	・縫いもの	・子育てとの両立の大変さは感じる（祖母がいないと成り立たない）	・大好きな子ども達と過ごすことができ、その成長を見守れること	・運動会の準備		・親との関係が難しい ・思っていることをストレートに気持ちにだせない ・色々な面でストレスが多い	・子どもと楽しく過ごせることができる ・季節を感じながら仕事ができる ・行事を通して、子どもの成長が見られる
		・様々な館気をもつ保護者もあり、対応に悩むこともある	・子どもの成長を保護者と共感できること			・年齢によっては仕事量が多い	・子どもと関わり成長を感じた時、それをみんなで喜べた時

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ−2	Ⅳ−11−⑤	Ⅳ−12(1)	Ⅳ−13	Ⅱ−7−⑪	Ⅱ−(6)-1	Ⅳ−12	Ⅳ−13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・保育日誌の評価欄に自己評価を記載している	・朝夕の延長保育時間はパートだけでなく必ずフルタイムの保育士を配置している（朝３名、夕３名） ・休憩時間パート保育士を2名雇用し、スムーズに休憩がとれるようにしている（11：30〜12：30、12：30〜13：30） ・離乳食担当パート保育士を１名雇用し、０歳児担当３名のところ、昼食時は4名で対応している（10：45〜11：30） ・朝7：30〜8：30、夕17：15〜18：15の短時間保育パートに地元の保育士養成の短大生を雇用（その他の10名中９名）している（一日に朝１名、夕１名で園庭整理や遊具の消毒等）		・週案の作成	・残業や持ち帰りの仕事が多く、趣味にとれる時間がない ・腰痛や肩こりなど仕事柄の影響	・子どもの成長を感じ、喜べる ・毎日の充実感に生きがいや働きがいを感じる ・子どもと過ごす時間に楽しさを感じる
	公営	・環境の見直しについての検討会					・保護者対応の難しさ ・“子どもにとって”の保育を見直す時間、さらに研修等に行く時間がなかなか持てないこと ・他の専門職や他機関との交流が少ないこと	・たくさんの子どもの笑顔・成長を感じられること ・様々な家族に関わることができること ・自分がどのように成長してきたか再思考できること
	公営	・発達支援研修 ・研修報告会 ・安全危機研修（園内） ・保育者としての基本的な研修	・正規職員は人事評価制度 ・全職員はチェックリストを通して自己評価を行う	・クラスの配置だけではなく、その日の園児出席人数により流動的に職員の対応を考える				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・朝→ミーティング、夕→保護者への引き渡し		・書類をやる時間がなく結局家に持ち帰るしかない ・正規と臨時同じようにと言われているが、無理だと思う ・臨時職員に求められている責任が重すぎる	・他の仕事ではえられないやりがい ・子どもと過ごすことでいやされる		・クラス便り	・保護者対応	・たくさんの子ども達と出会えること ・子どもの成長を見守れること
・運動会前日準備			・子どもと接していることが楽しい		・事務的な仕事	・保護者対応 ・保育以外の業務が多い	・子どもの成長を見ることができる ・子どもと過ごす時間が楽しい
						・親との関係の難しさ	・子どもたちと楽しみを共有できた事 ・子ども達の成長を親と感動し合えた事

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・自己評価チェックリスト使用					・子ども達と過ごしていく中で、子ども達の成長する姿を見る事が出来たり、信頼関係を築き「先生、先生」と言ったり、笑顔をたくさん見せてくれるようになったことです
	公営		・各月子どもの活動や状態に対する評価と、保育士自身の保育や援助、環境設定に対する評価を総合的に判断して行う。毎月提出し所長がコメントをそれぞれにし、保育の振り返りができるように配慮。年間評価も各自行い、内容を提出し面談も行う	・体制については早めに一年間の表を職員に配布し、変更がある場合は早めに変更できるようにしている		・指導案の作成 ・記録 ・教材作成	・職場の人間関係の難しさ ・歌、ピアノなど苦手なこと ・幼稚園教諭の資格がないため、将来的な不安	・大好きな子ども達に囲まれて仕事ができる ・公立なので、勤務形態に無理が無く、自分の時間が持てる ・日々やりがいがある
	公営						・ピアノが上手くない ・人前に出るのが少々苦手で緊張する	・子どもから学ぶことがある ・遊んでいると毎日楽しく過ごせる ・子育てについて色々勉強になる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	朝、書類の作成	・早番が始まり自分の子どもを早番だと保育所に送れないこと ・クラスに正規職員が一人しかいないので、月案、チェック表などを全てやらなくてはならず追われている ・会議や打ち合わせが要領がよくなく長い事	・子ども達と関わり、楽しさや元気、笑顔がもらえる ・仕事は大変だが、季節の変化や行事などに自然と興味がもてること ・１日仕事をしていて１経つのが早い事		・指導案反省文の作成	・書類や研修資料等持ち帰りになってしまう業務が多い	・人との関わりに携われるころ(親も子も) ・子どもとの触れ合いがとても癒され色々なことを教えてもらっている ・自然や行事に直接触れられ季節を感じることができる
		・年々、難しい保護者が増えてきている事	・子どもの成長を間近で見られる事		・教材の準備、パネルシアター	・家に持ち帰る仕事がある ・保育だけではなく雑用（消毒など）が多すぎる ・臨時職員ばかりで正規職員がクラスに数名しかいない	・子どもと接する時間が充実している ・長年やってきて子供が親になって、また再会できたこと ・卒園した子供が元気に成長していること
		・喉が元々あまり強くないので、痛めて声が全くでなくなる、職場の先生方に迷惑をかけてしまう。 ・保護者との意思の疎通の難しさ、やわらかく表現すると伝わらず、ストレートに言うと気分を害してしまう。プライベートでも、周囲からは「先生」という目で見られるので、行動を控えたり、ストレスに感じることがある	・一年間が終わり、子ども達の成長を感じる事の喜びを知ったこと ・就職前より、地域との関わりが増え、人とのつばがりが強くなった ・自分のアドバイスにより、子どもが変わり、保護者から感謝の言葉をもらった時やりがいを感じた。			・保護者からの対応に困る要求が増えてきている	・園を卒園した後も園外で声をかけてもらい、大きくなった姿を見れる ・子どもたちの素直な気持ちや笑顔を見ると癒されたり頑張ろうと思える

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・１～２カ月毎に項目そって行う	・時間外勤務の職員の配慮及人数的に手のかかる時間の職員の配慮等				
	公営		・保育の内容については毎月反省会を開き振り返りをしている			・児童表作成 ・日誌 ・参考書を読む	・自分の力量不足 ・コミュニケーションの苦手さ（保護者に対して）	・子どもの人生の一部に関われる ・子どもの笑顔が見れる ・自分も成長していける
	公営	・日保協、全保協等の研修を受けて園内で報告		・保育時間は長いので、支援児にあたっては二交代制をとっている ・延長保育も補助員から保育士へと有資格者に		・保育準備	・保護者や同僚などとの人間関係作りの難しさ	・子どもの成長を感じられる瞬間に立ち会えること
	公営	・地域での保育士研修会：年数回あり、それは進んで参加、伝達、情報しています		・短時間非常勤保育士が多いので短時間ですが、意思統一、共通理解を努力しています				
	公営	・年令別勉強会	・各自で記入後、第一次、第二次評価者が評価している			・運動会に向けての製作物	・病気や怪我時の対応 ・他クラスとの連携	・子どもの成長が見られた事 ・子どもが心を開いて接してくれたこと

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・保護者対応	・子どもの成長を見られる ・充実した毎日を送ることができる			・さまざまな保育のあり方について学んでいかなければいけないので、不安も感じる	・自分の得意なことが仕事にいかせる ・子ども達とふれ合い、成長を実感しながら一年が過ごせる
			・自分の声かけや援助で保護者や子どもが笑顔になった時			・担当クラスを持ちながらもフリー主任の次に周りの事に気をかけることができない ・保護者との信頼関係を築くのが難しい ・臨時職員が多いので難しい	・子どもの成長が見られた時 ・保護者から認められた時
		・職業病の特に小さな子どもを扱うクラスだと抱っこやおんぶの頻度が多く、首や肩に負担がかかり時々具合が悪くなる面	・子ども成長を日々目のあたりに出来ること ・成長の手助けをしてあげられること ・自分達が子ども達のお母さん代わりになってあげ、精神的に少しでも支えてあげられること				
	・運動会の準備	・保育所は子どものいる時間が長いので、事務や行事の準備等をする時間があまりない	・楽しくやりがいのある仕事です ・子ども達の成長を保護者と共に感じられる		・運動会等の準備	・行事などの前は特に持ち帰り、自宅での仕事が多い	・子どもと一緒に遊び、生活する中で子どもの成長を見ることができ、共に喜びあえる

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・共通理解の読み合わせ ・潜在する危険について					・個々の子どもへの発達に応じた援助の難しさ	・子どもたちの成長を見て保護者や他の担任と共感できる
	民営	・実技 ・保護者対応、園の保育方針	・今年度の研修で取り上げる予定	・パート職員の適正配置（当番、延長） ・土曜日の行事では振替休日を行っている ・フリー職員を置いている				
	未回答	・姉妹園看護師による研修				・運動会準備の為の作りもの	・勤務時間外にすることが多い（月に20時間以上） ・職員時間が思うままに使えない	・心が癒されること
	民営	・園外研修に行っている	・自己評価表に添って A・B・C・D、４段階で自己評価する	・３歳以上児を異年齢保育を行っている ・時差出勤を行い、朝と返りの１時間は合同保育になり、年長児は年下のお世話をし、年下からは憧れの存在になっている				・子どもたちの成長が感じられる時 ・笑顔で話しかけてくれたり、近づいてきてくれた時 ・運動会や発表会などで、子どもたちが生き生きと楽しそうに参加するのを見た時
	民営					・運動会の作り物	・保育中の遊びの展開に変化がない ・叱る時の子どものへ言葉かけや対応の仕方	・子どもたちに癒される

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・休みがとれない ・時間で仕事があがれない	・自分が楽しいと思える仕事ができている		・当日の日誌（記録）		
		・肉体的なきつさ（腰痛、腱鞘炎） ・風邪などの病気をもらいやすい	・大好きな子どもたちと毎日一緒にいられる ・日々の子どもたちの成長を身近に感じられる ・明るくいられる		・保育教材準備 ・保育日誌記録 ・パネルシアター	・職員同志の連携・保育観 ・給与の少なさ ・家庭との仕事の両立の大変さ	・好むパネルシアターや体操を子ども達が喜んでくれること ・自分自身、子どもと変わることで、若々しくいられること ・未来の子どもたちが日々成長する姿を目の前で見られること
					・文書作成と保育記録作成	・最年長のクラスを受け持った時の精神的に追い込まれた時	・仕事のやりがいと子どもと過ごすことの楽しさ
	・運動会準備 ・個人面談表の作成	・保護者対応で困ることがある ・職員同士の関係	・子どもの成長を間近で感じることができる ・将来の子育ての練習になる			・子どもと話をしている時に星や星座、昆虫等を詳しく知らない事を聞かれたり、話を聞きたそうにしている時に勉強不足だと感じ困る	・子どもと同じことを思ったり、感じたりすると、意思の疎通が出来たと感じ良かったと思う

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・職員間の連携についてなどテーマに添った話し合い	・自己評価のチェックリストを作成中である	・早出職員、遅出職員と正常勤務との伝達がきちんと行えるようにする ・延長保育時間内でのけがや伝達はその日のうちに担任に必ず伝え担任からも家庭に連絡をとるようにする		・保育の記録 ・保育教材の作成	・保護者との対応 ・書類など書きものが多いこと ・制限があり、製作などが思ったようにできないとき	・子どもの成長に携われること ・子どもと一緒にいることで様々なことに気づかされること
	公営	・グループ研修（年度初めにテーマを決めて行う）	・記述式の方法で一人ひとり保育内容などについて振りかえる（決められた形式で）	・横のつながりを大切にして、時差勤務を保障している（クラスにこだわらない）				
	公営		・年度初めに自己の目標成果シートを作成し、中間と年度末に自己評価をする					
	公営	・育児タテカリ、記録の取り方（日誌） ・育児遊び	・年２回、個人の自己評価を提出（園長） ・（保育所）園運営の自己評価は年３回行う（書面にて） ・指導計画反省（期、年間）の中で行う	・クラス別の特別保育人数に合わせてシフトを決める ・朝、夕に必ず乳幼児の職員を入れたシフトにする ・クラスの体制を考慮していシフトを組む			・パソコンの業務があまり得意ではないこと	・子どもの成長を感じられた時 ・子どもたちと楽しく過ごせている時 ・本当に子どもたちってかわいらしいなと思います
フリー	公営		・日々の保育日誌の中に自己評価の覧を設け行っている	・朝礼で当日の体制や翌日の体制等確認している ・月１回、リーダー会を行い、保育の体制、勤務体制等について話し合っている				・子どもの成長や発達を間近で見ることができた時喜びを感じる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・草取り	・書類	・書類など持ち帰って行う仕事が多いこと ・休暇中に連絡がきたりなど仕事とプライベートの時間をわけることができない	・子どもの成長が見られたとき ・保護者と信頼関係を築けたとき			・保護者とのつきあい方 ・肉体的なつらさ	・子どもの成長や成果がみられること ・さまざまな人との出会い ・保育士としての経験が自分の子育てに生かせた
		・子育てをしていないのに母親にアドバイスすること ・保育士同士の人間関係 ・日々の仕事量の多さ	・子どもの成長に関われたこと ・季節を感じられる			・行事などに追われてしまうこと ・事務量が多い ・保護者対応の難しさ	・子どもと日々接することができる ・毎日笑って過ごすことができる
					・運動会の準備物製作	・保育士なので、完璧でなければならないという固定観念 ・自分の子どもが病気の時や行事参加での休みがとれない ・土曜出勤の遅番時	・子どもたちの成長を共感できる時 ・保護者と子どもの成長を共感できた時 ・行事や日々の保育で保育内容や自分のやっていることを認められた時
		・年々、保護者対応が難しくなってきている ・仕事量が多すぎ、家庭との両立が大変である	・子どもと関われる（喜びなど共感できる）				
	・転園児へのカード（メッセージ）記入 ・運動会案内状の下準備	・同僚との人間関係 ・日常保育における望ましかかわり ・保護者対応	・子ども達の成長を感じられること ・子ども達と思いを共有できること ・保護者同僚と子ども達の成長の喜び等わかちあえること		・行事準備（資料等含む）		

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・運動遊び ・食育 ・保育と環境	・各自、年間の目標をたて、それを達成できるようにしている ・年3回園長面談を持ち、達成を目指すようにしている	・園全体で、協力し合い、各クラス保育を行っている			・子ども達への関わり方 ・円滑に業務を進めること	・子ども達の成長を見届けられること ・子どもと一緒に遊んで楽しむ ・子どもと共に喜びを分かち合う、笑い合う
	公営		・年度はじめに目標を設定、半期ごとに検証し、施設長とのヒアリングを行う			・誕生会、準備	・事務時間が長い ・信頼できる上司が少ない	・子どもの成長を感じる、楽しい
	公営		・毎月自己評価表を園長に提出	・子どもの状況に応じて必要ないシフトは減らし、保育が充実できるようにしている		・行事の準備（台詞整理）		・子どもの成長を近くで実感することができる ・毎日大好きな子どもと触れ合い、笑顔にすることができる ・保護者の方と少しずつだが信頼関係を感じた時
	公営	・記録の取り方 ・危機管理について	・各自のチェック表と、園全体に対するチェック表、保護者アンケート	・一時緊急保護事業を行っている為、オープンスペースを使用したクラス保育 ・当番保育時間の合同を、通常勤務時間内はクラスごと、それ以上もできるだけ、クラスごとに見れる体制をとる				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・保護者対応等の難しさ ・仕事量の多さ ・難しい子の対応	・子どもとの関わりを楽しめる ・子どもの成長を身近で感じ喜べる		・運動会の準備	・準備等の時間の使い方の工夫がうまくできずに持ち込むことが多い	・子ども、保護者他との関わりで保育のやりがいを毎日感じていられること
	・研究会データまとめ	・保護者対応の難しさ ・職場の人間関係	・子どもの成長を日々感じることができる ・仕事にやりがいがある		・運動会の遊戯の振り付け変更 ・日誌記入	・体力的にきつくなってきている ・子どもも保護者もかわってきて昔より難しくなっている	・子どもが立派に1年生になっていくとき、何よりやりがいを感じる ・運動遊びなど子どもと一緒に取り組んできたことが達成できたとき、共に喜び合える ・行事が終わったとき、作り上げたという喜びを感じる
					・運動会係の仕事	・職場の人間関係で言葉のきつい人への対応	・子どもの笑顔を見る時
						・保護者対応が年々難しくなってきていること ・事務仕事が多いこと ・職員の人間関係の難しさ	・子どもと関わることの楽しさ

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・毎日自己チェック表にてチェックしている				・事務仕事をする時間がない	・子どもの成長を真直かで見ることができる
	公営		・チェックリストにより、自己評価を行い乳幼児で出し合い課題を探っている					
	公営		・日誌、週案、月カリに自己評価の欄を作り記入後、次への保育にいかしている					

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・異動することで一から人間関係を築いていかなければならないこと ・男性ということで他職員と関係を築いていくのには難しいところがある、異動前も３年はかかった ・異動前に通用した経験が通用しない	・日々子どもの成長や笑顔と接することができること ・卒園しても子どもや保護者が親と手紙などで連絡を頂けること ・子どもと担当した一年を一緒に過ごせること		・当番表作成	・保護者対応 ・職場の人間関係 ・仕事量の多さ	
			・子どもの達の成長を見て、その成長を子どもや保護者の方々と喜び合える ・今まで自分のことをなかなか受け入れてくれなかった子が、笑顔を見せてくれたり、話をしてくれたり、受け入れてくれるようになった時 ・子ども達と遊んだり、悩んだり考えたりと日々一緒に生活していく中で共に成長していくことができる			・体が痛くなる ・行事前など常に頭から離れない ・当番等で夜、学校等に通って学ぶことができない	・健康的な生活を送ることができている ・子ども達の成長を見守っていける ・成長を共に喜べる
						・集団からはずれてしまう子への指導 ・筋力の弱い子への指導	・子どもと接していてかわいい、この子成長したねと実感できること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	㈱	・園外研修の内容研究等	・年２回本部から自己評価の課題が出され、自己評価し、それを園長が評価する	・有休休暇は本人の希望を優先する ・ローテーションはなるべく平均に回るようにする			・膝などが悪くなってしまうこと	・毎日子ども達と関われること ・将来、自分の子どもを育てる時に必要なことが学べること
	民営	・テーマを決めた研修	・チェックリストによる園長面談年３回			・事務仕事 ・保育教材		・子どもから大好きと言われる事 ・卒園した子どもや移動したところの子ども達に名前を覚えてもらっている時 ・子どもの成長を感じる時
	民営		・園独自の自己反省表に毎月記載する			・週案の作成	・給料が安い（残業代が出ない）	・仕事（子どもと関わっていること）楽しい
	民営		・年１回、年度末に行う	・職員の勤務体制は万全です（ベテラン職員が多いため）				・毎日色んな子どもと関われること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・日誌 ・保育製作物	・もう少し社会的地位をあげてほしい ・給与が少なすぎる	・子どもの成長を感じる		・保育教材の作成 ・事務的な仕事	・給与が少なく将来が不安である。仕事には満足しているが経済的な面で続けるか迷っている ・保育士の人数が少なく、必要な保育ができていない ・保護者の要望は毎年増えていくが、上の２つが増えない為、対応しきれていない	・多くの子ども、保護者、職員と関わることで色々な考え・意見を聞くことが出来、世界が広がった ・子ども達の成長を間近で見ることができた ・マニュアル通りにいかない仕事なので以前よりはよく考えるようになった
		・腰痛が慢性的になり辛い	・日々成長する子どもたちと過ごす喜びを毎日感じることができる事				
		・保護者対応 ・後輩育成	・信頼ややりがいを得る事ができた ・人として成長できた		・行事書類	・家庭との両立が難しい ・自分の子を優先できない ・給与面（仕事量とわり合わない）	・子どもに対しての知識がついた
		・自分が保育士として適正があるかどうか ・保護者との会話 ・話を聞けない子への対応	・子ども達の成長とともに自分自身も成長できる ・幼児期の過ごし方の大切さを知ることができた ・関わった子ども達の成長を見ることができ、卒園を見届けることができる	・運動会に使う物の準備	・資料探し（園に残って）	・年齢とともに体力の低下（疲れがとれない） ・保護者の対応の難しさ	・子どもからパワー（笑顔・笑い）がもらえる ・季節を感じ一年間過ごせる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営						・自分の保育が子どもにとって、本当に成長する過程において基盤となっているか	・子どもの笑顔が見られること ・先輩職員の保育の進め方や考え方を学べること
	民営		・各年齢別のカリキュラム・業務の成果、評価(年２回)	・個々に応じた対応ができるよう小グループに分けて保育（乳児） ・縦割り保育(幼児) ・食育をテーマにバイキング方式で食事 ・延長児が多いため細かい時間差で勤務				
	民営	・実技研修（ピアノ、絵画）	・年2回Do-cap表を提出し、管理職と面接	・土曜日の合同保育の際は、リーダー保育士の配置を心がける ・8：30～18：30のコアタイムには必ず担任がいるように配置する ・早朝、延長時間、乳児、幼児に分けるようにしている(保育の質の確保のため)	・研修に向けての作成物	・週案の作成 ・研修に向けての作成物（裁縫）	・仕事量の多さ ・時間外手当がつかない ・長期休暇がとれない（4日以上）	・子どもの成長を感じられる ・子どもの発達段階を知り得ること ・季節ごとの遊び、歌、制作物等、自分の引き出しが増えたこと

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・会議の準備	・運動会について	・幼児経験が全くない中での一人担任を任されたこと ・先輩によって言う事がバラバラで園としての統一がなされていないことを感じた ・園として土台がしっかりしてないこと	・以前いた職場を退職する時、保護者の方々にねぎらいの言葉をたくさんいただいたこと（自分では保育に自信がなかったので、保護者の方々が言ってくれた時は本当に嬉しく少し自信となった） ・子どもの成長をこの目で見た時 ・子どもの笑顔！！（なによりこれが一番最高だと思います）			・職員同士の意識の違い、方向性の違いなど	・子どもの笑顔を見ること成長を日々感じられるところ
	・研修報告書作成	・保育感の違いが大きい人と同じ職場にいる時は困る ・指導に対して同調できない人がいる時 ・子育て支援に対してクレームを言う人がいる時	・子どもの成長を一緒に感じられること ・子どもの成長の手助けが出来ること ・子どもの成長とともに笑顔で多くの時間を過ごせること		・運動会資料作り		・仕事をしながら楽しさを感じられること ・自分の子ども以外の子の成長を間近で感じられること ・自分の仕事に対して熱くなれるところ
		・予想外な保護者の言動や行動にたまに困惑している	・保育だけでなく、医療的な知識や栄養士的な知識を勉強することができたこと				・子どもと触れ合い保護者と関わることで自分の成長にもつながり視野が広がった ・協力し合うことの大切さを知ることができた

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・研修の報告会		・非常勤職員の配置		・会議の進行のためのまとめ書類		
	民営	・要支援児指導巡回先生毎月	・自己評価項目を書いた用紙に記入してもら	・各クラスにリーダーをおき、リーダーがクラスをまとめ指導する体制	・出勤前と仕事を終えた後の着替えの時間です		・人間関係（職場内での上下関係､保護者） ・保護者対応	・大好きな子ども達と沢山の時間を過ごす事が出来楽しい ・行事や目標に向かってやりとげた時の達成感は気持ちがいい ・コミュニケーションの力、人前で何かをする力がついた ・子育てに役立てたい知識も得た
	(株)		・査定	・園児が数多く登園する時間帯（8：30～18：00）に各クラス担当どちらかがいれるように体制を整えています、保護者と話ができるように ・なるべく研修に参加できるようにシフトの調整に取り組んでいます ・新しい園児が入園してきた時、クラスリーダーが一カ月間は8：30～18：00の勤務体制にして園児が園に慣れて落ち着くまで、同じ職員で対応できるようにしています		・月案の検討 ・運動会のダンスの振り付け	・困っていることではないが、これから自分が出産などできる環境が不安 ・自分の保育スタイルがまだ固まっていないので、自信があまりもてない	・子ども達が新しいものを発見したときのうれしさや楽しさを共有しながら自分自身も新しい発見ができること ・毎日が刺激があり、楽しくすごせること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・日誌の記入	・他の保育士との考え方の違い ・保護者支援の難しさ ・他の保育士のきげんをそこねない様に保育していかなければならないこと（子どもに影響するから）	・大好きな子ども達と一緒にいられること ・保育の経験を自分の子育てにも活かせること ・子ども達の成長にたずさわり、それを保護者と共に喜べること		・勤務表作成	・（保育時間の長さから）事務体制 ・休憩が取る習慣がない ・職員間のまとまり	・自分自身が成長できること ・いつまでも若くいられる ・たくさんの人たちと関われる
		・難しい親に対する対応や声かけ ・行事等での製作が進まない事	・子どもたちの笑顔を見たり、一緒になって遊んだりして子どもと触れ合っている時 ・母親や保護者に子どもの事で相談された時 ・一つの行事に取り組んで、その中で子ども達の成長を感じられた時		・週カリの記入 ・連絡ノートの記入 ・クラス便りのコピー	・保護者対応（特に精神疾患を持つ保護者への対応） ・事務時間を勤務内で作れない ・若い人材育成	・子どもとの毎日のかかわりから、沢山の感動をもらうこと ・保護者から感謝される機会に恵まれること ・卒園児がいつまでも保育士のことを覚えていてくれること
		・子どもから風邪をもらいやすいこと	・子どもたちのたくさんの笑顔が見られること ・子どもと一緒に成長できること		・運動会準備（書類、買い物） ・クラス書類（下書き）		・子どもとの触れ合い、成長の喜び ・沢山の人との出会い

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営						・保護者に対する対応の難しさ	・子どもの成長を間近に感じられること
	民営			・3～5歳クラス→異年齢クラスとしている				
	民営	・年一回の職員と園長面談の中で、園長作成のアンケートによる自己評価をして面談で話し合う				・ビデオの残量（テープ）の確認 ・子ども(担当)のバースデー作り	・子ども同士のトラブルなどの仲裁に入る時、どんな言葉をかければ子ども同士が納得できるか悩んでしまう	・子どもの成長を近くで見れる ・子どもが楽しい面白いと言い、満面の笑みを浮かべた時、嬉しい気持ちになる
	民営	・保健師講習(感染症、アレルギーなど)	・2月頃に今年度の課題に対しての評価を書いてもらう、それに対して来年度の課題をたてる					・実際子どもを産んでいなくても子どもの成長を感じることができる
	民営	・園外研修、報告	・指定用記述後園長と面談			・清掃 ・記録	・保護者への報告や保護者対応 ・時々ある急な残業	・子どもの笑顔が毎日見られる ・毎日「ありがとうございました」と保護者から声をかけてもらえる ・やりがいがある ・自分が成長できる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
					・鍵をあける、カーテンをあける（園の）等	・疲れがたまると、腰痛等で痛いと少々大変に感じます	・経験を重ねることに子どもといる時間が楽しく感じます
		・子どもが体調を崩した時の勤務の調整	・子どもの笑顔が見られた時 ・子どもの成長を感じられた時		・保育記録のまとめ		
		・精神的に追いつめられる時 ・社会から見た保育士の地位	・人間相手の仕事、良くも悪くも自分を見つめられる、そして相手の気持ちをわかろうとする仕事につけたこと ・子どもの成長した場面に立ち会えること			・身体が疲れてすぐ寝てしまい、自分の時間がほとんど持てない	・子どもや父母が喜んでくれることがうれしい
・着替え（準備）	・手紙作成	・昨年の５歳児の担任との対応が違う（上司）	・子どもと一緒に過ごす喜びを知った		・保育室の掃除	・職場（保育感）の人間関係（保育に向かう姿勢）	・子どもの成長を発達援助によって見る事ができる ・自分の身体を使って仕事をしている実感を味わえる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・全職員へ個別ファイルを配布し、自らの評価をいつでも振り返られるようにしている	・異年齢が交流して遊ぶ体制 ・子どもの興味を深めるための環境作り ・ローテーション勤務体制		・書類 ・ピアノの練習	・書類の持ち帰りの仕事が多い（勤務時間内では出来る事がない） ・給与が低い	・毎日が同じことの繰り返しではなく、日々の中で子どもの成長や笑顔が見られ、子どもと過ごすこことの楽しさを感じられる ・大変な仕事ではあるが、やりがいのある仕事 ・色々な人との関わりの中で、自分自身の考えや行動等成長できた
	民営	・年２回合同研究会 ・月一回の職員会議、カリキュラム会議、管理職会議、全てが研修になるような内容になっている	・職務基準書に基づき、毎月自己レビューする				・行事が忙し時は体力的にきつい ・帰宅が遅い、給料低いと生活に響く	・やりがいのある仕事
	民営						・市役所など公共の施設にいくことがむずかしい（平日の保育時間と重なってしまうので）	・初めのうちから責任のある仕事を任せてもらえること ・子どもの成長を周囲の人（保護者や職員）と共有できたこと
	民営	・考課者研修（リーダー層中心に、業務改善） ・園内保育研修（自分達の保育を客観的に見直す）	・職員全体で確認した人事考課を基に年に1回自己評価をして提出してもらう、その後主任・園長との面接も昨年度は行った	・各フロア（クラス）を２交替制で行うと共に、早番・遅番体制を取り入れている ・延長保育は基本的に専用保育士・遅番保育士で行っている		・遠足の準備 ・運動会の準備 ・保育計画	・「あれをやってみたい」という事があっても、記録や計画を立てるものが多く、なかなか取りかかれない時がある ・日々の筋肉痛	・子どもとの関係が深まっていく事に喜びを感じる事 ・季節の変化や自然物との触れ合いを自身自身で楽しめるようになった事 ・人とのコミュニケーションがついたと感じる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
					・運動会用書類作成 ・展示会用書類作成	・チーム（クラス）の保育士の人数が多いと意志統一が難しい ・新任保育士の教育	・日々成長していく子どもたちに関われること
		・サービス残業が多い	・お子さまの成長を身近で感じることができる ・お家の方に感謝の言葉を頂いた時				
		・後輩、同僚への指導	・楽しいと思える事 ・様々な知識を身につけたり、様々な経験を子どもたちとできること		・制作物の仕上げ ・書類の作成	・自身の年齢と仕事のきつさのギャップ（思うように身体がついていかなくなってきているのを感じる） ・リスク管理、保育士同士のリスク感のギャッ ・家庭環境（子どもを取り巻く）の複雑さを感じると厳しい	・子どもたちとの一体感 ・子育てで、できなかった（自分の）子どもとの向き合い方を学べること ・いつまでも若くいられる?!
・仕事以外の時間での職員と行事の打ち合わせ等	・誕生日カードの作成	・保護者対応の難しさが出ている、ニーズが高まっている ・給料が低めなこと	・子どもの成長を日々見られること ・大変な時もあるが、毎日何かしら笑っていられること ・健康になった（心身ともに）			・保護者との信頼関係を気付く事の難しさ	・子どもの成長していく姿を見られる事 ・仕事のやりがいを感じられる事 ・子どもと喜びを共感したり、自然の中で一緒に遊ぶ中で季節を感じられる事

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・人材教育担当部	・第３者評価 ・利用アンケート	・３歳以上児は縦割保育 ・労務管理担当部が毎日の降園（退社）時間を記載し、遅い場合は注意を促す	・運動会に使用する曲選び		・保護者との関わり ・発達に関する専門知識 ・パフォーマンスのバリエーション	・子どもと接する楽しさ ・成長を手助けし見届ける事ができる
	学校法人	・園外研修（保育、保健、食事） ・園外研修（保育関係）	・園独自の項目に５段階で自己評価し、施設長へ提出年３回	・時間外保育時間帯の利用人数に添って、勤務人数の調整をして出勤表作りをしている ・休暇者の代替にフリー主任を当て、現場の手薄状況を作らない配慮をしている		・月案作成（一部）	・行事が近くなってくると、行事の仕事に追われてしまい、保育中心に動くことができなくなる ・子育て中の勤務だが、自分自身の仕事が保育中に進めることができず、残業（サービス）持ち帰りの仕事があり、家庭に影響することもあり、悩み中	・子どもの成長を身近で見守ることができ、やりがいを感じる ・人と接することで、日々いろいろな体験ができ自分自身も成長できる
	民営	・０～３歳のモンテッソリー教育について	・一年の反省のところで５項目に分けて自己評価反省を行う（１月末までにその年度のことで）	・８：30には３歳未満児クラスは２名担任が揃っていること、９：00には全員出勤しモンテッソリー教育の自由活動がスムーズに行えるようにしている ・職員会議は月１回土曜日の午前中に全員そろって行い、その間は、バイト、早番の先生（パート職員）で保育に実施する				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子ども達と行事に向けて取り組みやり遂げた時 ・年長児を卒園させた時	・職員同士との話し合い、行事準備	・研修報告書作成	・クレームを言ってくる保護者への対応 ・新人職員がなかなか仕事を覚えてくれない ・職員から他職員の欠点を言われどの様に対応したらよいか	・子どもの成長を見られること ・行事をやり終えた後の充実感と子どもの成長や満足感が与えられること ・保護者とうまく信頼関係が結べた時
		・子どもの園制度の複雑さがいつまでたっても解決していかない ・保護者のI勤務形態等、子育てする保護者への支援として社会の理解（災害等）がもう少し深まって欲しい	・子ども達の成長を見守り、成長した子どもと再会できる喜びが与えられる ・仕事や様々な方と関わる事で自分自身を高めることができる、見聞きを広められる ・子育て支援、地域支援に関われる		・保育計画月案の作成	・長時間保育等、現在保育園に求められていることが本当に子どものためになるのか疑問に思う事 ・保育内容について、行政などから規制が大きくなっているように感じられること	・子ども達と関わり合って過ごす時間が本当に楽しいこと ・自分に合うと思われる職業を持って生活できたこと ・保育の仕事についたことで様々な経験を積むことができたこと
			・子どもの成長が間近で見れ、やりがいを感じる				

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・絵本部会、散歩部会、食育部会、栽培部会、環境（室内）部会				・行事の準備、明日の保育の準備		・1日1日充実した生活を送れること ・四季、行事など季節感を感じ、生きている実感を感じられること ・子どもたちが園生活を楽しんでくれていること
	公営	・人権に関する研修 ・個人情報に関する研修	・カリキュラム会議の中で話し合っている	・休暇、早番、遅番が同じクラスに重ならないようにしている	・翌日の保育の準備	・明日の保育の準備	・クラス内でも色んな性格の子どもがいて、子どもを教育、しつけることが大変。どう対応していいかとても迷う ・職場だけでは、その日の仕事が終わらないこと ・残業や翌朝早く出勤してまで保育の事を考えなくてはならないこと	・子どもたちが寄ってきて一緒に遊ぼうとしてくれること ・子どもの成長を実感したとき
	公営	・H23年度のテーマ（教材作り、環境の見直し、保護者支援について）	・各クラス、乳児、幼児全体会議等で振り返りと改善をするようにしている	・職員が交代勤務となり、連携がスムーズに行くように留意している ・伝え忘れがないように、メモと記録を心がけている			・ひざ、腰が痛い	・子どもの成長を間近に感じられること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
					・人形づくり	・肩こりと腰痛がひどくなること	・子どもたちと心から楽しんで遊んだり笑えること ・子どもたちと１つのことをやりとげられること
						・保育以外の事務量が多い ・年々体力が追いついていかなくなっている ・保護者とのかかわり	・生涯やりがいを持ち、仕事を続けられる事 ・子どもの成長をともに喜び、楽しく仕事が出来る事 ・人と人とのかかわりを持ち続けられること
						・パソコンを使っての事務は職場ではほとんどできず持ち帰って行っている ・保護者の子どもへの愛情が薄くなってきている、愛情をもって子育てできるよう支援するにはどうしたらよいか ・支援の必要な子や保護者が多く単数担当では援助しきれない	・子どもの成長がみられた時 ・保護者と共感し合えた時

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・研修報告を１人10分で発表する	・子どもが多い時間帯に職員の層を厚くし、安全保育に努めている ・職員の情報を共有するためにミーティングノートに日々の伝達事項を記入し全員が目を通し周知できるようにしている			・ペープサートの作成	・保護者に伝えたいこと（子どもの姿や必要事項など）をうまく言葉に出来ない ・踊りの動きにキレがないこと	・子どもの成長していく姿をそばで見る事ができること ・子どもの成長していく姿を保育士間でも共感できること ・準備すればその分楽しんでいる姿が見られる手応えが見られること
	公営	・こども園、小学校、中学校の連携研究 ・保育内容研究 ・環境教育 ・里地里山研究	・アンケート及び記述形式 ・外部者評価	・昼の時間を活用し、勤務時間内になるべく多くの職員が参加し、会議や研究会がもてるようにする ・時間で仕事からあがれるよう園全体のまわしを意識している ・園児数をあらかじめ把握することで、有効的に働いてもらえるようパートの職員配置を考えている ・全職員が保育内容や情報を共通理解し、把握できるようまめに報告し合ったり、連絡ノートを活用したりしている				
	公営	・老人ホームとの交流 ・他園、小学校との交流	・自己評価表を作成し、月１回提出してもらう ・日誌に保育に対しての反省及び自分の思いを書いてもらう		・着替えなど		・クラスのほとんどの子が長時間保育を利用しているので、保護者とコミュニケーションが取りにくい ・大学で学んできたことと、現実に出来ていることのギャップに悩んでいる	・子ども達の成長など喜びが多いこと ・自分の工夫の結果がすぐわかり、やりがいがある

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・保護者との対応や助言が難しいことがある ・後輩の指導	・子どもの成長を肌で感じられ、喜びを保護者と共感できる ・毎日大好きな子ども達の笑顔に力をもらっています ・人と人とのふれあいで、自分を高めたり、刺激を受けることができる			・年をとってきたので体が思うように動かない ・行事や事務仕事に追われ、本来の子どもとの関わりが薄くなってしまっている ・自己啓発に関わる時間がとれない	・子どもたちの成長 ・日々の充実感 ・信頼出来る仲間に出会えたこと
	・運動会競技用の曲探し ・保育で使う踊りの振り付けを覚える	・時間に余裕が持てない ・子ども一人ひとりの関わり、ふれあいを大切にしたいが、仕事をこなすことに精一杯になってしまう ・言葉の表現や、保育の豊かさに欠けている	・保護者と共に子どもの成長を感じられた時にやりがいを感じる ・正直な気持ちで子どもと関わることができる ・子どもや保護者から学ぶことがたくさんある		・保育教材	・保護者のニーズや家庭環境が複雑化しているため、それに対応することが難しい	・子どもの成長を保護者と共に喜び合えること
	・事務的な仕事	・保護者対応 ・外国家族への対応	・子どもたちと過ごす楽しさ			・事務仕事が多すぎて、時間内に終わらず自分の時間でやっている(残業手当はつかない) ・休暇がとりにくい	・子どもと常に関われること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営			・非常勤職員との組み合わせ				
	民営	・法人研修 ・各経験年数に分かれて研修 ・各担当別研修 ・男性保育士研修	・年度のはじめと年度途中そして終わりにチェックシートを使って自己評価を行う	・書類が書ける日を、勤務表の中に入れ、フリーに出しやすい体制を整えています			・保育の記録や教材を作る時間があまり取れないこと	・子どもの成長を感じられること
	(株)		・査定	・朝・夕の合同保育		・運動会準備 ・クラスだより作成、書類関係	・職員での立場	・行事などで子どもと一緒にやりがいを感じられること
	民営	・アレルギー、障害、手遊び等の実践 ・マナー、虐待について等	・保育計画の見直しの際の自己評価 ・毎日の保育日誌の中での自己評価	・変形労働時間制を導入している ・パートだけの保育にならない様、正職が朝夕必ずいる様にする				・子どもの成長を保護者と一緒に感じられる
	民営	・園外研修の報告 ・消防訓練 ・不審者対応 ・救急法	・毎月、自分の保育を振り返り自己評価と反省を記入し提出。それに対し園側より指導助言評価を記入し返却。日誌、月案にも自己評価記入欄を設けている	・乳児クラスは必ず担任が朝の受け入れと帰りの引き渡しができるように配置している ・非常勤職員の勤務時間をムダのないように配置している				・子どもたちの成長を近くでみていけること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・製作物の準備等 ・事務的な仕事	・一般職と比べて給料少ない ・肉体的なしんどさ(肩こり、腰痛など)	・子どもの成長を感じられること		・運動会の制作	・仕事が多すぎる ・人間関係	・子どもの成長を目の前で感じられる ・やりがい
製作物の整理		・保護者との人間関係	・子どもの成長が間近で見られる ・自然に子ども目線になるので、沢山の気付きや喜びが見つけられる		・書類を作る	・仕事量が多い(考えることも含め、子どもとかかわる以外の仕事)	・子どもの成長を感じられる
・退所準備			・自分の関わった子どもの成長が見られる事 ・やりがいがある				
	・書類見直し		・子どもの成長、姿を通して自身に発見があること ・子どもの成長する姿、表情の豊かさなど日々見られること		・指導計画	・人材育成について、特に0歳児クラスは子どもの対応や保護者の対応で知識や経験が必要であり、日々緊張感を持っての保育なので、0歳児クラスの担任になると悩んでしまう保育士が多く、新人の育成について悩みます	・多くの子どもを見る事によって、同じ人間はいない事を感じ、日々の保育の中で子ども達と一緒に楽しんで過ごせる事 ・子どもの成長と発達を保護者と一緒に喜び合える事
		・子育てとの両立	・楽しい！ ・向いてると思っている！	・着替え、トイレ、出退時の他職員への挨拶		・年齢的(50代)に心身ともに疲れる事が多い（昔に比べて）	・子どもの笑顔を見る時 ・子どもの成長を感じて抱きしめたくなる時 ・保護者や他の職員から信頼された時

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	認定こども園	・市等の主催する研修に行った保育士の報告 ・毎日の事例報告	日誌	・フリーが3人いるので、代休の先生のかわりや0歳、1歳児保育をやってもらっている ・今年の春オープンで幼稚園より分かれてきた為、試行錯誤しています ・色々とやってみてから決めています			・前年度まで幼稚園部にいた為、乳児（0～2）への学びは、短大時代で止まっている ・日々子どもたちの姿から学び直し、先輩や経験のある同僚から学んでいるが、基本的な乳児保育を再度学び直したい、食事、排泄、午睡など生活の基本を学び直したい ・毎日細かい所で、自分の知識のなさに困っている	・子どもが自分を必要としてくれると感じる時と、保護者にありがとうと言われた時が一番うれしい ・その年だけでなく成長してからも、その年の仕事は忘れない。思い出と共に在る仕事だということがありがたい
	財団法人	・各自がテーマを決めて取り組む、年度末にまとめて発表する	・年1回、法人から配布される自己評価シートを記入する	・早番、遅番が偏らない様にチェックする ・平等に休みの希望をとる ・時間内で事務的仕事を行える様、シフトを考えていく（残業を減らす努力をする）			・一人ひとりの子どもへ適切な対応がとれない ・体力的	・子どもの成長を身近で感じることができる ・子ども達と一緒に過ごすことで新しい発見ができる ・子どもたちの発達が勉強できる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子どもの目にみえての成長 ・親から「ありがとう」という言葉や態度			・自分の子どもが病気になった時休む事があるので（施設は快く休ませて頂ける）申し訳ない気持ち ・保育が個々の子どもに合ったものであるか常に向上心を持ちたい ・保護者に会ってお話がなかなかできないことがある	・子どもとのかかわり合いが楽しい保護者とのかかわりも楽しい ・仕事のやりがいがある ・成長した姿を見られ幸せを感じる
		・保護者の一部の方（特に関わりが長い方）にプライベートな質問をされること ・自分より経験年数と年がかなり上だが、スキルが下手な保育士との関わり方 ・役割は私が上だが、プライドが高いため、仕事を指示されることが嫌で聞こえていないふりをされてしまう	・子ども達の成長を身近で見守ることが出来ること ・卒園した子ども達がたまに園に会いに来てくれること		・事務整理	・休憩が取れない日があることとサービス残業 ・気になる子ども（要配慮児）の他機関との連携がとれない ・職員間の連携、質向上	・子どもの成長発達をみること ・子どもの笑顔を見ること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・新園なのでまだ行っていないが、3月の年度末に保護者向け、職員向けの自己評価を行う予定です	・職員が休みでもすぐ手伝いをしていけるよう余裕をもって配属している ・早朝保育、延長保育になる前の時間帯の園児数を見て職員移動が出来るようにしている				
	民営		・簡単な課題について一年間を振り返り自己評価する					
	㈱			・各クラス担任2人制にして早出、遅出に分けている。早出が保育の主となる ・年齢が低いクラスには補助である、固定の非常勤の配置		・製作準備	・お給料が低いこと ・残業代が頂けない事	・子どもと関われること ・勉強をしたり、やりがいが感じられること
	民営		・園長との面接	・乳児と幼児の協力態勢がとれるようにしている				・子どもとその保護者と親身になって関わることができる ・子どもの成長などを身近に感じることができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・年々体力が落ちている ・給与の面	・毎日、子どもと接して大変なこともあるが、重要な時間に携わっていることの責任を強く感じること ・子どもの頃からの夢だったので、可愛い子どもたちに接することができて働きがいを感じる ・自分に子どもはいないが、今後母にな身として離乳食や育児を含め知識が多少あるので力になる		・児童票の記入		・子どもたちの成長にとっても生きがいを感じ仕事をさせて頂いています ・自らをふり返り日々勉強させて頂いています
		・勤務時間内に仕事が終わらない(事務面)	・大好きな子ども、信頼できる上司に恵まれたこと				
		・勤務時間（シフト）の幅が広い ・持ち帰って行う仕事が多い	・育児経験が活かせる ・子どもたちの笑顔に助けられ、毎日頑張っていける			・休憩時間がほしい	・子ども達の笑顔が毎日みれること ・自分が子ども達に癒されること
	・運動会準備	・どのように接することが正解なのか分からない児がいる ・見通しを立てて保育をするが、なかなかその通りにいかないこと	・子どもの成長していく姿が見れること ・１つのことをやりとげた時に一緒に喜ぶことができること			・医療等専門機関との連携があまりないので、最新の対応等がわからない ・すべてにおいて最新の知識が本等でしかないこと（チャンスがない） ・家庭(子育て)との両立	・子ども達の成長を感じた時の達成感 ・子ども達と何かを共感できたときの一体感 ・保護者の不安や悩みにより添えた時

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・市販されている本を購入して実施（年1回）、独自の用紙を作成し、毎月実施					
	民営					・児童票等		
	民営		・保育士については園で設定した評価に視点について、個人で月間について評価し、更に年間を通して評価を行っている。園の自己評価は評価項目についてA、B、Cで評価し、提示を行っている（Aおおむねよい、B一部検討を要するC改善を要する）	・園児の在園する時間に則した職員の配置を非常勤の職員で補っている ・経験年数の浅い職員にはベテランの職員がフォローできる体制にしている			・職員同士の人間関係（直接はあまり関係ないが見ているのがツライ）	・子どもの成長を間近で感じることができる ・子どもの成長に少しでも触れることができる ・小さい頃からの夢が叶った
	公営		・保育士の自己点検、自己評価チェックリストをしている			・教材作成 ・保育記録作成	・持ち帰りの仕事が多い ・クラスを持っているので休暇がとりにくい	・子どもと過ごす楽しさ、やりがい
	指定管理社会福祉法人	・県外研修参加者からの伝達講習 ・実技講習（母園との保育士たちの学び合い）	・12項目の自己評価表を毎月記入、月案と一緒に提出している ・保育所全体では職員会議での内容を保育所だよりに掲載している	・都合による勤務交代は当人同士で自由にやりとりしている ・研修の第4土曜日はパートの2人の保育士に来てもらっている		・週、日指導案の記入	・職場の人間関係	・子どもたちや保護者とのかかわりだけではなく、自分自身を見つめ直すことができた ・子どもたち一人ひとりの成長を日々感じ、毎日充実していること ・地域の子育て支援に貢献できていること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子どもと過ごす楽しさ		・保育記録作成	・保護者の対応	・子どもから活力をもらえる事
					・ピアノ練習		・日本の国を支える子どもたちの成長
					・事務的なパソコン作業		
		・自分の子どもが体調を崩して、お休みをもらったり、早退したりするときに、同僚は「大丈夫」と言ってくれるが、心苦しいこと ・保育理念が他の保育士の方たちと考えが合わなかったり、理解しづらかったりするときがあること	・様々な人たちと出会えて、毎日がとても楽しいこと ・子どもたちの感性豊かなところや、成長を日々感じられるところ ・何よりも毎日かわいい子どもたちと楽しく過ごせることが幸せ				・子どもの成長や保護者との関わりの中で、やりがいを感じられること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・研修参加からの報告会	・自己評価チェックリストに評価	・ローテーションを組む上でつなぎ、保育がスムーズに行くため非常勤をあてている ・早遅番のところへ非常勤を当てたりしている、ローテーションがスムーズに出来る為に			・子どもの同級生の親が保護者という方がいらっしゃるので少し困ってます	・子どもの成長を一緒に喜べること ・自分の子どもも保育士という職業に興味をもって好ましく思っていること
	公営		・記述と面談	・職員会議後議事録を回覧				・子どもの成長を間近で感じられる
	民営	・外部研修の報告	・定型様式に自己評価を記入している	・非常勤職員を多く配置することで振替や有給を取得しやすくなる				
	民営	・保育について ・造形、音楽等の活動について						・日々子どもたちの成長を感じられること
	民営							・子どもの成長を日々感じとれること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・自分の子どもとの行事が重なってしまうこと	・色々な子ども達の個性や成長が見られること ・毎日楽しく仕事ができていること				
		・保護者との関わり方	・子どもたちからパワーをもらっている ・毎日が楽しい ・人との出会いがある		・保育所の鍵あけ、見回り等	・保護者との関わり方	・子ども達から感動をもらえる事 ・いろいろな人と関わる事で勉強させられる事
		・複数担任での意見が合わない	・子どもがかわいい		・保育計画（週案）の作成	・保護者への対応が内容により難しいことがある	・人とのつながりが広がったと思います
			・子どもと共に成長できること ・子どもの成長を近くで感じられること				・子どもがさらに好きになり、知識も広がることで、いろいろな分野が学べる事
		・外国人の保護者に話をしても理解してもらえない	・自分が考えた事により色々と出来るようになった事 ・子ども達が笑顔で名前を呼んでくれる時				・色々なことに子ども達が喜んでくれること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	医療法人運営の民営		・毎月項目毎に自由に記述している	・月1回の職員会議は常勤・非常勤・栄養士も含め全員参加で全園児のことを共通理解している ・早遅番を専門に担当する職員(パート)がいてくれるので常勤は通常の保育時間にいられる ・契約の職員を確保することで職員本人もしくはご家族の体調不良時等対応できるようにしている		・行事の書類作成 ・保育記録	・職場の先生方との人間関係 ・体力的なキツさ	・子どもの成長に携われること ・保護者の方と子どもの成長を共に喜び見守ることが出来ること ・子どもの笑顔に元気をもらえる
	公営						・ピアノが苦手なため、ひかなければいけない時は多くの時間が必要なこと ・事務時間が十分に取れない時は休日でも仕事のことを考えなければならない時があること	・子どもの成長する姿を身近で感じられること ・自分の子育てへの勉強にもなること
	公営		・面談、書面提出	・休暇、出張、早出対応で、人員配置もきびしい状況ですが、主任、延長もフルにクラスに入ったりして対応しています				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・運動会の準備（資料作り）	・給料が少ないこと ・成長の記録など、持ち帰りの仕事が多いこと	・６年間の子どもの成長を見守り、一緒に喜ぶことができた ・なりたくてなった職業なので、毎日子どもと触れ合えることが幸せに感じる		・児童記録票		・毎日、元気な子どもたちと楽しく過ごせることは幸せです ・子どもの成長が楽しみです ・かかわった子どもたちに慕われる充実感
						・ピアノが苦手で避けて来たので悲しい思いをすることがある、どんどんひけたら子どもにも良い！ ・年齢的なこともあり、体力がついていけない	・子どもたちから毎日元気がもらえる ・とてもやりがいのある楽しい仕事
	・運動会用の競技用具製作	・家庭のことより園の仕事が中心にならざるを得ないこと ・家庭に持ち帰る残業の多さ ・朝早く（７：00）に出勤しても、仕事がたまっていて早出の時間に帰れないこと	・子ども、保護者から信頼してもらっていること ・楽しそうな笑顔 ・慕って近づいてきてくれること		・保育記録	・仕事量に対して体力がついていけない ・事務時間がとれない	・子ども達と過ごせ、成長を共にし笑顔の中ですごせたこと ・生活の心配がない

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営						・他の先生の保育を学べる機会が少なく、自分の行っている保育が適切なのかわからない ・子どもへの支援、関わり方が適切かわからない ・経験、実力が伴っていないのにクラス担任を任されること	・子ども達の成長を感じ見守ることができる ・かわいい子ども達に毎日会うことができる ・周りの保育士の先生とチームとして子育て、保育ができること
	公営	・食育かむカム研修部会 ・園長部会で支援を必要とするこの支援体制の充実について	・月案、週案の記録により自己評価を行う					
	公営					・行事の準備		
	公営	・研修報告による勉強会						
	公営	・今年度は各クラス担当がテーマ設定（年度当初、職員間でテーマ決定）	・園独自のチェックリストを用いてチェックしている			・おたより	・書き物が多い ・給料が少ない	・職場の環境が良い ・子どもの成長を感じられる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・保育困難児への対応と保護者への伝達、専門機関との連携	・子ども達の成長を日々感じること		・保育記録 ・指導計画作成、教材研究 ・打ち合わせ会議等のまとめ		・将来ある子どもと接し、エネルギーをもらうことができて充実している ・子育て、母親の悩み等一緒に寄り添っていける
					・運動会準備		・子どもの成長が目で見て感じられる事
						・職場で仕事を終わらせようと思うと帰りが遅くなってしまう	・人間と関わる楽しさを感じ、人として豊かになったと思う
						・早朝、延長保育を利用されている親となかなか話しができないこと	・子どもたちの成長を身近で感じられること
		・休みがとりにくい ・持ちかえる仕事が多い	・子どもの成長がそばでみれる ・子どもに成長させてもらっている			・保護者に対する支援の仕方 ・気になる子への対応	・子どもの笑顔、笑い声で嬉しくなる ・子ども達の成長

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・調理員による夏冬健康メニューの講習 ・子ども、職員の健康について ・防災について	・自己評価表に毎月書きこむ	・異年齢保育を毎週月曜日に行っている			・複数担任の場合の連携の取り方 ・保護者との関わり	・子どもの成長が感じられた時 ・子ども、保護者との関係を築けたと感じられた時
	公営		・自己評価用紙（保育の振り返り）を使っている。（前期と後期に向け、目標を書いてもら園長のコメント（面談）を行う）	・職員会議を確保するため、休憩時間（2交替）を工夫している				
	公営	・園外での研修の伝達	・前期と後期にわけて反省と目標などについて自由記述で用紙を提出してもらっている					
	公営		・評価表に記入					

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・作品展の準備		・子どもの成長を見る事ができたとき			・主任保育士なので、保育士に対して思っていること、言わなければならないことが、上手く言えない ・保育士だけの仕事内容でないことが多く、集中して取り組めない ・保育士の資格を持っていないのに、同じ様な仕事をしている現状を、どうかと思っている	・楽しいと思える場がありうれしい ・保育士(公立)の安定 ・子ども達の笑顔が見れたり、自分と大きな声で笑ったりできること
					・職員研修会議に提出する書類作成	・年齢的にきつくなってきた(体力面)	・子どもが好きでやりがいがある
		・保育の難しさで精神的に落ち込んでしまうことが多いこと ・子育て経験がなく、保護者よりも知識不足なこと	・子どもの成長を子どもとともに感じ、喜び、送りだすことができること ・子どもから学ぶことが多いこと			・保護者にこちらの考えがうまく伝えられないことがある ・休暇の取り方	・子どもと接していると楽しい ・子どもの成長を感じると嬉しい
			・子ども達の成長を共に喜びながら保育ができること		・月間指導計画の作成		

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・保育士、保育士助手、調理員、調理補助を対象に自己評価を行ってみました。そして保護者からもアンケートを作り、第三者評価をしてもらいました	・毎月行う何回かの職員会議では、保育について悩みや、支援のいる子どもについて、職員の共通認識をはかるために討議している ・遅番でクラスの先生が勤務が遅い場合も、他の職員がそこにあたり、子ども達が戸惑わないよう人員要求して、安全体制で臨んでいる				
	公営	・研修受講者の復命 ・パソコン研修 ・非常時伝達訓練（職員間）	・月間、週間指導計画及び日誌の反省評価でのふり返り ・人事考課制度において自分の行動へのふり返り	・正規職員、臨時職員共に情報の共有ができるよう努めている				
	公営	・衛生講習会（感染症に対する理解と実践） ・食育について（年令別食育の取り組みと実践）	・自己評価シートを使い行っている				・時々どう接していいかわからない時がある	・子どもと沢山接する事が出来て良かった ・子どもの成長が見れてうれしい
	公営	・研修発表 ・書類の記入の仕方etc					・臨時(無資格)なため専門知識が少ないこと ・子どもへの対応力	・子どもの成長のかわいさ
	民営	・保護者､来客､電話対応	・自己評価を半年毎に提出	・土日休みの回数を増やすため、４交代制を行っている				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・若い人を扱う難しさ	・子どもの成長を見られること
						・自分の生きてきた年代より若いお母さんと考え方が違うところ	・子どもが保育園が好きと言ってくれた時 ・子どもの成長がみれた時
	・クラスだより				・個人だより作成	・保育記録など事務的な仕事が勤務時間内にはでいないので持ち帰りの仕事になってしまう	・やりがいを感じる ・子ども達と過ごす時間が楽しく、成長を感じると嬉しい
	・保育記録 ・おたよりづくり	・書類の書き方が分からない ・支援児に対しての関わり方	・子どもたちの笑顔で元気になれる ・子どもたちが満足そうに達成したときの姿を見られたとき ・子どもたちと関われること				
・園舎の戸締り		・問題がある幼児の保護者に問題点の伝え方や意志疎通の難しさ ・保育や子育てについて保護者との考え方が根本的に違うと感じることが多い	・子どもの成長を日々感じられること ・人と人とのコミュニケーションを学べる		・発表会のための準備	・仕事量が多く、勤務時間内の他に家に持ち帰る仕事がほぼ毎日ある ・年次有給休暇が取りにくい	・子どもの成長を見る事で喜びが感じられる、やりがいが感じられる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・真宗について ・年間指導計画見直し ・QC	・自己チェック表を使用 ・各自がチェックし園長からの評価を受ける	・早朝・園長保育はパートを補助とする		・教材研究		・子ども一人ひとりの小さな成長をも感じられること
	民営		・自己評価表の提出と全職員に回覧	・主任の下に、主査長、副主査長、主査、主査補を取り入れ、やる気をおこす。 ・グループにまとめ、グループ長を中心とした内容が実践されている		・描画製作の準備	・仕事内容に対する給与の低さ ・世間ではあまりきつい仕事ととして認識されてないこと	・子どもの成長に身近で携わることができている点 ・様々な人（保護者も含め）と関わりが持てる
	財団法人							
	民営						・話をしてもピンとこない親との関わり方	・保育を卒園しても子どもとの関係が続いていること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・事務仕事をする時間のやりくりが困難(持ち帰ってしまう)	・子どもたちと共に過ごし、成長を感じられる		・製作物 ・書類書き	・勤務時間が長く、どうしても仕事が持ち帰りになってしまう、仕方ないが… ・有休は簡単にとれない	・やりが、生きがいを感じられる仕事は誇りに思う！！ ・子どもの人生に関われる充実感が味わえる！！
	・実習生の実習等チェック ・運動会に向けての個人的な準備	・子どもの事を想うあまり、時間外の持ち帰り仕事や残業が多い ・やりがいのある仕事で続けたいが給与が安いこと ・声帯ポリープが持病（職業病）になってしまったこと	・自分自身のスキルアップができてること ・保護者と信頼関係をもてるようになったこと ・たくさんの子ども達と出合え、成長のよろこびを味わえたこと		・運動会準備	・時間内仕事が終わらない ・人間関係	・子どもと信頼関係を築くことができ成長を日々感じとれる
	・運動会準備	・休みも仕事をしたり、常に子どものことをかんがえている ・疲れがとれない	・子どもと関わるすばらしさを感じる ・成長を見れる喜び		・壁面作品のしあげ ・運動会の競技に必要なものを作る	・今主任ですが、保育士の指導、事務、０歳児の補助と一人何役もしなくてならなく大変です ・若い保育士がなかなか育たず、３年後の退職後を心配しています、１つ１つ教えている毎日です ・保護者との関わり、親への支援が年々ニーズも大きくなり、モンスターもでてきたり難しいです	・日々成長著しいこども達と接し、エネルギーをもらえます
					・９月の出席ノート（あゆみ）の集計、保護者への通信欄記入 ・９月の小口現金の集計	・主任としての事務仕事と自分の（担当クラスの）事務仕事の両方をこなす時間がない ・家の義父の介護が必要になってきて両立が難しくなってきている(定時に帰宅ができない)	・毎日子ども達と触れ合い、新鮮な気持ちで過ごせる ・適度に身体を動かして体調がよい

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営							・子どもの成長を身近で見られること、感じられること
	公営		・「今日も一日保育を振り返りましょう」ボードを作成し、毎日嬉しかった事や感動した事、悲しかった事などを２色の付箋に色分けして貼り、その中でもっと詳しく内容について知りたい事柄のものや、保育士の工夫や配慮した点などについて、交換日記と称して、詳細に記入してもらい、ミーティング会などで報告、検討している			・保育記録	・家に持ち帰る仕事が多いこと ・休みが取りづらいこと	・子どもの成長を感じたこと ・保護者に「保育所に来てよかった」と言われたこと
副所長	公営	・障害児研修	・各自、自己チェックリストを参考に自分自身を振り返るようにしている（随時）	・早番、遅番で保育士が欠ける ・保育室へは、時短対応保育士、又は副所長が入る様にしている		・保育教材作成 ・書類作成		
	公営		・毎月、月指導計画や個別保育記録の欄に記入し、職員会議等で意見交換し、共通理解を図るようにしている。 また、期毎に各自がPDCAのサイクルで自己評価している	・延長保育もしており、職員の勤務時間も多様であり、その中で職員間の共通理解や情報交換の場や、時間の取り方が難しく時間をどのように持っていくか工夫が必要とされる		・クラスだより作成	・子どもにとっては保育園ですごす時間が長いので、様々な面で責任が重いなと感じる ・保護者との関わりが難しいこと	・子ども達が成長していくのを見ていくことができる ・子ども達と一緒にかかわって遊べること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・設備点検		・給料が安い ・帰りが遅い	・子どもと共に成長している自分がいる ・子どもの笑顔に囲まれる				
	・運動会衣装作り				・保育室内の整理 ・保育教材の確認、見直し	・持ち帰りの仕事などで休日も休日と感じない時がある	・子どもの成長、発達を目の前で感じれる ・子どもにとって、より良い保育を考え勉強できる環境にいること
・昆虫、植物の世話	・保育計画 ・教材準備	・休暇も仕事をして当たり前な環境 ・時間外の労働の多さ ・日焼け・女ばかりの職場環境 ・精神的プレッシャー	・子どもからパワーをもらえる ・感動したり、うれしいこと、楽しいことを経験できる ・給食が食べられる		・保育記録の作成 ・保育教材の作成 ・書類作成 ・行事の準備	・仕事に対するやりがいがあるが、精神的、時間的に十分にできないこと ・自分の保育を文章や言葉で伝える力が足りないこと ・年々、体の衰えを感じ、健康面に不安があること	・子どもと過ごすことが楽しい ・保護者や地域の人と関わることで、自分の世界が広がり、成長を感じる ・子どもの成長や発達を感じる喜びがある
	・指導案の作成	・まわりの協力が薄い。一人で頑張っている気がする	・子どもが自分を好いてくれているなぁと思うとき ・行事がうまくいったとき ・楽しいと思える時間があるとき		・保育記録作成	・最新機器の扱いに時間がかかる ・分からないことが多い	・色々な人に会えて勉強になった

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・行事のあと、環境（人的、物的）などについての項目チェックや記述式で行っている	・縦割保育、年令保育を組み合わせている				・子ども達の成長過程を側でみている中で出来るようになった喜びを共に感じれられる ・笑顔がみれ癒される
	公営		・自己評価チェックシートを使って自己評価する					
	公営	・特別支援児研修 ・保護者対応	・年２回、園アンケートを実施（保護者向け）、公表することにより次年度につなげる。また年２回職員アンケートを実施(保育士向け)し、自分の保育をふりかえるきっかけとしている	・幼保一元化施設ので、複数担当（１クラスに幼稚園担当と保育園担当配置）をしている ・特別支援を必要とする子どもに対する個別指導を実施してい ・園評価を活かした園運営に取り組んでいる		・事務的な仕事	・風邪や病気にかかりやすくなった	・子どもの成長を目にしながら、日々の生活を一緒に送ることができる ・先輩方の姿から様々なことを学び、自分自身成長できる
	公営		・人事評価(市)の中で行っている	・勤務条件や体制が多様化しているので、ギリギリの状態で工夫する余裕もなし		・行事の書類作成 ・子どもの個別記録記入 ・月、週案の記録記入	・保護者とのコミュニケーションに勇気がいる ・子ども一人ひとりの気持ちに寄り添って話を聞いてあげる時間的なゆとりがない、心にもゆとりがいるのかも ・行事の見通しがつかない	・子どもの笑顔や成長を見て一緒に喜ぶことができる ・保育のための自分自身の人間力を高めなければと思わせてくれる ・色々な家庭があり、色々なライフスタイルがあるということがわかった

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・職員の数が子どもの人数に対して少なく、ゆったりした保育ができない ・保護者とのコミュニケーションが難しい ・精神的にストレスを感じることがある	・大好きな子どもとたくさん関われる ・行事があることで四季を感じとれたり、いろいろな経験ができる ・日々勉強できることがある		・指導計画作成	・持ち帰りの仕事が多く、家で家事以外の時間はほぼ仕事になっていることが多い	・子どもの成長が感じられた時、やりがいを感じる
	・クラスだより作成	・時間外、持ち帰り仕事が多い ・仕事中心の生活､家のこと、我が子の育児がどうしてもおろそかになってしまう	・子どもたちの成長を感じることができ、喜び、幸せを感じる			・書類を書く時間がなく、家に持ち帰りになることが困る ・行事に追われて日々を過ごすことが苦痛	・自分が受けもった子どもが、保育士を目指していることや、保育士になって仕事をしていると聞いた時
	・教材製作、教材研究	・持ち帰り業務がよくある ・(特に５歳児の時）行事が多く、行事中心の生活になってしまう	・子ども（クラス）の成長を感じられる喜び		・実習生の実習日誌の評価の記入	・やるべき事、やりたい事が多く、こなしきれていない	・子どもの成長をそばで見ることができ感動が多い
	・買物(テープ) ・記録 ・買物（医薬品等）				・保育記録	・年と共に体力がなくなり、いつ病気になるか心配 ・家庭に介護を要する親があり、何かあったら休まなければならない	・子どもの成長が見られ嬉しい ・とてもやりがいのある仕事だ ・かわいい子ども達と色々な事を考えたり、経験したりして毎日が楽しい

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・人事評価に合わせて行っている	・子どもの人数に応じて無理なく保育できるよう体制や配置を心がけている				
	民営	・内容(テーマ)を決め、年間計画に基づき実践し合う	・1年間の自分自身の反省をまとめ、用紙に記入して提出又は全体で話し合う	・園児の人数(時間帯による)を把握し保育士の勤務体制を考える ・各保育室の園児数に対しての保育士の指数が満たされているか、確認し、配置する				
	公営		・毎回1回、自己評価表を記入し所長へ提出			・制作	・時間がない ・する事が多い ・肉体的・精神的に負担がかかる	・子どもと関わりながら仕事ができる
	公営		・保育実践や保育内容を4つに分類し、さらに保育指針を踏まえ、10の項目から31の自己評価の観点を示し実施している			・月間指導計画作成	・年齢に合った保育ができているか ・書類の作成に時間がかかる	・子どもの成長が感じられる ・「先生ー」と喜んで一緒に遊ぶことができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育記録	・思うように休暇が取れない	・子どもの笑顔から元気がもらえる ・子どもの成長を身近に感じることが出来る		・指導案、他	・年齢が高年齢となってきているので子ども達の体力についていけない ・若い保育士の指導やリーダーとしての役割など果たせているのか ・保護者との良好な関係を持てているのか	・子どもと一緒に過ごせたこと ・行事などやりとげたときの達成感を子ども達が、感じとってくれている様子を見た時
	・保育記録下書き	・保護者との関わり方 ・保護者のニーズ ・終わりのない仕事量	・子どもが可愛い ・やりがいがある ・週休二日		・クラスだよりの製作 ・運動会用小物製作	・自分の子育てとの両立がある為、どちらも手を抜いてしまったりする（特に家事全般） ・保育所に子どもを預けているので、お迎えの時間を気にして行動している ・若い保育士と上司との間に入ることがある	・子ども達に、先生大好きと言ってもらえること ・10年以上たち、やっと保育士らしく行動したり、対応したりできるようになったと感じられること ・いつも大好きな子どもたちの笑顔に出会えること
	・おたより作成 ・指導計画作成		・子どもの成長がうれしい ・共に過ごす日々が楽しい		・誕生会の準備、行動計画の作成 ・誕生会の準備、装飾物の作成など	・家に持ち帰ってする仕事が多く、家事との両立が難しく（忙しすぎる）なること	・色々な地域の方々と交流ができる
						・行事の多さ ・保護者の要望が多い ・行事が多い	・子どもといろいろな発見や驚きを楽しめる ・子どもと関わることができる

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ−2	Ⅳ−11−⑤	Ⅳ−12(1)	Ⅳ−13	Ⅱ−7−⑪	Ⅱ−(6)-1	Ⅳ−12	Ⅳ−13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・保育所保育指針の勉強会 ・研修報告会及び勉強会（年令別）等	・チェックリスト（年２回）					
	民営		・人事考課表に記述し、所長との面談を年に１回行う	・主活動時間の保育の妨げにならないよう、人員配置（シフト）をしている			・帰宅しても次のひの準備などでゆっくりと休めない	・大好きな子ども達の笑顔が近くで見れる ・人間として成長出来る
	公営		・チェックリストを利用して行う ・市における人事評価で年３回行っている	・園児数に応じて、指数補完を行っている ・職員が年休研修等で欠ける時、代替職員にきてもらっている		・指導計画の作成		・子どもの成長を身近で感じられること ・子どもの笑顔が見られること ・毎月、気づきがあり自分が成長できること
	公営		・チェックと目標設定の評価					
	公営						・人間関係 ・子どもの一人ひとりの関わり方	・子ども達が私を保育士（先生）として認めてくれたこと

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・自分の子どもに満足に関われていない	・やりがいを感じる ・辛いことがあっても子ども達が笑っているとつられてこちらも笑顔になれる		・事務	・休暇がとりにくい（行事と我が子と重なることが多く仕事を優先せざるを得ない状況） ・勤務時間で帰れない ・書類物が多い、事務的な仕事が多く教材作り等の時間がなかなか持てない	・多くの子、保護者、職員との出会いがあったこと ・冷静に子どもを見ようと意識するようになったこと
					・保育記録 ・行事内容を考える	・後輩への指導	・いろんな人との出会い ・子ども達と一緒に過ごすことで楽しい事苦しいことがいろいろあるが、結局は喜びに変わっていくことが嬉しく思える ・子ども達からも学ぶことがあり私自身成長させてもらっている
			・子どもたちの成長を目の前で感じ保護者と喜びを共有し合えること			・やりたいこと、しなければならないことは山ほどあるが時間がない	・子どもの発達の１つ１つに喜びを感じること ・保育を工夫していくこと
						・家庭をほったらかしにして仕事ばかりしている ・自分の時間がない	
						・０歳児は途中入園の子が多いので一年を通してバタバタしている	・やりがいがある ・充実感

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・気になる子について ・行事についての検討会	・各自、保育や自分自身について振り返り、自己評価表を記入し、月毎に年令（クラス）で話し合い、まとめたことを会議等で報告する	・早出、遅出で保育士が手薄にならないように年令で合同保育を行ったり、フリー保育士がサポートに入る		・保育記録	・いろんな事を言って下さる保護者に一つひとつ対応していくこと	・子どもの成長や喜びを保護者や子どもたちと感じられる ・子どもと活動を共にして楽しい ・子どもの笑顔がいつも感じられる
	民営		・当園独自に作成した自己点検記録簿により問題点をあげクラス毎で話し合う	・新人保育士同志、経験ある保育士同志、同じクラスの担任同志が重ならないようにする ・土曜日は別に体制を組む			・残ってする仕事や持ち帰りの仕事が多い事 ・ピアノが苦手なこと	・子ども達の成長や喜んでいる顔が近くで見れる事
	民営	・ケース会議 ・ヒヤリハット会議	・保育士のチェックリストを活用	・短時間で早番、遅番専門の保育士がいる			・人間関係	・子どもの成長が嬉しい
	公営	・保育に活かせる遊び、言葉がけなど、怪我の手当、自己防止について	・シートにより自己評価を行い、主任、園長へ提出、まとめたものの傾向について話し合う	・時差出勤を行うにあたり、安全加配保育士、主任で対応する				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・時間が足りない ・休憩時間がない ・休日に行事が入って休めない	・子どもの成長を見ることができ感動できる	・欠席している子の様子を聞くため、母親に電話をかける、その後園長に報告する	・保育教材作成 ・行事準備物（書類）作成	・保護者からのニーズ対応（モンスターペアレント的な保護者が多くなってきている） ・早朝保育、長時間、延長保育に対応して出勤する場合、自分の子どもをみることができない（自分の子育てが十分にできない）	・やりがいを感じることができる ・卒園した子どもが園に遊びに来たり、保育実習に来て成長した姿を見せてくれることがある
		・土曜日の休みが少ない ・家のことがなかなか後回しになってしまう、自分の子どもと十分にかかわれていない感がある	・大好きな子どもと接することができる ・いろんな方と話ができる ・生き生きと生活できる			・行事に追われ準備など毎日遅くまで残らないとだめなところ（追いつかない）	・子どもといると楽しく笑顔でいられること ・子どもや保護者から「先生」と慕ってもらえること
		・子どもたちがまとまらない（まとめようとしているからなのかもしれないとあせり） ・↑他の保育士の目が怖い ・自分に子どもがいないので適切なアドバイスができない	・子どもの成長がみられたとき ・子どもたちと楽しさや嬉しさを共感できたとき ・保護者の方に感謝されたとき、一緒に喜び合えたとき			・記録物が多い	・子どもの成長を共に喜ぶことが出来た
			・子どもの笑顔や成長を見れること ・自分自身毎日楽しく過ごしていること	・次の日が運動会のため、運動会準備	・週日案の記入	・だんだん体力が衰えてきている感じがして、肉体的なきつさを感じる ・書類など持ち帰りの仕事があり、休みの日も仕事のことが頭から離れない ・自分の子どもと行事が重なると見に行けず、子どもに申し訳ない気持ちになる	・子どもと一緒に過ごす時間がとても楽しい ・子どもの成長は間近で感じられることが嬉しい ・なりたい職業だったのでやりがいを感じる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・保育士チェックリスト					
	公営	・指導計画案	・自己評価、チェックリストを使い、年２回全体で行います	・障がいの子が長時間保育の時間帯に何人か残っているので安全面で配慮した体制にしている		・誕生カードの作成	・保育で子どもと関わっている時間以外にも、事務的な仕事、保材研究、製作にかける時間、行事の準備などが大変	・子どもの成長を感じ、一緒に喜べる
	公営		・チェックリスト					
	公営	・園内研修をして２月に発表している					・臨職という中途半端な立場なので将来が不安	・子どもと関わることができる ・自分の持つ資格を活かすことができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・子どものことや保護者への対応等、ゆっくり相談する時間がないこと	・子どもの成長を近くで見る事ができる喜び		・日誌記入 ・来月の予定表作成 ・運動会について園内環境作りと提出書類チェック等	・仕事量(量的、質的、精神的)の増加に伴い、家庭がおろそかになってしまっている。又、十分なことができない	・心から子どもや保護者に信頼され、子どもの成長を見る事が出来た時 ・人として学ぶことが多く、色々な人と関わる中、自分自多少成長できたのではないかと思う ・子どもの笑顔と頑張りにふれ過ごす事のできる毎日
	・週案 ・運動会の準備	・持ち帰りの仕事が多いこと	・子どもたちと一緒に思いきり遊んだり、いろんなことを感じる事ができること ・子どもの成長を感じた時		・事務的な仕事	・保育だけの仕事ではなく、その他の事務的な仕事や教材研究などの持ち帰りの仕事が多い。時間が足りない	・子どもと過ごす時間がもてること ・子どもの育ち、成長に少しでも関わり喜べること
	・保育記録や代替日誌などの記入	・園児が小人数でも事務的な作業も多く、期日に間に合わず迷惑をかけてしまう ・持病があるので体力的に辛い時がある ・主任など会議で留守にすることが多く、何かあった時の責任など不安がある	・自分の子ども以外での、子どもの成長を毎日感じていられる事（保護者よりも） ・様々な研修会での人との出会いや情報が勉強になる ・巡回指導や園長先生の話がとても参考になり、指導していただける事がありがたい		・保育の記録	・持ち帰り仕事が多い	・仕事は大変だが、子どもの成長を感じることで、やりがいはある
				・身回りの事		・自分の子どもの行事に参加できない（同じ市立保育園なので）	・卒園児が保育士をめざしてくれている事 ・たくさんの人（親、子ども、同僚）に出会えた事

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・救急講習会	・村で実施している人事考課	・朝7：30から受入れ（長時間）しているが、未満児が多いので未満児クラスの嘱託を7：30～4：00までの勤務にしている（子が慣れていてスムーズに入れるため）		・資料作成 ・保育準備、製作	・帰宅後の持ち帰り仕事が多い	・子どもと関われる時間をたくさんもてる
	公営		・職員会月1回他				・ピアノの練習をする暇がない ・アカペラで歌うと音を外してしまう	・子ども達の成長を見れる事 ・子ども達が笑顔で「先生!!」と呼んでくれること
	民営		・年度末に項目を決めて文章にまとめる ・全職員に配布し職員会で報告	・早朝、夕方の保育できるだけ正規職員でできるように工夫している ・延長の職員も、職員会議に参加し、子どもの様子等話合っている				
	公営	・担当職員が講師になり行う	・自己評価チェックリスト使用	・以上児クラスの異年齢交流 ・外からの人形劇、コンサートの時は職員が全員出勤でない時でも催す ・勤務体制は職員のそれぞれの思いもあるので平等に近い状態で組んでいます ・朝･夕2Hと決まったパート保育士がいる		・個別記録表、週案		
	公営							

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・運動会、音楽づくり	・保育者への対応 ・グレーゾーンの子に対する保育、クラス運営	・子どもの成長を保護者の方と喜べること ・子どもと一緒に新しいことに挑戦できること		・運動会用品作り	・子育てとの両立 ・支援児への支援方法、または保護者から理解を得る事	・子どもたちから元気がもらえている ・様々な出会いがある
		・自分の子どもの具合が悪くなってもすぐに抜けることができない(代替が必要なので) ・行事前に持ち帰りの仕事がある時	・子どもの成長や保護者との信頼が目に見えてわかった時のやりがい			・保護者の方との信頼関係	・子ども達の成長を見守ったり一緒に喜べる ・一緒に何かをやり遂げる充実感を味わえる ・子ども達の純粋さや笑顔に癒される
	・月案を立てる	・保護者や職員などの人間関係の難しさ ・持ち帰り仕事が多い ・仕事とプライベートの差がつけにくい	・１日たくさん笑える ・子どもの成長に感動する瞬間にたくさん出会える ・「昨日と同じ」な日がない			・パートなので給与が安い ・業務以外（勤務時間外）の会議や仕事がある	・やりがいがある ・一緒に成長できる ・楽しい
	・運動会衣装作り	・書類の量（持ち帰りが多い）	・子どもの成長を身近で感じられる ・保護者とのコミュニケーションがとれているとき		・資料映像の整理プリント	・持ち帰り仕事が多い ・書類等を行う時間がなかなか取れない ・子育て支援に携わりたいが、立場が変わりクラスに入ることや子どもに接する時間が少ない	・子どもの成長を自分の仕事の成果としてみられる ・充実感やりがいが感じられる
	・クラスだよりづくり	・個別記録を書く時間がない ・保護者との関わり方	・子どもと過ごす時間が楽しい ・子どもの成長が見られて嬉しい			・保護者との対応、子育て支援の難しさ ・発達の遅れや障害の子どもの指導や保育 ・事務量の多さ	・やりがいを感じる ・子どもが可愛く、幸せな毎日を送ることができる ・正規職員なので安定している

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・チェック表の利用	・急に早出があった時など次の日また都合のつく日に時間分早く帰る				
	公営	・特別支援（ＣＬＭ）	・市の人事評価（目標管理）	・夏期は３歳以上児は混合保育			・子どもの気持ちをうまく汲みとってあげられないこと ・その子に合った関わりがどのようなものなのかが分からないこと	・子どもからたくさん笑顔や感動をもらっていること ・子どもの成長を間近で見られること
	公営	・研修会参加報告	・チェックシート活用 ・目標管理シート共に記述を含む	・認定こども園となり、幼児教育は14時までとし、14時以降は担当保育士に引き継ぐ（４、５歳児） ・職員数は計画時より集まらなかったので、早朝保育、バス乗車、14時以降専門、長時間延長保育のみ担当等、利用者の希望時間により細かく対応している ・副園長２名はフリーとして、研修、休暇対応等にも対処			・書類作成 ・有休消化ができない ・人間関係	・子ども達と過ごす時間が楽しい
	その他		・自己評価チェックリスト					

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
					・日誌などの記録	・休みたい時になかなか年休が取りづらい（代わりの人がいないため他クラスの先生に迷惑をかける）	・子どもが成長し、大人になってからも親しく話しかけ、遊びに来てくれること
	・日誌や週案	・気がかりなこと、心配なことがあると休みの日もとても考えてしまう、気持ちが休まらない	・子どもの成長を近くで感じられること				
		・家事、育児と仕事の両立の難しさ	・毎日子ども達と関われ、色々な発見ができること		・保育日誌	・体力の低下 ・事務的な仕事の増加	・日々、新しい発見があり、感動出来る事 ・事務的に仕事を消化するのではなく、自分で考え、進めていくことができる
		・個々の育ちに如何に対応するか、自己研鑽を感じる	・成長期にある子のその日その日の楽しさ		・保育記録	・保育教材など製作時間の確保	・子どもの笑顔が見れる（泣いた顔もかわいらしい）

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・まだ民営化して初年度ですので、体制を整えてから園内研修を実施します ・県の研修、市の研修には職員を積極的に行かせています	・朝７時からパートの先生２名（7：00～9：00） ・夕４時からパートの先生２名（4：00～7：00） ・６時間（９：00～16：00）の嘱託の先生を配置しています			・運動会の準備	・仕事量	・子どもの笑顔 ・子どもの成長 ・子どもから「だいすき」と言ってもらえること
	民営	・年齢別研究会 ・委員会（３園合同で月１回） ・主任会	・チェック表	・初任の保育士が学習しやすい複数担任制など		・クラスだよりなど書類作成	・子どもの気持ちがつかめないこと ・職場での人間関係	・子どもたちの笑顔や大好きと言ってくれること
	民営	・関市保育会の研修 ・民間保育園研修（県・市）		・朝（登園）夕方（降園）は二人ですが、一人は非常勤にしています ・未満児から年中までは１クラスでやっています（担任は複数）		・運動会準備		
	民営		・園独自の自己チェックリストを作成（保育内容等の自己評価 ・年に２回、園長と主任保育士が実施			・製作の準備、仕上げ	・有休が取りづらい、とりたい時にとれない ・残業時間があいまいなのでタイムカードにしてほしい	・毎日子ども達と生活できる ・子どもの成長が見ることができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・運動会衣装の見直し ・個別記録の下書き	・複数担任の連携 ・人間関係 ・様々な親との対応	・子どもが慕ってくれる ・保護者が頼りにしてくれる ・様々な世代の保護者と通してその時々の親子関係が見える		・ピアノ練習	・親への支援の難しさ	・子どもと居ることが楽しい ・子どもの成長が良くわかりやりがいがある
	・週案の記入	・仕事量と給与が割りに合っていない、ボランティア残業が多すぎる ・定時に帰れない、帰ると家での仕事が増える ・人間相手なので接し方に正解がない	・子どもが自分のような先生になりたいと思ってくれていること ・毎日うれしそうに登園してくれること ・多くの人と接し（幅広い年齢層）、多くのことを学べること				
	・運動会準備	・幼い子が増えた	・子どもに癒されること			・家庭で教えるべき事も、全て保育園でやってもらおうとする保護者が増えた	・子どものかわいさと、癒されること
	・明日の保育活動の用意	・上司の相談したいこと、報告したいことがあっても忙しく、なかなか見えない為相談したり報告できない ・有休が取りづらい（取りたい時に取ることができない） ・残業時間がタイムカードにして欲しい	・子どもと楽しく過ごすことができる ・笑顔でいられる ・子ども達と楽しく体を動かせる			・10年前と比べて過保護な保護者が増えてきた ・延長保育が無料なため、必要以上に保育時間が長い子が多い ・上司が忙しく、相談や報告がすぐにできない時がある	・やりがいがあり楽しい ・人とのつながりがあり、卒園児や保護者と長くつき合いがある ・自分の今後の人生（子育てなど）に活かせる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	その他		・自己チェックリストにて評価	・クラス担任が保育に支障が少ないように遅番をパート職員で行っている		・個別記録	・保育の難しさ ・保護者との関わり	・子どもたちの成長を毎日感じることが出来ること ・子どもたちの笑顔を見ることが出来ること
	民営			・少人数であるが年齢の発達を考慮すること				
	公営	・各保育士が企画、進行の自己研修 ・調理、延長保育研修		・子どもの年齢、人数に合った人員の配置 ・早朝、延長保育時の危機管理のマニュアル化と見直し ・基本的には年齢別保育ですが、秋～春にかけて、縦割り保育の時間も持ち異年齢交流保育を行う ・特別支援の子への保育（その子にあった加配保育士が配置されています） ・延長保育、土曜保育ではなるべく加配担当できるように工夫しています		・気になる子どもの行動チェックリスト	・家でも持ち帰り仕事をやらなくてはいけない時がある ・子ども一人ひとりの発達や特性の把握が難しい	・子どもと一緒に成長できる、成長を見れる ・子ども、保護者、同僚などとの繋がりが深まり毎日が楽しい ・自分らしく仕事ができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・来週の週案	・保護者との関わり（伝えたい事をどう伝えるか？事実をそのまま話すのか？） ・腰、ひざなど悪くすること ・新人などの指導法、関わり（新人の気持ちがまだ分かる年令なので強く言えず（同じ事はしないでおこうと…）でも、フランクにしすぎて緊張感を持たせられず、なあなあになってしまった気が…）	・大好きな子どもと、ずっと真剣に向き合える ・自分の考えたもの（保育）アイディアを出して保育という形にできること ・小さかった子どもが心も身体も大きく成長していく姿を見れること		・指導計画の作成、教材研究	・月案、週案、日誌、月だより、期案などの書類が多く書くのが大変である ・公開保育も計画を立ててやったりするのは日々の保育をやっていて大変である ・親支援という事で、お休み（仕事）の日でも遅番に残る子が多く、たくさんの子どもになってしまい見るのが大変（先生の数を増やせば又負担になる）	・子どもの成長が見れて嬉しい ・自分の計画した活動を子どもが楽しんでいる姿が見れる
	・環境設備、受け入れ準備 ・保育教材作成	・命を預かる責任の重さにつぶされそうになることがあります ・保護者との意思の疎通	・子どもと共に、自分も成長できる、日々学習 ・子ども達の笑顔、素直な気持ちに触れられる	・保育準備、保育園フェアーの練習	・週案作成 ・月案作成 ・フェアーの楽器作り	・年々保育のニーズが複雑になり、対応が難しくなっている事 ・家庭との両立	・子どもの成長を喜び合えた時（本人・同僚・保護者と） ・子ども達の中から出てきた思い気持ちをとらへ、活動に繋げていくことの過程を子ども達と楽しんだり、その活動の中で、子ども達が関わり合い成長したり、お互いに達成感を感じ合えた時

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・感染症対策の実技研修	・自己評価のチェック項目を各自チェックし、職員全員で検討し改善できる部分を実施している	・園児数が少ないので、以上児は一緒のクラスにして縦割りの良さを活かしている			・自分の保育に自信が持てず、常に後悔してばかりいること	・子どもが本当にかわいくて、触れ合ったり遊んだりする時間が心底楽しいと思えること
	公営	・クラスの見直し ・年齢別話し合い	・各自評価を行いグループ会議をしている				・体力的にハードで疲れた状態が抜けないまま働くことが多い	・子どもに好かれていると感じるときやりがいを感じる
	公営	・わらべうたについて						・乳児と関わる機会がもてる ・幼稚園、保育園の違いを知れる
	公営	・職場内研修（自己チェック） ・職員会の研修（事務的なもの） ・時間内保育内容研修（年令別）	・チェック項目を分析、自分の弱点・強みを知り、保育・職場に活かす	・体制や改善案は常に公立園全体で情報交換・話し合いをし、足並みをそろえている		・個人記録	・腰が痛い、体力がない ・週案・月案はどうしても家でやらなければいけない ・子どもとどう関わったら良いか分からなくなる時がある	・子どもたちがとにかくかわいい、嫌なことがあっても、救われます ・たくさんいい先輩先生と知り合えたこと ・週休２日で安定していること
	公営	・給食検討会	・公立３園で統一した内容の評価表を使用し、年１回実施結果を基に個別に不足している部分の話し合いをする	・入園希望者多数のため４、５歳児、１、２歳児クラスを各１クラスずつ混合クラスにしている ・入園児の保育時間に合わせ30〜15分単位での職員の勤務時間を臨機応変にローテーションを組んでいる（月単位で見直しをする）			・家事と仕事の両立 ・我が子の子育てが、園で見ている子と同じようにはできていない事 ・プライベートな時間でも保護者と偶然会う事もあり、保育士としての意識を常に持ち続けなければならない事	・子ども達が一つ一つ成長していく姿をすぐ側で見守る事ができる ・仕事での経験を自分の子育てに活かす事ができる ・やりがいが本当にある

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子どもの成長を共に喜び合えること				
		・同僚との保護者観の違い	・楽しい				
					・クラスだよりの作成 ・月案	・年々、保護者に対する対応の難しさを感じている	・大きな行事を終えた時など子ども達と一緒に何とも言えない達成感を感じる時など ・子どもと一緒に生活をしていなければ普段見過ごしがちな小さな発見や感動を子ども達に教えてもらえる
	・運動会(教材)作成		・子どもが自分をたよってきてくれること	・子どもの準備・支度など ・保育室の準備など	・製作などの準備、記録など	・後輩保育士への接し方 ・持病がありいつ悪化するか不安 ・自身が持てない、体力、気力が減っている	・子どもの成長を近くで感じることができる ・子どもなど自分を頼ってくれる（感謝されたり…)、人の役に為になることができたと感じる時
	・運動会関係の書類作成	・自分の体力が追いつかない事 ・もっと専門性を高めたいが、その事に費やす時間の余裕がない事 ・受け持ってる保護者の生活面、精神面へのフォローができず、子どもに返せない事（1名）	・子どもとの触れ合いの楽しさ（日々の生活) ・乳児のちょっとした成長を肌で感じられる事 ・0歳から6歳までの成長を見届けられる幸せ		・運動会について		

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ−2	Ⅳ−11−⑤	Ⅳ−12(1)	Ⅳ−13	Ⅱ−7−⑪	Ⅱ−(6)-1	Ⅳ−12	Ⅳ−13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・チェックリストによりチェックしてグループで話し合いを行う	・原則として複数担任で保育を行っています。		・保育教材の作成		・子どもと関わる事が、保育士になってからの方がより楽しいと感じるようになった ・仕事は難しい事が多いが、学生の時よりも学ぶ意欲が増してきていること ・自分の将来にも役立つし、人として相手にどう関わるべきかを考える事が増えた
	民営		・テキストを使って自己評価をしています			・行事の立案や練習 ・書類	・病気等全く知らない為、保護者からの質問にすぐ答えられない	・子どもの発達を知れる ・毎日子どもの笑顔を見せて幸せ ・子どもが成長した（していく）姿が見れる
	民営	・記録について（児童票、日誌他） ・苦情について(内容、対策、対応)	・チェックリストの項目→集計→検討（園内研修）	・環境（物的、人的）を大切にした保育 ・非常勤（非正規）職員をフルタイムにし、又、固定勤務時間にし、正規職員のローテーション等を軽減している。			・人間関係の難しさ ・子どもに対する声かけ、援助の方法 ・保護者とのコミュニケーション	・子どもの成長を感じられること ・子どもが笑顔で遊ぶ姿を見た時 ・子どもと信頼関係を築けた時
	民営							

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・打ち合わせ資料をまとめる	・保護者へのお願いしたい事柄や子どもを怪我させてしまった時の伝達の仕方 ・先輩、後輩との人間関係作り ・書類（パソコン作業）の多さや森帰り仕事の多さ	・子ども達の成長を感じられる事 ・自分が提案した保育内容を子ども達が楽しそうに取り組んでいた時 ・子ども達の笑顔で気持ちが和らいだり、癒された時			・子どもの怪我に対して ・１人１人の感情に対して、十分に接してあげられていない事に対して	・子どもと毎日楽しく過ごせている事 ・成長なのを十分に感じられる事
・行事(運動会)の用具準備など	・行事のプリント作成など	・保護者の関わりが難しい(子どものために行っていること、行事のことなどで自分中心の意見が多い、言うことは多く、手伝いなど協力的ではない)	・子どもたちの成長を長い子では０歳～みているので嬉しく感じる ・毎日同じことのくり返しではないのでやりがいがある ・自分の奥さんにも子育てのアドバイスができる	・勤務に入る入る前の準備		・保護者の対応	・子どもの成長を近くで見れる
	・児童票下書き	・保護者への対応 ・勤務体制、仕事内容	・子どもと一緒にいることで楽しさを感じ笑顔になれる		・行事について（資料探し、ピアノ練習）	・保護者との人間関係 ・休み（有給）が取りづらい…取れない ・仕事内容が難しくなっていくこと	・子どもの成長を喜べる ・保育士という響きが周りの受けがいい
		・自分のやりたいことを素直にできないこと ・家に持ち帰る仕事の多さ	・子どもの成長を間近で見ることができ、素直な反応や感動をともにあじわえる ・自分が考えた保育内容で、子どもたちの笑顔がたくさん見られたこと ・様々な人との出会い、子どもたちと過ごす中で、自分自身が成長できること			・保育記録作成が職場で時間が取れず、家に持ち帰ってやらなければならないこと ・保育士が少ない為、有給休暇が思うようにとれない	・子どもが一つ色々な事ができるようになった時、教えたことが出来た時、成長を見れる時

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・実技研修（わらべうた、文学遊び、救急） ・子どもの発達、指針、保護者との関わり、環境設定	・チェックリストを使用し自己評価を行い、前年度評価と比較し、集計したものを個人に渡す。後日会議等でそれを基に話す				・クラスが3人担当で、担当制で自分の担当ではない子に対しての接し方（上の先生に気をつかう） ・自由保育のやり方がいまいちわからない	・子どもの成長が目で見てわかること
	民営	・年齢部会 ・それぞれ職種の研修をしている	・(評価表を作る) ・自分の目標を3つ掲げ（2つは職員共通の目標）（残りの1つは自分の目標）それに向け取り組んでいる、これに対し毎月自分で評価をし反省を記入し○×△を入れる	・早番遅番に関し人数調整しそれに対しての職員を配置する		・運動会の製作物		・子どもの成長を間近で見られること
	民営		・年1・2回実施し、園平均と法人保育園の平均を集計している、そして個別面接やグループ会議を行い、質の向上につなげている	・正規職員が早・遅番勤務を行い、非正規職員にはあたらないようにしている ・書類等もなるべ正規職員が担うようにしている		・児童票	・保護者への対応 ・複数担任の連携の難しさ ・個々に合わせた保育の難しさ	・可愛い子どもの成長した姿が見れる ・子ども達から“せんせい”と呼んでもらい、頼りにしてくれている ・毎日子どもの笑顔にいやされる
	民営		・年3回、○×方式でチェックし、各項目毎にグラフ化した後、他者との比較をし、気付き・課題を挙げている	・できるだけ勤務時間内で業務を終えていただき、清掃後速やかに帰宅できるようなシフト作り ・早番・遅番・土・日・祝日の出勤は不平等にならない勤務表作成		・書類	・職員関係があまり良くない ・家での仕事が多い	・子どもと一緒に成長できる ・子どもの成長が見られる
	民営		・一年間の反省の中で自己評価する				・休日でも保護者や上司等に会うこと（プライベートがあまりない）	・子どもの心の成長を見る事ができた時、良かったと思う ・自分の子育てに役立てる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・その月に出す新しい絵本を用意した	・若手保育士へ、上の先生達、園長、主任のバックアップがもっとほしいこと	・人とのつながり、心温まるエピソード ・子ども達からもらうすてきな笑顔、元気や力をもらったり励まされたりするetc… ・子ども達から学ぶ自分が成長できたこと			・親との関わりが年々難しいなと思う	・不安定な子どもが保育園にいる時間だけでも楽しく過ごしているなと感じた事 ・子どもが自分に甘えて（心から）いること
			・今の子どもや保護者の実態を知ることができる ・興味のある研修や勉強会にたくさん出させてもらい、知識が増えていくこと ・行事を通して季節が感じられること		・子どもの記録	・他の保育士が残って仕事をしている手前、業務終了時刻をまわっても帰りにくい ・異動がある	・子どもが成長していく姿が見られること
	・運動会用小物の製作	・どうしても持ち帰りの仕事があるので休日でも仕事を離れることができない ・生理日のプールが大変	・自分自身成長することができた ・たくさんの人と出会うことができた ・辛いことがあっても子ども達のおかげで笑顔でいることができた				
	・運動会お遊戯用の衣装	・頼まれ事があるとうまく断れず結果的に受けてしまうこと ・長年いると頼られてしまうことが多く、荷が重い時がある	・毎日子どもと楽しく過ごせること		・月のクラスだより ・担当行事に向けての計画 ・新入園児の資料まとめ	・先輩に教えてもらった経験が少ない中での後輩指導 ・気になる子、生きにくい子に対しての支援とクラス運営 ・自分が行っている事が良いのか、間違っていないか不安になる事がある	・保護者の支援ができること ・成長を共に感じ喜びの多い仕事であること（笑顔でいられる事が多い仕事） ・卒園児が大きくなり遊びに来てくれて保育士になりたいと言ってくれた事
	・児童表、日誌の記入				・児童票の記入	・保護者への対応 ・職場での人間関係	・子ども達と一緒に過ごすことができる、成長が見られる ・やりがいがある

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・危機管理 ・環境作品	・全国統一の評価表に基づく	・子ども達の安全への配慮、安定への配慮をして、必要な時間の保育士の移動をしている ・長時間保育児が体制以上に多いので、超過勤務とならない時間内で保育士を配置（独自の勤務体制）している			・職員間や保護者との人間関係を築くことで悩みがつきない	・子どもの成長の瞬間に日々立ち会えること
	公営	・園内で資料をもちより研修をする	・自己評価チェックリストを各自で行い、その反省や評価を自分自身で書き出し、改善すべき点を職場内で話し合う	・夕刻の保育を遅番１人もう１人17時15分までの時間で２人体制にし、朝の８時30分から時間帯に保育士が集中するようにし、受け入れるようにしている	・戸締り、着替え	・CD体操の練習	・女性の職場の為、しっかりと馴染む事が難しい ・男性、女性という事から、考え方、捉え方の視点が違う ・強く意見が言いづらい	・多くの子が見れる事 ・子どもの自由な発想がみたり、聞ける事 ・自分で考え、子どもの達と一緒に目標に向かえる事
	公営		・評価項目は決まっておりそれに対して自由記述	・フリー保育士を遅番対応としている		・教材研究	・持ち帰り仕事が多い ・保護者との人間関係が難しい	・子どもが笑顔で園に来てくれる ・子どもとの関わりが楽しい
	公営		・豊田市で作っているものを使用している	・小規模園ということで、２つの園を園長が兼務しています、一日置きに交替で行ったり来たりです、主任・保育士・公務手さんは両園にそれぞれいます				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・時差勤務が肉体的にきついと感じる時	・子どもの成長を感じたり、子ども達の姿を可愛いと感じた時
		・子どもや保護者への対応で難しさを感じる時	・子どもの成長を側で感じることができたこと				
				・出勤前の環境整備と早番の部屋の鍵開け	・運動会の教材製作 ・実践記録	・私物の荷物が増え置き場所がない	・人としての自分の行動について振り返ることができる ・健康的に生活を過ごせる ・いろいろな人とのつながりができる
					・実習生の記録作成	・家庭とのバランス、両立をとること	・自分がおもしろいと思ったことが、全て仕事で役立てられること ・人間的に成長できる仲間に会えたこと ・自分は足りない所もたくさんあるが、周りの人に支えられていることを実感できること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・保育士のための自己評価チェックリスト	・時差出勤	・行事の準備	・行事（運動会）で必要なものを製作	・家に帰ってからの仕事も多いこと ・行事（運動会、生活発表会など）のプレッシャー ・人間関係	・子どもたちの成長を間近で感じることができた ・子どもたちとの関係が少しずつ深くなっていくことの嬉しさ ・やりがいを感じられること
	公営		・年度初めに1～5評価の各項目に丸をつけ、自己評価をとり、年度末に再度同じようにとりその差を評価する	・障害児担当とクラス担当が入れかわり、担当する日を作り、お互い違う立場で子どもを見合い共通理解をする				
	公営					・指導計画の作成 ・保育記録の記入		

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・運動会の用具や衣装作り、構成作り	・持ち帰りの仕事が多く、プライベートの時間が減ってしまう ・給料が少ない ・様々な家庭背景における家庭支援	・子どもの成長が知れた ・自分が成長できた ・満足感を感じる		・運動会小道具作り ・事務的な仕事		・これからの子ども達の成長の手助けができる ・自分の子どもを育てるのに参考になることが多い
		・書類が多い	・子どもの関わりが楽しい ・子どもの成長を喜ぶことができる		・事務的は仕事にかけた時間 ・保育教材を作成するのにかけた時間	・保護者との子ども理解のズレ ・書類など家へ持ち帰る仕事の多さ ・若い保育士との連携の取りにくさ	・子ども達が慕ってくれることの喜び ・母親から感謝されることの喜び ・保育の充実感、達成感
		・保育の内容や課程を保護者に伝えづらい ・平日に休暇をいれると、他の保育士の負担になるのでフリーの保育士が欲しい	・子育てに関すること、子どもへの理解を深めることができた ・子どもと心が通じ合った時、やりがいを感じる		・事務 ・保育準備	・持ち帰りの仕事が大変多くて家庭の事が全て後回し ・帰宅時間が遅くて、自分の子どもと関われる時間がおろそかになっている ・休日も仕事に費やす時間が多く、休みが休みでない ・全てストレス、年を重ねるうち体にも異変が現れてくる（めまい、難聴、流産など） 追加 ・クラス担当していると休みが取れないため、自分の子どもの行事に参加できない ・自分の子が病気で休んでいつも他の子と遊ばなくては（保育）いけない矛盾！ ・仕事を頑張る程、母としての役割が果たせない現実、男性同等もしくはそれ以上働いているという状況を把握し、改善してほしい ・子どもを預ける人に任せるのでなく、自分の子を自分で見るという時間の確保をお願いしたいです！！	・保育はすばらしい仕事ということは感じている、自分も育つことができる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・保育自己診断表をつける			・保育教材の準備 ・書類整理	・自分自身、要領が悪かったり、書類に時間がかかったりすることもあるため家庭で仕事をすることも多い ・幼児担任1年目で、分からない事もあり、毎日の保育や行事など悩む事も多い	・子どもの成長を身近で感じることができる ・毎日子どもたちと様々な遊びをするなど関わる中で、私自身も楽しい時間を過ごせている
	公営	・エピソード検討会 ・保育室の環境について	・自己評価のためのチェックリスト「保育士編」という資料をいただき、自分で評価し、自分の保育をふり返る材料としています			・指導計画作成 ・広告で箱作り		
	公営		・チェックリストの活用				・持ち帰りの仕事、サービス残業が多い	・毎日子どもといると元気でいられる
	公営	・保育マニュアルの読み合わせ ・ヒヤリ、ハット、アクシデント検討会	・自分の記録による評価反省 ・自己評価チェックリスト ・保育環境等自己チェック(週毎)	・幼児と低年齢の交流を図るため、戸外で一緒に遊ぶ機会を作っている			・時間が足りない（保育準備や書類）	・やりがいを感じる ・楽しい ・日々勉強になる
	公営	・ビデオを視聴し、自分の保育をふり返り、保育に活かす				・本を借りに行く ・パネルシアターを作る	・教材準備や記録等に時間がかかる ・仕事の時間以外でやることが多い	・子どもの成長を見守ることができる ・仕事にやりがいがある

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
					指導計画	・非正規職員との人間関係	・子どもと過ごすことの楽しさ
・運動会で使う物を作る。曲選び等、運動会準備	・クラスだより作成		・子ども達と触れ合える時間 ・子ども達と季節の変化を感じて過ごせること ・子ども達の日々の成長を見れること、一緒に成長していけること		・園だよりのクラスの子どもの姿をかく ・報告書を記入	・勤務時間内には、ほとんど書類ができない、持ち帰りが多い	・子ども達の成長を保護者と一緒に喜び、分かち合える ・思いが伝わった時
	・指導計画書作成 ・壁面飾り作成	・複数担任において他の保育士との仲	・子どもの笑顔に救われる事			・家のこと、自分の子のことがあまりできない ・家での仕事が多い	
	・パネルシアターの作成 ・クラスだより案考え	・自分が未熟な面もあり、持ち帰ってやらないといけない仕事ができてしまうこと	・日々、子どもたちと楽しく関わることができていること ・良い同期、先輩に巡り合えたこと		・延長保育当番表作り	・勤務時間内に事務仕事が終えられないこと	・子どもの成長に携わることができたこと
	・壁面飾り作り		・子どもの成長を一番で身近で見れる ・子どもの笑顔に癒される			・人間関係の難しさ(職員間) ・全体の意見をまとめる難しさ（職員間） ・子どもへの関わり方（いろいろな子が多い）	・子どもの笑顔に元気をもらえる ・日々変化があり、色々な行事に向け、職員や子ども達と一緒に取り組み、達成感を味わいながら楽しむ事ができる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ−2	Ⅳ−11−⑤	Ⅳ−12(1)	Ⅳ−13	Ⅱ−7−⑪	Ⅱ−(6)-1	Ⅳ−12	Ⅳ−13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・園内研修テーマについて話し合う		・連絡事項等、口頭及び記述で行い共通理解をしている ・休憩・パート等により休憩が取れるようにしている ・職員全員で園児を保育する体制となっている			・書類の書き方	・子どもの日々の成長が見れる ・名前を子どもに覚えてもらえたこと ・一緒に遊べること
	公営	・救急法 ・実技研修 ・公開保育 ・インシデント研修 ・主任研修 ・新任研修 ・障害児研修(特別技術研修) ・経験年収別研修など	・自己評価チェックリストを使用している			・ピアノの練習		
	公営	・園内研修、テーマを決めて1年間研修(事例検討)	・毎年自己評価し、年度末に話し合いをし、次年度に活かす	・障害児指定園のため、子ども4人に対して1人の保育士での指導を実施 ・早番、遅番の二人体制確立、休憩対応保育士の配置、延長保育士の配置				・子どもの成長の手助けができ、一緒に成長を喜べるところ
	公営					・ペープサート作成		

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
							・毎日たくさんの子どもや保護者の方と明るく挨拶をし楽しく過ごすことができること ・季節を感じ、色々な行事に合わせ楽しい活動ができること
	・運動会に向けての取り組み、書類作成	・人員不足のため、個別に支援が必要な子へ行き届かない、他の子をしっかり見てあげられない時もある	・子どもたちのステキな発想にふれられること、笑顔に出会えること ・共に驚いたり、泣いたり、笑ったり、喜んだりできること ・共に成長できること		・実習生の実習記録指導 ・指導計画作成	・事務時間がすくないこと ・加配がついていないこと（全体的な人で不足） ・家庭とのバランスや肉体的なつらさ	・一年間を通して季節を感じ過ごせること ・自分らしさを十分もって生活していること ・子どもたちとのかけがいのない存在になれたりつながりがもてること
					・来週案の作成 ・今週案の反省		
		・保育事務の多さ ・人間関係に難しさ（保護者対応など）	・子どもたちと楽しく過ごせること ・好きなこと、得意なことができる			・保護者の対応 ・障害のある子またその親の対応について	・子どもの育ちに寄り添えること ・楽しい気持ちが共感し合えること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・研修報告等聞き、それにつき全員で話し合い勉強する	・資料に基づき行う	・３歳以上は縦割り保育を取り入れており、１月以降は年齢別になります ・少しおくれ気味の子等、同年齢の子についていくのが大変な子も。異年齢集団なので年下の子等友だちをみつけて遊べる。また大きい子が小さい子に思いやりを持って接し、いたわりの心が育つ。小さい子も身の回りの始末等、大きい子の様子をみて覚える				
	公営	・伝達研修会	・大府市自己評価チェックリストを使用し行っている	・一日の中で子どもに関わる保育士が多くなりすぎないようにし、安心して過ごせるようにしている	・誕生会の準備	・万国旗の名前書き ・退園児の思い出の表紙作り ・週案のねらい ・アンケート ・連絡帳	・仕事量の多さ	・休憩から戻ると子どもが「おかえり」「せんせ〜」と言ってくれるとき ・「先生大好き〜」と言ってくれる時 ・成長が感じられた時
	公営	・研修参加者報告会 ・自己評価と課題確認 ・散歩マップ作り ・発達の道すじ、体育遊び、表現あそびなどの学び	・各自が簡単な様式を使ってチェックし、園全体で話し合い、課題を見つける ・保育のふりかえり、記録をとる	・時差勤務は基本的には未満児の担任がやっているが、幼児の担任も長時間児の保護者と話せるように、二帰りで遅番勤務とする			・他の保育士たちとの連携の難しさ ・子どもへの言葉の掛け方 ・かみつきがある子どもへの対応の仕方	・子どもの成長を近くで感じられること ・子どもたちと信頼関係ができてきたこと ・尊敬できる先生方が近くにいること
	公営	・園外研修報告 ・園内研究	・チェックシートに基づいてチェックしている	・早延長児、子どもの人数に応じて､保育、保育準備と時間を有効に使っている				・毎日子ども達と接する時間がとっても楽しい

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・保護者の方と子どものことについて話す時間がない ・保護者の方の色んな要望（勝手すぎる）	・自分のやりたかった仕事、子どもとかかわれる
	・連絡帳書き ・翌日の保育準備	・事務仕事などが多く、保育準備にあてる時間が少ない	・やりがいがある ・子どもの成長が見れる		・書類作成	・仕事量が多すぎで定時になかなか帰れない	・やりがいを感じる ・様々な研修に出させてもらい勉強になる ・子ども達の成長が喜べる
	・運動会の準備	・担当クラスにより精神的なきつさが違う ・家に仕事を持ちかえると仕事とプライベートの境目がなくなる ・行事の前になると仕事量が増える	・毎日生活が新鮮 ・子ども達の成長を見ることが出来る ・やりがいがある				
					・指導計画 ・保育準備（製作）	・自分勝手な要求を言ってくる親が増えてきている ・人材不足により保育の質の向上が難しい ・年を重ねるごとに負担が大きくなるので今後続けられるか心配	・子ども達と関わっていると楽しいし、自分も成長できる ・様々な人と関わる機会があり、勉強になる ・「先生、大好き」と子どもに言われたり、「ありがとう」と感謝（親）されたりしてやりがいがある

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・訪問療育（市の臨床心理士、養護施設のコーディネーター等の方に訪問していただいてのケース検討会）	・自らの保育を振り返り、保育の質の向上を図る ・自分の保育を振り返って子どもの気持ちが受け止めることができた場面や、子どもの気持ちに共感できたエピソードなど、子どもと関わって驚いた事、感謝したことなど発表し合う	・早朝保育と長時間保育(18：00まで)を行っており、長時間保育の担当者は次の日の早朝保育の担当にならないよう配慮している				
	公営		・自己評価チェックリスト				・子どもが加配の話は聞いても、担任の話はなかなか聞かないこと ・同年の他のクラス、加配との連携	・毎日子ども達と一緒に過ごせること ・子どもの成長を見届けることができる
	公営		・チェックリスト			・週案の作成	・子ども一人ひとり向き合う時間が、事務的職務などに時間を割かれなかなか取れないこと ・職員同士の連携を取るのが難しいこと ・休んだ時、子どもや保護者に迷惑がかかってしまうこと	・毎日毎日子どもと関わることができる喜びを感じられること ・子育てに携わることが出来、保護者の方から悩みや相談ごとを持ち掛けられ、相談して頂けること ・自分が成長出来ること
	公営		・保育士のための自己評価チェックリストを使用して評価する					

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・子育て（自分の子）について、周りから完璧だと思われること	・天職だと思います ・子育てしていて色々な場面で対応することができる		・保育教材を作成		・大勢の子ども達に出会い、成長が見れた事
		・要領が悪いから、帰る時間が遅くなったり、家に仕事を持ち帰ったりすることが多い事 ・保護者対応の難しさを感じていること	・子ども達の成長を見るたびに嬉しく思い、やりがいを感じる ・子ども達と楽しい気持ちを共有しながら過ごせること		・指導計画	・残業や持ち帰り仕事をしないと、仕事の消化ができないこと	・子どもの成長やかわいい姿が見られること
		・どこまでが、個性環境なのか、どのように子どもに接したら良いのか分からなくなってしまった時	・子どもと一緒に過ごし、子どもの笑顔をみている時 ・子どもたちができないことができるようになったり、頑張っている姿を見ている時 ・保護者が「先生が先生で良かった」と言ってもらえた時		・指導計画（週日案）作成	・保育士としてではないですが、家庭・子育てと仕事の両立面、休みの取り難さ ・指導計画、作成や残務は勤務後の短時間ではこなしきれない所 ・利用と現実のギャップ	・子どもや保護者の方の「ありがとう」の笑顔 ・充実感や達成感を感じられる事 ・信頼関係を築けた時
	・月末帳面コメント作成	・持ち帰りの仕事があったり、常に保育の事を考えている為、仕事とプライベートでなかなか気持ちが切り替えられられない、常に何かに追われているように感じる	・子どもの成長を感じ、日々感動することができる。行事などで子どもの成長を感じ、とてもやりがいを感じる ・様々な年中行事を子どもと一緒に経験することができる ・自分の得意なことを仕事に活かすことが出来る ・大変人生勉強になる。特に子育てについて		・週案の作成		・子どもと関わる事が楽しい ・自分で計画を立てクラスを進めていくことが楽しい

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・縦割保育について ・職員会議					・保護者への対応の仕方	・子どもの成長を感じられること ・楽しんで取り組む子どもの姿が見られること
	宗教法人	・不定期に勉強をしている ・園外研修を利用している		・パートの保育士の活用 ・有休はなるべく、夏季保育、冬季保育期間にとるようにしている			・土曜日を完全休みにしてほしい ・後輩にちゃんと仕事を教えてあげられない ・有給を好きに使えない	・０歳から５歳までの色々な子どもと関われること ・体力が付いたこと
	宗教法人	・園外の研修に参加した保育による報告会	・保育日誌、指導計画の反省 ・エピソード記録				・手遊びや体操などのレパートリーが少ない	
	民営	・研修発表					・自分の知識、経験不足	・子どもがいるから楽しく仕事ができる ・子どもの成長を感じられる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・子どもの気持ちが分かってあげれない時 ・集団をまとめきれない時	・子どもの成長を間近で見られ、共感できること ・落ち込んだ時も子どもた達の笑顔でまた頑張ろうと思えること				
		・平日休めない ・腰がいたい、筋肉痛になる ・自分の子どもの行事など行けない	・楽しい ・早起きできるようになった ・やりがいを感じる			・週休２日制にしてほしい ・緊急時に早退、遅刻、欠席がしにくい	・子どもたちの成長を一緒に喜べる ・自分が母親になった時たくさんの喜びを伝える事ができた
	・制作準備	・人間関係 ・ぎっくり腰からきた腰痛の慢性化	・子どもの成長を身近に感じられる ・子どもの喜びを共有できる ・笑顔に癒される		・来週使用する祖父母競技のペンダント片切り	・保育士同士のコミュニケーション ・室内の生理整頓がうまくいかない ・自分の思いが保護者に伝わっていないような気がする	・子どもの成長を感じた時 ・子どものアイディアのすばらしさを感じた時 ・子どもから「先生大好き」と言われた時
					・指導計画の反省、児童票の作成等	・常に体調を万全にしておかなければならないこと ・平日は疲れてしまい、なかなか持ち帰りの仕事がはかどらない。そのため、休日に主に行っているので心身共に休まらない	・子どもとの関わりに生きがいを感じる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・第三者評価に基づく自己チェックリストでの自己評価を年２回	・正規と契約のバランス ・時間帯の人が薄いところは短時間パートを置く（３時間）			・子どもとの関わり ・保護者との関わり ・自分の機転のなさ	・子どもたちと共に成長していけること ・少しでも子どもたちの心の拠り所になれること ・自分自身を見つめ直すことができたこと
	公営	・人権学習会 ・救急法 ・ISO関係	・各クラスの課題をあげていく ・園全体で課題をあげていく	・異年齢の交流が持てるように一定期間縦割り保育を行う ・時差出勤		・運動会の準備	・保育をする為の準備をする時間がないこと、勤務中にはまずできない ・書類を書く時間がないこと ・昼休けいがないこと	・子の笑顔や成長などに触れられること
	公営		・個々に評価表に記入する ・園内研修でPDCAサイクル表を利用した話し合い	・連携を取るための連絡ノートを活用している			・正規職員が少ない ・給与が安い ・事務仕事（書類等）をこなす時間が少ない	・子どもと関わることができる ・子どもの成長を感じられる ・自分が成長できる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・法人全体のまつり準備	・クラスだより作成	・保護者支援 ・グレーな子の対応	・子ども達がなついてくれ、笑顔を見せてくれること				・卒園し、何年もたって大きくなった卒園児に会い、「せんせ～い！」と声をかけられ嬉しそうにする姿を見るとすごく思う ・毎日子ども達と関わって仕事をし、日々の成長や子ども達のあきない笑える行動を側で見る事ができる事 ・自分が子どもを育てる上でも役に立った事が多い
		・早番・遅番があること ・腰痛	・充実した日を過ごせる ・楽しい、やりがいがある		・子どもの姿のメモ ・職員早遅当番表の作成	・保護者にもよるが、家庭内の様子が見えてこない家の姿を聞き出すこと	・子どもの成長の姿を実感できること
						・自分の体調がしんどいな…、休みたいな…と感じるときでも職員体制や当番に余裕がないので、よほどのことがない限りは休みにくい ・体調管理には十分注意しているつもりだが、感染力の強い病気や子ども特有の病気に感染してしまうことがある ・子どもの保育に携わっていく中で子どものより良い成長や発達のためには家庭との連携が重要だが、家庭の中にはなかなか入っていけない部分やどうすることもできることもあること	・たくさんの子どもたちや保護者の方に出会え、いろいろな関わりの中で私自身いろんなことを学べていること ・いろいろな研修や専門機関に行かせてもらう機会もあり、いろいろな知識を得ることができていること ・自分のしたい仕事ができていることが幸せだなと思います、頼れる先輩や同僚の保育士に出会えたことが幸せです

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
副園長	公営	・カリキュラム会（年齢発達、行事について、地域とのかかわり、職員間の連携、家庭支援）	・一次評価、一般職員の自己評価を実施（セルフマネジメントシートの業務目標をたてる、能力､態度評価、面談という流れ）	・開園時間から勤務体制シフトを取り組んでいる、その日の勤務に合わせて、退園時間を心がけている。職員間の連携を密にとり声かけをしている				
	公営		・チェックリストの採用 ・保育日誌などの様式に自己評価欄を設けている			・保育日誌の作成 ・運動会飾りの準備	・女性の職場であるということ（男性保育士が増えてきているとはいえ…） ・自分の仕事の効率の悪さ	・子どもの成長、発育に関わることができる ・子どもの笑顔や喜ぶ姿を見て共感することができる
	公営	・保護者もまじえ講師を招き講演して頂く	・月末に職員会議を持ち、保育士それぞれの評価、反省を出し、その中で所長、主任、保育士が思いを言い合い、次へつなげていけるようにしている	・職員がかけた時など大きい子（４、５歳）は混合クラスで保育したり、午睡時（２、３歳）は一緒に寝たりする				
	公営	・保育課程、保育指針について検討 ・デイリープログラムを通して情報交換		・保育所全体で子どもたちを見ていくという考えの元、その日の状況に合わせて合同保育や職員の配置人数の変更をしている			・保護者との関わりの難しさ	・日々、子どもの小さな成長が感じられること
	公営							

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・指導計画の作成 ・作成準備				・指導計画の作成 ・クラスだよりの作成 ・保育教材の作成	・体力的な不安とほんの少しでも子どもと離れての休憩時間の確保を保障して欲しいこと	・子どもの成長にたずさわれることです
	・クラスだよりの作成 ・日誌	・腰痛がひどくなっている ・家で持ち帰りの仕事が多い	・子ども一人ひとりの成長を感じられる ・自己成長につながっている	・遅番の仕事…、カギ閉め身回り、給食サンプル片付け	・保育日誌 ・当番表の作成（下準備）		
					・運動会の作りもの ・運動会の曲を探す	・保護者への対応 ・時間内に帳簿ができない ・常に子どもといるので休まる時間がない、休暇がとりにくい	・子どもの成長にふれた時にやりがいを感じる ・子どもが変化してきた時うれしく思う
		・書類が多く、勤務時間内にはなかなかできない ・一年でクラスが変わるのでさみしい	・子どもと楽しい時間を共有し合える ・やりがいがある			・指導計画、個別記録など事務時間をなかなかとることができない ・現在の保育所では、良い人間関係ができているが、以前はとても悩んだ（保育の考え方や人間性）	・人として大切なことを子ども達から教わっているように思う ・子ども達と関わることにより、季節の変化など自然や風情に敏感になった
					・指導計画の作成や事務	・腰痛等肉体的にきつい ・常識に欠ける保護者との付き合いで精神的に疲れる	・未来ある子ども達の成長が見られる ・大人になった教え子たちが親しみをもって話しかけてくれる ・子どもも保護者とも人としての付き合いで自分を省みて人間として成長させてくれる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営			・その時々に会った体制を考えています(子どもの数や年齢的な配分など)			・打ち合わせや時間がなかなかとれない	・子どもの成長を感じる
	民営		・職員自己評価表を毎月提出	・フリーで動ける保育士を3名設置している			・自分の保育のやり方が合っているのか不安	・子どもたちの笑顔が毎日みれる(成長も) ・子どもの素直な考え方が自分も成長できる、刺激になる
	民営							
	民営	・担任と主任、園長と気になる子やクラスの話し合い	・チェックリスト			・制作	・子どもへの接し方	・子どもの成長を身近で感じることができる ・子どもと接することで元気がもらえる
	民営	・保育研究会 ・年令別部会(年令別にテーマを決めて研修)	・職員会議等で各々の保育についての話し合いをし、自己評価につなげていく				・男性職員が少ない ・この給料でこれからも食っていけるのか	・子どもと遊び一緒に過ごしてつらいこともあるが、子どもの笑顔に癒されたり「先生ありがとう」といってもらったときにやりがいを感じます

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・継続した成長を感じる事ができる				
		・保護者との関係	・子どもの成長とともに自分が成長できている ・子どもと関わる楽しさを実感している ・一日一日がとても速く充実している			・若い保護者とのコミュニケーションの取り方	・日々の子どもの成長を感じられる
		・保護者との関係	・子どもの成長に関われたから			・保護者の中で難しい方がいる ・休暇の取得が難しい	・子どもの成長の助けになれたこと ・卒園していった子どもが保育士の道に進んでくれたこと
						・転勤が多く、慣れたと思ったら、転勤させられてしまう ・保護者との関係 ・サービス残業や持ち帰りの仕事も多く、給与が上がっていかない	・達成感や喜び、楽しさを子どもと共感できる ・いろいろな年齢の子ども達の成長を見ることができる ・職員で団結して一つのものを作り上げたり、行事を作りあげられる
	・書類関係 ・製作	・人間関係の難しさ ・自分の力量不足 ・時間のたりなさ	・子どもの楽しそうな笑顔をみているとき、関わっているとき ・子どもの成長を感じる事ができたとき		・書類 ・保育教材	・対応に困るクレームの多い保護者が増えている ・子どもも障害ではないがグレーゾーンが増えていて指導に行き詰る。自分も勉強不足である ・長く保育士をしていて子どもとの関わりに新鮮さが欠けてきている	・子どもがよくなついてくれたり、信頼関係ができたと感じるとき ・クラスがまとまってきて行事や日々の生活や遊びが充実してきたとき ・子どもの成長を間近で感じるとき

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・毎月テーマを決めて勉強会をしている		・早番の職員が帰る時間から遅番や手伝いをする職員が子どもを見るなど役割分担している			・保育の進め方 ・子ども一人ひとりに合わせた接し方の難しさ	・子どもの成長を日々感じることができる ・子どもと関わる時間が楽しい事
	公営	・保育士交換研修（他クラス間）	・アンケート形式にて（大津市立独自作成のもの） ・県より保育サービス評価	・パート、保育支援員、常勤の配置（朝夕は２ｈパート対応）			・休みが取りにくい（夏季休暇のみとれる）	・子どもの成長を感じられたとき、それを子どもや保護者と喜び合えたとき ・子どもの発達を学び、少し理解できてますます子どもが好きになった
	公営	・絵本について、子ども達に来てもらっている。お話会の先生を招いて、絵本の研修もしています。年齢別の絵本の与え方など		・A.M.7：30～P.M.6：00までの保育時間の中で、早朝保育、延長保育を当番制にしてシフトを組んでいます		・ピアノの練習 ・教材研究 ・教材準備	・疲れがたまりやすく、持ち帰り仕事は自分の時間が少ない。精神的にも疲れる ・給料が安い ・街中で保護者に出会う ・日に焼ける	・やりがいを感じる、社会に貢献できている気がする ・自分の成長につながる仕事内容が多い ・人と関われる仕事
	民営		・滋賀県健康福祉サービス自己評価を実施	・早朝・夕刻保育担当職員を採用することで保育士への負担軽減に努めている ・最低基準以上の人員配置を通年実施している			・職員不足でバタバタしてしまうことが多い ・書類が多い	・子どもの成長を間近で見られる ・乳児～幼児の子どもの関わり方、接し方が身に付いた ・一緒に身体を動かして楽しんで遊べる
	民営	・少人数グループに分かれて、自由に意見を交換し合う（年齢は近い者で） ・研修結果を報告し、皆で学ぶ機会を設ける	・各クラス、担当委員などで話し合い、難しかった点、工夫された点などを出し合い記録し残していく ・規定の項目について評価を行い、市など数か所に結果を送付する	・乳児クラスは担当制をより充実させるために、パート職員やフリーが入り、雑務を行っている ・時間外保育も充実されるように15分差の細かな勤務体制を組んでいる			・一人ひとりの子に合わせた対応が分からなくなったりすることがある	・子どもとの信頼関係が少しずつ出来ていった時 ・子どもが頑張って取り組んだことを発表しているのを見た時

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・仕事のことばかり考えてしまい眠れない日がある ・ピアノが上手く弾けない	・子どもといると素直になれる ・子どもと一緒に何かの目的を持って取り組むことが楽しく感じる			・人間関係の難しさ ・保護者への対応言葉での伝え方	・子どもの成長を身近で感じられること
				・行事について話し合ったり資料にする		・勤務時間外も精神的に考えてしまうことがある（子どものけが）	・子どもの成長を感じ、保護者の方と喜べたり保育士同士で喜べること ・子どもの楽しそうな顔を見たり、慕ってきてくれること
	・保育教材作成	・人と関われる仕事なので自分の代わりがいないので休みが取りづらいこと	・子ども達との関わりの中で得られることがたくさんあること ・精神的にも肉体的にも強くなれたこと			・休暇が取りにくい	・子ども達の成長をそばで見ていられる
			・子ども達の日々の成長を感じられること			・自分の子育てとの両立（行事が重なることがある）	・保護者から感謝されること ・子どもの成長を見られること
	・クラスだよりの作成 ・日誌の記入	・保護者対応 ・人間関係 ・プライベートな時間の少なさ	・子どもたちの成長を間近で見られる ・子どもたちの笑顔に触れ元気をもらえる			・若い保育士との関係	・いつも子どもたちの中で生活でき毎日笑ったり、時には怒ったりして、楽しくすごせること ・仕事が終わって家に帰ると疲れがでるが出勤すると身体が元気になる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・講習会(人権) ・AED講習会	・県指定の方法				・保護者とのコミュニケーション	・子どもの成長を見ることができた ・子どもと一緒に遊んだり、楽しんだりできること
	民営						・長期有休をとって遠出旅行へ行けない事	・毎日かわいい子どもに会うことができ楽しい
	民営		・県の様式を利用				・保護者との関わり ・子どもの内言語や機嫌の悪さの関わり	・子どもの成長が見れたとき(立つ、しゃべる、食べるなど) ・保護者から「先生がいて良かった」「任せられる」と言ってもらえた時
	公営	・ビデオにより保育のふりかえり	・市独自の様式による自己評価・個人ヒアリング、チェックの実施 ・保育所使用の資料冊子本による自己評価及び保育所評価の実施				・事務的な業務が多く、勤務時間内にできない	・人に関わる仕事ができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子どもと共感できる			・園での出来事をどこまで保護者に伝えていくか	・子ども達のたくさんの笑顔が見られるから ・自分の作った教材を喜んで見てくれている時 ・親から感謝された時
	・指導計画の作成		・たくさんの子どもたちと触れ合い、その成長が見られること			・保護者との関係の中で難しいと感じることがある	・子どもたちからたくさんの笑顔をもらっていること ・子どもたちの成長を自分の目で見ることができること
		・保護者対応	・子どもたちの成長を肌で感じることができる ・人との触れ合い	・事務所対応15分		・クラス担任同士、変則勤務のため、話し合う時間が少ない	・子どもたちと分かり合えたとき ・子どもの様子を保護者と一緒に話し合えていること ・子どもの成長を近くで見れること
	・保育準備	・年令的にも体力の低下があり、しんどいと感じることが増えてきた	・保護者、子どもと心の通じ合いが感じられ、保育をすることがとても楽しくやりがいが感じられること			・体力・責任感で疲労が回帰できないまま日々過ごしている ・時差出勤のため子どもの生活（我が子）を振り回してしまう、時間に余裕がない ・夜の職員会議、研修等で家庭を空けることが多く、他人への子育てを頼んでいるがめどが立たず、見てもらう人を探さなければならず大変 ・事務が多い	・いろいろな人に出会えることで十人十色なのが人としてあたり前と思え、子育てや人生観にプラスになった ・人に感謝してもらえる子どもの笑顔で元気をもらえる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・個人が個人の目標に対して自己評価を行う ・保護者アンケートを実施し、評価を行う 上記2つについて保育所の自己評価とする	・毎日の予定（設定）がわかるように、一週間毎に表にして、事務所に掲示している ・毎日の勤務体制がわかるように、日々表に記入して事務所に掲示し、ここが理解するようにしている ・乳児部、幼児部、調理、事務所が常に連携をとりながら日々保育を進めている			・自分の保育がまだまだできていない	・子どもの成長を共に感じることができる
	公営	・自己研修の報告、勉強会		・クラスに正職員ができるだけいるよう工夫している（早番、遅番の工夫）				
	公営	・わらべうたのＤＶＤを視聴する						
	公営						・上司や同僚に相談ができない自分 ・ピアノがひけない ・事務処理が苦手	
	民営		・特に基準を決めて行っていない				・他のクラスのベテラン保育士との人間関係 ・休憩時間が取れない、休みがなかなか取れない	・子どもの笑顔に癒される ・将来母親になった時に役立ちそう

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・クラスだより下書き					・保育士の集団のチームワーク	・自分自身の子育ても楽しい
			・子どもの成長を身近に感じられる		・月1回のお便り、公立保のカリキュラム	・保育士間の連携がうまくできていない時 ・保育施設が十分でなく、子どもに影響している時 ・保護者との信頼関係が難しい時	・なりたい仕事についてずっとやってこれたこと ・子どもたちの笑顔、素顔にふれたこと ・子どもたちの成長、発達が見れたこと
	・週案（次週） ・指導計画の作成	・拘束時間が長く、自分の休憩時間を事務仕事に追われてしまう ・職員体制的に休みにくい	・子どもの成長			・職場の人間関係	・子ども又保護者から信頼される事
	・保育日誌の作成	・個別に対応の必要な子どもの関わり方	・大好きな子どもの笑顔が見られる				・子ども達と一つの事をやりとげた時の達成感

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・年間２回、前期と後期各クラスから保育のまとめの資料を出して検討				・体力的にしんどいこと ・人間関係	・子どもの成長をみれたとき ・規則正しい生活を送れること
	民営		・何度未自由記述をして各自提出	・子どもの時間、登園時公園時を把握して体制を取る（早出、遅出のみ）				
	民営	・幼児、保護者又は、地域の人対象おしゃべりクラブ ・未満児及び未就児対象ももちゃんクラブ	・日々の保育を見ながら足りない要素を考え主任と話し合って進めている	・有資格者を必ず置くように(開所時間中)との事で毎日２人は残業手当対象の時間 ・10時出の職員の担当のクラスの朝の間は皆でカバーする ・朝晩はパート職員を多く入れている		・保育記録、事務的な仕事		・子どもの成長を側で感じられる
	民営	・保育協会での研修に基づいた研修	・理事長、園長、主任保育士による人事考課	・子どもの年令や登園降園時間を考慮し、その都度シフトの見直しを行っている ・早朝保育午前８時行うと延長保育の午後18時まではそれぞれの年令のクラスで子どもたち一人ひとりに手厚い保育が出来るようにしている		・週案を作成する ・週回の出し物の準備	・休みが少ない	・やりがいのある仕事を見つけられた
	民営		・自由に記入して頂いてます(園独自のもの)				・保護者の方とコミュニケーションをとることが苦手で、思いを受け止められてないと感じる	・子ども達の成長を見る事ができ、やりがいを感じる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・病気をもらいやすい ・体がゆがむ→足、腰を痛めてしまう（聖体に通う）	・肉体的、精神的にしんどい時でも子どもと接することで元気をもらえる ・仕事にやりがいを感じる ・特技（ピアノ）を活かせる			・理想と現実とのギャップを感じる ・人間関係（保護者、職員）の難しさ ・体調管理	・子ども達の成長を側で見られる ・仕事を楽しいと感じられる ・保護者、職員、子ども、色んな人と関われる事ができ、人として成長できる
	・リトミック楽譜はりつけ作成	・健康管理について ・時間配分がうまくできないこと	・職場の環境 ・保育をしていく上での日々の子ども達の成長を見てのやりがい		・運動会の見取り図作成	・人間関係 ・腰痛	・子どもの成長 ・保護者からの信頼
	・書類作成				・実習生の実習簿		・毎日子ども達と関わり成長を見れること
			・各年齢の様子が分かり将来に役立つ ・行事や日々の保育で子どもたちと共に満足感や達成感を共有できる			・保育士の給料が低いこと ・急な休みがとりにくいこと	・子ども達と楽しさや楽しさをいつも共感できること ・自分の性格や特技を活かせること ・人と人とのふれあいを身にしみて感じることができる
		・保護者との連携の難しさ ・若い保育士とのコミュニケーションの難しさ	・行事等で子どもが一つになった時の達成感 ・優しく接し合う子どもの姿を見た時 ・自分と同じ思いで遊んだり、行事にむかっている時			・自分の家庭での仕事がやや手抜きになること	・子どもと過ごすことで、自分自身が成長できること ・仕事をすることで逆にストレスを発散できること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・他のクラスの保育、子どもの状況も分かるように ・保育士交換保育も行っている（年1回だが）	・日々、勤務の最後に振り返りとして、自己記録を取るようにしている	・必ず、対比は崩さないように、又、パートさんが時差の間に入り、担任不在の時間帯はないようにしている ・引き継ぎはきちんとする			・喉、腰が弱く痛めやすい ・やること、気がつかなければいけないことに自分がついていけていない ・体力に自信がない時がある	・子どもの笑顔が可愛い ・子どもの成長を見ると嬉しくなる ・やりがいがあると思う
	公営		・項目別に記入				・勉強してきたことや経験してきたことを、保育の中で活かしていくのが難しく、反省が多い ・自分の子どもを預けられない時に休まなければならないこと ・他の保育士との相談や連携が上手くいかないことがある	・子ども達の成長を見る事や、一緒に遊ぶのが楽しいこと ・反省から学ぶことが多く、自分も成長できること ・行事や季節ごとに、達成感を味わえること
	公営	・教材研究					・腰をよく使うので、腰痛になってしまう ・持ち帰りの仕事がある	・子ども達が成長していくこと ・日々のやりとりの難しさ ・子どもとともに成長できること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・保育の準備、連絡ノートの記入等 ・おたよりの作成	・保育の準備(内容を考えたり)	・子どもが病気の時など、休むことが難しい(担任クラスがあるため) ・子どもの行事と園の行事が重なったり、行事前だと子どもの行事に出席したくても、休みが取りにくい	・仕事にやりがいがある。仕事が楽しい ・保育を頑張ることで、子ども（集団）の育ちが実感できて、自分自身も達成感がもてる			・定年退職などで人の入れ替わりの激しい中で、どう人間関係を築いていくか ・「自分の子ども時代」が今の親世代と少しずつズレていく中で「子育てで大切にすること」をどういう視点で伝えていくか ・「少子化」が懸念されながらも、どんどん子どもが育ちにくい「世の中」に変えられていってるのに、それがみんなの問題になりにくいこと	・自分が関わった子どもがどんどん成長していく姿を間近にみることができ、子どもの持つエネルギーにその心に感動する機会をもらえること ・子どもの笑顔がいつも自分のすぐそばにあること ・人とつながり合いながら自分は生きているということが実感できるところ
	・保育に必要な準備物の確認 ・会議や資料の内容確認	・自分自身がまだ出産、子育て経験がないので、お母さんの目線で悩みに気付いたり十分なアドバイスをでききれない(その分、クラスのベテラン保育士がフォローしてくれます)	・子どもの成長に関わる中で、色んな感動に出会える ・子どもから元気をもらえる。日々を充実して過ごすことができる ・自分の課題が見える ・職場、保護者、子ども達など、色んな人と出会い交流する中で、自分自身人間として成長していける		・運動会に使う小道具作り		
	・子どもの記録 ・保育の準備	・事務的なことや書類が多く、勤務時間内にはやりきれない	・毎日子どもと一緒に笑ったり、怒ったり、感動したり、いろいろなことを感じられ、成長できること		・誕生カードづくり	・子ども達の言葉が、人を傷つけてしまうことを話すことをやめさせられないこと ・いろいろな考えをもつ人と一緒に働き、どうしても分かり合えない時	・子ども達の成長を感じられること ・保護者とともに子どもの成長したことを喜び合えること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・ふりかえりポイント（自己評価チェックリスト）２回／年記入	・夕方パート保育補助員の出勤と変則勤務時間30分を重複させて、正規職員の事務時間を確保している			・自分の動きはこれでいいのかと不安になる ・子どもへの怒り方 ・親への接し方	・自分の子育てに活かせる ・毎日が楽しいと感じられる ・大人同士のやりとりでは得られないものを得れる小さな発見
	公営	・園内研修（うたと遊び）	・毎年、年度末に実施する					
	公営		・課題に対して自由記述 ・業績評価ノート使用 ・保育指針に基づく自己チェックシート使用	・早出・遅出を正規職員で勤務 ・変則勤務の為、日々シフトボードに記入し、勤務状況を全職員で把握できるようにしている				・子どもと触れ合う事の楽しさを感じた時 ・人の役に立てるという事 ・子どもの成長の大切さと知れた時
	公営	・研修参加した職員から伝達演習を行い学びをしている	・参加カリキュラム検討の際、前月の保育について自己評価を行う	・報告、連絡、相談は欠かさないように特に保護者対応については全職員で見守る体制を大事にしている		・指導計画、保育の準備	・職場の人間関係 ・自分自身のメンタルの弱さ、勉強不足	・子ども達とたくさんの時間を一緒に過ごし楽しさや難しいことも共感できること ・子ども達や保護者の方の笑顔に会えた時
	公営	・毎年「子どもの人権」という視点をもってテーマを決め全職員で学習					・自分の保育の質の低さ ・子どもたちのトラブル、ケガ ・保護者への対応	・子ども達が笑ってくれること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・日々、子ども達の成長していく姿を側で感じることができる ・仕事が楽しいと思える ・世の中には、いろいろな家庭があることを知ることができた				・毎日がとても充実している ・子どもと接する仕事でエネルギーになっている ・毎日考える事がたくさんあり楽しい
							・子どもと一緒に色々楽しく話が出来、過ごせること
		・上司が現場把握出来ていない時など、勤務の体制が厳しかった ・保護者の対応が大変でした ・子どもの人数が多く１人ひとりの対応を細かく出来ない事があった。保育所にもゆとり教育があってもよいのではと思う	・子ども達の笑顔が見れた時 ・子ども達の１年間の成長を感じられた時		・個人指導計画の作成	・保護者の対応や書類作成など、家庭に帰ってからの時間が削られること ・保育所内での人間関係の難しさ	・子どもの成長を見る事ができる
	・おたより作成 ・記録	・肩こり、腰痛 ・仕事量の多さ	・将来自分の子どもができた時に役に立つ仕事内容 ・たくさんの子どもとかかわれること ・仕事に対するやりがいがあること		・保育準備 ・部屋の掃除	・子どものケガや病気を対応	・子どもたちの成長する姿を日々感じることができる
					・保育教材作成	・年齢とともに体力の衰えを感じる ・まとまった休みが取りにくい	・担当の子どもの成長ぶりを感じたり、仕事にやりがいを感じる ・育休などの制度がしっかりしていたので仕事を続けられた事

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・保育会議（月案検討） ・職場内研修	・日誌の活用				・持ち帰りの仕事や休みの日にする仕事が多い ・どんな時も常に、仕事のことを考えていなければいけない ・自分の思いが、子どもになかなか伝わらないことがある	・子ども達の成長を見ることができ、子どもや保護者と一緒に喜ぶことができる ・子ども達と接している時が楽しい
	公営		・人事考課シート					
	民営			・保育時間は長いので、支援児にあたっては二交代制をとっている ・正規、非常勤を含め、年間休暇の希望を取り事前にシフトに反映させる ・非常勤の職員どうしで突発的な欠勤をカバーしてもらうようグループ化する ・主任担当は決まっているが、主担が休みの時は全職員がローテーションで他クラスをカバーする体制を取り、全園児を全職員で見ていく意識づけを高める		・玄関のはきそうじ、くつ箱整理	・当たり前かもしれませんが、平日の休みが少なく、病院や銀行など行きづらい	・毎日笑顔で過ごせている ・保護者の方など、年齢が違う方と接する機会が増えた ・保育を通した様々な経験ができた

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・運動会について	・自分の保育の引き出しの少なさ ・保育士間の人間関係 ・持ち帰りの仕事も多いが、疲れもたまるので、帰宅後では仕事が進まない	・子どもたちと一日のほとんどの時間を一緒に過ごせる ・子どもたちの笑顔をたくさん見れる ・子どもたちとたくさん笑い合える			・年々身体に負担がかかっているのか痛みを感じることが多くなった	・子どもたちの笑顔に囲まれて仕事ができること ・子どもたちの成長が感じられること
					・写真の選択と整理	・肉体労働のため腰痛、背中痛などの身体がきつい ・時として持ち帰り仕事・残業がかさむことがある	・子どもと接することのできる仕事につけ保護者の方と一緒に子どもの成長を見守ることができること
		・手遊びの種類が減ってきたので、新しいものを取り入れたい ・保育園での感染症の流行で、自分の体調が崩れてしまうことが恐い ・時々、人前で喋る（誕生会、クリスマス会など）時に舌が上手くまわらない時があり、相手に伝わっているのかと不安になってしまう	・保育士によって段取りの良さを身につけることが出来、又、上司からの正しい指導があって、自分のあやまちに気づき、上司からの助言を取り入れ、自分のものにしようと考えること、良いものを真似たい ・保護者の方々に恵まれていた、雰囲気が良く、話しやすかったです ・１～５台までの子ども達の発達が見られ○○○（文章が中途半端で終わっていたため○○○で代用）				・子どもから元気をもらえる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・年度末に個人総括をしています（文書を園に提出）	・勤務体制は乳児クラスと幼児クラスで分けて組んでいます ・７時～22時の保育時間なので、朝・夕の短時間パート職員を配置しています			・やることが多い ・子どもの発達を促した保育をどうするか ・他の保育士さんとの連携	・子どもたちと喜び合えること ・子どもたちの成長を感じられること ・社会のマナーなどが勉強になること
	民営	・劇遊び	・日々の保育日誌 ・週案、月案、年間カリキュラム	・週40時間・シフト制、有給消化を心がけています。縦割り保育・合同保育（特に土曜保育）は、園全体で設定保育を考え、子ども達の姿、保育士同士の姿を見守るようにし、保育の質を高めて行えるように取り組んでいます			・保護者対応	・子どもの成長を見る事ができる
副園長	民営	・公開保育の中に「一日保育デー」という形で年間10回、保護者参加の保育探検日を設け、年度初めに募集している	・年２回、自己評価表（独自のもの）を提出してもらい、それに基づいて面談を行い、課題を見つけ、また評価することを繰り返している	・各クラスリーダーは正規の職員が担い、サブリーダーを契約職員をパート職員で担っている ・時差出勤は全職員で全園児のことを知る上でも必至で、勤務を取り組みにくい一面もあるが、早出遅出をうまく活かした生活スタイルをとり、プラスにしてる様に思う		・クラス懇談報告書 ・教材制作	・自分の技術、知識の低さ ・書類の多さ ・生活が苦しいこと（金銭的に）	・子どもや周囲の人と関わることで、その分やりがいを感じられること ・将来自分の子育てに活かせること ・子ども、保護者等悩むことは多いが、その分やりがいを感じられること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
・次の日が休み（有休）だったので、その段取りや行事の準備	・懇談会に向けての資料作成 ・総括資料作成 ・行事の準備	・保育情勢のきびしさ、公立の民営化や子ども子育て新システムの導入に対する国や府の動き ・気になる子ども、気になる親が増えていて対応の難しい ・給料が安い、持ち帰りや残業も多い	・子どもの発達、成長を日々感じられること ・子どもとともに四季を感じ生きている実感がもてること ・親と子のキズナ、親が子に対する愛情、子が親を思う心を感じられること		・半期総括の資料作成	・持ち帰りの仕事が多い ・給料がとても安い ・休みが少ない	・毎日が違って新しい発見もあり、仕事が楽しい ・子どもの発達を知れたこと ・子どもや保護者、同僚などたくさんの人に出会えたこと
		・保育士として素質があるのかと悩んでいる	・子ども達や優しい周りの先生方と、楽しく過ごしながら過ごせている事			・自分の子どもの保育園が台風で休園になるのに、出勤しないといけない ・子どもが熱を出しても休めない	・子どもの成長を身近に感じる
	・運動会で使用する小道具づくり	・我が子と行事が重なったり、時間単位で休みが取りにくいこと ・書類をパソコン作成となると苦手で時間がかかる上、持ち帰り仕事となってしまうこと ・延長保育士を使っている家庭との連携が深めにくいこと（直接話しをする期間が少ない）	・いろいろな子ども、保護者、保育士の方々と出会いをさせてもらえたこと ・同じ年令のクラスでも毎年違う子どもたちで同じ保育にならないところが楽しく新鮮なこと ・季節の変化に敏感になれたり、泣いたり笑ったり様々な感情が味わえる仕事なところ			・時々肉体的な疲労がぬけないこと ・保護者支援において伝えたいことがうまく伝わらないこと ・忙しい時期に休憩が取りづらく、家での仕事も多くなること	・子どもの成長を実感できたとき ・研修などで自分自身の勉強をなったこと ・仕事のやりがいを感じられること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営					・保育日誌 ・保育記録	・経験年数が少ないためトラブルへの対応が難しい	・毎日、子ども達と楽しく過ごせること ・自分の子育てに役立てる ・製作や絵本の読み聞かせなど自分のできる事が増える(技術力の向上)
	民営	・知識、技術面に関する研修 ・ロジカルシンキング	・定量評価、定性評価、保護者アンケート	・労働時間 ・新人と中堅等職員配置バランス ・事項の共有化				
	民営			・入園数の割には保育士数が多いが、配慮の必要な子ども加配対象外(多動等) が多く、短時間職員等で対応している			・自分の時間(プライベート)があまり持てない ・書き物が多い	・子どもの成長を間近で見られ、実感できること(やりがい)
	民営		・保育所保育指針対応、自己評価チェックリストを活用(萌文書林出版)	・必要な時間帯に多く配置できるようシフトを工夫している			・週休2日でないこと	・好きな仕事ができている ・やりがいを感じる
	民営		・自己評価表を作り5段階で○印をつける ・面談の時に少し園側の意見も伝える	・行事等で土曜出勤や日曜出勤になった場合は、出来るだけ代休を取る ・会議は短時間で切り上げる ・昼間の間に短い打ち合わせをする		・ピアノの練習	・子どもの内面を見きれていない ・頭が固い ・視野が狭い	・子どもたちの成長を縁側で見守ることが出来る ・子どもたちの笑顔に囲まれている

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育日誌作成	・自分自身が子育て経験がないので保育士としてのアドバイスはできるが、母親としてのアドバイスができない	・子どもたちと毎日過ごすことができる ・成長、発達面など母親になっても活かすことのできる知識がつく ・絵本の読み聞かせなどで読み方などの知識がつく			・姉妹園が多いので、他園との連携に戸惑うことが多い（カリキュラムの統一など）	・様々な出会いからたくさん刺激をもらったりプラスになった ・子どもと色々な事を経験することができる、又、喜びや悲しみを共有できる
	・書類作成				・日誌 ・書類作成	・常に時間に追われ､家庭(自分の子育て)が、おろそかになっていること ・仕事の内容量が多すぎること ・自分の保育に満足できないこと ・実力のなさ	・子ども達１人ひとりをよく見れること、成長を感じる事 ・やりがいがある ・頑張っている人（親や職場の同僚）が見れること
・運動会の準備	・クラスだより ・CDの編集	・家に帰ってからも仕事をしなければならない ・休みが取りにくい ・他の職業の友人よりも給与が少ないこと	・毎日楽しく仕事ができる ・子どもたちと関わる中で元気になったり癒されたりする ・得意分野を活かすことができる		・クラスだより作成	・子どもの書類が園にいる時間に書ききれず、持ち帰りが多い ・有休を使いづらい、保護者が足りない	・子どもの笑顔 ・子どもが一つのことに向かって活動しやり遂げた時の充実感
		・体がきつい	・子どもの成長を常に見る事ができる			・体調を崩した時やケガをした時に休みにくい	・子どもたちと過ごしている毎日が充実している

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・コンプライアンス ・情報セキュリティー	・所長ヒアリング～保育士 ・所長、主任は自己点検表記入しヒアリング	・乳児、幼児担当がペアを組む ・経験等を含め､保育技術、管理能力				
	公営	・研修報告回覧 ・区内で研修実施① ・ケース検討する中で意見を出し合う	所長ヒアリングの中で実施	・乳児、幼児担当はあるが休憩体制、事務時間体制では、複数の乳児担当者が全体の中で配置される体制をくむ ・事務時間を勤務時間内で平等にとれる様体制を組んでいる				
	公営	・環境（保育室、園長）の見直しを定期的に ・感染症、保護者対応	・保育実践、日記、ビデオ等により、保育を振りかえる、また園内で研修を行う。評価、反省、改善を行う	・子どもの体調、家庭状況など、共通理解すべき事項（援助の仕方を含む）についての伝達方法（週一回、定期的のミーティング、記録回覧） ・職員の役割分担を明確にする：リーダー、サブリーダーからの伝達→職員へ→主任、所長へ		・運動会の台本打ち直し	・保護者との人間関係 ・自らの要領の悪さ	・人の気持ちを考えようとするようになった

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・腰痛や体の不調があり、疲れてしまう	・子どもの笑顔で元気になる ・子どもにとっての貴重な時間を過ごせることが嬉しい ・心ゆたかになる		・指導計画の作成	・体力的、精神的にキツイ!! ・日々の事務に追われ、本来の子どもとの関わりや遊びに十分（思いきり）発揮できない ・様々なしめつけや、しがらみが多く、自分の保育をすることが難しくなってきている	・自分も成長することができたから ・子どもから学ぶことが沢山あり、保護者の方に助けられ、同僚からも支えられとこと ・自分の世界を広げ、色々な人との出会いがあり、充実した人生を送ることができたこと
	・保育教材を作成するのにかけた時間	・仕事から気分が切り離すことが出来にくく、休日でもどこかで仕事の事を考えてしまうこと（特に保護者とのことなど） ・常に行事や業務、日々の事務に追われてゆったりと仕事がしにくい ・一人にかかる負担が多すぎる（人数は一に無理がある）特に幼児をもつと本当にきつい	・自分の特技を活かすことができ、子ども共に成長していけること ・感謝された時にとても充実感を味わえる ・自分自身の感性を広げたり、伸ばしたり磨いていけること			・対応の難しい子どもや保護者が増えている ・体力の衰えを感じる	・子どもの成長が見られる ・子どもとの関わりの中で楽しさや喜びを感じられる ・達成感や満足感を感じられる
		・子ども同士のトラブル	・子どもの成長を側で見れること ・大好きな子どもを関われること ・やりがいがあること		・ネームプレート作成	・幼児と乳幼児担当保育士の連絡が取りにくい ・後輩保育士に対する指導などが十分できない	・喜怒哀楽がはっきりと出せる事が多く、子ども達と元気に過ごすことができる ・子どもの成長発達が大きな喜びとなる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・研修報告会	・保育士の自己点検表のチェック					・子どもと過ごす時間がとても楽しく充実している
	公営			・早出、遅出は決めていますが、なかなか退所できなく、出勤時間も決められた時間より早く出勤するのが日常です。 ・遅出勤務の職員の穴埋めは、出勤している職員で対応しています（パート職員がいないので苦労しています）			・保護者の方との接し方 ・子どもに対する叱り方	・たくさんの子どもと触れ合い色々な子どもの姿を見れた事 ・子ども達がなついてくれたり、多くの笑顔を見れたりした事
	公営					・児童票の下書き	・保護者との連携の難しさ	・子どもの成長や笑顔が見れてよかった
	公営			・分担制、担当制を取り入れている			・保護者との連携	・卒園した子どもたち（保護者）が声をかけてくれたこと
	公営		・市独自の方法で実施、保育士については別途保育士に該当する項目をあげた様式に基づいている	・正規保育士と嘱託保育士の勤務時間数が違うため、かなり無理がある。実態は嘱託保育士や調理師が制限勤務時間まで延長して勤務してくれている。工夫のしようがない				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・年々事務が増えてきている ・保護者対応が難しくなってきている	・自分自身の考え方が変った ・自分自身やまわに対してもプラス思考に見なければいけないと思うようになった
	・保育記録の作成	・持ち帰りの仕事が多い	・子どもたちの成長が感じられる		・運動会のCDのコピー作業（自宅パソコンにて）	・年齢を重ねるにつれて、責任のある仕事が多くなり、制菌的にしんどい ・フルタイム働くので自分の家庭や子どもとの時間が少ない事 ・体調が悪い時でも、代わりの人がいない	・自分の担任した子が目に見えて大きな成長をした時 ・運動会や発表会など、大きな行事でこちらの期待に答え頑張ってくれた時 ・「○○先生好き！」という言葉を聞けた時
	・指導計画の作成					・時間がない	・子ども達から沢山の事が学べる ・自分の得意な事を活かせる
	・経過記録 ・運動会について	・休暇に融通がきかない	・子ども達の成長を目の当たりにでき、その時の喜びと感動が味わえる			・雑用を含めしなければならないことが多く十分にできない	・子どもに励まされ力をもらうこと
	・保育日誌など	・行事に追われるところがある ・家庭にも持ち込まなくてはいけないことも多い	・子どもの成長を感じ、喜び合えること			・保護者の自己中心的なところ ・肉体的にきつくなってきた	・子どもと関わり、信頼される喜び

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・年度末にマニュアルの見直し	・保育士等各々の自己評価（月ごとに記入）に基づき、期末（年２回）施設長と面談、年度末に園全体の自己評価を行う	・最も早い出勤、最も遅い出勤には必ず正規職員が担当している（セキュリティ開閉のため）			・腰痛	・礼儀をきちんと覚えた
	民営		・保育職員用と調理職員用で独自に作成、５分野ごとに25項目（計125項目）を３段階評価し、これもって園長と懇談する	・１歳児18名は２グループも分け、９名に対し保育士２名で保育している ・早出と遅出の回数を合わせて、勤務時間数を調整している		・日誌	・家に帰ってからの仕事が多い ・ピアノが大変	・たくさんの子どもと関われる ・人として成長できる ・毎日充実している
	民営					・クラスだより作成	・書類が多く、大変である	・毎日かわいい子どもたちと過ごせて楽しいと ・子どもの成長を感じた時
副園長	民営		・チェックシートの活用					・子ども達の日々の成長がみられたり、笑顔が見られたりする事 ・毎日、楽しく子ども達と過ごせている ・いろんな事をみんなで行っていく達成感を味わえる事

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・クラスだより	・保育者との連携が難しい ・後輩保育者の育成	・子どもの成長が間近で感じられる ・子どもとの信頼関係が築ける				・人と接する仕事なので、自分自身が成長できる ・子どもの成長を間近で見られる
・保育祭の用品確認	・保育日誌の作成	・後輩保育士の育成。伝えるべきことをどのように伝えていくか悩みます ・実習生への指導。多忙な中でどこまで指導することができているか不安です	・子ども達の成長を身近で感じながら、共に日々を過ごせること ・毎日、一日一回以上笑えること				・子どもの成長に関わる喜びを日々感じられる ・子どもの保護者など人との関わりの中で得られることが多くある ・仕事のおもしろさ、やりがいを感じられる
						・書類作成や保育準備が勤務労働時間内に出来ず、持ち帰りになる	・やりがいを感じる ・子どもの成長を喜べたり、毎日取り組むことができる
	・保育環境作り（壁面飾り）	・一週間（７日間）のうち、朝から晩、夜眠りにつくまで頭が仕事から離れられない日が多い ・休みの日も素材集めや教材研究にあてるしかなくONとOFFの切り替えができな ・職員の人数や自分が担当である責任も考えると休みが取りにくく取る気にもなれない	・人と人との優しさや子育ての楽しみ方を教えてもらった ・子どもの側に居ると小さな季節の変化にも気付くようになり四季や節句を大切にするようになった ・自分の両親や家庭をありがたく思い、大切に思えるようになった		・保、幼、小連携回のリポート	・自分の子どもの行事や参観日になかなかいけなかった ・休みが自分のほしい時になかなか取れない ・仕事中休憩が少ない、あっても気が抜けない	・いつも子どもたちに囲まれて楽しい ・身体を動かしているのでストレス発散出来る時がある ・いろいろな事にチャレンジできる、毎日同じことをするのが少ない

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・園外研修報告会	・自己評価チェックリストを使い年１～２回行っています	・幼児のみで職員数が少なく、勤務のローテーションや役割分担に苦労します ・職員の希望を聞きつつ、相談しつつ、全体のバランスを考えています		・生活発表会		・子ども達の笑顔が見られること
	民営	・特別支援保育児研修	・「保育士のための自己評価チェックリスト」を用い、自己点検、自己評価を行い、チェックリストの結果を活かしているような方法をとっています				・自分の保育方針がみつからない ・保護者とのコミュニケーションが難しい	・毎日が楽しくなった
	学校法人	・臨床心理士によるカウンセリング研修				・実習生の記録の直し	・職場以外でも保護者がいないか周りを気にする ・食事にかかる時間が短くなったこと	・子どもの成長を身近に感じられる ・子どもと一緒に自分も成長できる
副園長	民営					・指導案の作成		

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・研修報告書、作成	・日々行事や保育準備に追われ、行事前は帰ってからもゆっくり休むことができない ・定時で帰れる事がなかなかない	・沢山の子どもや保護者と接する事が出来、頑張った分だけ結果が返ってくるところ ・責任を持って保育をする為、責任感が身についてきた ・毎日手作りの美味しい給食が食べられる				
		・人間関係 ・後輩への指導（後輩の仕事に対する態度・言葉遣い）が難しい ・保護者との関係	・子育ての勉強になる ・子どもたちの心や体の発達を側で見ることができる、共感できる ・子どもたちから学ぶことができる、また感動も与えてくれる			・信頼できる同僚に恵まれている中で保育士同士のコミュニケーションが取りにくい時がある	・信頼できる同僚に恵まれたこと ・大好きな子ども達に囲まれて生活できその成長に携わっていると実感できるこ ・研修など、自分の知識以外の分野も勉強することができたこと
		・体力の無さ ・技術力の無さ	・子ども達の成長を身近で感じ保護者と共に喜び合える環境 ・子どもへの理解を深められる環境 ・様々な人々と出会えた事、自分自身を成長させられる環境			・家事と仕事の両立が自分の納得のいくように出来ないこと	・子ども達からパワーをもらい、日々一緒に成長しようと努力できている事 ・身体を常に動かしている為、比較的健康に過ごせている事 ・子ども達の興味、関心を伸ばそうとする為、いろいろな事に自分も興味関心が持てる事
					・指導案の見直し	・子どもをみるだけでなく色々な業務が多いので専門的知識を増やしたいがなかなかそういった時間がない	・子どもたち一人ひとりの成長を感じる事 ・保護者の方と子どもの成長で一緒に喜びあえる事 ・自分自身も一緒に感じること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・園内栄養士、看護師による研修	・週・月単位で自己評価を月案、週案に記入する ・行事の後には必ず自ら振り返りを口頭で発表する	・複数担任のクラスには経験年数にバラツキがあるように配置する ・同年齢児複数クラスの各担任も同様にしている				
	民営					・事務的な仕事	・主として保育すること ・保護者の方との会話	・子ども達の成長を日々感じることができる ・大変なこともあるが、やり終えた時の達成感 ・子どもや保護者の方の笑顔が見れた時
	民営		・各保育士が年度末に自己評価のレポートを提出し、それにより園全体の評価を行ない、理事会に報告する			・保育教材を作成		・子どもの成長を感じた時
事務担当職員	宗教法人	・園外研修の内容を職員会等で報告し、話し合いの気化を設けている		・月一回の職員会と保育士会で日常の問題や問題行動ある児童への対応等に共通認識を持つようにする ・早出、遅出が均等になるよう割り振りをしている				
	民営	・自己評価表によるチェック	・職員の連携、情報の共有 ・職員の労働時間、休み等を考えた勤務体制が難しく、工夫の仕方を逆に教えて頂きたいです…保育との兼ね合いがあり、難しい				・園の近くのお店等に行きにくいことがある	・子どもと関わることができ感動や発見がある ・いろいろなことを学ぶことができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・書類		・毎日子どもの笑顔が見られる			・年齢とともに感じる体力の限界	・子どもや保護者などたくさんの出会いがあること ・子ども達の笑顔を見ることができること
	・運動会のための製作	・給料が安い ・帰宅後の仕事が多い ・腰を痛める	・子どもと触れ合え、成長を近くで見られること ・子どもに関する病気や成長過程など色々と知ることが出来たこと		・保健衛生用品購入 ・運動会の案内、プログラム作り	・職場の人間関係 ・休みが取りにくい	・子ども達の笑顔 ・一緒にやり遂げた達成感
	・クラスだよりづくり	・上司と考え方が合わない、頼りない ・他園で経験のある先生が今の園のやり方を無視し、自分のやりたいように保育する ・パートが就労時間を無視し、自由に休み退所している	・子どもの成長を見られ、保護者と喜べること ・自分が母親になった時に役立つ				
		・事務仕事をする時間がなかなか取れない	・行事が多く大変だが、やりがいはある			・自分より年下の保育士の指導について ・職員同士の連携の取り方について ・情報の共有	・子ども達の笑顔を見るとパワーをもらえる ・たくさんの人達と関わることが出来、又、仕事を通して自分が成長できる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・子育て支援、未就園児キッズサークル月3回	・TOMORROW CHALLENGEとして当会経営11施設と輪番当番制で年11回開催し、職員の評価を受ける	・休暇が取りやすい環境を整えるため「休暇希望同書」にて毎月の休暇希望を聞いて処理する ・職員の急な希望に対して勤務時間の調整（変更）も図っている		・書類作成	・保護者への対応 ・要領の悪さ	・子どもの成長を身近に感じる事ができる ・やりがいを感じる事
	公営							
	公営		・年3回自己評価を行いそれがクラス評価、園内評価につながるよう努力している	・時差出勤実施の為、3H勤務のパート職員の位置づけを行うようにしている ・保育士不足もあるが長時間保育については、お互いの連絡を密にし、保育士が交代で担当し対応を行っている		・保育教材の作成	・休日でも保育に活かせることはないかと中々切り替えができないこと ・中々休暇が取れないこと ・日焼けや体調管理の重要さ	・母親になる準備や経験がつめること ・子どもと触れ合えること ・変化のある日々が送れること
	民営			・有休消化をめざしています		・運動会の制作	・保護者とのコミュニケーション ・子ども一人ひとりと向き合うこと	・年の最後にはみんな色々なことができるようになり、一緒に喜び合える ・子どもの笑顔が見える
	公営	・保育参観 ・園庭開放		・在園児が少数なので家庭的な温かい雰囲気で過ごせるよう気を配っている ・職員間も常に子どもの様子などを伝え合い、どの職員も子どもの状態を知っておくようにしている ・保護者とのつながりも大切にし何でも話して頂けるよう努めている				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子どもたちの成長を身近に感じることができ、それがやりがいや喜びにつながる				
					・児童票		
		・子どもがいないので上手くアドバイスできないことがある ・予想と違った行動を子どもがした時に、うまく対応できないことがある	・子どもができなかったことができるようになった時 ・子どもの成長を毎日感じられる ・いろんな先生の保育を見れることと参考にできること		・運動会用衣装の作成	・子ども達一人ひとりの個性に合わせた対応 ・親が分かってくれない時	・子ども達の成長を感じられた時 ・子どもと一緒に経験した事から共感し合えた時 ・子ども達からパワーをもらって過ごせている事
		・保育園と学童のへやの場所が違い、行き来するのに時間をつかうこと	・子どもの成長がどのクラスにいっても感じられること				・子どもの成長を感じられる ・子どもたちの関わりを通して自分も成長できる ・子どもたちと関わり元気になれる
						・職員の人員不足	・子どもが成長する姿を感じることができる ・楽しく元気に過ごせる ・子どもに力をもらったり、癒されたりすることがある事

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ−2	Ⅳ−11−⑤	Ⅳ−12(1)	Ⅳ−13	Ⅱ−7−⑪	Ⅱ−(6)-1	Ⅳ−12	Ⅳ−13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・色んな項目別に1～5段階で自己評価している	・一日の終わりに一日の反省又明日の予定、保育士間の引き継ぎ等の会議をもつ様にしている ・年次に一人ずつ加配保育士を配置し、気にかかる子へのサポートをしている				
	公営	・支援アドバイザー事業（講演含む）個別の支援について		・職員の人数及び保育の体制により、8：30出勤18：30退所→翌日15：30退所の体制を取っています（遅出勤務ではなく、翌日早帰りとしています）				
	民営			・主任を軸として意見交換しながら進めています				・仕事に対するやりがい ・子どもの成長を身近で感じることができる
	民営	・園独自マニュアルによる職員研修（マナー等） ・看護師による保健研修	・職員が自己評価を項目ごとに行い、その後面談で聞き取り評価をしています	・書類、製作物等の簡素化		・運動会予行の準備、運動会職会出し物の練習	・体調を崩した時、急に休めない時もあること ・休みを取りづらく研修等の休日出勤が多いこと	・自分らしさを発揮できる場ができたこと
	民営	・研修してきた事を職員に伝える会 ・発達の気になる子どもの保育について考える会	・保護者に利用者アンケートを記入してもらう			・プレゼント作成 ・ピアノ	・一人ひとりの子どもに合わせた保育の難しさ ・母親（育児）の経験がないこと	・子どもの成長が感じられたこと ・子どもや保護者と信頼関係を築けた時 ・保育の中で、子どもが興味を示し、意欲的に取り組めた時

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・書類（おたより）	・家で書類などをしなければならないとき ・家事とうまく両立できない時 ・病院などに行くのに休みを取りにくい（人数が欠けて迷惑をかけてしまうため）	・子どもの成長を身近で感じられること ・保護者に感謝されたとき			・保護者との接し方について（こちらの気持ちが伝わらないとき）	・修了させた子どもが街であったときに声をかけてもらい成長を感じられるとき ・子どもの日々の成長が感じられるとき
						・年齢を重ねることによって、体力的にともきつくなってきている ・保護者との連携がうまく取ることが出来ない時がある ・障害を持つ子やグレーゾーンの子が増加しているため、その対応方法を考える	・子どもの笑顔をみると「ホッ」とする ・成長し親となってそのこと再び出逢ったりそのまた子どもを担当したりできる
			・子どもの笑顔を見れたり、「先生大好き！」と言ってもらえたこと ・保護者から「ありがとう」と言ってもらえること			・今と昔の親の意識の違い	・子どもの成長がみらえること
		・仕事内容と給与の不釣り合い ・体調が悪い時でも無理をしてしまう	・子どもから元気をもらえる ・子育てに関する知識をつけられる				
	・保育記録作成 ・保育教材作成 ・実習生の指導記録作成	・保護者の方への対応	・子どもの成長を共に喜べること ・子どもならではの発見に出会えること ・子ども達から先生と親しまれて甘えてきてくれること			・遅出、早出勤務もあるので、自分の子どもたちの保育園への送迎が困難な時がある	・子ども達の発達が見れ、毎日楽しく過ごせている

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・個別配慮の必要な子について ・子どもの姿と保育環境の見直し	・自己評価表を作成し、各自毎月末にチェックする	・ローテーションさけでは対応できない時間帯（7:30～9:30、16:00～18:00）にパートを配置		月案の作成	・人間関係（保育士同士） ・施設の古さ（直すべきところが沢山ある、汚い） ・給与の少なさ（正職との差）	・子どもと触れ合える仕事 ・たくさんの人との出会い
	公営	・自己評価について ・保育の点検見直し		・土曜日、出席児が少ないので、平日午後休を土曜日にあてている				
	公営		・チェック表の記載	・時間差勤務など			・帳簿ほど時間外でしなくてはいけない仕事があること	・子ども達の笑顔を見ることができ、成長を感じれること
	公営		・各年齢毎に毎月自己評価を実施している、職員会議で発表している	・５交替制ですが、同クラス同志又は未満児、以上児同士がなるべく同じ日にならないよう配慮している			・保護者との連携	・子どもたちの成長
	公営							

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・自分の専門的スキルの少なさ	・子どもの成長を見る事ができること				
					・保育教材の作成	・異年齢児混合クラスのクラス運営の難しさ	・子ども達と一緒に笑い喜び合い、時には悲しみを共有し合える事
	・運動会準備	・今の保育が子どもにとって最善なのか ・帳簿作成に時間がかかる	・子どもの成長を側で感じられ、保護者と共に喜べること ・子どもと共に成長できること ・たくさんの方（上司や同僚、保護者、子ども全て）に出会えたこと		・保育教材の作成	・思っていることを伝える時の自分の言葉の足りなさ ・自分の文章能力 ・体力	・子ども達と関わっていけること ・子ども達の成長が見られること
	・保育記録		・好きな事を仕事とできたこと		・事務関係	・幼保一体施設の国の基準が未完成、未定	・未来ある子どもたちに関われること
					・復命書作成	・臨職の保育のスキルを磨くことへの意識づけを促す事 ・職員の保育の質を高めるための共通理解を図ること	・四季折々の自然の変化が肌で感じられる ・子どもの成長が感じられ、感動することが多々ある ・自分自身を向上、意欲、好奇心をもって生活出来る事、自分を成長させる

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・コンプライアンス研修 ・接遇マナー研修等	・３カ月ごとの保育業務、接遇マナー、連携、保護者支援､協力体制、コンプライアンス等を評価し、課題、改善など話し合う ・日程管理法にて評価する、上司と面接を行い評価へとつなげる	・ローテーションにより職員の移動がある、どのクラスにでも業務遂行ができるよう手順書、マニュアルで実施している ・３歳以上は時間で合同になる ・各クラスの連絡事項が保護者、職員にも伝わるように連携を図る、伝言用メモの活用		・反省のメモ	・実践的な研修会をもっと増やしてほしい	・子ども達との触れ合いがとても楽しいこと ・自分が考えた遊びや活動で子ども達が喜んでくれること
	民営			・保護者の就労時間に合わせ延長保育を取り入れている ・職員の勤務時間も年度当初から見込んでフリー保育士を確保している				
	公営	・研修参加後の報告会	・１か月に１回、各職員から保育所作成書式により、自己評価を提出し、それをもとに職員間で話し合う	・時差出勤のため、クラス職員が減の時間帯には、フリー職員が対応するようにしている		・おたより作成	・向上心が少しずつなくなってきている ・業務量の多さ	
	公営	・他園と合同研修	・ペーパーで自己評価提出し、管理職以上の役職員より評定してもらっている(所長含め全職員)	・パートを利用し、9:00～12:00の設定保育時には担当が常勤するよう心がけている ・子どもの受け入れやお帰り時には担任対応を心掛けている		・保育記録	・子どもの人数が少ないため、職員数も少なく、職員一人ひとりの負担が大きい ・部屋（クラス）に職員が一人しかおらず、他の職員を手伝えない、また何からしたらいいか分からなくなる、その結果他の職員の目が気になる	・子どもの成長を日々に実感できる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・保護者の対応	・生きがいを感じる		・製作		
						・保育記録など書類面の処理	・子どもに接して安らぎ癒されることが多い
						・保護者との関係	・子どもの伸びゆく力に関わりながら生活できること
		・新システム計画など将来への不安	・子どもの成長を感じた時		・他園に抗技台を借りに行く		・やりがいのある仕事ができること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・前期が終わった時点で保育に関することから、安全管理、資質向上等に関する振り返りを記述する	・職員の確保が難しい為、最低基準内で勤務体制を進むしかない			・労働時間が長い割に給料が安い ・書類が多い ・複数担任の難しさ	・子どもたちとの信頼関係が出来た時の喜び ・子どもたちと一緒に色々な経験が出来ること ・可愛い子どもたちと一緒にいられること
	学校法人	・年齢ごとに応じた、あそびの研究	・自己評価チェックリストを作成し、職員が解答する形で行っている ・評価分類項目(①保育理念②子どもの発達援助③保育の内容④安全管理⑤保護者支援⑥質の向上⑦食育について以上　全71項目	・年間111日の休暇実施 ・早番の者が退所した場合など管理者が保育にあたる ・時間外勤務を命令した場合、時間外手当を支給		・製作物 ・書類	・体調管理が難しい ・休みが取りにくい ・行事前が仕事が多い	
	指定管理			・保育士定数は満たしているが、パート保育士又は保育補助を配置し、年齢毎の活動もできるだけ行えるようにしている				
	その他（企業運営）		・次の保育につなげるようにそれぞれが自己評価を行っている	・小さな子どもがいる保育士には必ず子どもの行事には参加できるように配慮している ・事務次官が長くならない様に体制をとっている（シフトを細かに） ・仕事にやりがいがもてるように60歳以上の方とアルバイト（土日勤務）以外は正規職員としている		・壁面など制作		・子どもが出来なかったことが出来るようになり、一緒に喜べることが出来た時 ・保護者の方から「ありがとうございました」と言ってもらえた時

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・日誌	・職員の人数が少なく、一人にかかる負担が大きいこと、それが出勤時間、帰宅時間にもかなり影響してくること	・少しずつ成長する子どもの姿が見られること ・デスクワークとは違い、日々違う出来事がありそれを肌で感じられる仕事であること		・日案、日誌	・保護者の方との関わり	・子どもたちの成長がみれる ・子どもたちが頼ってくれる
	・運動会で使う物の製作 ・前日の延長日誌の記入	・休みがとりにくい ・帰る時間が遅くなる (仕事が終わらなくて)	・日々、子どもの成長を近くで見れること				
	・保育計画、製作	・様々な家庭環境の子どもへの対応 ・事務作業の多さ	・やり甲斐、達成感を感じられる ・子どもとの信頼関係		・運動会の準備物製作		
	・保育記録の作成	・書き物が多いが書き物をする時間がほとんどない	・子どもの成長を子ども、保護者、職場の保育者と一緒に喜べる ・子どもと一緒に成長して子ども達から学べることがたくさんある ・子ども達の喜怒哀楽の表情を近くでみることができる				

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・研修伝達 ・園だよりの裏面を利用して紹介しているふれあい遊びの実技				・週の計画	・自分の力不足など色々…	・子どもの成長をそばで見守り、喜ぶことができること ・子どものことについて勉強したり知識をつけることができること ・健康的な生活が子どもと共に送れること
	公営		・日、週、月案に自己評価欄を設けて記入している ・園内研修時に「保育のふりかえり表」を用いて自己評価している	・各保育士の連携		・会議録や保育記録等の作成	・書類に時間がかかること。 ・持ち帰りが多くなりプライベートとのバランスがとりづらい ・自分の技術（全体を見る目、経験不足等） ・他の保育士との連携	・子どもの成長を一番近くで感じられること。発達について勉強でき、自分の子育てにも役立つこと ・どんな時でも、子どもの元気、笑顔を見る事で励まされる ・日本の伝統や季節行事等を意識しながら生活でき、云われ等について勉強できること
	公営		・園外研修の参加 ・園内研修において振り返り（ＰＤＣＡサイクル）	・正規と臨時が半々なので、当番等正規と臨時で組むようにしている		・行事の作り物	・体力に限界を感じる ・書類の多さ ・子どもの人数だけで保育をする ・一人一人の子供の特性によって保育士一人では、クラス担任が（定められた人数）難しいことがある	・子どもが慕ってくれる ・行事を終えるたびに子ども達の成長がみられる ・色々な経験ができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育の準備	・人間関係 ・仕事の多さ	・子どもの成長が実感できる		・保育事務	・当番保育の時間、回数が多く、保育準備や掃除などの時間が少なくなっている ・事務時間は勤務中に取れず、持ち帰りがほとんどである ・子どもだけでなく、保護者支援が難しく、大変になってきている	・子どもたちの笑顔や元気にいやされたり、日々楽しくすごすことができる ・仕事は難しいことがあったり、大変なこともあるが、とてもやりがいがある ・いろいろなものを作って遊ぶのは好きなので、自分のやりたいことが保育に活かせている
・行事(運動会)準備	・運動会準備 ・保育記録	・休日にも仕事(書類、行事準備等)がある	・子どもの成長を感じる		・運動会準備 ・書類、保育準備	・親のニーズに応えられるように努めているが、もっともっと専門分野の方との連携をとり、子育ての助けとなりたい	・次世代を担う子どもたちの育ちに、少しでも役立つ仕事につき、やりがいを感じる 又、共に生きることができ、喜びを感じてよい道に進めたと思う
・運動会のクラス競技の準備、作製	・保育記録を作成する	・書類や保育教材を作成する時間が勤務時間内では持てず、持ち帰ってしなければならない ・職員の人数が少なく、ギリギリの人数で有休が取りづらい。また、気になる子にしっかり対応してあげられない ・行事前などは、その準備、作成で勤務時間後残ることが多くなるが超勤対応ではない	・子ども達から毎日元気をもらえる ・子ども達の行事を一番近くで感じることができ、毎日新鮮な気持ちでいられる ・色々な行事を子ども達と一緒に楽しむことが出来る		・週指導j計画 ・事務的な仕事(当番表作り)	・持ち帰りの仕事が当たり前で、帰宅後、休日常に仕事に追われた毎日になっている	・子ども達からたくさんの元気と笑顔をもらったこと ・子ども達から様々ば事を教わったこと

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・自己評価表に自分で記入	・全体の人数も少なく年齢差があるので、その年齢で押さえなければいけないことは、小人数でもクラス保育をする。いつも縦割り保育のような感じで、それぞれのかかわりが深い				
	公営						・結婚、出産を経験したことがないので、本当に子どもや保護者の気持ちを理解できているだろうかということ	・子どもの成長を間近で感じられること ・好きなことを仕事にできたということ
	公営		・自己目標シート作成（園経営計画書にそって）	・保育士の連携 ・保育士の協力・協議				・子どもの成長を日々感じ、保護者と喜び合えること ・子どもと生活する中で、毎日試行錯誤を繰り返したせいで来た時の嬉しさ
	民営						・グレーゾーンの子への対応 ・様々な面での指導の仕方（子どもに合った） ・保護者への対応（exモンスターペアレント）	・子どもの成長を見れた時（一年間を通して） ・保護者の方に一年を通して「先生らしくなったね！」と言われた時

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・指導計画（週案）の作成	・書類の作成に時間をとられ、持ち帰りの仕事がある ・非正規職員にも異動があり、精神的負担	・子ども達の成長を通して、自分自身の成長にもなっている ・子どもの感じ方に発見や驚きを持ち、新しい考え方（違う角度から）ができる ・子どもの成長を身近に感じることができる		・保育指導計画の作成	・年齢とともに体力面できついと感じます	・子ども達の成長を身近に感じられること
		・家に持ち帰れないと出来ない書類仕事 ・援助が必要な子どもへの関わり方についての悩み（研修、学習がしたい）	・日々の子どもとのやりとりの楽しさ ・子どもの成長 ・人間同士の関わりがもてること（楽しい）			・一人一人違う子どもへの対応の仕方 ・保護者支援（対応）	・これから大きくなっていく子どもの成長に関わっていけること ・保育園を卒業しても、保護者や子どもとのつながりがあること
	・保育記録の作成	・保育士の不足、１歳児６人に１人の保育士で保育しているため、肉体的にきつい、噛みつきなどのトラブルを防ぐ難しさ ・指導案、記録、教材など一日保育をしているため、事務中に時間がとれない、持ち帰ってする仕事が多く、家庭を持っている女性は大変である	・子どもの成長を日々感じることができて嬉しいこと ・子どもとの信頼関係ができると慣れてくれて愛情がわく					・子どもに関わる仕事ができていること
		・人間関係（保護者や同僚） ・体調管理	・若さを感じる ・子どもがより好きになった		・保育教材を作成	・保護者との対応の難しさ	・子どもが立ち上がったり、歩けるようになったりする成長が見えた時 ・遊んでいる時の笑顔 ・保育士に笑顔で話をしに来てくれたりする時

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・保育指針 ・給食会議 ・健康に困る ・自己評価	・定期的な自己リストの提出及び反省の公開	・季節及び入所園児に応じて、勤務体制を変更（人数）したりしている ・入園児に状態に応じて、担任以外のフリーが保育の助手として入っている		・配布物のコピー	・保護者支援	・子ども達の成長を近くで見られること ・毎日、子どもと一緒に笑顔になれること、頑張れること ・子どもや保護者、他の職員から「ありがとう！」って言葉をもらう
	公営	・プロジェクトチームに分かれての自主的な活動（運動・食育・環境・園芸・絵本）	・ペーパーに記入して評価する、評価したものをミーティングや職員会議のグループ単位で行う	・職員間の連携あるのみ			・子ども一人ひとりにできる手立てを考えること	・子どもの成長を側で見守れること
	公営		・年度当初に研修計画をたて、職員一人ずつの目標を記入し、保育所長と面談し、主任とともに、一人ひとりの目標確認をする。年度終わりに一年間の自己評価を行い面談する	・急速時間確保のためのスケジュールタイムを作っている			・初めて経験することが多いため、分からないことが多い ・保護者との人間関係 ・病気やけがをした子どもへの対応	・子どもの成長していく姿が見られること ・子どもと一緒に居られること ・子どもの発達など様々なことを学ぶことができること
	公営		・保育の取り組み、学年の自己評価（クラスに掲示） ・福祉サービス自己評価 ・保育計画全般					
	公営							

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・出張報告書の作成	・未婚なので育児についてのアドバイスや実際の大変さが分かりきれない ・指導しきれていないように思う（指導力不足）	・子どもたちがかわいくて元気をもらえる ・子どもの成長が目に見えてうれしい ・行事などの後の達成感			・噛みつきなど子ども同士で起こったトラブルの被害者・加害者の親への伝え方 ・若い先生の指導の仕方 ・子どもの思いを代弁することと、親の思いを受け止めることのバランス	・子どもたちに「先生大好き」と言われる事 ・子どもや親の成長を見られる事 ・大好きな子どもたちと毎日笑顔で過ごせる事が本当に幸せだと感じる
					・時差勤務表調整及び引継書類作成 ・環境や保育内容の下準備	・年々保育士に求められるニーズの質が、保護者以上に求められていると感じる ・休日でも親が子どもを見ようとしない、親子関係の希薄さをうめることの難しさ	・保護者から相談されたことで、親子共に成長し喜んでもらえる時 ・四季や行事を子どもと一緒に感じ、過ごせること
	・週案作成、用具の確認	・問題を抱えている子どもに対しての対応 ・子ども間のトラブルに対しての声かけ	・「先生、大好き！」と笑顔で子どもに言われること	・着替え、身辺整理等	・保護者の対応 ・運動会の準備	・疲れる	・楽しい
					・事務処理	・持ち帰り仕事が多い ・家庭との両立が難しい ・今、質の向上を言われ過ぎ ・研修（夜の）への参加が少なくなり毎日遅くなって帰宅する	・将来のある子どもたちと関われて嬉しい
							・子どもの成長を共に喜べる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・研修報告 ・視聴員を利用（個人情報保護者など）	・市販の自己チェックリストを利用				・事務量の多さ	・子どもの楽しそうな姿を間近で見られる ・子どもの成長を保護者と共感できる
	公営	・市保連研修 ・県保連研修					・経験不足 ・時間のやりくり（1日を通して） ・次年度以降の雇用形態への不安	・やりがい ・楽しさ
	公営	・参観日、保護者対象の講演で研修する		・午睡等合同で行い、その時間を研修に利用する ・所外での研修報告を必ず行う				
	民営	・接遇研修 ・危機管理について ・担当者別研修 ・保育所運営費について	・「職員自己評価表」を使用し、項目を4段階で自己評価する。また振り返り及び今度の課題を記述する	・細やかな時差体制を組んでいる				
	民営	・研修に行っての報告会を行う	・チェックリストを使用	・平日に休暇を（指定公休）とらないようにして、一年間を通しての労働時間としている		・保育日誌の記述 ・個別指導計画の立案		・子どもの一瞬であろう成長に立ち会えること ・全く同じという日が無く、日々発見があること ・大好きな子どもと過ごすことができること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・書類作成	・書類の記入のやり方がどんどん複雑になり量が増えている ・パソコンが一人一台ないのに、パソコンを使っての書類作成が多い ・持ち帰らないとできないほど事務量が多い	・やりがいがある ・毎日元気でいられる ・子どもの笑顔		・教材について考え用意する	・時間内に仕事が終わらない ・書留が多くて書くのに時間が必要だが、保育中はできないので悩む	・やりがいがとても大きい ・子どもの成長、自分の成長を感じられる ・子どもの未来を楽しみにして仕事が楽しくできる
	・運動会に使う小物作り ・おたよりの文章を書く	・当番の回数が多い（早出、居残り、安全点検、誕生会、避難訓練など）	・自分の性格に合った仕事なので基本的に楽しいと感じられる事 ・子どもと接することで、その成長が見られる事		・保育内容の計画	・我が子を預ける保育園も近所なので、必要以上に気を遣ってしまうこと ・我が子の行事に参加できない	・様々な子育て家庭を見て社会勉強ができること ・子どもや保護者から信頼を得て、共に成長できること
		・行事前に自分に余裕がなくなる（家庭と仕事の両立）	・悩んだ分、子どもとの関係が築けてくること ・子どもから元気や笑いをもらえること			・日々忙しすぎる	・子どもたちとの出会い
		・人材育成、また気持ちを統一すること ・人手不足	・子どもの成長を感じられ、それに関われること ・自分の持ち味を発揮できること			・仕事量に対して給与が安い ・職員数にゆとりがなく負担になっている ・病気（うつ等）持ちの保護者対応	・子どもの成長を身近に感じられること ・行事役の達成感 ・保護者の方と一緒に喜び合えること
	・保育記録日誌記入 ・個人記録記入	・気がかりな子どもへの対応	・子どもたちの成長を傍で見守ることができる		・保育日誌記入 ・個人記録記入	・気になる子への対応 ・保護者との意思の疎通	・たくさんの出会いがあること（子どもたち、保護者、同僚） ・たくさんの感動を経験できること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・チェック方式＋自由記述	・指導保育士を置く ・勤務の公平化 ・個々の能力に応じた勤務の組合せ		・運動会競技考案	・休日でも自分の好きなことへの時間が取れない ・要領が悪く、帰宅時間が遅くなってしまう	・子ども達に出合えたこと ・自分の性格が以前よりも明るくなった ・職場で信頼出来る同僚に出合えた
	民営	・保育連盟の研修会 ・給食研修会(町)	・毎月の職員会議	・個人情報を考慮し、その意向に沿えるようにしている				
	公営	・わらべ歌 ・環境構成（おもちゃの検討）	・各自で（計画・環境構成・人間関係etc）はじめたばかり、中期と年度末に延長・副園長と話しそして振りかえる予定（修正していいく）					
	公営		・毎月、1．環境について、2．子どもの理解につちえ、3．保育内容、4．職員連携、5．保護者士園、6．乳児保育の6項目(内容は各項目で具体化してある）について、出来ている＝○、努力が必要＝△を記入、項目の横に自己の課題を自由記入するシートを提出	・少人数なので、0、1歳児クラスと1、2歳児クラスの混合にしている ・空いている保育士を使って生活時間帯の違う0、1歳児を分けて保育することもある				
	公営		・項目に従って段階評価並びに自己評価を文章で記述					

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・保護者との感覚のズレ（年々感じる） ・ゆとり教育で育ってきた保育士の指導（知っておいて欲しいことが知られていない）	・子どもと一緒に過ごす時間の楽しさ（担当を外れて特に思う） ・子どもと達成感を味わった時
						・障害をもっていたり、療育センターに通っている子が増えている、そういう子たちとの接し方 ・できる子とできない子の差が大きい	・受け持っている子や以前受け持っていた子が成長したなあと感じた時 ・親から感謝の言葉をもらった時
		・気になる子どもへの対応	・子どもと一緒に遊んでいる時間 ・ふとしたさりげない、子どもの言葉		・保育記録、事務etc		・子どもたちと一緒に保育士自身日々成長できること
		・複数担任における連携の取りづらさ ・保護者の対応	・子どもの成長が間近で感じられること ・子どもの笑顔に出会えること			・一人ひとりの子どもたちの抱える問題の解決策が見つからない時… ・母親が子どもたちの保育に積極的になれるようにどうサポートすれば良いか ・個性を認めること、集団で過ごすことの両立	・たくさんの子どもたちからの成長見守れること ・おかあさんたちのサポートがうまく行き、子ども達の成長を共に喜べたり、子育てが楽しくなったと言ってもらえた時 ・保育をすることで自らの姿と振りかえることがで出来た

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・自己評価表を参考にして、お互いにこういう事に気をつけよう、改善しようという風に話し合っている	・職員同士納得のいくやり方で都合の悪い時はお互いに代わってあげている				
	民営	・園外研修の報告研修 ・園内問題解決研修	・自己の欠点 ・欠点の解決の為には ・自己の長所 ・他職員の長所 ・園の欠けている所 ・改善の為には ※平成23.4に職員評価をした			・保育記録の作成 ・保育教材の作成	・事務作業が多いこと	・とてもやりがいがあり子どもの成長を近くで見られる
	公営	・市内公立保育所での研修(全体)：障害、人権、食育、自然、リズム等	・項目に添って○印の記述					
	民営		・年3回各自で自己チェック表に基づきチェックをし、それを基にクラスで話し合いをし改善点などを出し合う	・5交代制の中で本人の希望をあらかじめ聞くようにしている		・運動会に称するTシャツのアイロンプリント	・長期休暇がとれないこと ・あまりプライベートが保障されていない ・年休も取りづらく昨年は一度しか使えていない… ・派手なことができない（保育士なのに○○○といった先入観とのギャップが生じるため） ・肉体労働だが、その割に給料が少ないのがきつい	・子どもの成長を感じられる ・笑顔が見れる ・楽しい ・童心にもどり仕事ができる ・優しさや心の温かさを感じられる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
			・子どもの成長を側で感じられる事		・指導計画		・成長していく子どもの姿を見届けられること ・今までやっていなかったことが出来るようになったこと（縫製・パソコン等）
						・書類の整理が多い ・立案の複雑さ	・子どもと過ごす時間
		・モンスターペアレンツ…保護者（特定）の方との関係	・子どもの笑顔や一緒に成長できるところ				
		・休暇が取りづらい ・子どもの人数が多くて子ども一人ひとりじっくりかかわることがしにくい。もう少し人クラスの子どもの人数を減らしてほしい	・たくさんの保育士さんに出会い、いろいろな方向からの保育の勉強をすることができた ・毎日、子どもと一緒に過ごせること		・保育教材の作成		

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・新チェックリスト［保育士篇］日本保育協会を活用				・保育についての知識が時々勉強不足ということ ・保護者とのコミュニケーションがうまくとれていない時がある	・子どもの成長を一緒に感じていけること ・何事も社会勉強になる ・大好きな子どもと笑顔を毎日見れること
	公営		・町による人事評価制度、組織目標、個人目標の自己申告書を５月中に提出 ・年２回自己評価、面談実施	・土曜勤務の週休、有休、年休等が重ならないように勤務調整をする ・加配、フリー職員は、勤務に余裕がある時は、自分の担当にこだわらず、その日一番必要としている所に配置する			・個性の伸ばし方	・子どもが出来なかったことが出来るようになったとき ・自分の名前を覚えてくれて頼ってくれたとき
	民営		・自己評価用紙への記入	・育児(乳幼児)の保育士に対し、勤務時間優遇（10：15～９：15の勤務はなし）		・日案反省		

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・上司の仕事の怠まん	・可愛い子どもと関われること ・子どもが親しんで接してくれること ・何より子どもの成長を間近で見れること			・年をとることに体がきつくなってきている（体力的にきついことがある、腰痛持ちなのできつい） ・人間関係の難しさに悩むことがある（保護者との連携、職場内など） ・民営化などの話がでたりして、将来働き続けられるかが心配、年々仕事量が増えるのに正規人員は増えないこと	・子どもが好きなので毎日一緒に過ごし、経験、体験を共にできることがうれしい ・子どもと共に生活し、様々な出来事を一緒にのりこえていくことで自分自身も成長できている気がする ・心の素直な子どもたちと触れ合うことで子どもからいろいろなことを教えてもらえるので毎日楽しい
			・子どもと共に学び、子どもから得るものがあるから				・子どもの日々の成長を保護者と一緒に喜び合えるから
	・日案反省				・日案		

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・毎月のお誕生会の子の保護者に催物を見てもらっている	・年に３回 内２回は園内研修時に報告しあう 最後の１回は項目を決めて記述する	・保育時間が長いので時間差で職員は勤務している ・多目の職員で休みのカバーをしている				
	民営	・各職員が園外研修で学んできたことについて ・行事について	・園長との個別の話し	・人数が限られており、工夫しようにも大変である		・保育記録・指導計画の作成	・経験年数が少ないのに、一人担任であること、部屋に保育を参考にできる人がいないこと ・保護者とのやり取り、コミュニケーションのとり方 ・個人差による、できることとできないことの対応のしかた、一人で組みをまとめること	・子ども達の笑顔を見たとき ・今までできなかったことができるようになったのを見たとき
	公営	・人権同和、保健のあゆみ、給食研究、音楽研修会などの報告研修 ・一人ひとり子どもの育ちについて話し合い ・行事について持ち方、反省など	・子どもの活動や状態に対する評価と保育士自身の保育や援助、環境設定等に対する評価など各自で評価を記入し提出	・正規職員が少ないということもあり、かなりの無理状態、臨時職員の協力を得ている		運動会の準備	・保護者との信頼関係の築き方 ・勤務時間内に事務作業や書類を終えられないこと ・自分の保育技術に対する不安	・子どもたちの笑顔や豊かな感性に出会えること ・いろいろな子ども、保護者、保育士と出会えること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育教材の作成	・子どもを見ることだけが仕事だと思われている事（書類等はしていないと思っている） ・上司（保育士経験なし）がその時の思いつきで発言し勝手に保育してしまう ・子どもの事を思って言っても「福祉が決めていることだから」と上司、事務員が意見を取り入れてくれない	・「昨日できなかったことが今日できた」など成長を日に日に感じられること ・子ども達の無邪気な笑顔を見えること ・疑う心がなく、何でも素直に受けとめる純粋な心に触れられること		・各種委員会の記録の作成 ・運動会準備	・事務関係（上司）が現場の事を理解してくれない ・頑張っても頑張らなくても、何も変らない、頑張ってする方がバカをみる時がある(認めてもらえない) ・現場の意見が通りにくい、寄り添いあおうというが、寄り添いを頼まれるのはいつも普通の意見、手抜き、変な方へ向かう時、納得できない	・子ども達の笑顔と成長 ・地域にいるので、大きくなった子どもたちと会う事もあり成長した姿を見るとやはり嬉しい ・研修や講座で知らなかったことに気付いた時
		・午睡がないので、保育士が足りないと事務する時間がない上に休憩することもあまりできずにいる ・給与と労働が見合わずにいるので、時折精神的にかなり疲れる ・保育士間の相互理解が難しい	・子ども同士で助け合ったり認め合ったりするなどを身近で感じられる ・成長していく姿に自分も励みになる ・とにかく楽しいと思う時がある				・子どもの笑顔 ・子どもの成長がみられた時
		・今年初めての保育所で、保護者との信頼関係がうまく築くことができず不安 ・書類の書き方が難しい ・計画をするまでに時間がかかりなかなか実行できずにいる	・子どもたちから「すき」という言葉や笑顔をたくさんもらえること ・子どもの成長をそばで見られ、保護者と喜びを共有できること ・大人になってはあまり体験しないようなことを、たくさん体験できる		クラスだより	・同僚とのコミュニケーション ・保護者への対応	・子どもと楽しさを共有できた時 ・行事等がうまくできた時

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・食事検討会（食事について） ・保育検討会（保育について） ・人権研修会（人とのかかわり）	・自分の保育で振りかえるために、毎月の日誌の指導計画、週の反省に自己評価を書いている	・人数の少ない時は、混合で保育をする。異年齢の交流を意図的に取り入れている ・地域の方、保育所に来てない子どもの交流をしている（人数の少ないため）			・保護者との関わり方について ・自分の保育に対して自身がもてない ・環境設定や指導計画など自分の知識が充分でないのでアイディアが浮かばない	・子どもが自分に信頼を寄せてくれているのを実感したとき ・母親にお礼を言われたとき ・子どもの成長を目のあたりにしたとき
	公営	・所内研修（職員間の連携） ・幼保交流打ち合わせ会	・自己評価用紙に年３回				・事務的な書類を書いたり、日誌を書くゆとりや時間がない ・休憩という時間があまりなく精神的なゆとりがない	・子ども達の笑顔や頼ってこられた時に喜びを感じる
	民営	・保育参観（２回） ・給食参観 ・クリスマスお遊戯会（１回） ・講演会					・発達障害の子の接し方 ・保育士に人数不足	・園児の成長を見れることができ、それを保護者の方と喜び合えた時 ・園児が渡しを必要としているのを感じた時
	民営							・子どもの成長が見られること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・事務がなかなか処理できない（行事などがはいってくると準備などに追われてしまい）	・子どもと接することでいろんなことを吸収できるところ ・職場の先生方に恵まれたところ		・保育所トイレ用マットの購入 ・保育室様の机の下見	・保育所だけではどうにもならないことが家庭でおこりそれが解決できず子どもがつらい思いをする時無力感がある ・施設の老朽化で子どもを守れるか心配、もっと年齢に合った施設で保育したい ・年齢による体力の低下	・子どもと関わって小さな達成感が味わえる時に良かったと思う ・保護者と子どもの成長を喜び合えた時
			・子どもと過ごす時間、他の保育士の先生と過ごす時間が楽しい		・運動会で使うマントの製作 ・書類作成	・研修が多すぎる、しかも土日によく入っている ・非正規が半分以上なので、仕事の負担量とプレッシャーが大きい ・持ち帰って仕事をしないと追いつかない、休日も仕事から離れられず、自分の子どものは放ったらかしになる	・保護者から信頼、感謝された時 ・子どもが心から安心して甘えてくれた時
	・行事の衣装の準備	・書類や衣装作りなどの持ち帰り仕事が多い	・子ども達の成長していく姿を見られ、やりがいを感じで仕事ができること			・書類作成等の持ち帰り仕事が多いこと ・行事前の準備に時間がかかり過ぎること	・子どもと過ごしている中で色々発見したり、たくさん笑わせてもらったこと ・色々な研修を受けさせてもらい、勉強ができたこと
		・腰痛	・現在保育している子どもたちだけでなく、卒園していった子どもたちの成長も楽しみに過ごす事ができること				・子どもがかわいくて楽しい

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・市役所人事課による評価（正規のみ） ・自己評価チェックシートによる評価（各自）	・時間内の全員参加の職員会（２回制）の徹底と週一回の週案回（２回制）の実施 ・緊急時は、主任、園長も保育室で保育する				
	公営	・園外研修の報告会	・目標管理シート、人事考課表の記入と一次考課者との面接	・非正規職員が多いので早出、延長保育等のローテーションに配慮する ・クラス担任はその年配属された職員の数、経験年数、保育能力（資質）人間性、本人の希望等考慮し決定する ・年一回以上全員に何らかの研修に出席してもらう		・個人の月案経過の作成	・保護者との関わり方の難しさ ・書類の多さ	・子どもの成長を目にすることができた時
	公営	・研修会参加報告と話し合い ・感染症予防等 ・カウンセリング研修	・自己評価（マニュアル等指導書）同じ冊子を購入して提出			・指導計画表の記入	・個人記録、指導計画、個人連絡ノートなどの事務的なことがたくさんあり、子どもと関わる時間には記入できない為、保育時間内には、全てのことを記入できない	・色々な保育士と関わらせてもらい勉強になった ・子どもと関わらせてもらう中でやさしい気持ちになれた

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・指導計画 ・運動会準備 ・食育準備	・正規と臨時の職員の比率、臨時職員の比率が高すぎて、失敗を許されない圧迫感を感じる。休暇とりにくい ・新システムに移行後、自分の生活、仕事などの変化がわからず見えないことに不安 ・余裕のない職員配置で、相談などしにくい、時間がない、効率化が求められる	・子どもがかわいい ・子どもの成長を感じる時、保護者から感謝された時 ・上司から評価を聞く時（良い時は嬉しく、悪くても勉強になり「これでいいのか」の不安の解消）		・保育記録、指導計画作成 ・運動会準備	・勤務時間内で事務（指導計画作成）をする時間がなく、持ち帰り仕事が多い。（帰宅後、休日も仕事から解放されない）家庭との両立が難しい ・保育時間が長く、配慮が必要な子も多くなり、体力の限界である。 ・保護者との関係がうまくいかない時など、精神的な負担が大きい	・子どもの笑顔が見られる ・成長を見守ることができること
				・クラスだよりの内容について考える	・正規職員が少なく臨時職員が多くなり、待遇面が大きく違い、人間関係のしんどさを感じる ・保育士の研修、話し合いの時間が十分とれない ・保育所での仕事は、やりがいがあるが体力的にきつく不安がある	・福祉の仕事がしたかったので、人の役に立っていると思うことができる ・様々な人達と知り合い、人間的に成長できた ・子ども達の笑顔や一生懸命な姿を見る事がとても嬉しい	
				・保育記録を作成するのにかけた時間 ・保育教材を作成するのにかけた時間	・コミュニケーションのとりにくい保護者との関わり方 ・保育者の人数としては満たされているが、配慮の必要とする子が多くなる中での保育の難しさ ・代替保育士がなかなか見つからないこと ・事務量が多く、勤務時間内では終わらせられないこと	・子ども達の笑顔をたくさんもらうこと ・中学生、高校生になってからも「先生」と声をかけられたこと	

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・園内だけでなく交流保育としての研修	・行事等時アンケート（保護者） ・苦情箱を設置したり、第三者への相談、通報等も行っている。第三者とは地域の主任児童委員			・保育記録、指導計画の作成	・職場の人間関係	・子どもの笑顔を間近でみれること ・子どもの成長を子どもや親と一緒に喜べること
	公営		・毎月、自己評価表をつける	・長時間労働にならないように！ ・若手、ベテランの起用				
	公営	・一年間テーマで園内研修を行う（子どもに関心を高め参加、協力を広げる）		・島という特殊勤務地のため、島内にいる保育士と島外から出勤する保育士との勤務体制上での配慮が必要 ・少人数のため、年齢ごとのクラスまで異年齢とかかわれるクラスなど工夫しながら保育を進めている				
	民営							
	民営	・ヒヤリハットマップ作成（園内、園外） ・保育手順書の見直し、作成	・自己評価チェックリストを使って自分の保育を見直す。その中で問題点を見つけ、話し合い、アドバイスを受けることにより保育内容を充実させていく	・各年齢を複数担任にしている ・フリーの保育士を置き保育士の休み等に対応 ・毎月1週間時間別登園児数を調べ、子どもの人数に応じて（早朝、延長等）勤務体制をある程度変更している				・大好きな子どもと触れ合えること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・15日の視診簿記録、カリキュラム記入、個別記録 ・保育研修会用のデイリー立案	・書類が多く持ち帰りの仕事がいっぱいある ・週休の休みも、クラス便りの作成などで休みがつぶれてしまう ・正職と臨職、やることはほぼ同じ ・責任もあるのに給与差が大きい	・子どもの成長ぶりが1年間を通してみられること ・いろいろな障害の子と接することで、自分でも知ろうと勉強し、知識として自分のものにできたこと ・子どもと共に自分も成長できたこと		・クラスだより ・記録	・言葉として書けません	・好きな仕事が出来た事 ・子どもとのふれあい ・子どもの成長を見られる事
		・支援の必要な子どもに十分に援助することができない	・子どもの成長をすぐ近くで見守ることができる ・子どもと一緒に自分も成長できる				
	・保育記録メモ、運動会の踊り体形等考える		・子どもの日々の成長や一年を通じての成長が見られた時		・運動会の踊り ・指導計画の作成など	・体力的に自信がない	・子ども達の成長が見られるから
	・保育教材作成						
		・持ち帰りの仕事が多いこと	・子どもに「大好き」と言われたり、保護者から「ありがとう」と言われること ・子どもができなかったことができるようになったりと成長をちかくで見守れること、笑ったり、泣いたりと、毎日同じ日はなくとても楽しいこと			・腰痛、肩こりがひどく、肉体的負担が大きい ・持ち帰りの仕事が多い	・子どもの成長を保護者と一緒に喜び合えること ・毎日子どもの言葉や笑顔に励まされること ・卒園児が何年たっても「先生」と声をかけてくれること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・チェックリスト表にともない行う	・保育の体制については、どの先生にも各クラスの個々の情報も含め、流れについても話し合いをもち、わかるようにしています			・給料が安い	・子どもが可愛い、その成長に関わることができる ・色々な先生をみて勉強になる ・やりがいがある
	公営		・目標管理シートの利用 ・考課の面談	・できるだけ子どもにしわ寄せがいかないように工夫している		・保育案を考える	・技術のなさ ・腰痛 ・保護者との信頼関係づくり	・子どもの成長を間近に感じることができる ・卒園した子ども達に会うと、いつまでも成長を感じて喜べる ・保護者の方にお礼を言われると嬉しい
	公営		・年に1回（自由記述）			・運動会の放送メモを考える		・子どもと毎日関われること
	民営	・絵画教室	・評価表を使っている（チェックリスト）	・コミュニケーションの持ち方 ・平等と均一になるように（勤務体制、研修等）心がけている ・明るく笑顔でいられるように　等			・保護者との関わり方	・子ども達の笑顔が見れること ・子ども達が「先生大好き！」と言ってくれたこと ・子ども達の成長した姿が見られる
	民営	・保護者と共に食育等の研修会をもつ	・日案から年間の計画・反省まで自己評価を含めたもののをたてている、又、職員会でも評価につながった保育内容やとりくみを話し合う	・クラスの担当だけでなく、全体一人ひとりの子どもを把握し保育を行うように配慮している ・複雑な事務にならないように週1回の早出、2週に1回の退出勤務（体制）をとっている				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・家庭との両立	・子どもの成長に携わり、関われること ・子どもの笑顔		・保育日誌の見直し	・仕事とプライベートの線引があるようでないところ ・持ち帰りの仕事が多いこと	・子どもと関わることでパワーをもらえること ・子どもの成長に携われた喜びを感じること ・自分自身の成長につながっていること
		・早出、延長、職員会等、我が子の保育園が開いていない時間に仕事があり、祖父母の援助がないと仕事ができない	・職場での悩み、家庭での悩みがあった時、子どもに癒されたり、聞いてくれる職場の保育士が居る		・クラス便りの作成	・時差勤務、研修などが多く、家庭での時間が少ない ・諸外国に比べ、子どもの持ち人数が多すぎ、現代の困難を抱えた子どもをケアする為には、人手が足りなすぎる	・仕事にやりがいがある。楽しい ・子ども(未来)を育てられる喜びが感じられる ・毎日が楽しい
	・運動会で使用するＣＤの確認	・弾き歌いが苦手	・一人ひとりの成長を間近で見ることができる ・毎日人と関わることができる				
・運動会総練習の準備	・お面作り	・自分の指導力の無さを感じます… ・紫外線をすごくあびる仕事 ・子どものケガ等といつも隣合わせ	・子ども達の成長を側で感じ、その援助ができることが嬉しく思う ・良い職場にめぐり会え、良い環境の中で保育できること ・子どもの笑顔や甘えにいやされ、元気がもらえる			・今のところ困ったことはない、強いていえば体力	・子どものなんともいえない笑顔
		・にぎやかなクラスで、どうしたら静かになるか分からないこと	・子どもや親と信頼関係を築けること ・子どもの成長を見れること ・自分が親になっても困らないような関わりができること				・子ども達の成長を近くで見られること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・職場内同和研修 ・給食内容検討		・年始年末（31日～1・2・3日）を除き、日祝日も保育を行っていく中で、勤務シフトに穴をあけないよう、一人ひとりが自覚をし連携をしっかりとりながら、日々保育を行っている ・休日保育は他園に通う児童、保護者も利用をするので、ささいなことでも連絡を取り合い、決められた事は全員が同じように行う。工夫すべき点が生じた時は、全員一致でスタートするなどなど ・23年度より、大規模園(200名収容)となり、休日・園長2時間の特別保育事業をはじめたばかり、日々緊張の連続で工夫する点などこれから…だと思う	・保育準備	・クラスだより作成		・大変なこともあるけど、日々充実していると感じられる
	公営	・障がい児担当者研修	・毎日全職員が提出し3月に総括し一人ずつ発表してもらっている	・早出と遅出の数を一致させている ・出勤時間や出勤表に応じて各担当割り振りをしている			・親自身が子どもの事をきちんとみてくれていないこと	・子どもの成長を感じ、とても勉強になる ・子どもと一緒に過ごせて楽しい ・自分自身の成長にもつながっていると思う
	民営	・年度毎に各年齢ごとの指導計画の見直し	・年間の課題と毎月の自己評価をして提出（個人自己評価） ・年に一度、園の自己評価を園だよりにして公表	・登所、降所の子どもの人数に合わせローテーション勤務を行っている		・運動会で使うものの作成 ・保育記録を作成	・書類が多いこと ・作りものが多いこと ・自分の時間がないこと	・大好きな子どもと一緒にいられること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・保護者から過度の要望がある時、どのように対応するか困る時があります ・公立保育所が国の方針で減らされている為、民間保育所ではじき出されてしまったお子様・保護者などのフォローする公的な機関が減り、日々日常の中で子育て支援ができなくなりつつある事	・子どもの成長・発達を保護者や同僚と共に喜び合うことができる事 ・仕事（保育）内容を自分で考え、取り組みができる事
		・自分の不得意分野を指導すること	・子どもたちから元気をもらえる ・子どもの成長を喜ぶことができる ・毎日が単調ではなくメリハリがある			・保護者や経験の浅い保育士に上手にアドバイスができない	・子どもたちの顔を見ると元気になれる ・自分が頑張った分、子ども達から返ってくる分も多い ・頑張ろうという気持ちになれる
	・子どもの記録の下書き ・明日の保育の準備	・仕事内容はきついが、それに合った給与がもらえない、少なすぎる	・子どもの成長を見れる ・子育てについて勉強ができる		・運動会の準備等	・時間外（家での持ち帰りの仕事）でることが多い ・有休がとりにくい（園行事とかさなっている場合）	・子どもの成長の見届けが出来、また自分も成長できるところ

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・地域学習会（部落問題学習） ・同和教育研究会研修	・毎月の職員会の中、学年打ち合わせ会 ・年２回のまとめの会等	・早出は早々出7:00は、事前申し出とし保護者のニーズに答えています				
	民営	・当園で行っている教育方法の研修					・文章 ・伝え方（保護者や保育士との）	・子どもの成長を間近で見れること ・行事の大変さを乗り越えた時の子ども達の表情
	民営	・わらべうたあそびや手作りおもちゃを若手保育士に伝える	・各自に任せている状況なので、今後は園として取り組まなければならないと考えているけど、どのような方法が取りかかり易いのか、わからないでいるのが現状です	・行事前など準備が忙しい時には、１人担任のクラスに複数担任のクラスから、係を決めて手伝っています ・春は朝の受入れに職員の手を取られ、半年以降は延長保育利用者が増えたりするので、困った時には、その都度勤務体制を検討し、ローテーションを見直しています			・正職になれない ・給料面	・子ども達と一緒に成長できる、楽しい ・やりがいがある ・将来(子育て)の勉強になる
	民営		・保育、給食、管理部にわけ、自己評価を行う	・勤務体制：年変形労働時間制に依り、職員の勤務効率化を図る ・保育体制：子どもの成長過程への援助を重点的に考え年齢別保育を実施、異年齢児ふれあいの桟も大切に生かす日を週に１日に設定している。		・運度会の練習の準備 ・運動会の準備	・人間関係（男性保育士として） ・園の方向性 ・行事関係の記録と情報	・子ども達の笑顔が見られること ・子ども達が親しみをもって接してくれること ・行事をやり終えた後の達成感を味わえること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・ノートを書く時キレイな字でかけない ・給料が少ない	・沢山の事を学べた ・子どもに沢山元気をもらえる ・自分の成長				・年を増すと身体的体力的に支障がきている
	・障がい児個別指導計画表 ・運動会練習計画表（並び順、指導計画） ・共通理解の必要事項（障がい児・行事）	・保護者への対応 ・障がい児や障がい傾向が強いて感じる子どもへの対応 ・総合保育について障がい児と健常児との活動や制限などや周囲への理解・配慮などのバランス	・子どもの発達や成長、内面の思いを知ることができた ・相手を受け入れる気持ちが持てた、人として大切な事を学べた ・世の中の曖昧で分かりにくい表現(「ちゃんと」「きちんと」など）子どもは「できない」ではなく「やり方を知らない存在だ」と分かった			・保護者との関わり方 ・経験年数に対してのプッレッシャー	・子どもの成長としっかり見る事が出来る ・子どもとしっかり向き合える
		・気になる（落ち着かない）子どもへの対応 ・保護者とのやりとり	・子どもと接することができる ・成長を見る事ができる ・色々な保育を見る(知る)事ができる			・落着きのない子が多く、なかなかおさまらないこと、自分の力のなさに反省することもあります ・子ども同士のかかわりが攻撃的なこと	・子どもから学ぶことがあることに気付いたこと ・子どものあり方を見て、世の中の動きがわかること ・沢山の子どもと接することができること
			・子どもと関わりながら感動や喜びを得られること ・病気などの知識が身につく ・子どもと一緒に自分も成長できること		・誕生会に関する用意	・休憩時間がとれないこと ・病院によって登園基準が違うこと	・「できる」という喜びを経験させることができること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・アンケート	・非常勤はシフト制にしない		・研修報告書作成 ・職員会議準備		・子どもの成長を見守れること ・保護者や先輩保育士などの目上の方のコミュニケーションをとることが少しずつ身に付いてきた ・実際にクラスに入ることにより、子どもの発達段階をしることができた
	民営	・第三者評価について	・23年度北九州の第三者評価事業に参加	・早朝7:00～と延長保育17:00～の勤務は、パート職員で対応している		・運動会の作りもの	・持ち帰り仕事	・自分自身の成長 ・子どもの成長を日々見る事ができる ・子ども達と一緒に取り組むことができる事の楽しさ
	民営	・研修会報告 ・行事改善研修	・クラス単位	・ローテーション勤務潤滑の為、変形労働による、年間33日の休みのもと、9時間拘束、8時間実働としている。				・子どもの成長が見られること ・自分自身の成長
	民営	・研修参加報告	・カリキュラムの反省の中での自己評価	・労基法週40時間以内対応で7：00～7：30及び18：00～19：00は、時間外対応をしている	・保育園の駐車場、職員駐車場の除草作業		・細かい行事記録がないので、見通しを持って準備が出来なかったり、見落としが多い ・職員の人数がギリギリな為、降園ラッシュと重なると、退勤時間になっても帰れない	・子どもが好きなので笑顔が見られたり、関わっている時、又、子どもの頑張る姿や成長を感じられた時 ・職場の先生方と出会えて、ご指導をして頂いたり、共感し合える時 ・自分がした事や作った物に対して、感謝や褒めの言葉を頂けた事

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	ピアノ	・保護者との対応 ・運動会、遊戯の曲決め	・一人ひとりの成長・発達 ・子どもと関わり笑顔で過ごせるようになった時 ・行事にむけて頑張り、成功した時			・保育中、保育時間でけではできない書類がある	・子どもの成長、発達段階を知れたこと ・子どもの目線になって考えられるようになったこと ・家庭背景など、１つの面だけでなく様々な面に配慮して対応できるようになったこと
	・保育記録	・勤務時間内に保育記録を書く時間がほとんどない	・仕事にやりがいがある ・子どもたちの成長が見れる		・踊りを考える（場所など）	・保護者の対応 ・書類の多さ（家庭との両立の大変さ） ・声の出し過ぎか、あまり出なくなった	・子どもたちと共に過ごせる事 ・一緒に目標をもってやりとげる、やりがいのある仕事 ・０～６歳までなので、一人担任、複数担任経験できる事
・食事（昼食）		・リーダーとしてのクラス運営 ・上司の人間関係 ・保護者との人間関係	・沢山の子ども達、保護者、先生方との出会い ・保育に対する専門的知識が増えた事 ・季節を感じながらの保育			・保護者への対応（の難しさ） ・人間関係	・子どもの成長を間近でいる事ができる ・頑張って指導した分、子どもから返ってくる ・子どもから元気をもらったり、教えてもらうこともある
		・保育士として自分の今後の成長についてどうあるべきかどうか ・子どもたちと関わる中で満足した保育ができているか ・子どもとの関わりでは、一人ひとり様々で対応や伝え方が難しいなと感じる時がある	・子どもたちの笑顔や成長した姿（思いやる気持ちやできるようになったことなど）が見られること ・子どもたちと一日一日を一緒に過ごせること ・クラスを持って、一つのことをやり遂げたとき			・一人ひとりの子どもとじっくり関われない ・提出物や行事等に追われている ・園と保護者には悩まされている	・子ども達の成長を感じられること ・保護者と喜び等を共有出来るとこ ・子どもの言葉等に癒されること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・年間、月間、週間保育計画書に基づき、自己評価を行う	・他クラスもフリーも全職員が揃うまでは協力して全クラスをフォローすること		・週案 ・個別計画書（8人分） ・製作	・上司との人間関係 ・自分の意見（若い保育士の）聞いてもらえない ・園長が何も言えない	・子どもと関われること
	民営	・自己評価等の検討	・保育士等の自己評価→保育園の自己評価→園内研修			・教材研修や製作物の準備等	・子どもを預かる仕事なので休みが取りずらく、職員もギリギリで交代がないこと ・集団行動に入れない子、家庭環境に問題がある子、いわゆる「気になる子」が増えて、集団のまとまりを作るのに以前よりも苦労するようになった	・沢山の子どもと触れ合うことができ、成長を感じる事が出来る ・自分のやりたかった夢を実現することが出来た ・子どもと触れ合う事で、自分自身も元気をもらう事が出来る
	民営		・毎月の園内研修の折、行事などの打ち合わせを含め、平常の園内、クラス等の様子を含め各保育士の自己評価の確認	・一人ひとりの子どもが元気で思いやりのある優しい子に育つ様に職員の人数がバランスよくどの勤務時間に確保する				・子どもと一緒に過ごせること ・子どもの笑顔が見れること ・保育士同士の協力を感じられること
	民営		・書面					・子どもの笑顔と毎日の生活の中での成長や発見を喜べる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・指導計画案 ・個別計画書	・保護者との対応(一部の方) ・新人保育士への指導や対応	・大好きな子ども達と毎日過ごせる事 ・自分の子育てに役に立つ所 ・目標を持って、仕事が出来る所				
		・人間関係のややこしさ、特に未満児クラスの年配の先生方…悪い所ばかり見つける ・夏、ものすごい日射しの中、半袖しか着れないこと（園の方針）日射しが痛く、肌荒れ、乾燥	・子ども達の笑顔、素直さや、純粋な心に触れていられること ・子どもからそして職場の人間関係、尊敬できる先生方から学び、人間的に成長できること、日々勉強です ・生きる命や健康、笑顔の大切さに気付けたこと			・気になる子に関わっている時の他児への関わり方	・人と人とのつながり
	・制作物の準備	・保護者との関わり、対応の仕方	・子どもの成長を感じたとき ・保護者より感謝の言葉を頂いたとき		・園だより、クラスだよりの資料検討と下書き		・子どもとの関わりの中で、子育てのすばらしさや楽しさを毎日感じていられたこと ・職場の先生方と協力し合い、共に心を合わせて仕事をしてこれたこと ・地域の方々や保護者の方々と仕事を通して知り合い、保育を通して地域への貢献ができたこと

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	宗教法人	・研修出席の報告		・保育内容の共通理解 ・行事の精選				
	民営		・その日の終礼でコメントを発表しながら、自己の振り返りを行い、周囲はそれを受け入れる	・少人数グループでの保育活動、習熟度別活動によって、個人の意思を尊重します ・フルタイムの非正規職員が固定の勤務時間帯に居るので、正規はその前後を補います			・保護者への対応 ・子どもたちとの接し方をどうしたらいいかわからなくなるときがある	・様々な年齢の子どもたちと接することができること ・社会のルールを学べた
	民営	・守るべき倫理 ・法令順守に関する研修 ・食中毒予防及び感染症対策 ・非常災害時の訓練、防災に関する研修 ・個人情報 ・リスク管理 ・人権尊重				・製作の準備		
	民営	・親子交流会(クッキング、食育について)	・それぞれ、日誌など評価をしている					・大変な仕事だけど、毎日子どもと関わり癒しがあること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・ピアノ練習	・保護者から見た自分は何か不安 ・組んでる職員との関わり方	・子どもの成長 ・他人(保護者)の対応で学ぶ言葉遣いや伝達方法 ・楽しい、充実している			・保護者との対応	・子ども達と一緒に過ごし、元気をもらう ・いやされる ・人間として少しは成長できたかなと思う
	・製作関係	・保護者との関わり、言葉の難しさを感じる	・子どものたちの成長を近くでみれること ・何事にも一緒に取り組んで達成したとき、一緒に喜び合える時		・翌日の運動会に向けての自分の役割の最終確認、まとめ	・常に全ての子どもを把握するということができないため、自分が実際にみていない子ども間のトラブルで本人たちの話に食い違いがあった時の対応が難しい ・行事前には準備等で時間に追われることが多く、十分な保育ができないと思うことがある	・明日出来なかった事が、今日できるようになったりなど成長を近くでみることができる ・様々な保護者の方や研修会などで自分と同じくらいの職歴の方と知り合うことで、人脈が広がったし、いろんな体験・失敗談を聞いて自分に活かせたりすることができた
		・自分の子どもの行事や体調の悪い時に休みがとれない	・大好きな子ども達に囲まれ、創立者の理念を基に信頼できる施設長、同僚と保育できること ・自分だけで保育しているのではなく、たくさんの人に支えられていること、団結力 ・毎日子どもと一緒に過ごし、子どもの活動や仕草のかわいさを間近でみていけること			・他の子と自分の子を比べてしまうことがある	・子どもの成長が見れること ・子育てする中で役だったこと

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・園全体の保育内容や運営や管理はチェックリストを使って全員で見当する、その後各自の保育についての反省をまとめ検討し合う	・担任については、子育て中の人の負担も考え、個人の持ちたいクラスを持てるように配慮する（昨年、産休２名、現在育休１名の現状です） ・無駄に保育に時間を費やさないように、効率よく仕事する（残業しない） ・早出、遅出については、チームワークを考えて、ペアを組む（経験や子ども有るか等）			・体力的な負担	・子どもの発達段階がよく分かる ・子どもの成長に喜びを感じることができる
	公営		・現在はきちんとした形でやっていない為、来月よりチェック表を作成し、自己評価の提出を求めるようにした	・園外保育を行う場合職員３名がつく ・休日出勤の場合、代休優先を心掛ける		・保育日誌	・保護者との対応の難しさ（支援にことに関しても）	・一緒に子どもたちと笑える ・季節を肌で感じれること ・子どもの成長を保護者と一緒に喜べること
	公営					・保育日誌	・一人担任で不安な事が多いがなかなか相談できず悩む事が多い…	・毎日子どもたちと一緒にいることができる ・母親になった時のための勉強になる ・子どもにパワーをもらえる
	公営	・月案 ・食育研修	・町の人事評価	・保育士の経験年数で人事配置をしている ・保護者の要望等により、勤務体制の工夫をしている				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・運動会の打ち合わせ（系列の園と合同で行う為）	・保護者との信頼関係作り ・肉体的な疲労	・子どもたちの成長を日々感じることができる			・仕事中心の生活になり、過程での仕事が手抜きになってしまう ・腰痛や肩こりなどの肉体的に衰えてきている	・子どもと過ごせる楽しい時間が味わえる ・子どもの成長していく姿が見られる ・保護者や地域の方々とのつながりができる
		・子育て＝親育てがなかなか難しいと思っている ・遊ぶ環境（散歩コース、遊歩道の整備など）が壊れてしまっている	・私的に色々あっても楽しく仕事ができる事 ・まだまだですが、子どもたちと触れ合う中で私自身もいくらか成長させてもらったこと			・人と人とのコミュニケーションの取り方、繋がり方の方法を見つけ出せない時	・子どもたちの成長を保護者と一緒に感じられること ・子ども達から頼りにされた時、見守ってあげたいと強く感じる
			・職場の方との出会い（いろいろ相談したり、話をすることができる）			・体力的にきついことが多くなってきた	・子どもたちとの触れ合い
						・子どもと接する時間が少なくなってしまう位、事務的仕事が増えた ・昨年と今年の保育の方法が異なって、戸惑いを多く感じる	・「先生、おもしろい～」「だいすき」と子どもたちが言ってくれるとき ・みんなで１つのことを頑張ってやり遂げたとき

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・自己チェックリストによる自己評価				・保護者とのコミュニケーションが難しい	
	学校法人			・まだ始まったばかりで、幼、保1本化のため、勤務体制に難しさを感じています ・保育は、幼、保どちらの免許を持った保育士、教諭でクラスを見ていますので、学園としての独自の勤務体制になれば…と思っているところです		・運動会のメダル作り	・休憩時間がない ・仕事内容と時間が合ってない（時間が足りない） ・子どもの人数に対して保育士の数が合っていない	・子どもの成長が見られる ・行事ごとの達成感 ・楽しい
	民営	・伝達講習		・３交代の時差出勤表を毎月作成しているので安心		・おたより等作成	・久しぶりのクラス担当で戸惑うことが多いです	・大好きな子ども達と一緒に過ごせてとても嬉しいです ・子どもの成長を間近でみれること、又、その喜びを保護者の方と一緒に喜ぶことが出来る時 ・子ども達からたくさんの元気と勇気をもらうこと
	公営						・仕事量が多く、ハードな仕事の割りに給料が安い ・遠くから通勤しているが、通勤手当が少ししかない事 ・持ち帰りの仕事が多い事	・子どもが大好きなので、関われる事が嬉しい ・子どもの成長を間近で見れる事 ・かわいい子どもの笑顔や寝顔にいやされる事
	公営		・毎月、A.B.Cの記入で書く項目に各自評価する	・勤務表作成前に各自の希望（休､年休）を記入している				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・発達障害児に対しての保護者の理解 ・人間関係（時に新任保育士）	・保育士はとても大変な職ですが、子どもの笑顔に救われる				
						・他の保育士（パート）と意見が合わない時の、協力、流れない時が難しい	
	・次の日の準備、当日の日誌確認、作品作り	・体力的にがんばりがきかなくなってきています、他の方に御迷惑をかけています	・毎日、子ども達の顔を見て、一人ひとりの成長を身近に、見守っていけることが生きがいを感じます				
					・指導計画の作成		
	・子どもを迎える準備 ・発表会について ・運動会について	・来年の雇用の保障がない ・正規職員になれない ・正規職員が少ない	・子どもの成長が見れる ・素敵な保育士と出逢えた ・子どもの笑顔が見れる			・職員30人に対して、正規職員が3人と極端に少ない	・子どもの成長に喜びを感じることができる ・子どもに元気をもらえる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・園の環境について	・チェックリスト（年２回） ・記述式（年度末１回）			・個人記録 ・運動会に関する便りの作成	・仕事が勤務時間内では終わらないこと ・保護者とのコミュニケーション ・休暇が取りづらいこと	・子どもと過ごす時間が楽しい ・子どもの成長を感じることができる ・子どもが自分の保育内容を楽しんでいること
	民営					・書類作成	・経験のなさ ・保護者への対応	・毎日の子ども達との関わり
	民営					・運動会の準備	・障害児に対する保育のあり方 ・行事等に追われて子どもたち一人ひとりの関わり合いの充実	・子どもの成長を間近で見ることができる ・子どもの笑顔に元気をもらうことができる
	民営	・リトミック指導員によるリズム遊 ・山田山荘Ｐによる木工指導		・コーナー保育、すわんこ太鼓指導、リトミック指導：時差で保育してい ・時短を作り、延長した分子どもの人数によって早割をするよう出勤予定表を作成している		・園庭掃除	・書類が多い	・子どもの成長が感じられ、子ども達の笑顔を見ることができる
	民営	・体操教室午前実技、午後勉強会 ・音体研修、茶道教室	・子どもたちが安心して過ごせるよう職員の配置をしっかり固めるよう努めている ・職員の休み(時休等）の希望等できるだけ配慮し、気持ちよく職務につけるよう考慮している ・職員間の意見交換をし、常に保育を見直しを行っている				・自分が行っている保育の仕方、子どもへの関わりがこれでいいのか不安	・子どもの成長、発達する姿を見れること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・行事に追われてしまい、ゆとりを持てないことがある ・うまくコミュニケーションをとれない保護者がいる	・子どもたちの成長をみていけるところ ・毎日子どもたちといることが楽しい ・行事などを終えると達成感を感じる		・個別記録を書く	・保護者への対応	・子どもたちの成長を感じる時 ・出来なかった事を教え出来た ・卒園児が園に遊びに来た時
	・運動会について ・おたより作り	・他の専門機関との連携について	・子どもの成長が楽しい ・子どもと触れ合えることに喜びを感じる				
		・子どものこと、保護者のこと、行事のことなど考える事が多く、家に帰っても気が休まることがあまりない ・持ち帰りの仕事が多い	・大好きな子ども達とふれあえること ・たくさんの人と出会えること			・難しい保護者との対応 ・上司と現場との感覚の違い（行政が求めるものに対し現場では対応できないことも多い） ・難しい児童との関わり	・子どもの成長を見守ることができる
			・日々成長していく子ども達の姿がみられること ・子ども達の笑顔を毎日みられ癒されること			・子どもにゆっくりと関わりたいが為、事務的な仕事も多く、残って片づける時が出てきてしまう	・自分自身も季節を感じながら1年間を過ごすことができる ・子どもたちの成長を一番近くで見守ることができ、それに関わることができる ・苦しい事もあるが何年経っても成長していける仕事
			・子どもの日々の成長が見られること ・子どもの笑顔がみられること				・毎日の保育、行事を通して子どもの成長していく姿、やりとげた事の達成感がみられたとき ・いつまでも忘れず出合った時には、声をかけてくれる ・出来あがった時の喜びと充実感がもてる

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・職員会議の時に話し合います （議題を持ち寄って）		・勤務体制→シフトにフリー（常時保育士）①②を設け、フリーは常に動ける様に体制を取っている				
	民営	・英語で遊ぼう、講師	・職員会議などに於いて発表	・縦割保育の実施 ・環境保育			・子どもの成長がみえた時	
	民営		・自己チェックリスト	・少子化で非常勤務保育士が多いのですが、子ども達とのかかわりが豊かになっている			・４歳、５歳児合同クラスで人数的には問題ないが、１人で見なければならないので製作や活動の時、年齢を考えながらの指導が難しい	・子どもの成長が感じられる
	公営		・行政から人事考課があるので自己評価はそれでしている（年１回）	・早出をした人は早く帰れるようにしているが、ほとんど帰らない。又、遅残りをする人は遅出をするようにしているが、ほとんど遅く出てくる職員はおらず、ボランティア精神でいる				
	公営	・食育及び土づくり	・４月に自分で目標を立て、皆の前で発表、９月３月に振り返り評価する ・自己評価シート				・保育や研修の記録が難しい ・経験の乏しさ	・可愛い子供達と接していると毎日が楽しい ・個々の子供達の成長がみれる ・やりがいのある仕事

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・リーダーと考え方（保育内容）が違う時 ・保護者との対応	・大好きな子ども達と交わる事ができるから				
		・自分の思いが伝えられない事がある（他の保育士に対して）	・子どもと過ごす中で日々の成長をみられると ・安定した収入があるこ ・自分も母親なので子育てに役立つこと		・テーマあそびの準備		・子どもたちと日々の生活の中で共感し合い、共に育ちあえること
					・運動会の作り物	・自分自身の力量のなさに自信をなくす ・非常勤、パートが増え、保育に対してい方向性にずれがある ・人間関係がうまくいかない	・子ども達とふれあえることで元気をもらえる ・一人ひとりの発達・成長を保護者と共に喜びあえる ・こんな自分にでも頼ってくれる子がいる
	・月間計画の作成 ・おもちゃ作り	・持ち帰りの仕事がある時は休日も仕事をし、家事があまりできないこと	・子どもたちと過ごす時間がとても楽しいこと ・子どもたちが楽しいこと		・クラス月間指導計画の反省 ・個人月間指導計画の反省 ・行事予定表用の製作物、作成	・年をとってきて若い時ほど子どもと走り回れなくなった事 ・子どもの事について色々アドバイスをするが親になかなか伝わらない事	・毎日子ども達と楽しく過ごせる事 ・子どもにしたわれる事 ・子どもの成長を感じられる事
		・保護者との接し方 ・支援が必要な子どもへの対応 ・人間関係	・「先生が担任でよかった」と保護者よりお礼を言われた時 ・自分の子どもをもった時ある程度の知識があるので余裕がある		・運動会に向けての計画・構想		・自分の子どもに対しても様々な学びがある

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・出張報告という形式で研修参加者より話を聞き、質問したりする ・保育指針の読み合わせ	・自己評価について記述した本を参考にして、それぞれ評価を行う	・非常勤(30ｈ)の保育士が担任しているクラスは２人が(２人体制なので)同時に休まないように２人のうちどちらかが必ず出勤し、前後の保育のつながりがあるようにしている				
	公営	・園内ではないが、市の保育士会、園長会各担当者が参加する						
	公営	・小学校や地域との交流 ・園内研修又は個人研修をする	・地域（小学校や地域の人々）との交流があるので参加できるようにしている	・地域との交流を大切にしている ・一人ひとりの子どもを見つめて、その子にあった支援をしている ・お互い休む時は、交代したり仕事に支障がないようにしている			・保護者とのコミュニケーション、やりとり子どもの様子の伝え方	・子どもの成長を保護者と共に喜び、共感できる
	公営			・時差出勤をし、できるだけ園児の把握を十分にできるようにしている				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
					・クラスだより ・カリキュラム作成 ・状況報告書	・非常勤職員数が多く、正職が少ないので、カリキュラム作成や状況報告書など一人ですることが多い	・子ども一人ひとりの成長を見る事ができる ・大きくなった卒園児から会った時に声をかけてもらえる ・いつまでも気持ちが若くいられる
					・週の活動内容の作成	・周りの子（自分の子どもの同級生など）を色々チェックしてみてしまう	・毎日が元気に楽しく過ごせている ・卒園した子どもの成長が見られ嬉しい ・色々な人の色々な考えを聞いて自分も成長していける
						・保護者への伝え方と対応	・子どもの成長を共に喜び合える ・日々の保育をする中で、成長させてくれる ・保護者からの感謝の言葉とか、おほめの言葉
		・保護者との関わりの難しさ	・子ども達の成長する姿を間近で見られること				・親に信頼されていること ・子ども達の笑顔

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営	・出張研修の復命 ・安全マニュアルの検討						・とても働きやすい職場で人間関係にも恵まれている
	民営		・保育参観や行事等で保護者の評価を受けたり個人記録を書くように	・登園、降園児の人数に配慮し保育士の数も確保 ・未満児、以上児の保育士のバランス ・勤務の早遅番の平等性			・職員間での人間関係 ・保護者との人間関係	・子ども達の笑顔が見れること ・一人ひとりの成長を見て、感じられる喜び ・保護者からの感謝の言葉をもらったこと
	民営	・実践記録（場面記録）検討会	・年2回、色々な項目に対しての自己評価(20ページほどあるもの)又、日誌等では、反省、評価を実施している	・職員が働きやすい職場作りを一番に考えている、遅番以外での残業をなくしたり、有休をなるべく消化できるよう工夫している			・声を出し過ぎて、喉が痛くなることがある	・子どもの成長を身近で感じる事が出来る ・子ども達に与えるだけではなく、子どもたちから学ぶ事がたくさんある ・自分自身も日々成長
	民営		・ケース会議や自己チェック表利用	・(保育士) 人材不足時には、派遣会社等に委託			・保護者とのコミュニケーションと取ることの難しさ	・子どもの成長を共に喜べる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
				・道具・遊具の修理、職員歓迎会の段取り	・運動会招待状の宛名書き、郵便番号調べ ・誕生会プレゼントに貼る写真のチェック ・ウォークラリー（行事）の下調べと立案 ・中学生保育体験、評価用紙に記入（中学校からの依頼） ・保育教材CD、遊び、歌詞調べと編集、コピー	・家族や友人との時間が少なく、迷惑や心配までかけている ・これでいいのか、といつも先の事、後の事、今の事の悩みが尽きない ・心身の病気になる人が増えてきて、自分は多少つらい時も踏ん張らねばと気が張る	・仕事内容は多岐に渡っているので、畑仕事、パソコン、医療関係等、幅広い知識が得られること ・忙しいので仕事が早くできるようになり、見通しをもって複数のことを同時進行でできるようになった ・人の心の機微に気付き、少しでも役立とうと思ったり、出来ない事は素直に甘え、感謝できるようになった
							・子ども達と共に過ごしていることによって、子ども達から成長をさせて頂いている
	・保育教材の作成		・大好きな子どもたちと一緒に過ごせること ・子どもの成長を感じられること ・子どもや他の保育士と行事に向かって一緒に頑張り、行事後の達成感を感じられること		・保育日誌	・後輩指導、同僚との人間関係 ・責任と経験年数に見合った、保育士のプロ意識を高く持つために自分に厳しく努力し続ける事 ・責任の重圧を乗り越えてやり抜く、精神的強さを持ち合わせる事	・やりがいのある仕事をしているという存在意義 ・人とのつながり ・子どもの成長の喜びを共感し合い、何かをやり遂げた時の達成感と満足感を十分味わえる
					・保育記録の作成 ・運動会準備物の作成	・勤務時間が長い（早朝、居残り保育の子供の数が多くて帰りにくい）	・子育ての仕方、病気等の度合いがわかるようになった

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営			・クラスだけあるいは未満児、以上児のみとならない様、全クラスと触れ合いが出来るようローテーションを組む		・月刊指導案		
	民営		・園独自の自己評価表を作成し、年４回チェック				・保護者の方との関わり方 ・子どもの気持ちを受け止め、適切な対応をすること（対応の仕方があっているのかわからないことがある）	・毎日変化があって楽しいこと ・子どもの成長が見られること ・保育を通して自分自身も成長できること
	民営		・チェックリスト及び反省	・持ち帰りの製作があまりないようにさせている ・帰宅時間が遅くなる時は声をかけている			・時間に追われ、声かけや対応ができない	・子どもの成長が見られた時 ・子どもが楽しんでいる姿を見た時
	民営	・研修会復命報告会	・保育日誌を記載する際に、自己評価をし日誌に記録する		・ピアノの練習	・誕生月の子どもへのメッセージ書き	・職場での人間関係 ・ピアノ ・将来性	・多くの子どもと関われること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・年々、外部からの行事なども増え、慌ただしく、生活にゆとりがなかなか持てない ・対応が難しい保護者も毎年いるので精神的にきつい時がある ・一年終わるとまた新しい子どもたちや保護者とも関係づくりをしなければならず新年度は本当にきついし、不安	・保育の中では喜怒哀楽が子どもと一緒に出せる ・子どもから笑いをたくさんもらっている ・子どもの成長を身近で見ることで感動が味わえる			・休みが欲しい時に他の保育士の出張と重なって休みが取れないこと	
			・自分が一生懸命した分、子ども達から返ってくるものが大きい ・仕事内容は決して楽ではないが、自分がしてきた保育で子ども達の成長が見えたとき ・将来、自分の家庭が出来る時に様々な経験が役に立ちそう			・保育士としての目線と母親としての目線があり我が子の子育てに悩むことがある	・子どもの成長を共に喜びあえる ・笑顔が増えた、心がおおらかになった部分がある
	・日誌、その他の書類	・行事に追われて自分にゆとりがない ・休みの日や家に帰ってからも、次の日のこと、保育、行事のことを考えなくてはいけないこと	・たくさんの子どもに出会えたこと、一緒に過ごせること ・子ども達からスキなどと言われたりすること		・環境設定（所持品始末用の机出し） ・月案、クラスだより書き	・定時に帰れないこと ・持ち帰り仕事が多いこと ・支援の勉強等したが、日々の保育に追われて十分出来ていないこと	・子どもの成長に携わることができる、喜びを感じることができること ・色んな性格の子を見ているので、我が子の子育てで困ることがない（今のところ）
						・保育士間の連携の難しさ	・子どもの成長を見られること

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営							
	民営		・YMCAより年一回自己評価	・0、1歳児のクラスには子育て経験者を担当にしたりしている ・勤務体制は個々の家庭の都合等も考慮し交代勤務をしている				
	民営					・保育教材を作成	・発達に課題のある子どものが多い中、自己の専門性や経験や保育の質に限りを感じてとても残念に思っているが、それに対する専門的な学びを受けられる時間が少ないので、とても残念に思う	・一人ひとりの子どもの育ちを専門的に見ていく中で小さな成長を保護者と共に喜び合えた事 ・子ども一人ひとりの課題に向き合おうとする時、専門的な学びを新たに取り入れる事ができます ・子ども達から、優しい気持ち、無条件の心で人と接することの大切を学べる事

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・給与が少ない ・残業代が出ない（行事前などの忙しい時も…）、帰ってからの書類 ・少子化(地方)	・子どもの成長が見れ、それを関わることができる嬉しさ ・自分の夢が叶った			・保護者との関わり方	・子ども達との日々の生活の中で、ふとした気付きを共に喜び合える事 ・成長を実感できる事
		・やりたいことはあるが、うまく時間を使えず進まない。そのため「これをしたら？」という他の人の案にのってしまいがちである ・保護者がよく「ほら、○○先生に怒られるから、しなさい」ということ	・子どもと一緒に笑って過ごすことができる ・全くできなかったことができるようになった姿をみることができる ・「待ってくれてありがとう」と言われた時			・子ども達が病気で受診をし、特に伝染性の病気が疑われる時に病院側が「園と相談して下さい」と言われる事 ・職員間での連絡がうまくまわらなかったりする事	・子ども達と接する中で感じた事や成長を身近にでき共に喜べた時 ・様々な人に出会え、たくさんの事に触れ、自分が成長する期間が与えられる事
	・壁面装飾	・保護者との信頼関係を築くのが難しい(保護者間の見えないメールなどでのやりとりに恐怖感を感じることもある) ・個別での対応を必要とする子どもがクラスに増え、クラス運営が難しい（一つのことを皆で一緒にすることが難しい)	・毎日、子ども達の成長する姿をみることができること ・困りでもあるが、子どもを通して、保護者、子どもたちとの信頼関係ができること		・クラス便りの作成 ・指導計画の作成	・休暇や休憩時間が思うようにとれないこと	・子ども達の成長をみる時 ・子ども達の笑顔や目の輝きに接する時 ・保育士に親しみを持って子ども達が寄り添ってくる時

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・各行事毎にレポート提出	・保育士の派遣を利用しているので時間内のローテーションに入ってもらう			・上司との付き合い方	・行事が終わった後の達成感
	民営		・事例で保育評価をしている	・欠席者が多い時にはできるだけ午後からは休んでもらう				
	民営	・キッズビクス、音楽指導、製作等園児と一緒に参加しています	・月、日の指導案作成、実施後の評価はあります、勤務評価はしていません			・次の日の製作、タンポ作り等	・ケガをしてしまった時の報告の仕方	・子どもと触れ合える楽しさ ・子どもと一緒に成長させてもらえること
	公営			・早出、遅のこりを２人ずつにするので、８時出勤が現在はいません				・子どもの成長していく姿がまじかに感じる事ができたこと

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
				・運動会が終わり使った服などの片付けを子どもの午睡時部屋でする	・保育日誌や児童表	・賃金の低さです	・自分によって子ども達をどんなにも育てていく事が出来るということ ・子ども達は先生が一番であり、それだけで大事な仕事であり、責任のある仕事である ・子どもが大きくなっても覚えていてくれて、ありがとうと言われた時の喜び
	・保育記録	・勤務時間外にすること（書類・保育教材作り等）がたくさんある ・必要な時には休みの時にも出てきて、仕事をしなければならない時がある ・子どもの人数にたいして保育士の人数が少なく手が足りない（未満児）	・子どもに関わった分、子どもの成長が見られたり、自分のことを頼りにしてくれるやりがいがある		・保育反省記録と運動会競技の作り物	・保育時間内だけでは記録、行事の準備や指導計画作成などの時間がとれず家庭に持ち込んでいること	・気になる子へのかかわりで子どもが変わった時 ・子どもの成長を共に喜べる事
					・月案作成		・子どもたちの成長をみることができる ・子どもたちの目の輝きの美しさ ・季節を感じていくことができる
		・自分が「言葉」を知らないため、子ども達が理解できる分かりやすい言葉がけができない	・子ども達の成長過程をよく知ることができた ・子ども達と同じ目線になることを知り、少しだが気持ちを理解することができている		・その日にする、使うものをそろえたりする	・基本的生活習慣の乱れに対しての対応 ・子どもの人数が少なすぎての弊害をどのようにしていくのか？	・たくさんの子ども、たくさんの保護者に出会えたこと ・笑えることがたくさんある

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・保育所内で検討改善している					
保育士	公営							
	民営	・実技研修会 保育所保育指針に教育的事項が盛り込まれたので、より内容の充実を図る為、幼稚園を定年退職された経験豊富な先生にリズム遊び、オペレッタなどの指導を受けている	・毎月、自己評価用紙を配布し記入してもらっている	・２歳～５歳までの異年齢児保育を行っている ・エリア保育を行い、子どもが自分の好きな遊びを選択、自己決定しそのエリアで遊んでいる ・12時間開園の為、時差出勤している（９時迄にはほとんどの職員が揃うようにしている）		・日誌書き（週日案）	・途中で他のクラスに入ることになった時、勝手がわからず何をすれば良いのかわからないことがある ・叱り方、伝え方が難しいなと思うことがある	・子どもの成長していく様子が間近で見れる事 ・元気いっぱいな子どもたちと遊びを楽しめながら過ごせること
	財団法人					・児童票	・保護者の対応	・子どもの笑顔を見る事が出来た時 ・子どもの成長を見ることが出来た時
	学校法人	・研修会参加後、報告会 ・職員会議の中で事例検討会	・月の指導計画の評価・反省を記入の際、別紙で自己評価記録に記入	・早出、居残りの回数をほぼ各保育士同回数にしている ・８時半出勤の職員数を多くしている ・以上児のクラスも複数担当制にしている			・困っていることというよりも、勉強不足だなと感じることがある	・子どもの成長を間近で感じられる ・成長、発達の手伝いができる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
						・保護者と子育てについての考え方が違う（若いお母さん） ・地域に担う、すばらしい保育所なのに公立保育所の民営化が進む事	・子ども達の成長を感じ感動できる ・いつも子どもの笑顔がみれる
						・臨時雇用なので毎年の採用についての不安	・保育士という仕事を通して、自分自身も人間としての成長を感じることがあるところ ・毎日の子どもの笑顔と保護者の笑顔を身近で感じることができる
・運動会をする為、公園に園児を移動したが、忘れ物に気付き園まで取りに戻った時間	・前日の保育の反省、記録	・保護者との関わり方、難しい親が多い ・仕事内容、書式が変更する際に対応、順応するまでに時間がかかる	・成長や変化を感じられる瞬間をそばにいて見られる ・子どもの成長過程について知識を身につけられた		・週日案の反省 ・クラス便り作成 ・運動会用ＣＤ作成 ・自己ノート記入		・人と人のつながり ・子どもの育ちに関われていること
	・保育記録作成等	・保護者との連携 ・給料が安いのに、持って帰ってする仕事が多い	・自分の保育に子どもが、答えてくれた時、喜びを感じる		・クラスだより ・保育教材作成 ・保育記録作成	・家に持ち帰りの仕事が多い ・休みが取りにくい（希望する日に休めない） ・身体に影響がある（手、腰）	・子どもの成長をいちばん近くで感じられる ・卒園した子どもからのおたより ・子育てに活かせられる
		・腰痛 ・給与	・楽しい ・子どもと触れ合うのが好き		・週案 ・児童表	・担当クラス以外に手伝いに行くことで、自分のクラスのことが把握しづらい ・我が子と触れ合える時間が少ない	・楽しい ・人間関係を学べる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	財団法人	・園で見直しを必要とするもの（行事等） ・健康、安全	・チェックシートにより行う（年２回）	・以上児担当リーダー保育士1名、未満児担当リーダー保育士１名を置き、何かあれば園長（副園長）主任保育士、リーダー保育士と話合いが持てるようにしている ・夕方少し人数が減る為、３歳以上児では保育士２名、未満児では３名で各１部屋にまとめ、お迎えを待つ その他の保育士は、掃除や事務等の仕事をする				
	民営							
	民営		・自己チェックリストを使用			・消耗品台帳の記入	・持ち帰り仕事が多い	・子どもと過ごす時間の楽しさを知った

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
							・幼い頃からの夢であった保育士になれて、小さい子どもといつまでもかかわり続けることができること ・教え子達が大きく成長していく姿を見る事ができるとき ・仕事を続けられることで社会とつながりを持ち毎日生活できる
		・自分の指導力のなさ	・毎日たくさんの子どもといれること		・児童票の下書き ・保護者への連絡 ・翌月の週案、カリキュラムなどの下書き ・運動会の準備	・女の多い職場なので、高めあうというよりも足をひっぱろうとする所がある ・主任が責任のがれをしようとする ・園長が良い人と思われたいため、下で働く人たちがまとまらない…	・子どもの成長が楽しいこと ・大人になって思いだしてくれて連絡をもらえたりすること ・自分のしたい仕事だったので
	・行事で必要な物を作成	・持ち帰り仕事が多い ・ほぼ毎日残業である	・子どもの成長を見れた時、「先生大好き」と言ってもらえた時 ・保護者の方に「先生が担任でよかった」と言ってもらえた時 ・子育てについて知識が分かっている時		・週案作成、反省、記入 ・園だより作成	・家に持ち帰ってする仕事が多い	・子ども達の成長を感じ、保護者と共感しあい一緒に見守っていける

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・月ごとに各自独自で記入していたが、今年度から項目ごとA～D評価とし、最終日に目標に対しての評価を記入し、次月目標も掲げる記入法を取り入れた	・同室での勤番が重ならない様にする			・保護者との連携関わり ・子どもとの関わり	・子どもが働く前より好きになった ・自分が母親になった時子どもと関わりやすい
	民営							
	民営	・勉強会（モンテッソリー教育の提示方法及び手作り教具の紹介）	・指導計画案による自己評価 ・年6回外部講師を招き研修中	・特定の職員に負担がかかり過ぎない様に配慮する ・休みが重ならに様、早めに調整をしている ・保育記録等が勤務時間内に終わるよう、全職員サポートし合う		・運動会について考える		・子ども達から学ぶことがたくさんある事 ・子ども達から笑顔がたくさん見れる事
	民営	・研修報告 ・毎月テーマを決めて園内研修	・チェックリストを年3回行っている（主任がまとめて園全体の評価を出す）			保育記録	・日々の園生活の中で臨機応変に動かなくてはいけないとき（特に行事ごとなど） ・保護者の対応	・毎日の仕事の中で、やりがいを感じる ・子どもの発達段階や特性など、自分が学んできたこと以外を学べること ・子どもが活動している時、嬉しそうに笑っている時や楽しんでいる時、又「ありがとう」と言われた時

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・保護者との関係	・子どもの成長をそばで見られる			・保護者に理解してもらえない時	・いろんな子ども達と接することができた
		・もう少し健康診断を詳しくしてほしい（個人では中々行かないので）	・自分の子育ての時、とまどいが少なかった（おむつ交換、離乳食等）			・健康診断（体力を使う仕事なので、ちゃんとした病院で人間ドックまではいかないですが詳しく調べてほしい） ・保育の時に自由に使える（コピー袋、パソコン、カメラなど）が欲しい	・自分が受け持った子ども達が、大きくなって立派に成長している姿をみた時 ・子ども一人ひとりが成長し、できなかった事ができた時の姿をみた時 ・赤ちゃんの排泄、ミルク等など（今後に役立つ）子育て
	・保育日誌、指導案	・持ち帰る仕事が多い	・子どもの成長が見れる ・自分自身が学べる ・子どもたちから学び、自分自身が成長することが出来る		・保育記録 ・運動開の計画、準備	・保育以外の仕事がうまく進まない時がある（書類）	・子ども達の成長を保護者のみなさんと共感できる ・子ども達の笑顔に元気をもらえるこ ・子ども達の成長を通し、人としての発達又は様々なことを勉強させてもらえること
	・クラス便り	・保護者との対応の難しさを感じる	・子どもがなついてくれるので、とてもかわいい ・個人差はあるが成長が見られること ・毎日、子どもの様子が違うので、楽しいし教えた事を覚えてくれると嬉しい		・指導計画 ・リスクについて調べる	・子どもの事を第一に思っている事が保護者に伝わらない	・子どもの成長を見守ったり、関わったり出来る事

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・救急法（年２回） ・不審者侵入対策（年２回） ・研修報告会	・保育士（毎月の保育に対しての自己評価、保育士のための自己評価チェックリスト(年２回)） ・園長（保育園における自己評価（年２回））			・指導計画の作成（日案・日誌など）		・子ども達が友達に優しく思いやる姿が見られたとき ・責任を果たしたとき ・保護者が相談してきたり、上司が認めてくれたとき
	民営	・園外研修報告会 ・自主研修記録ノート提出	・チェックシートによる確認	・３歳未満児を原則として年令別クラス編成 ・１日７日時間・週40時間勤務（４週５休１時間カット制）の体制				
	民営		・チェックリストを使っての自己評価	・保育士は保護者が迎えの時向き合って、子ども達の話をしてもらうた ・早番職員は次の日の朝遅くの出勤				・子どもを可愛いと感じ楽しく仕事ができている。成長を感じられたり達成感や充実感がある

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育記録 ・保育教材を作成するのにかけた時間	・書類、指導案の書き方 ・保育の内容	・命の大切さ、気づいたこと ・たくさんの人に支えられ、人は成長していくこと		・保育教材を作成するためにかけた時間	・体力に自信がなく子どもたちと一緒に(特に大きいクラスの子)走るまわることが苦しくなった ・事務的な書類が多く多様でついていけない時がある	・毎日成長発達のある子どもたちと接することで明るい希望が感じられる ・人間として同じような関わりができ小さくともひとりの人間ということに気づかされた ・毎日が真剣勝負という気持ちがしてごまかしがきかないということを知らされた
		・保護者との信頼関係づくり(色々な人が増えてきてマニュアル通りの接し方ではうまくいかなくなってきている事など)	・色々な子どもたちに出会い、日々の成長を間近で感じ見ることができ、感動をした事			・保護者との人間関係や連携が難しい ・複数担任で助かることも多いが連携が難しい ・他園に比べると休暇が取りやすいと思うが休暇が欲しい時に取れないことも多い	・子どもの成長が自分自身の喜びになり、自分自身も成長させてもらっている ・未来のある子どもたちを保育していく責任が意欲や向上心に繋がっている ・社会のルールや人間関係、協調性等を学ばせてもらっている
			・身近で子ども達の成長を感じられること ・子育てについての様々な知識を現場で活かしたり、また新しく学ぶこともできたこと ・子どもや保護者の方々の笑顔がみれること				・仕事にやりがいを感じる ・子どもと関わっていて楽しい

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	公営		・年２回の反省会 ・自己評価チェックリストを使用しての評価	・園児の人数に応じ、職員、非正規職員で対応している		・保育教材作成	・うまく自分の時間をつくれない ・自分がしたことが子どもへどう影響しているかどうか（自分の保育で子どもが成長できるのか？）	・子どもの関わりの中で自分が成長できる ・子どもの笑顔に元気をもらえる
	NPO法人			・勤務体制は事前に休みたい日を（希望）入れてもらってから、勤務表作成 ・小規模なので時々合同保育にして異年齢との交流を入れている			・ピアノを弾く事が苦手である ・書類を書く時間や持ち帰り仕事をする時間がない ・思うような保育が出来ない	・子ども達に必要とされた時に喜びを感じる ・日中の時間充実している ・子どもに関する知識が増える
	公営	・保育の見直し、担当を変えたり、記録の書き方の検討会						
	公営	・月に一度の園内研修会（園外研修会の伝承）		・早出・遅出は４人の体制で行っている ・早出勤務が帰所した場合は各クラス２人以上の体制で保育をする ・５時以降は人数も少なくなっているので一か所の部屋で退所時刻まで保育をする（退出勤務の保育士）	・勤務時間内で終わらなかった保育記録 ・歌あそび等の為のオルガン練習		・仕事の時以外でも「保育所の先生だから」とプライベートな子守りを任せられそうになる	・子ども一人ひとり個性に気付くことが出来る ・子どもと関わることで発見や驚きが日常の中で味わえる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・保育教材作成	・勤務時間以外の仕事が多いこと、休憩時間は、ほぼない ・体力的なキツさ ・保育士に求められることが多く（地域、保護者、支援など）十分にできていないこと ・保育士１人に対しての、持ち人数の多さ ・１人ひとりとの関わり、援助が十分にできないこと	・子どもといることで、元気がでたり、笑顔になれる ・やりかいを感じる ・たくさんの子どもや保護者と触れ合い、成長を感じたり喜びを分かち合える			・若い保育士の指導の仕方 ・子育てとの両立	・やりがいがある ・常に勉強することで、新たな発見、面白さなどがある
			・子ども一人ひとりの成長が見られる ・卒園児が声をかけてくれたり慕ってきてくれる ・子ども達と一緒に自分自身も成長することができる			・他の保育士の方についていけるかどうか…不安な面もある	・子どもの成長を見て感じられる事、又いろいろな子どもに出会えたこと
		・各家庭の環境や子ども一人ひとりの個性が大きい時のバランスのとり方	・子どもの成長していく姿が見られる		・次の日の準備		
		・職業や持ち帰りの仕事が多い	・多くの子どもや保護者と関わることができる			・気になる子の保護者への毎日の様子の伝え方、お願いなど	・子ども達とかかわる仕事で元気をもらえること ・子ども達を通していろいろな家庭環境や悩みなどがわかり理解できるようになった

施設票					３年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営	・毎月一回勉強会（P.M7:00～P.M9:00） ・エピソード研修	・自己評価チェックリストを年に３回記録	・開所時間が長い為に職員は交代制をとっていますが、全職員が子ども達や保護者の情報を共有できるようにノートを利用して工夫しています			・日々の保育内容（遊び、製作活動） ・家庭との連携	・子どもの成長をそばで見ることができ、それを一緒に喜ぶことができること ・大切な存在が増えた（子ども達や職場の人）
	民営	・研修の報告についての勉強会（保育・給食・医療関係）					・問題児との向き合い方	・親の思いがどういったものかよく感じられた ・自分が親になった時に子育ての仕方に役立つ ・子どもの成長が身近に感じれ、喜びが共感し合えた時
	民営	・研修報告時職員が改めて、学ぶ時間を設定する ・講演者のＤＶＤを全職員で再度聴く		・居残り児については、保護者への連絡を見落とさないようにする ・全職員が園児の状態を把握出来るように連携を密にとる				
	民営	・視察研修会（単独で出かける）	・１年経過後、自筆で文面（反省等）を提出	・一人ひとりを大事に主に職員で保育のすすめ方、接し方、食事形態、１日の過ごし方、次の見通しができる（子ども）努めている ・年４回講師を招いて見てもらい、助言してもらう　公開保育を似ている ・勤務体制を今、思案中　早番、遅番二人の保育士が当たることに対して無理がある				

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・行事に向けての配布物作り ・製作 ・次の日の保育準備	・体力的にきついことが多い	・大変と思うことも多いが充実した日々を送っている ・子どもの成長のすばらしさを近くで見ることができて感動する出来事も多い ・様々なことを学ぶことが出来て、知識も増えた				
		・理不尽な親の言動 ・感染症の流行	・子どもたちの成長 ・親からのお礼の言葉、お手紙 ・運動会やお遊戯会で泣かずにしている子どもたちの姿を見た時			・理不尽な事を言う保護者への対応 ・感染症が流行った時	・子どもたちの成長 ・保護者からの感謝の言葉 ・ひとつのこと（行事）が終わったときの達成感
		・仕事量の多さ	・子どもたちの笑顔が見れる事 ・発達が見れる事 ・とてもやりがいのある仕事				・子どもたちと共に成長させていただけること ・子どもたちの成長に寄りそえること
	・教材の準備 ・明日の準備	・保護者との連携の難しさ ・他の保育士の方との価値観の違い ・女性特有の人付き合い、ネチっこいこと	・子どもと過ごせる ・自分が頑張ればその分結果がでること ・どの仕事よりもやりがいがあり、毎年、感動する、嬉しい出来事を感じられる			・主任職となり若い保育士への指導、対応の難しさを感じている ・行事が多く、日々の保育の充実間を子どもたちに感じてもらえているのか？	・子ども達と共にいろいろな体験をする事ができ笑顔が見られた時 ・子どもの成長を通して保護者に喜んでもらえた時、よかったと思う

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営						・指導方法 ・子どもたちの成長を近くで見れる事	
	公営							
	公営	・定例研究（毎年テーマを決めて）		・時差出勤の為、受け入れ後クラス担任１人出勤するまでは混合保育 ・乳児組は乳児クラスにて受け入れる ・夕方の保育(帰りの会後)17時以降は混合保育		・保育日誌（保育記録）	・正職が少なく、休み（特休）利用をするとき、少し躊躇すること ・すぐに障害児扱いをする、そういう目で見ている ・仕事をおぼえられない後輩への指導に悩みます	・子どもたちの成長する姿が見れること ・子どもたちと一緒にいる事で悩みもふっとびます。 ・私自身が成長させてもらってること
	公営	・運動会、夕涼み会、生活発表会等だしものを事前に全体で公開し評価してもらう	・日々日誌記録で自己評価	・土曜日、合同保育（職員配置４名所長含む）開所時間７時30分、閉所時間18時00分			・休みの日にも関わらず何かと行事が入ってくる	・子どもの成長を見守る
	公営	・外部研修を受講した者が、園内にて職員に伝達、資料等を配布している	・週、月案に評価の欄をもうけて記入し、所長・主任の決裁を受けている ・年を４期に分けて保育所評価を保護者に公表している					

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・保護者との対応 ・子どもへの接し方、声掛け ・病気の時の対応	・子ども達から笑顔をもらい、幸せな気持ちにしてもらっている事 ・行事などで達成感と感動 ・毎日子どもと楽しく過ごせる事		・作りもの、教材の準備	・保育園以外の場所で必ず会う	・子どもたちと過ごすことで、自分も共に成長できる
・子ども達の登所受入れ準備、各部屋掃除、環境構成など			・毎日子ども達と楽しく過ごしている事				
		・保護者への対応（子どもの姿の伝え方） ・職員同士のコミュニケーション	・子どもの笑顔がいつも見れる ・子どもの成長が手に取る様に感じる ・保護者が「ありがとうございました」と笑顔が見られる				
		・事務整理の時間が少ない ・勤務時間内に帰れない	・子ども一人ひとりの成長を親と共に喜ぶ事ができる ・子どもの笑顔が見れる		・その他の内容にかけた時間	・職員、保護者、地域の方々との連携について ・事務処理にかける時間(効率的にスピーディーに！！) ・保育は奥が深い事	・子ども一人ひとりの成長を感じた時
	・児童表	・保護者とのコミュニケーション ・「臨時」と「職員」という形で同じ仕事をしているのに関わらず、職員の方がそういう言い方をするのがイヤ、臨時の方が頑張って難儀もいっぱいしているのに認めてくれない、主任が。不平等	・子ども達の成長が見られること ・０歳児担任になるとこれから産まれてくる子ども（自分の）を育てるヒントがもらえるから	・運動会の準備		・子どもから離れた休憩がとれない ・多様化するニーズにこたえるための過度な労働と精神的負担を感じる ・主に女性だけの職場のため視野がせまい	・日々かかわっている、あるいはかかわった子どもたちの成長が楽しみ ・子ども達の言動に笑いがあり、心洗われたり元気を頂いたりする ・子育てに（自分の）活かされる

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・市販のチェックリストを用いたり、毎年末に振り返りをする	・保育時間が長い為、シフトが多く管理が大変な為一カ月同じシフトに固定している ・保護送迎時間帯に主担任又は副担任が配置するようにしている		・指導計画(週、月案) ・製作類	・指導計画の立案 ・持ち帰りの仕事が多いこと	・子どもの成長が見れること（小さな成長・幸せが感じられる） ・子どもの素直な言葉・表情が沢山見れることで「頑張ろう！」と思える
	民営		・年度末に「自己評価のためのチェックリスト」を利用し自己評価を行っている					
	民営				・保育室の片付け（トイレの消毒、哺乳瓶保管庫の電源チェックなど）			・子どもの成長を手助けして見守れる事 ・自分が母親になった時に使える知識 ・子ども、保護者、同じ職場の職員の笑顔
	民営	・毎月第３土曜日の14時より勉強会 (今年度は環境について)				・明日の保育教材作り（スタンプ） ・保育日誌	・時間外の書類作成等の時間がある	・日々考え、仕事に取り組むことができる ・子どもの成長を感じた時嬉しくなる

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
		・父兄との対応がうまくいかない時	・子どもの成長を感じた時		・書類作成 ・会議（一旦退勤後園に出向き全体会議に参加）	・上司の方針がコロコロ変わるので、何を信じてついていっていいのか分からない、上司の方針を理解しようとし努力するが次の瞬間考えが180度 変わるので最近は努力することに対しての虚しさを感じる	・子どもと接していると心が癒される
		・仕事はとても楽しいのだが、保育士という職種の賃金の低さ… ・このまま仕事を続けていく上で、もう少し見直されるべきではないだろうかと思います ・公立保育所(公務員）との差がありすぎる	・子ども達の成長を側で見守ることができる。 ・毎日笑い常に充実した日々を過ごすことができる ・保育士になり専門知識を色々と勉強することができる		・保育日誌の記録	・まとまった休みが取れないこと ・保育の仕事は、とてもやりがいがあり、素晴らしい仕事だと感じるのだが、書類が多く、事務的な仕事は、勤務終了後に行うしかなく、家に持ち帰ることも多い。その割には給与が少なすぎること。同じ仕事なのに公立、法人との差がありすぎる。是非改善して欲しい	・１人の子どもの成長を側で見て両親と喜びを分かち合えること
		・父兄との関わりがあまりよく分からないです	・子ども達の成長を日々感じられることです			・保護者との信頼関係を築くこと ・もっといろんな事ができるようになりたい	・子どもの成長を見る事ができること ・懸命にやる程、子ども達は慕ってくれ、ついてきてくれる
・出勤後の身支度（現場に入る前）	・保育記録日誌	・保育の記録(毎日の日誌や児童票の作成､個人記録) ・自宅へ帰宅後も持ち帰り仕事があること ・保育の仕事の他に個人での行事担当が多い	・子どもの成長が見える事		・保育記録	・責任のある仕事である為、自分の子ども達の学校行事などの参加が難しい（平日の参観など）	・子どもとの関わりで一緒に成長できる ・自分の関わった子ども達が元気に成長している姿を見る事ができる ・いろいろな事に興味関心を持っていようと心がけるようになった

施設票					3年以下			
Ⅰ	Ⅱ–2	Ⅳ–11–⑤	Ⅳ–12(1)	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
回答者：その他	経営主体	園内研修	自己評価の方法	保育の体制や勤務体制での工夫	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	民営		・自己評価チェックリストを利用し、自分の保育の振り返り、見直す	・3、4歳児クラスも複数担任で保育にあたり、5歳児は5名で1名の担任の配置をしている ・全体の保育士で協力し合い保育にあたる			・時々、保護者対応に困る	・子どもたちが成長していくのを見ていると嬉しいし、良かったと思う
	民営		・年一回の自己評価表の提出				・子ども達との関わりの中でどのように対応していいのか分からない時がある ・毎月の教材(個別記録)の作成	・働きかけで、子ども達の成長の変化を間近で見る事ができる ・保護者との連携で子育ての悩みなどを聞く事ができる
	民営		・子どもの活動や状態に対する保育士自身の保育や援助、環境設定等に対する評価を総合的に判断して、各月及び年間の評価を行う				・仕事内容に比べて基本給が少ない ・一般の人の保育に対する、理解・知識・関心の低さ	・子どもの成長に関われること

4～10年				10年以上			
Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13	Ⅱ–7–⑪	Ⅱ–(6)-1	Ⅳ–12	Ⅳ–13
その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと	その他の内容にかけた時間	帰宅後の保育に関する仕事	保育士として働いて困っていること	保育士になって良かったこと
	・育成記録作成	・自分の子どもが病気でも休みが取りにくい ・自分の子どもの保育所送迎ができないことが多い ・自分の子どもに申し訳なさを感じる	・子どもたちに癒される ・自分の育児の見本となった ・人間的に大きく成長させてもらっている(自分にできることが増えてきている)			・保護者との関わり方について	・子どもと関わり、成長が見られること
			・子どもたちの成長を間近で感じられること ・自分自身の成長にもつながっている ・将来的に、自分の子どもが出来た時、役立つ知識を身につけられていること		・個別計画の記録	・受け持つクラスにより、仕事量が多少違うので、体力的、精神的にきつい時がある ・持ち帰りの仕事が多い	・子ども達の成長を職員や子どもの家族と共に喜び合えること ・専門職としてのやりがいを感じる
		・自分の思いを他の保育士にうまく伝えることができない	・子ども達の成長を身近で感じることができる ・子ども達から学ぶことも多く、自分の成長にもつながる				

「保育士の実態に関する調査研究事業」調査研究委員

◎西　村　重　稀（仁愛大学人間生活部子ども教育学科教授）
清　水　益　治（帝塚山大学現代生活学部こども学科教授）
小野田　晴　世（東京都・さゆり保育園主任保育士）
廣　田　智　子（埼玉県・狭山台みつばさ保育園主任保育士）
若　山　　望（東京都・村山中藤保育園「櫻」副園長）
田　中　浩　二（山口県・のあ保育園副園長）
豊　永　せつ子（福岡県・ヴィラのぞみ愛児園園長）
仲　原　りつ子（沖縄県・あおぞら保育園園長）

◎は本調査研究委員長

執筆者一覧

西　村　重　稀（仁愛大学人間生活部子ども教育学科教授）
清　水　益　治（帝塚山大学現代生活学部こども学科教授）
小野田　晴　世（東京都・さゆり保育園主任保育士）
廣　田　智　子（埼玉県・狭山台みつばさ保育園主任保育士）
若　山　　望（東京都・村山中藤保育園「櫻」副園長）
田　中　浩　二（山口県・のあ保育園副園長）
豊　永　せつ子（福岡県・ヴィラのぞみ愛児園園長）
仲　原　りつ子（沖縄県・あおぞら保育園園長）

本書の内容あるいは全部を転用、複製複写（コピー）する場合は、法律で認められた場合を除き、当協会あてに許諾を求めてください。

平成23年度
保育士の実態に関する調査研究報告書

発　行：平成24年３月
発行所：社会福祉法人　日本保育協会
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前５丁目53番１号
電話　03−3486−4412（代）　FAX　03−3486−4415
URL：http://www.nippo.or.jp